

令和3年度  
東大阪市子どもの生活に関するアンケート  
集計結果報告書

令和4年6月

東大阪市

# 目次

<b>I 調査の概要</b> .....	1
1. 調査目的.....	1
2. 調査設計.....	1
3. 回収結果.....	2
4. 報告書の見方.....	3
5. クロス集計について.....	3
<b>II 保護者調査の結果</b> .....	5
1. 属性.....	5
(1)回答者の続柄.....	5
(2)居住地.....	5
(3)世帯人数.....	6
(4)家族構成.....	7
(5)保護者の婚姻状況.....	8
(6)ひとり親の養育費受取状況.....	9
(7)家庭で使用している言語.....	10
(8)保護者の学歴.....	11
2. 就労状況.....	15
(1)保護者の雇用形態.....	15
(2)就労していない理由.....	19
3. 子どもとの関わり方.....	22
(1)幼児期の教育(0-2歳).....	22
(2)幼児期の教育(3-5歳).....	24
(3)保護者の関わり方.....	26
(4)子どもとの会話の程度.....	32
4. 学校・地域との関わり方.....	34
(1)学校行事への参加.....	34
(2)近所付き合いの程度.....	38
(3)地域の人に支えられていると感じるか.....	40
(4)東大阪での居留意向.....	42
(5)地域活動の参加有無.....	44
5. 進学期待・展望.....	46
(1)進学の見通し.....	46
(2)想定する進学先の理由.....	49
6. 頼れる相手の有無.....	52
(1)保護者の頼れる相手.....	52

(2) 相談相手.....	61
7. 経済的な状況.....	64
(1) 主観的暮らし向き.....	64
(2) 世帯収入.....	67
(3) 滞納・欠乏経験(食料が買えないこと) .....	70
(4) 滞納・欠乏経験(衣服が買えないこと) .....	72
(5) 滞納・欠乏経験(電気・ガス・水道料金を払えないこと) .....	74
(6) 親から見た子どものはく奪指標.....	76
8. 心理的な状態.....	78
(1) 心の状態.....	78
(2) 主観的幸福感.....	81
9. 支援の利用状況 .....	83
(1) 支援の利用状況.....	83
10. 新型コロナウイルス感染症の影響 .....	91
(1) コロナの仕事への影響.....	91
(2) コロナの仕事への影響は負担となったか.....	93
11. 相談窓口の認知状況 .....	95
(1) 相談窓口の認知度.....	95
(2) 困った時の相談相手 .....	97
12. 子どもの居場所の利用状況 .....	99
(1) 子どもの居場所の利用意向.....	99
(2) 子どもの居場所の効果 .....	108
<b>III 子ども調査の結果.....</b>	<b>110</b>
1. 属性.....	110
(1) 性別 .....	110
2. 学習状況 .....	111
(1) 就学就業状況 .....	111
(2) 授業以外の学習環境 .....	112
(3) 授業以外の学習時間 .....	115
(4) 学習成績.....	120
(5) 授業の理解度 .....	122
(6) 授業についていけなくなった時期 .....	125
(7) 学校の勉強がわからないときにあればよいこと .....	127
3. アルバイトの状況.....	129
(1) アルバイトの有無 .....	129
(2) アルバイトの頻度・目的.....	130
4. 進学希望.....	134
(1) 進学希望.....	134

(2) 想定する進学先の理由 .....	139
5. 生活習慣 .....	142
(1) 食事の頻度 .....	142
(2) 起床時刻の規則性 .....	147
(3) 就寝時間の規則性 .....	149
6. 困った時の相談状況 .....	151
(1) 困った時の相談相手 .....	151
(2) 相談窓口の認知度 .....	154
7. 保護者との関わり方 .....	157
(1) 保護者との会話の程度 .....	157
(2) 放課後一緒に過ごす人 .....	159
8. 心理的な状態 .....	161
(1) 主観的幸福(生活満足度) .....	161
(2) 心理的な状態 .....	163
(3) 自身や将来の目標の有無等 .....	170
9. 子どもの居場所の利用状況 .....	178
(1) 居場所の利用状況 .....	178
(2) 居場所の効果 .....	192
(3) 居場所を利用したくない理由 .....	194
<b>IV 調査票 .....</b>	<b>196</b>
1. 保護者用 .....	196
2. 小学生・中学生用 .....	202
3. 16・17 歳用 .....	206

# I 調査の概要

## 1. 調査目的

子育て世帯の状況及びひとり親家庭等の状況を詳細に把握し、子どもの生活状況や貧困の実態、背景、子どもへの影響、支援ニーズ等、本市の現状を調査・分析するために実施しました。

## 2. 調査設計

- ①調査対象：
  - ・ 東大阪市内の公立小学校に通う5年生の児童とその保護者
  - ・ 東大阪市内の公立中学校に通う2年生の生徒とその保護者
  - ・ 東大阪市内に居住する16・17歳とその保護者(住民基本台帳から無作為抽出)
  
- ②調査方法：
  - ・ 小学5年生、中学2年生及びその保護者については学校を通じて調査票を配布、郵送または、インターネットにより回答
  - ・ 16・17歳及びその保護者については郵送により調査票を配布、郵送または、インターネットにより回答
  
- ③調査期間：令和4年2月21日～3月19日

## 3. 回収結果

		配布数 (A)	回収数 (B)	有効回収数 (C)	有効回収率 (C/A)	無効票 (C-B)
小学5年生	子供	3,646 件	1,436 件	1,433 件	39.3%	3 件
	保護者	3,646 件	1,498 件	1,497 件	41.1%	1 件
	(子ども・保護者ペア)	(3,646 組)	-	(1,359 組)	37.3%	-
中学2年生	子供	3,639 件	1,020 件	1,018 件	28.0%	2 件
	保護者	3,639 件	1,134 件	1,134 件	31.2%	0 件
	(子ども・保護者ペア)	(3,639 組)	-	(958 組)	26.3%	-
16・17歳	子供	1,000 件	228 件	228 件	22.8%	0 件
	保護者	1,000 件	253 件	253 件	25.3%	0 件
	(子ども・保護者ペア)	(1,000 組)	-	(217 組)	21.7%	-
合計	子供	8,285 件	2,684 件	2,679 件	32.3%	5 件
	保護者	8,285 件	2,885 件	2,884 件	34.8%	1 件
	(子ども・保護者ペア)	(8,285 組)	-	(2,534 組)	30.6%	-

		有効回収数	郵送回収		インターネット回答	
小学5年生	子供	1,433 件	916 件	63.9%	517 件	36.1%
	保護者	1,497 件	916 件	61.2%	581 件	38.8%
中学2年生	子供	1,018 件	630 件	61.9%	388 件	38.1%
	保護者	1,134 件	645 件	56.9%	489 件	43.1%
16・17歳	子供	228 件	154 件	67.5%	74 件	32.5%
	保護者	253 件	164 件	64.8%	89 件	35.2%
合計	子供	2,679 件	1,700 件	63.5%	979 件	36.5%
	保護者	2,884 件	1,725 件	59.8%	1,159 件	40.2%

#### 4. 報告書の見方

- ・ 集計結果は、すべて小数点以下第 2 位を四捨五入しており、比率の合計が 100%とならないことがあります。
- ・ 複数回答の質問では比率の合計が 100%とならない場合があります。
- ・ グラフの中の「n=\*\*\*」は、集計母数を表しています。
- ・ クロス集計表の濃い網掛けは最も割合の高い項目、薄い網掛けは 2 番目、3 番目に割合の高い項目を表しています。
- ・ 本文中の表などにおいて、選択肢が長い文章となる際に簡略化している場合があります。
- ・ 分析においては、「その他」や「無回答」は、特に断りなく分析区分や分析の対象から除外しています。
- ・ 学年は令和 3 年度で表記しています。

#### 5. クロス集計について

クロス集計による分析については、子ども及びその保護者からの回答内容について、生活の困窮度や世帯構成、就業状況などを基に集計を行い、家庭の経済状況などが、健康面や学習面等にどのような影響を与えているかを検証しています。

実際の生活上の体験や困りごとなどを把握し、多面的に情報を分析するための指標として、「等価可処分所得」を基に区分した「困窮度」を用います。

厚生労働省が実施する国民生活基礎調査における相対的貧困率は、一定基準(貧困線)を下回る等価可処分所得しか得ていない者の割合を示しています。このときの貧困線とは、等価可処分所得(世帯の可処分所得(収入から税金・社会保険料等を除いたいわゆる手取り収入)を世帯人員の平方根で割って調整した所得)の中央値の半分の額をいい、この算出方法は、OECD(経済協力開発機構)の作成基準に基づくものとなっています(なお、ユニセフの報告書では、等価可処分所得の 60%を採用しています)

国民生活基礎調査は所得額について、詳細な記述を求め、算出しています。本市で実施した「子どもの生活に関する実態調査」は世帯の所得額については、回答者の負担感等を考慮し、手取り収入を 50 万～100 万円の幅を持たせた選択肢で回答を求めました。そのため、国の貧困線の算出方法で用いる「等価可処分所得」の中央値には、選択肢の上限値と下限値の平均値を世帯人員の平方根で割って調整した値を当てはめています。

I 調査の概要

(例) 世帯所得が「500～600 万円未満」で世帯人員が 5 人の場合、世帯所得を 550 万円として算出します。

$$550 \div \sqrt{5} \approx 246.0 \text{ 万円}$$

このように算出した等価可処分所得の中央値(275.0 万円)と中央値の 2 分の 1(貧困線、137.5 万円)から、「中央値以上」「中央値の 2 分の 1 以上中央値未満」「中央値の 2 分の 1 未満」の 3 つの層に分類し、集計しています。

なお、全国調査※における相対的貧困率は 12.9%、本市の相対的貧困率は 11.8%でした。

※令和 3 年度に内閣府が実施した「子供の生活状況調査」による結果

表 世帯収入・世帯人数別 等価可処分所得

		世帯人数								
		2 人	3 人	4 人	5 人	6 人	7 人	8 人以上		
世帯収入(手取り)	50 万円未満※1	17.7万円	14.4万円	12.5万円	11.2万円	10.2万円	9.4万円	8.8万円以下	中央値の2分の1 (137.5万円)未満	
	50～100 万円未満	53.0万円	43.3万円	37.5万円	33.5万円	30.6万円	28.3万円	26.5万円以下		
	100～150 万円未満	88.4万円	72.2万円	62.5万円	55.9万円	51.0万円	47.2万円	44.2万円以下		
	150～200 万円未満	123.7万円	101.0万円	87.5万円	78.3万円	71.4万円	66.1万円	61.9万円以下		
	200～250 万円未満	159.1万円	129.9万円	112.5万円	100.6万円	91.9万円	85.0万円	79.5万円以下		
	250～300 万円未満	194.5万円	158.8万円	137.5万円	123.0万円	112.3万円	103.9万円	97.2万円以下		
	300～350 万円未満	229.8万円	187.6万円	162.5万円	145.3万円	132.7万円	122.8万円	114.9万円以下		
	350～400 万円未満	265.2万円	216.5万円	187.5万円	167.7万円	153.1万円	141.7万円	132.6万円以下		
	400～450 万円未満	300.5万円	245.4万円	212.5万円	190.1万円	173.5万円	160.6万円	150.3万円以下		中央値の2分の1 (137.5万円)以上 中央値 (275.0万円)未満
	450～500 万円未満	335.9万円	274.2万円	237.5万円	212.4万円	193.9万円	179.5万円	167.9万円以下		
	500～600 万円未満	388.9万円	317.5万円	275.0万円	246.0万円	224.5万円	207.9万円	194.5万円以下		
	600～700 万円未満	459.6万円	375.3万円	325.0万円	290.7万円	265.4万円	245.7万円	229.8万円以下		中央値 (275.0万円)以上
700～800 万円未満	530.3万円	433.0万円	375.0万円	335.4万円	306.2万円	283.5万円	265.2万円以下			
800～900 万円未満	601.0万円	490.7万円	425.0万円	380.1万円	347.0万円	321.3万円	300.5万円以下			
900～1000 万円未満	671.8万円	548.5万円	475.0万円	424.9万円	387.8万円	359.1万円	335.9万円以下			
1000 万円以上※2	742.5万円	606.2万円	525.0万円	469.6万円	428.7万円	396.9万円	371.2万円以下			

※1 25 万円として計算

※2 1050 万円として計算

表 世帯収入・世帯人数別 回答者数(保護者調査)

(n=2,737)		世帯人数								
		2 人	3 人	4 人	5 人	6 人	7 人	8 人以上		
世帯収入(手取り)	50 万円未満	6件	8件	8件	4件	-	-	-	中央値の2分の1 (137.5万円)未満 323件(11.8%)	
	50～100 万円未満	10件	13件	11件	6件	2件	-	-		
	100～150 万円未満	13件	25件	12件	5件	3件	1件	-		
	150～200 万円未満	13件	20件	24件	7件	2件	-	-		
	200～250 万円未満	12件	33件	30件	15件	2件	-	3件		
	250～300 万円未満	10件	21件	41件	15件	11件	1件	-		
	300～350 万円未満	8件	39件	46件	34件	9件	6件	1件		
	350～400 万円未満	3件	36件	83件	38件	13件	4件	4件		
	400～450 万円未満	4件	43件	91件	49件	15件	4件	2件		中央値の2分の1 (137.5万円)以上 中央値 (275.0万円)未満 1,029件(37.6%)
	450～500 万円未満	4件	54件	132件	67件	12件	5件	4件		
	500～600 万円未満	4件	77件	217件	112件	24件	3件	-		
	600～700 万円未満	3件	47件	157件	85件	16件	6件	2件		中央値 (275.0万円)以上 1,385件(50.6%)
700～800 万円未満	1件	39件	150件	85件	16件	4件	-			
800～900 万円未満	1件	26件	82件	59件	17件	-	-			
900～1000 万円未満	2件	16件	59件	51件	7件	4件	-			
1000 万円以上	2件	14件	97件	36件	12件	6件	1件			



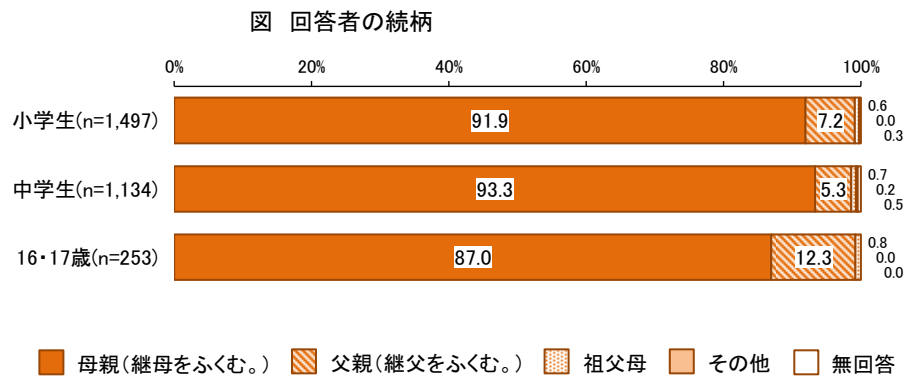
## II 保護者調査の結果

### 1. 属性

#### (1) 回答者の続柄

問1	お子さんとあなたとの関係は、次のどれにあたりますか。お子さんからみた続柄でお答えください。（あてはまるもの1つに○） ※この調査で「お子さん」とは、調査対象となる小学5年生または中学2年生または16・17歳のお子さんのことをいいます。（以下同じ）
----	--

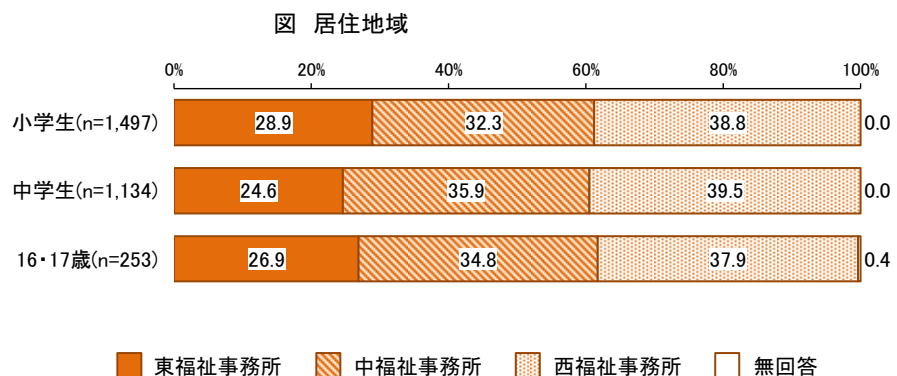
回答者の続柄をみると、「母親（継母をふくむ。）」の割合がいずれの年齢も9割前後となっています。また、16・17歳の「父親（継父をふくむ。）」が12.3%と高くなっています。



#### (2) 居住地域

問2	あなたが住まいの中学校の学区を教えてください。（あてはまるもの1つに○）
----	--------------------------------------

居住地域を福祉事務所の所管区域別にみると、いずれの年齢も「西福祉事務所」が4割弱、「中福祉事務所」が3割台、「東福祉事務所」が2割台となっています。



福祉事務所	所管区域
東福祉事務所	縄手中、枚岡中、石切中、縄手北中、孔舎衛中、（後期課程）池島学園、（後期課程）くすは縄手南校
中福祉事務所	盾津中、玉川中、英田中、花園中、盾津東中、若江中
西福祉事務所	長栄中、新喜多中、金岡中、上小阪中、楠根中、意岐部中、高井田中、小阪中、長瀬中、弥刀中、柏田中、布施中

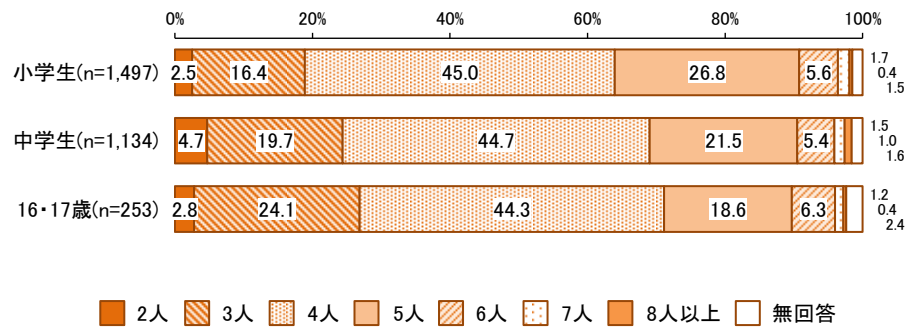
## II 保護者調査の結果

### (3)世帯人数

問3	お子さんと同居し、生計を同一にしているご家族の人数（お子さんをふくむ。）を教えてください。単身赴任中の方は含めないでください。
----	---

世帯人数をみると、「4 人」の割合がいずれの年齢も 4 割以上と最も高くなっています。また、小学生の「5 人」が 26.8%と高くなっています。

図 世帯人数



(4) 家族構成

問4	問3で回答した「ご家族」には、お子さんから見てどの関係の方が含まれますか。(あてはまるものすべてに○)
----	---

家族構成をみると、「母親」の割合がいずれの年齢も9割以上と最も高く、次いで「父親」、「兄弟姉妹」の順に高くなっています。

世帯の状況別にみると、ふたり親世帯と比べてひとり親世帯の「祖父母」が、いずれの年齢も2割前後と高くなっています。

図 家族構成

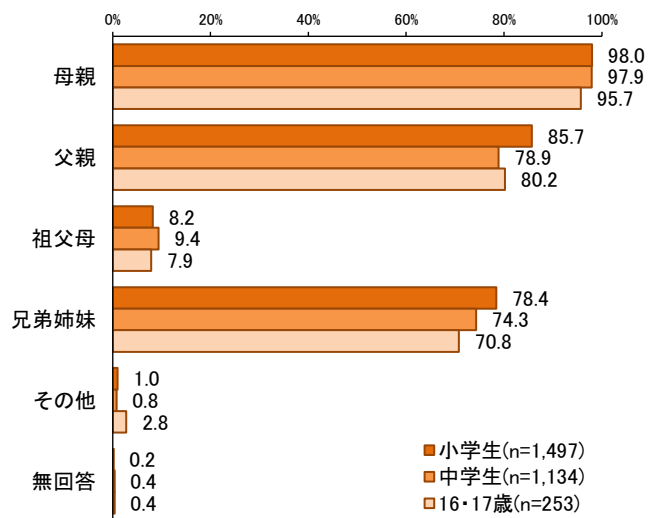


表 世帯の状況別 家族構成

			回答者数(n)	母親	父親	祖父母	兄弟姉妹	その他	無回答
世帯の状況別	小学生	ふたり親世帯	1,355	99.1	93.4	6.8	80.5	0.6	0.1
		ひとり親世帯	137	89.1	10.9	21.2	59.1	5.1	-
		(ひとり親世帯のうち母子家庭)	121	100.0	1.7	16.5	60.3	3.3	-
	中学生	ふたり親世帯	964	99.2	91.4	7.6	78.0	0.4	0.2
		ひとり親世帯	164	92.1	8.5	20.1	53.7	1.8	0.6
		(ひとり親世帯のうち母子家庭)	149	99.3	1.3	17.4	55.7	1.3	0.7
	16・17歳	ふたり親世帯	213	98.1	92.5	6.1	72.3	2.3	0.5
		ひとり親世帯	38	84.2	13.2	18.4	63.2	5.3	-
		(ひとり親世帯のうち母子家庭)	32	100.0	-	12.5	62.5	3.1	-

## II 保護者調査の結果

### (5) 保護者の婚姻状況

問5	お子さんと同居し、生計を同一にしている保護者の婚姻状況を教えてください。(あてはまるもの1つに○)
----	---

保護者の婚姻状況をみると、「結婚している(再婚や事実婚をふくむ。)」の割合がいずれの年齢も 8 割以上で、小学生で 90.5%と最も高くなっています。また、中学生と 16・17 歳で「離婚」が 1 割以上となっています。

全国調査と比較すると、保護者の婚姻状況に大きな差はありません。

図 保護者の婚姻状況

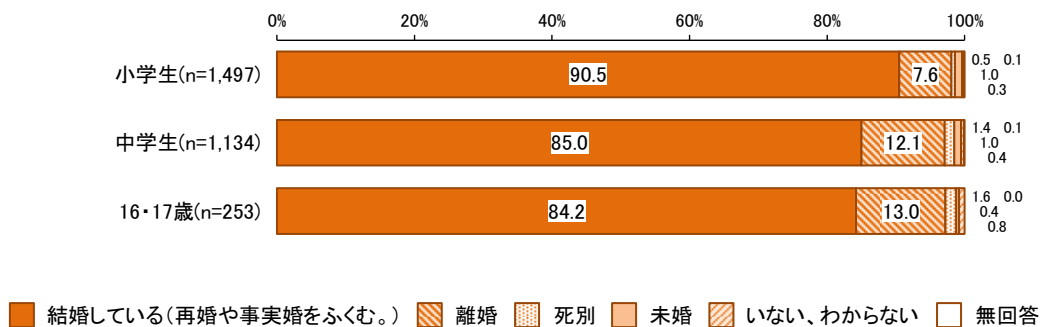
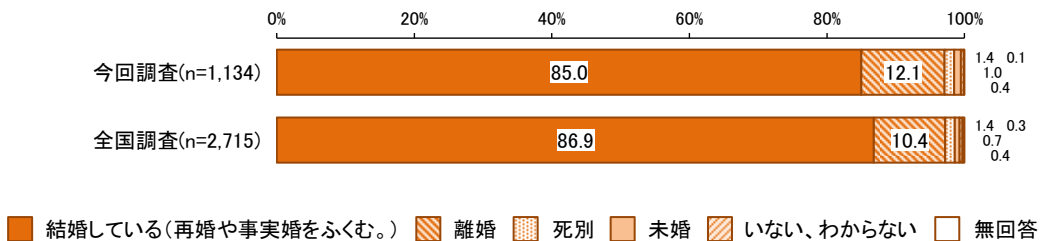


図 保護者の婚姻状況 - 全国調査との比較【中学生】



(6)ひとり親の養育費受取状況

問6	問5で「2 離婚」を選んだ場合、離婚相手とお子さんの養育費の取り決めをしていますか。また養育費を現在受け取っていますか。(あてはまるもの1つに○)
----	---

ひとり親の養育費受取状況をみると、「養育費の取り決めをしておらず、受け取っていない」の割合が小学生で 36.8%、中学生で 45.3%、16・17 歳で 57.6%と最も高くなっています。また、小学生と中学生で「取り決めをしており、養育費を受け取っている」が、いずれも 3 割弱となっています。

全国調査と比較すると、「養育費の取り決めをしておらず、受け取っていない」が今回調査で 3.1 ポイント低くなっています。

図 ひとり親の養育費受取状況

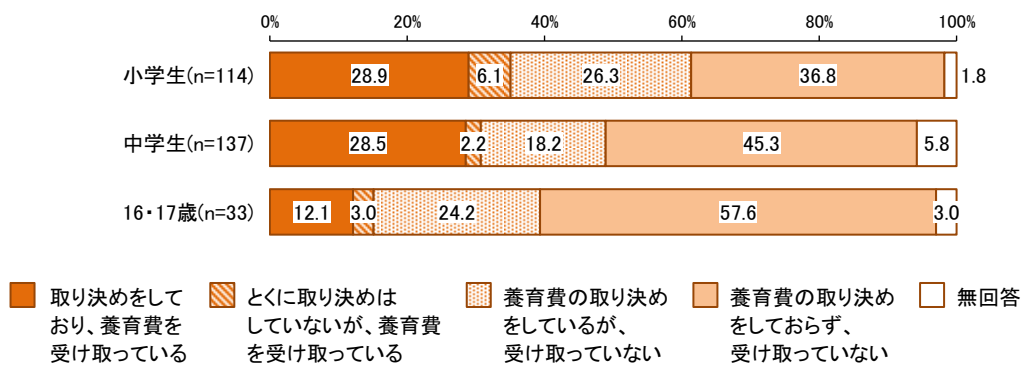
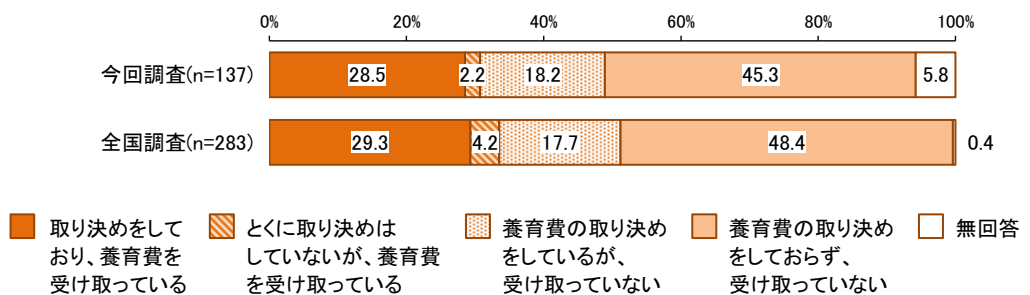


図 ひとり親の養育費受取状況 - 全国調査との比較【中学生】



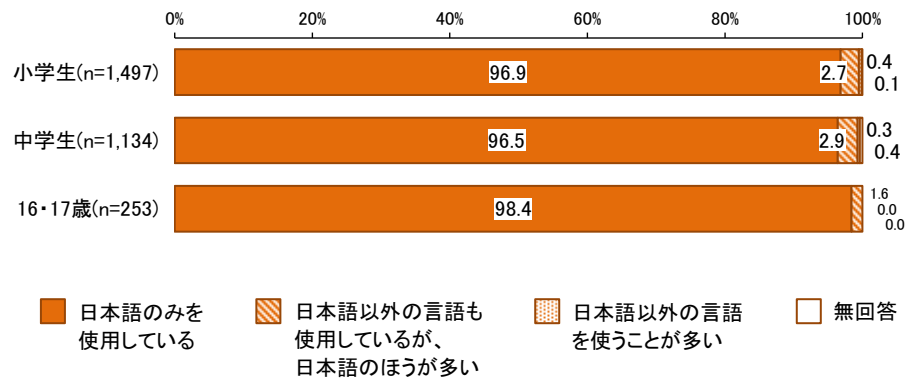
## II 保護者調査の結果

### (7) 家庭で使用している言語

問7	ご家庭ではどれくらい、日本語以外の言語を使用していますか。(あてはまるもの1つに○)
----	--

家庭で使用している言語をみると、「日本語のみを使用している」の割合がいずれの年齢も 9 割以上となっています。「日本語以外の言語も使用しているが、日本語のほうが多い」は小学生で 2.7%、中学生で 2.9%、16・17 歳で 1.6%となっています。

図 家庭で使用している言語



(8) 保護者の学歴

問8	お子さんの保護者の最終学歴（卒業した学校）をお答えください。（①②それぞれについて、あてはまるもの1つに○）
----	--

① 母親・母親にあたる人

保護者の学歴をみると、母親・母親にあたる人では「短大・高専・専門学校(専攻科)まで」の割合がいずれの年齢も4割以上と最も高くなっています。また、中学生の「高校(高等部)まで」が35.1%と高くなっています。

等価世帯収入水準別にみると、収入水準の低い世帯ほど「中学(中学部)まで」や「高校(高等部)まで」、収入水準の高い世帯ほど「短大・高専・専門学校(専攻科)まで」や「大学またはそれ以上」の割合がいずれの年齢も高くなっています。収入水準が高い世帯ほど、学歴が高い傾向にあります。

世帯の状況別にみると、ひとり親世帯よりもふたり親世帯の方が、全体的に学歴が高い傾向にあります。

図 母親・母親にあたる人の学歴

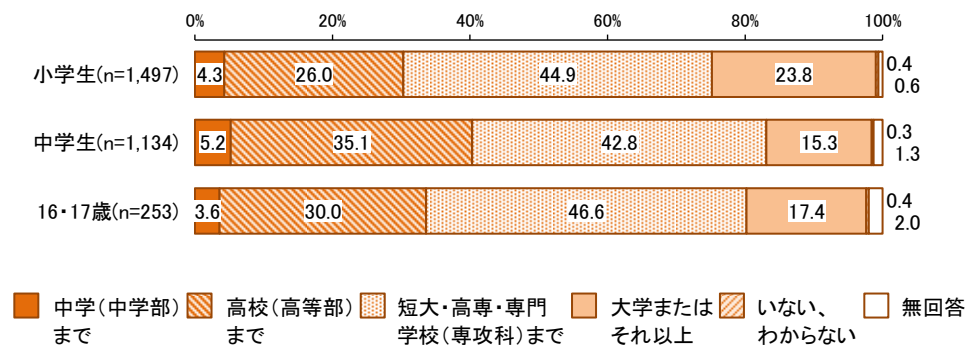
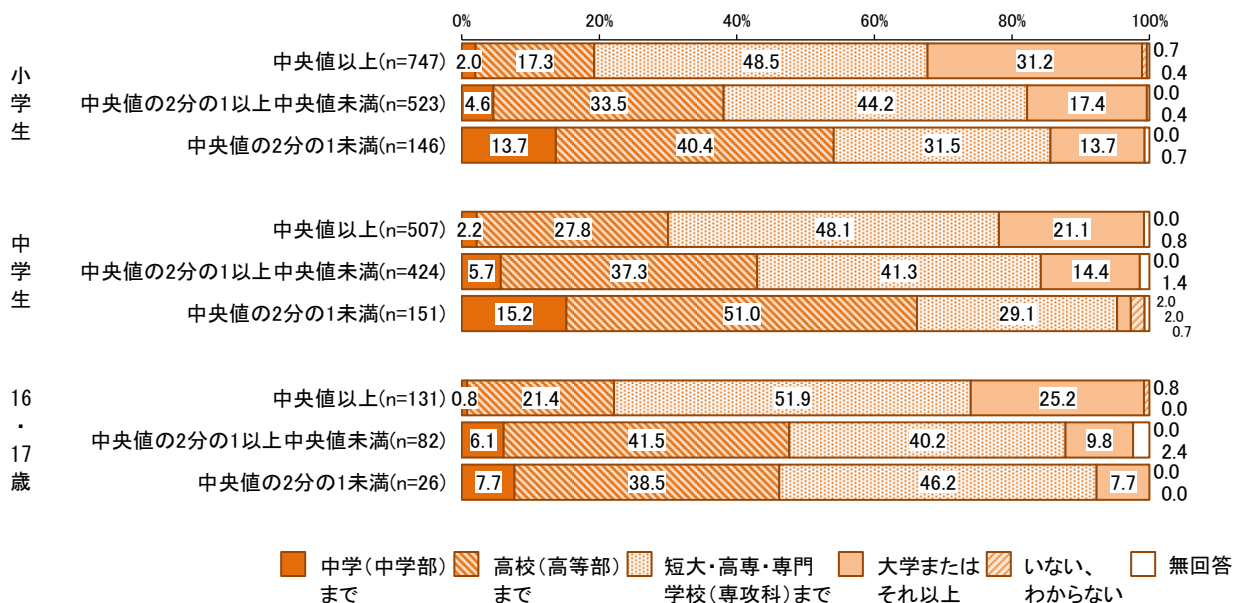
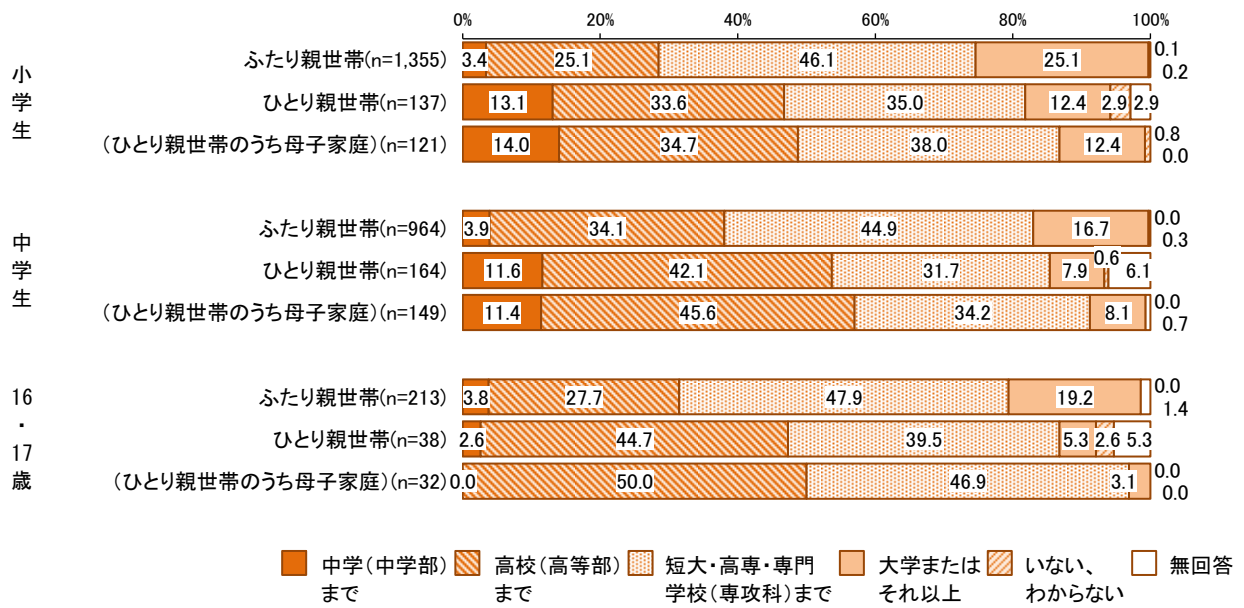


図 等価世帯収入水準別 母親・母親にあたる人の学歴



## II 保護者調査の結果

図 世帯の状況別 母親・母親にあたる人の学歴





②父親・父親にあたる人

父親・父親にあたる人では、小学生で「大学またはそれ以上」が 40.3%、中学生と 16・17 歳で「高校(高等部)まで」がそれぞれ 35.8%、37.5%と最も高くなっています。

等価世帯収入水準別にみると、収入水準の高い世帯ほど全体的に学歴が高い傾向にあります。特に、小学生の中央値以上の世帯で「大学またはそれ以上」が 50.9%と半数以上となっています。

世帯の状況別にみると、ひとり親世帯よりもふたり親世帯の方が、全体的に学歴が高い傾向にありますが、ひとり親世帯では「無回答」がいずれの年齢も 3～4 割程度を占めています。

図 父親・父親にあたる人の学歴

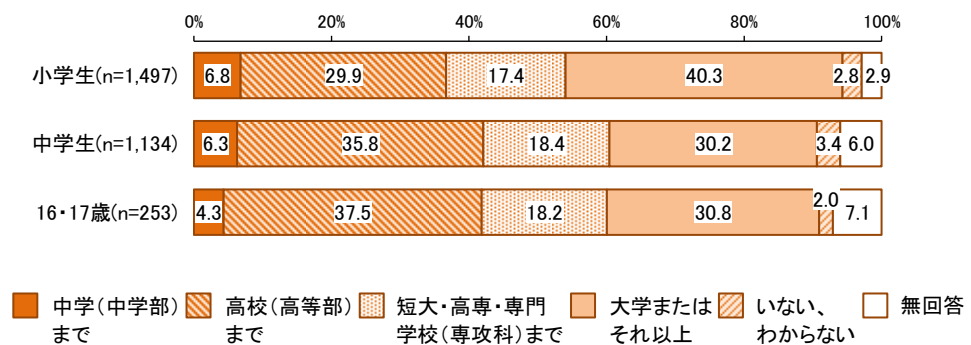
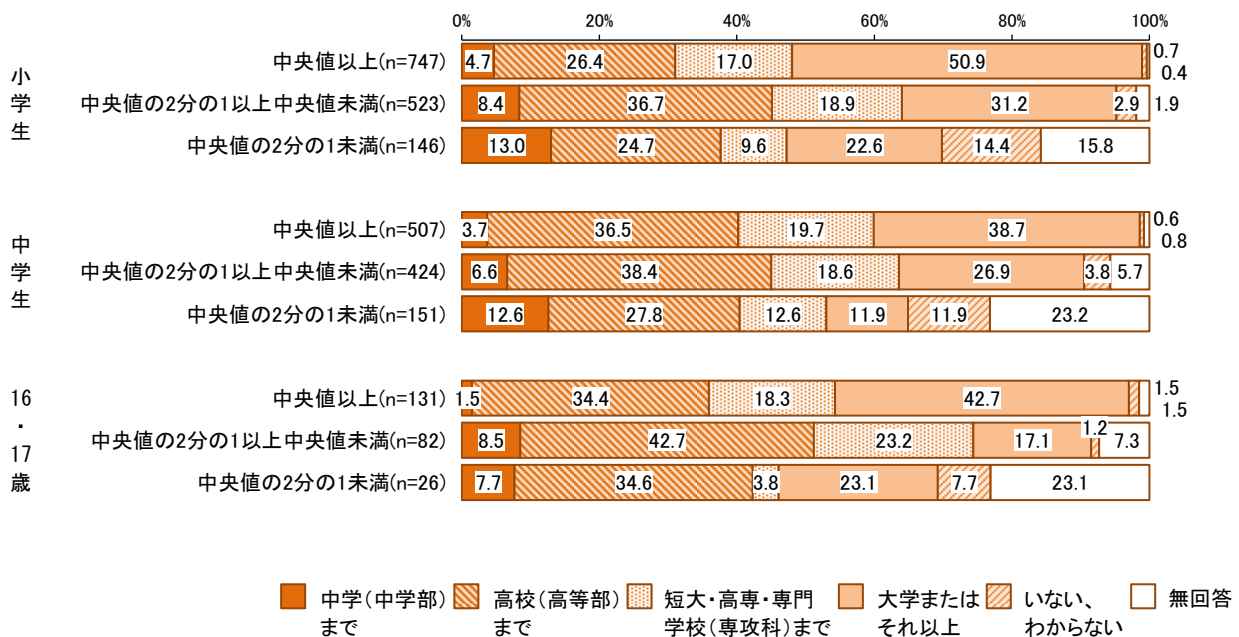
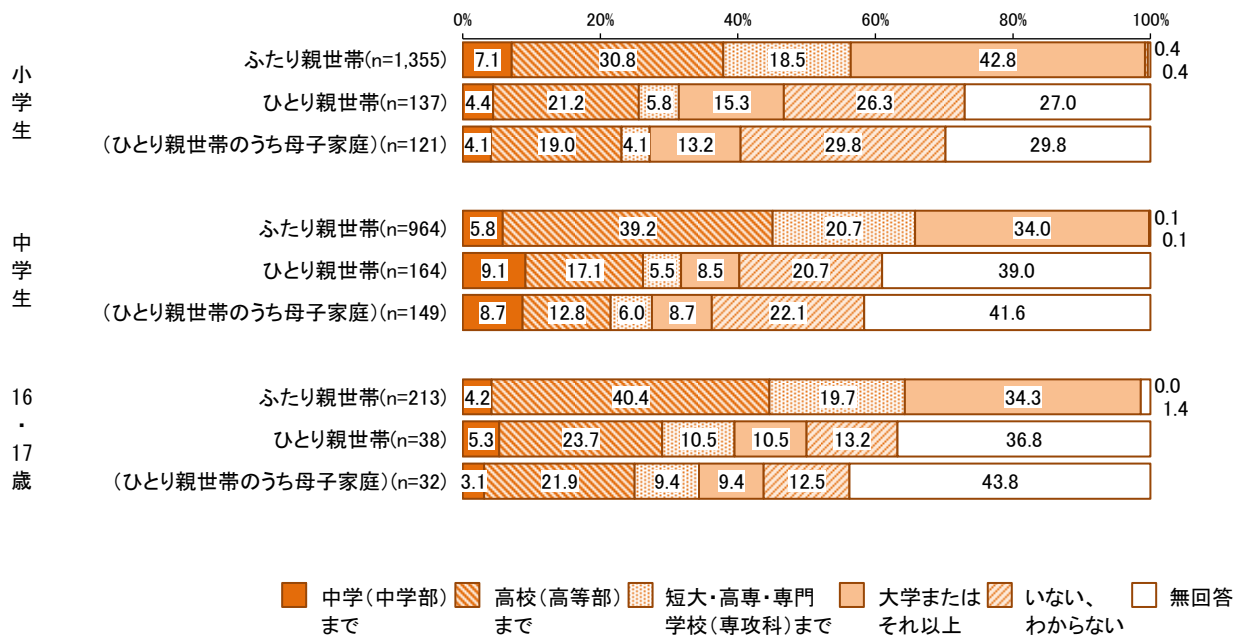


図 等価世帯収入水準別 父親・父親にあたる人の学歴



## II 保護者調査の結果

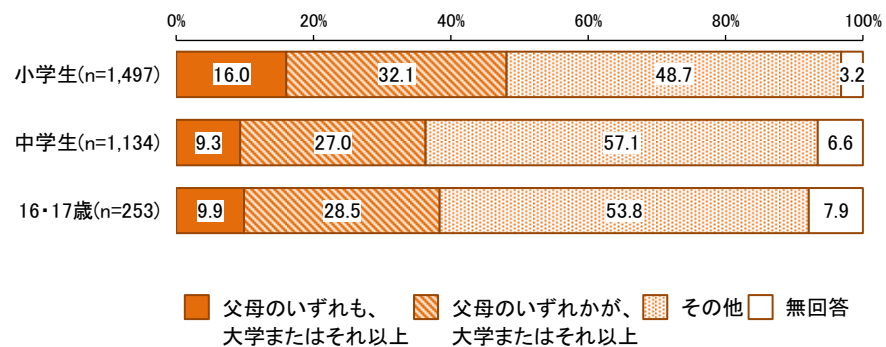
図 世帯の状況別 父親・父親にあたる人の学歴



### ③ 父母・父母にあたる人の学歴の組み合わせ

父母・父母にあたる人の学歴の組み合わせでは、小学生で「父母のいずれも、大学またはそれ以上」が16.0%、「父母のいずれかが、大学またはそれ以上」が32.1%で、中学生や16・17歳より高くなっています。

図 父母・父母にあたる人の学歴の組み合わせ



## 2. 就労状況

### (1) 保護者の雇用形態

問9	お子さんの保護者の雇用形態について、あてはまるものを回答してください。(①②それぞれについて、あてはまるもの1つに○)
----	---

#### ① 母親・母親にあたる人

保護者の雇用形態をみると、母親・母親にあたる人では「パート・アルバイト・日雇い・非常勤職員」の割合がいずれの年齢も4割以上と最も高くなっています。また、16・17歳では「正社員・正規職員・会社役員」が19.4%と他の年齢より低くなっています。

等価世帯収入水準別にみると、中央値以上の世帯で「正社員・正規職員・会社役員」がいずれの年齢も3割前後となっています。一方で中央値の2分の1未満の世帯で「パート・アルバイト・日雇い・非常勤職員」はいずれの年齢も5割以上を占めています。

図 母親・母親にあたる人の雇用形態

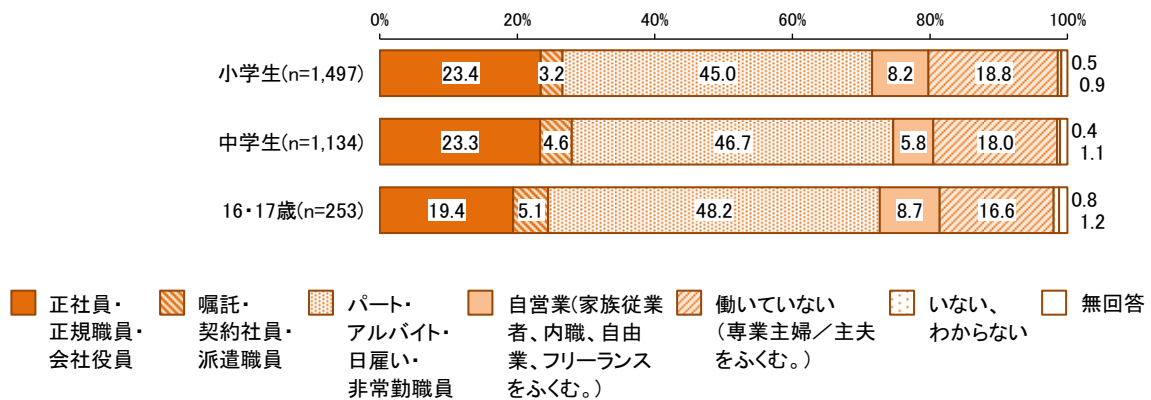
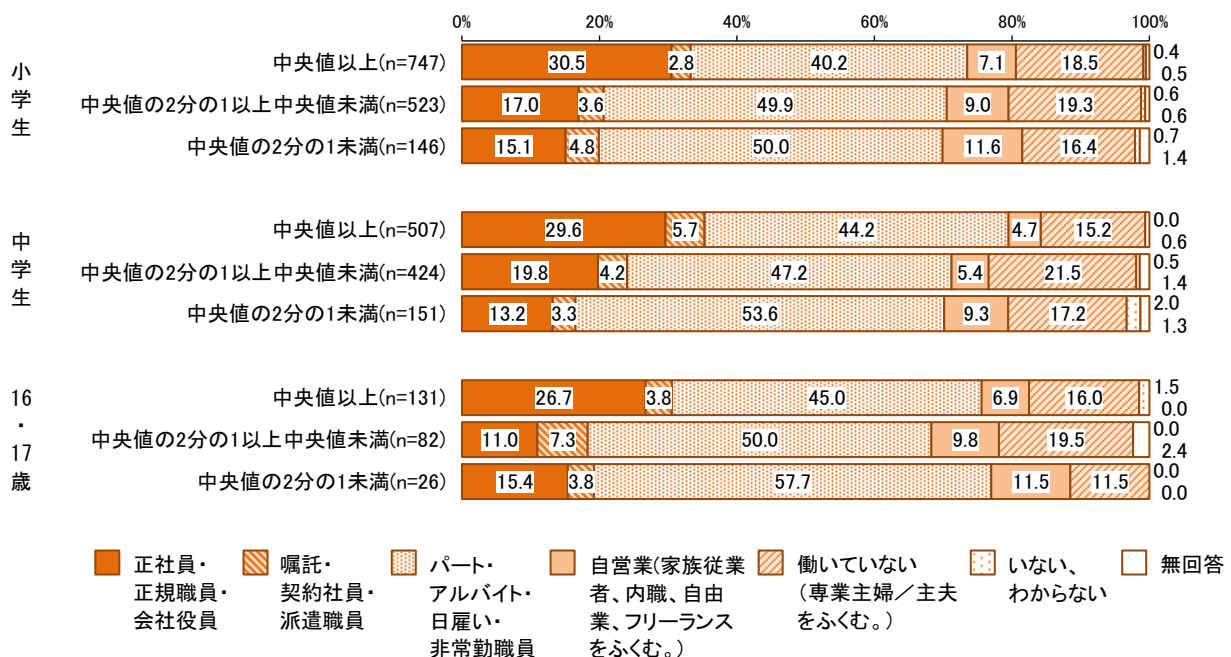


図 等価世帯収入水準別 母親・母親にあたる人の雇用形態



## II 保護者調査の結果

世帯の状況別にみると、いずれの年齢もひとり親世帯で「正社員・正規職員・会社役員」の割合が、3～4割程度と高く、「働いていない(専業主婦/主夫をふくむ。)」が1割未満と低くなっています。

福祉事務所管内別にみると、16・17歳の中福祉事務所の世帯で「正社員・正規職員・会社役員」が15.9%と低くなっています。

図 世帯の状況別 母親・母親にあたる人の雇用形態

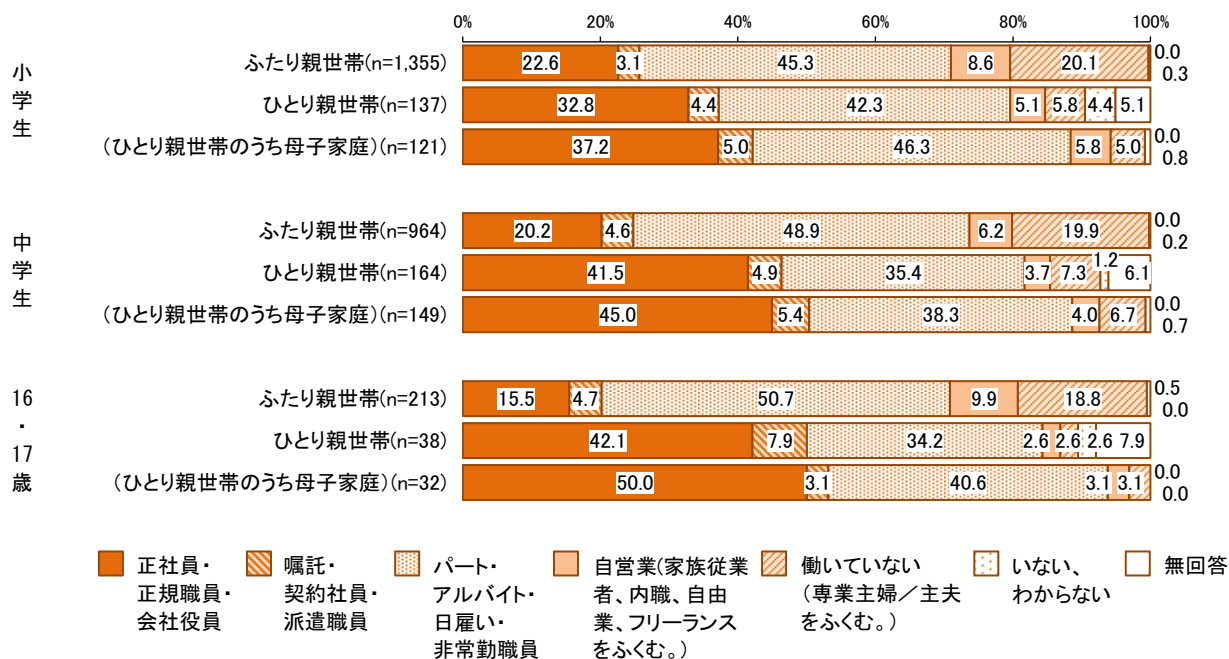
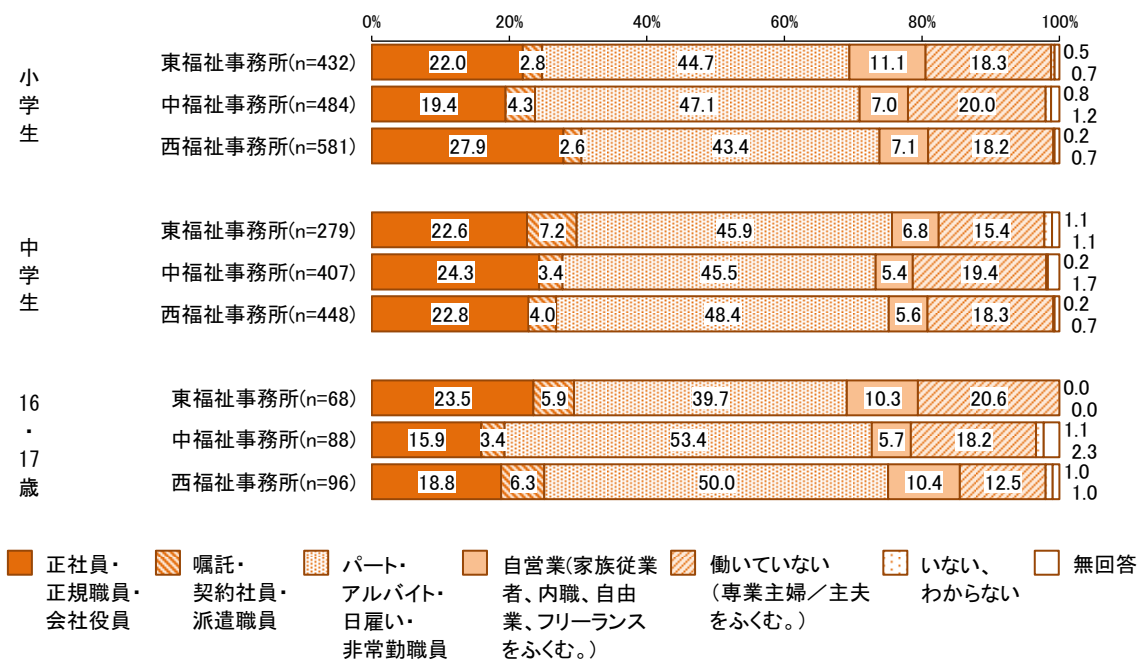


図 福祉事務所管内別 母親・母親にあたる人の雇用形態



②父親・父親にあたる人

父親・父親にあたる人では「正社員・正規職員・会社役員」の割合がいずれの年齢も 7 割以上と高くなっています。次いで「自営業(家族従業者、内職、自由業、フリーランスをふくむ。)」がいずれの年齢も 1 割台となっています。

等価世帯収入水準別にみると、中央値以上の世帯で「正社員・正規職員・会社役員」の割合がいずれの年齢も 8 割以上と高く、一方でいずれの年齢も中央値の 2 分の 1 未満の世帯の「自営業(家族従業者、内職、自由業、フリーランスをふくむ。)」が 2~3 割近く、「いない、わからない」が 1割以上と高くなっています。

図 父親・父親にあたる人の雇用形態

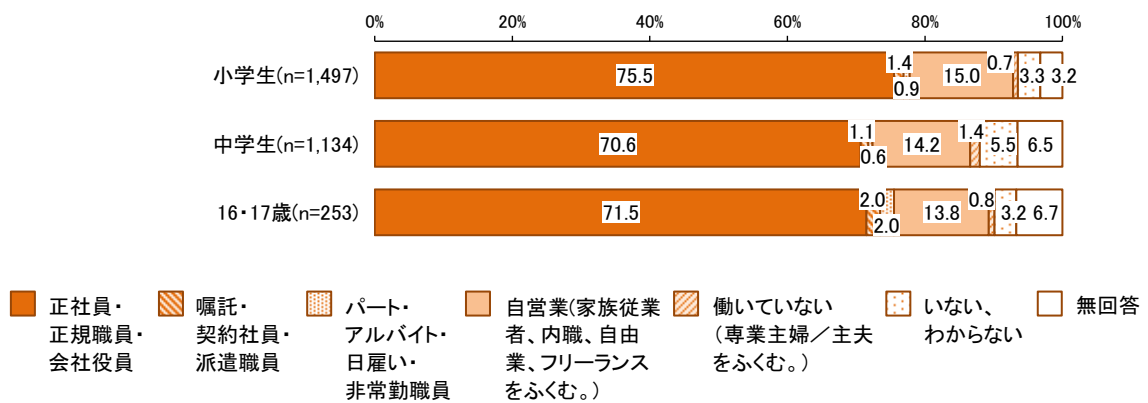
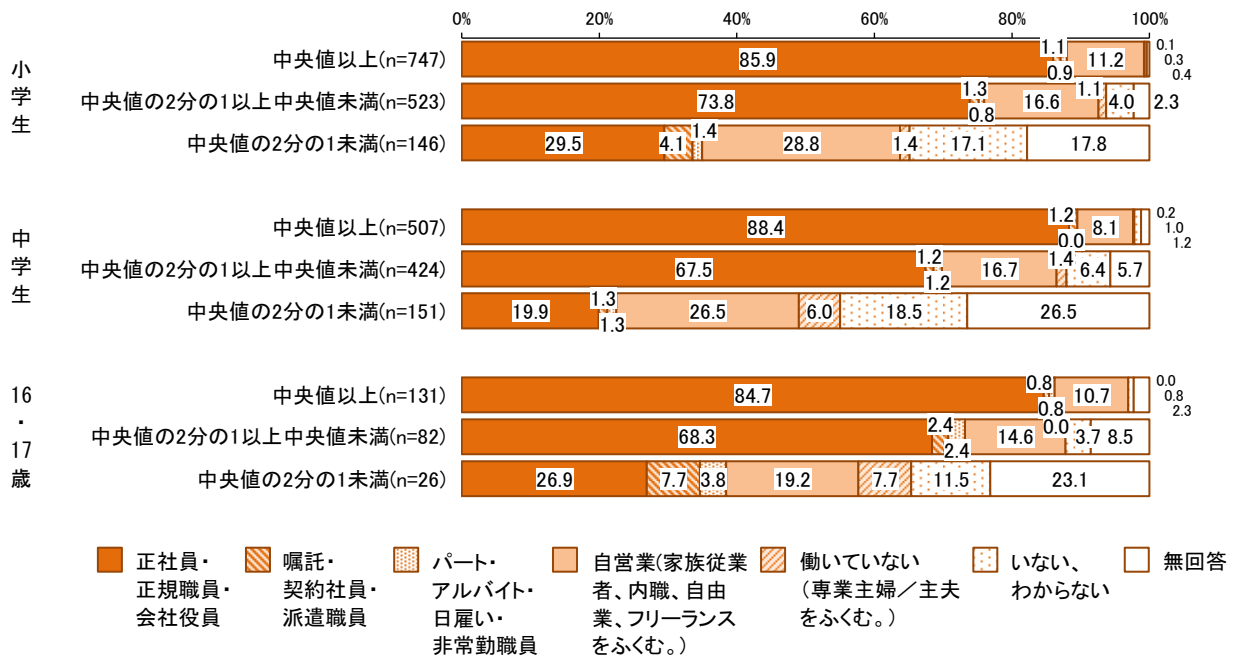


図 等価世帯収入水準別 父親・父親にあたる人の雇用形態



II 保護者調査の結果

世帯の状況別にみると、「正社員・正規職員・会社役員」はふたり親世帯がいずれの年齢も約8割を占めているのに対し、ひとり親世帯ではいずれの年齢も1~2割台と大きな差があります。

福祉事務所管内別にみると、福祉事務所による大きな差はありません。

図 世帯の状況別 父親・父親にあたる人の雇用形態

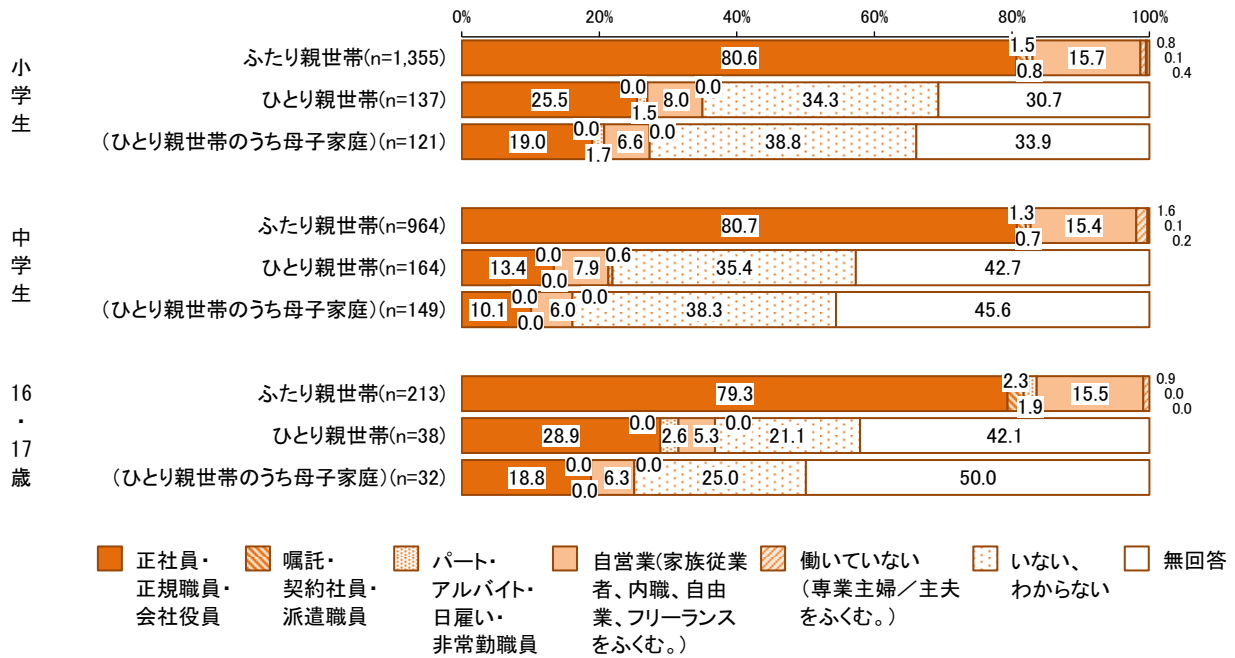
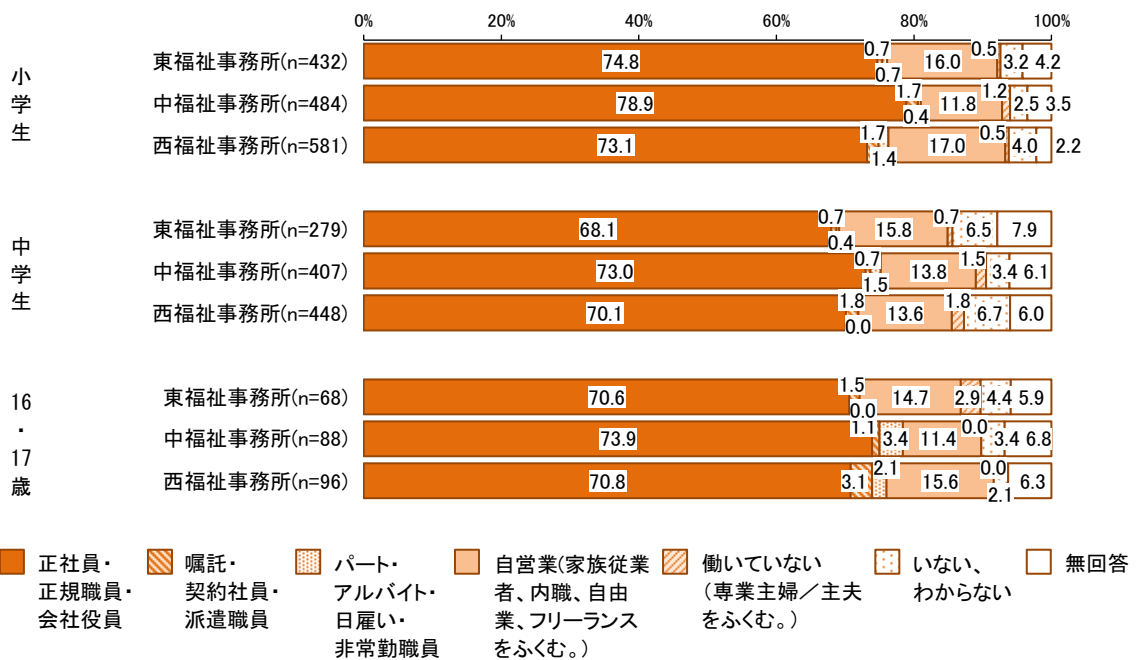


図 福祉事務所管内別 父親・父親にあたる人の雇用形態





(2) 就労していない理由

問 10	問9で「5 働いていない」と答えた場合、働いていないもっとも主な理由を教えてください。(①②それぞれについて、あてはまるもの1つに○)
------	---

①母親・母親にあたる人

就労していない理由をみると、母親・母親にあたる人では、小学生と中学生では「子育てを優先したいため」、16・17歳では「その他の理由」が最も高くなっています。また、「働きたいが、希望する条件の仕事がないため」は、いずれの年齢も1割台となっています。

等価世帯収入水準別にみると、小学生と中学生では収入水準の高い世帯ほど「子育てを優先したいため」が高く、収入水準の低い世帯ほど「自分の病気や障害のため」が高くなっています。特に中学生の中央値の2分の1未満の世帯で「自分の病気や障害のため」が38.5%と4割近くを占めています。

世帯の状況別にみると、小学生と中学生のふたり親世帯で「子育てを優先したいため」が4~5割程度を占め、小学生と中学生のひとり親世帯で「自分の病気や障害のため」が5割以上となっています。

図 母親・母親にあたる人が就労していない理由

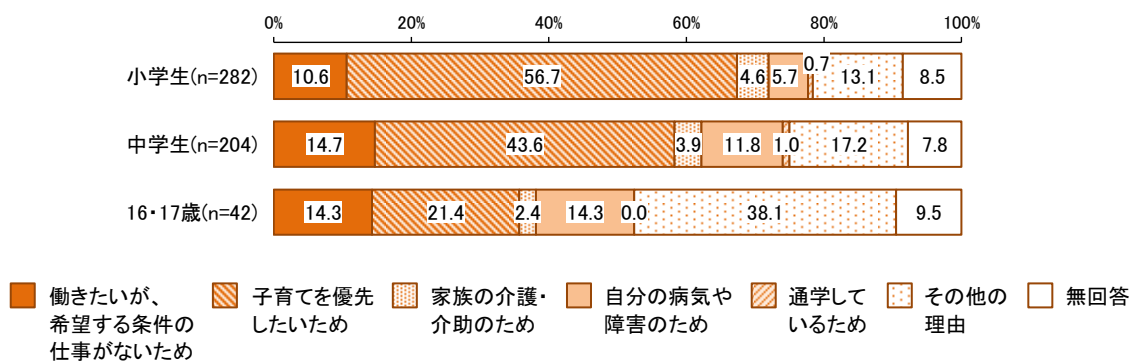
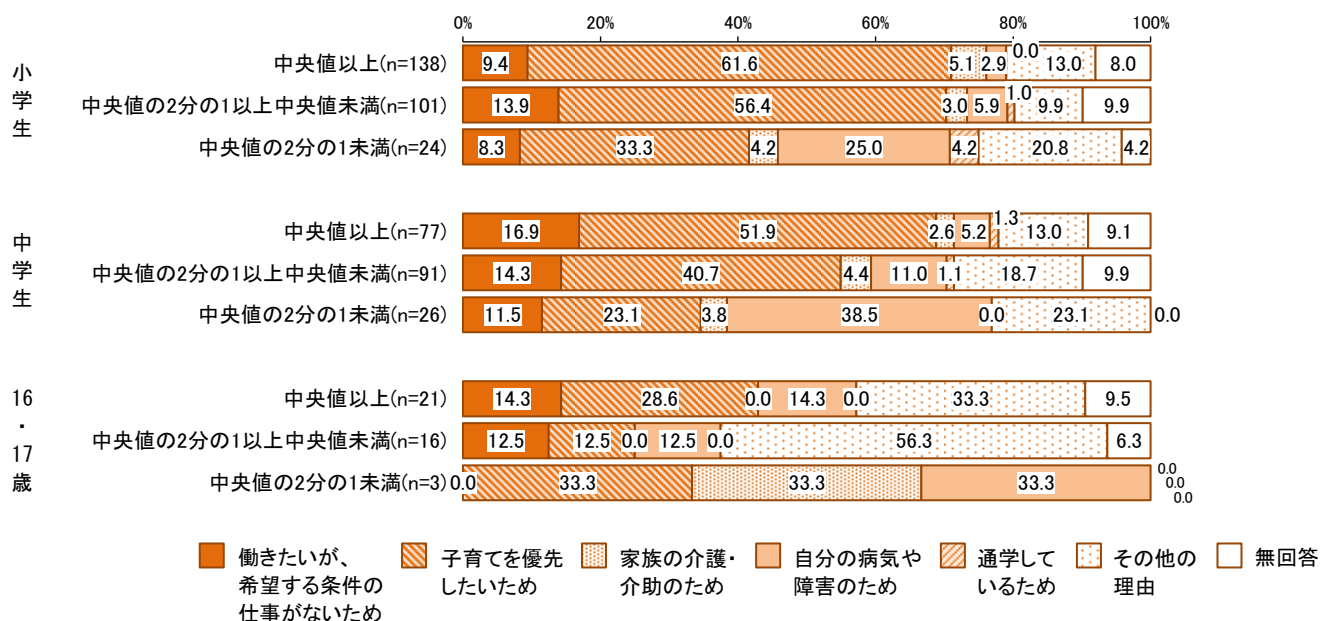
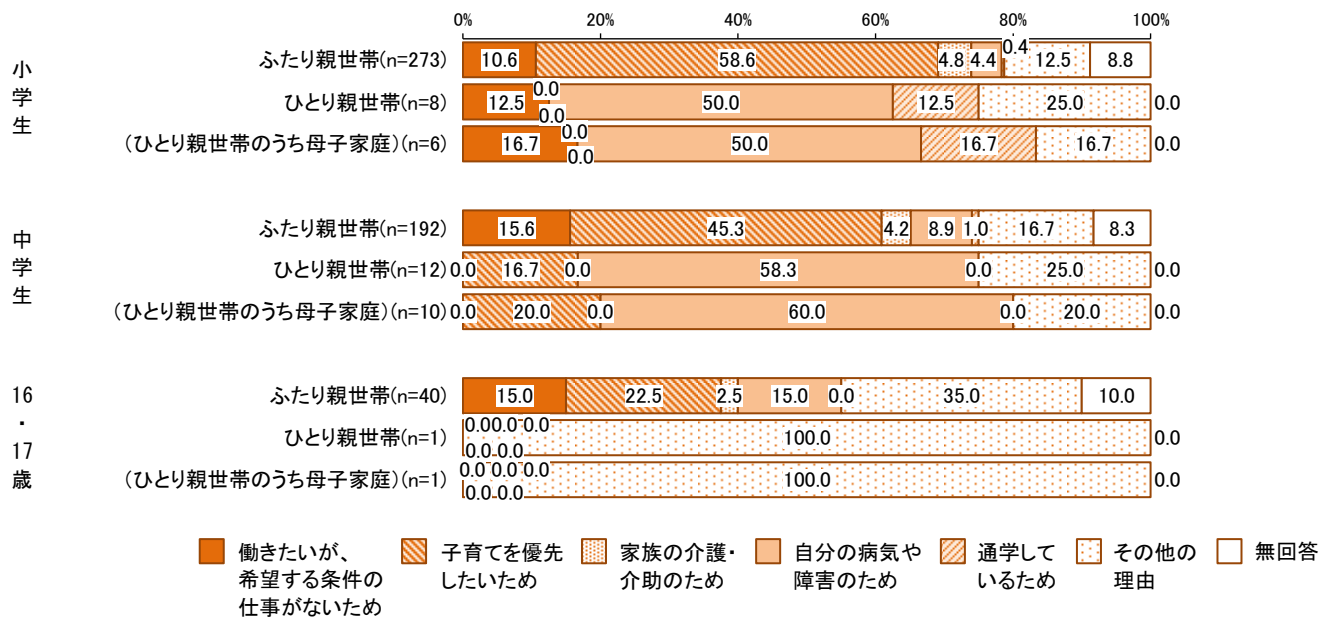


図 等価世帯収入水準別 母親・母親にあたる人が就労していない理由



II 保護者調査の結果

図 世帯の状況別 母親・母親にあたる人が就労していない理由

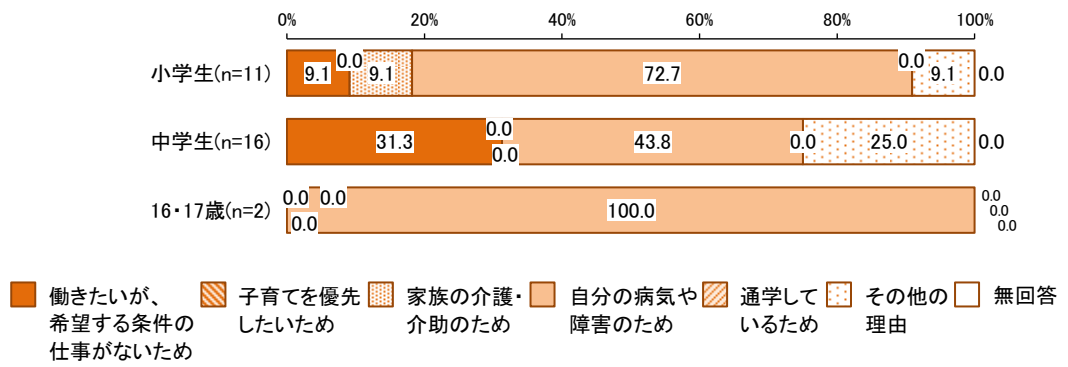




②父親・父親にあたる人

父親・父親にあたる人では、「自分の病気や障害のため」の割合がいずれの年齢も最も高くなっています。また、「働きたいが、希望する条件の仕事がないため」は、中学生で31.3%と高くなっています。

図 父親・父親にあたる人が就労していない理由



### 3. 子どもとの関わり方

#### (1) 幼児期の教育(0-2歳)

問 11	調査対象のお子さんが0～2歳の間に通っていた教育・保育施設等でもっとも主なもの（期間が長いもの）をお答えください。（あてはまるもの1つに○）
------	--

幼児期の教育(0-2歳)をみると、いずれの年齢も「もっぱら保護者・親族が面倒を見ていた」の割合が最も高く、16・17歳では71.9%となっています。次いで「認可保育所・認定子ども園」が、小学生と中学生で3割前後となっています。子どもの年齢が下がるほど、「認可保育所・認定子ども園」の割合が高くなっています。

等価世帯収入水準別にみると、小学生と中学生では中央値の2分の1以上中央値未満の世帯で「もっぱら保護者・親族が面倒を見ていた」が、全体よりも若干高くなっています。

世帯の状況別にみると、ひとり親世帯の方がふたり親世帯よりも「認可保育所・認定子ども園」を選択する割合が高く、特に小学生では49.6%と半数近くを占めています。

図 幼児期の教育(0-2歳)

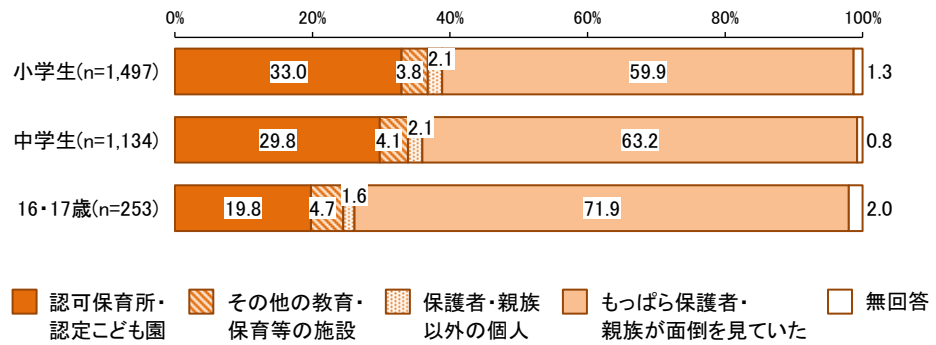


図 等価世帯収入水準別 幼児期の教育(0-2歳)

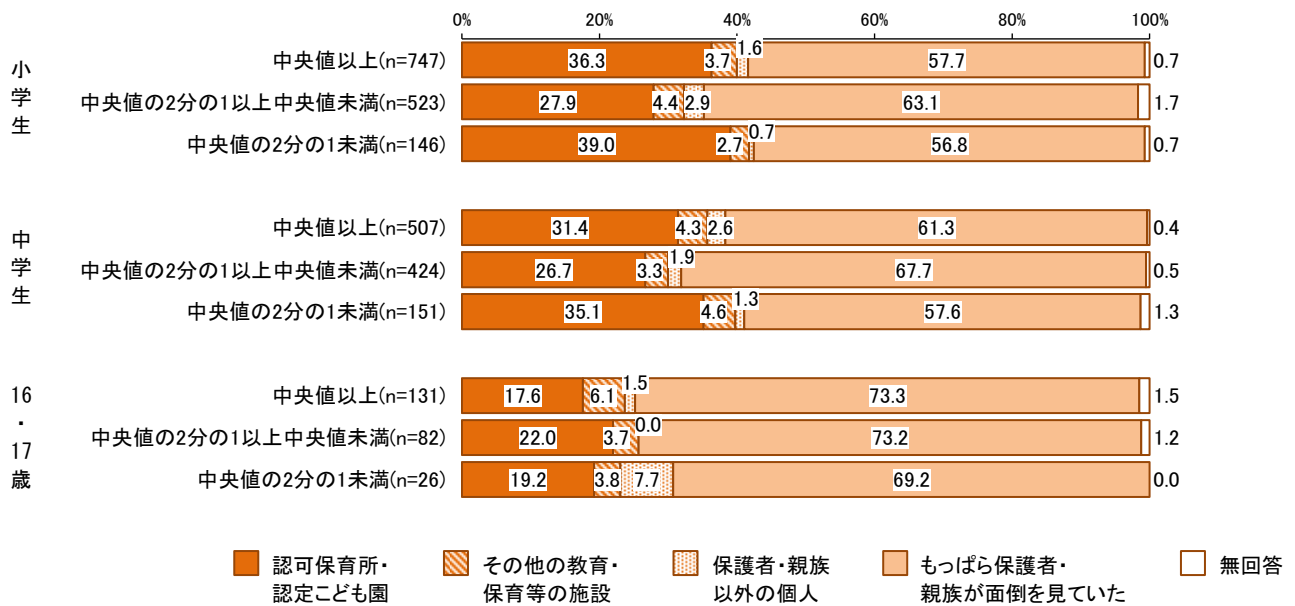
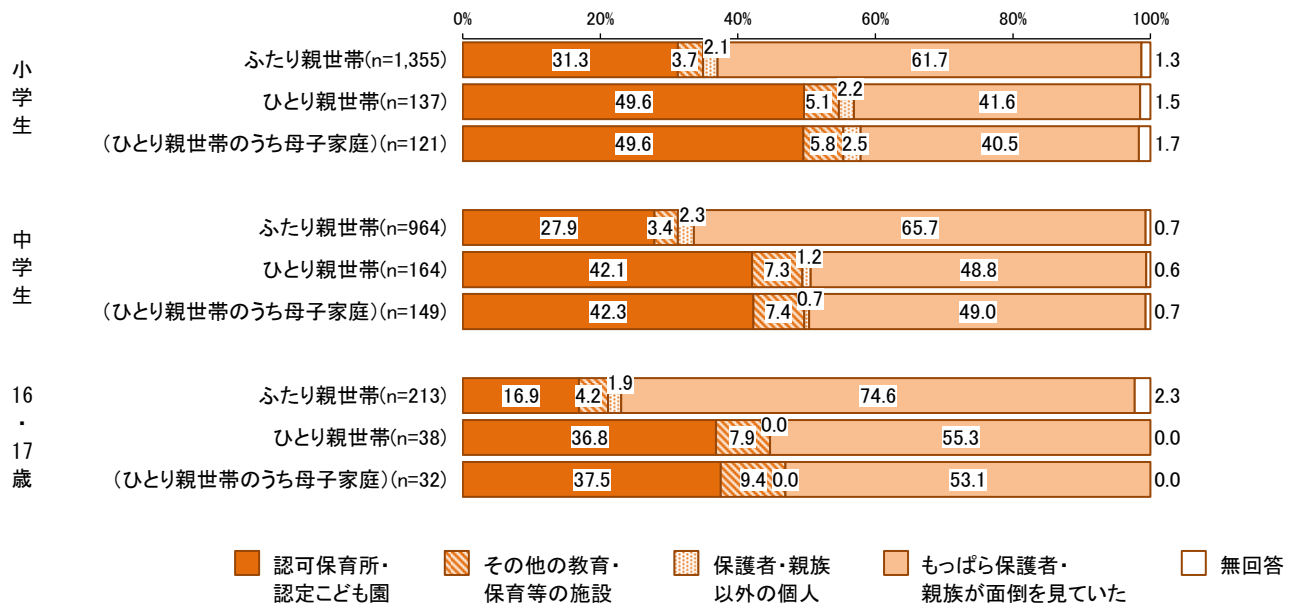


図 世帯の状況別 幼児期の教育(0-2歳)



II 保護者調査の結果

(2) 幼児期の教育(3-5 歳)

問 12	調査対象のお子さんが3～5歳の間に通っていた教育・保育施設等でもっとも主なもの（期間が長いもの）をお答えください。（あてはまるもの1つに○）
------	--

幼児期の教育(3-5 歳)をみると、いずれの年齢も「幼稚園・認可保育所・認定こども園」の割合が最も高く、小学生では 95.5%となっています。また、16・17 歳では「その他の教育・保育等の施設」が 5.1%と、小学生や中学生と比べて高くなっています。

等価世帯収入水準別にみると、16・17 歳の中央値の 2 分の 1 以上中央値未満の世帯で「幼稚園・認可保育所・認定こども園」が 86.6%とやや低くなっており、「その他の教育・保育等の施設」「もっぱら保護者・親族が面倒を見ていた」がともに 6.1%とやや高くなっています。

世帯の状況別にみると、ひとり親世帯の方が「その他の教育・保育等の施設」の割合がやや高くなっています。

図 幼児期の教育(3-5歳)

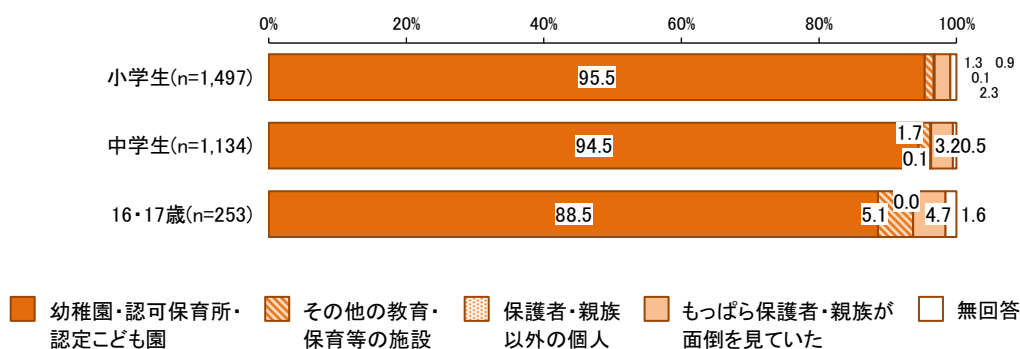


図 等価世帯収入水準別 幼児期の教育(3-5歳)

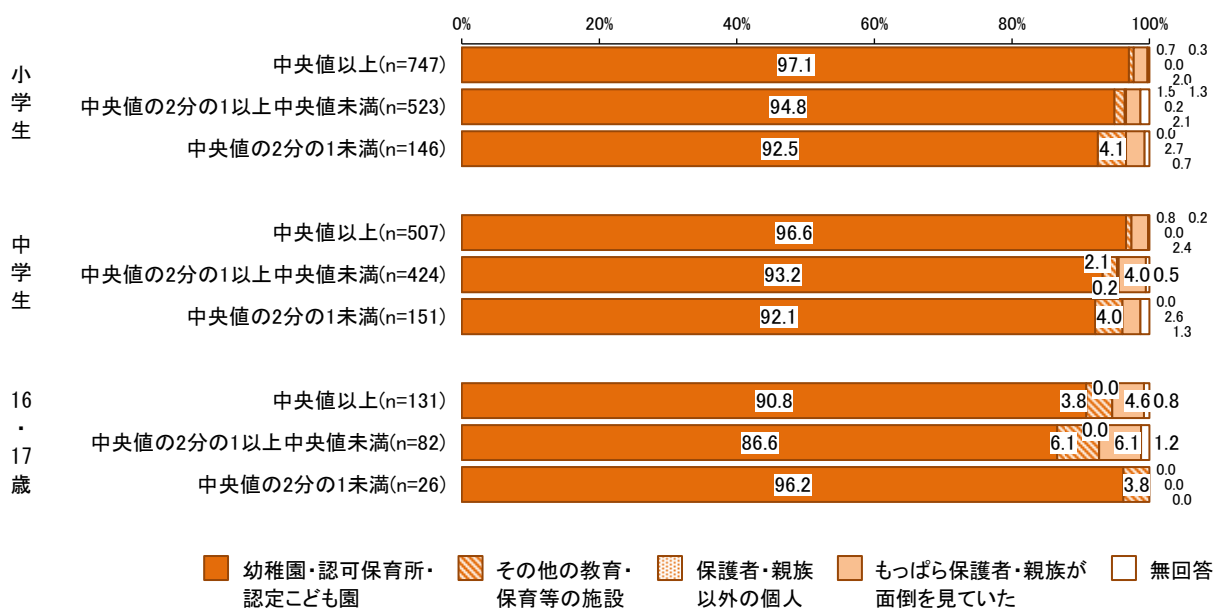
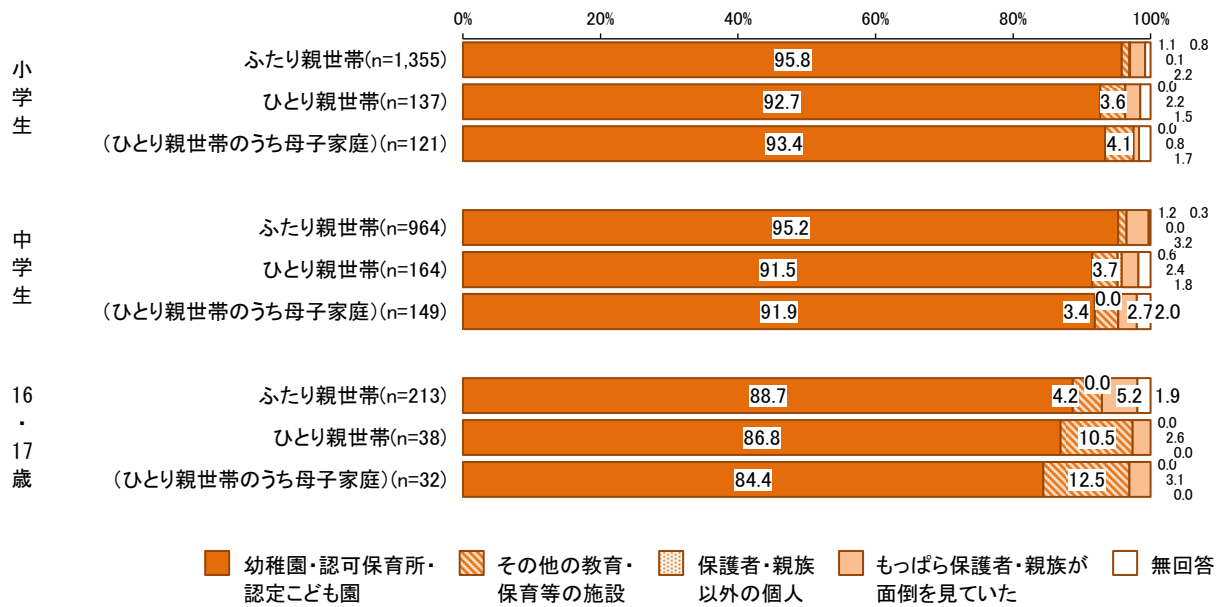


図 世帯の状況別 幼児期の教育(3-5歳)



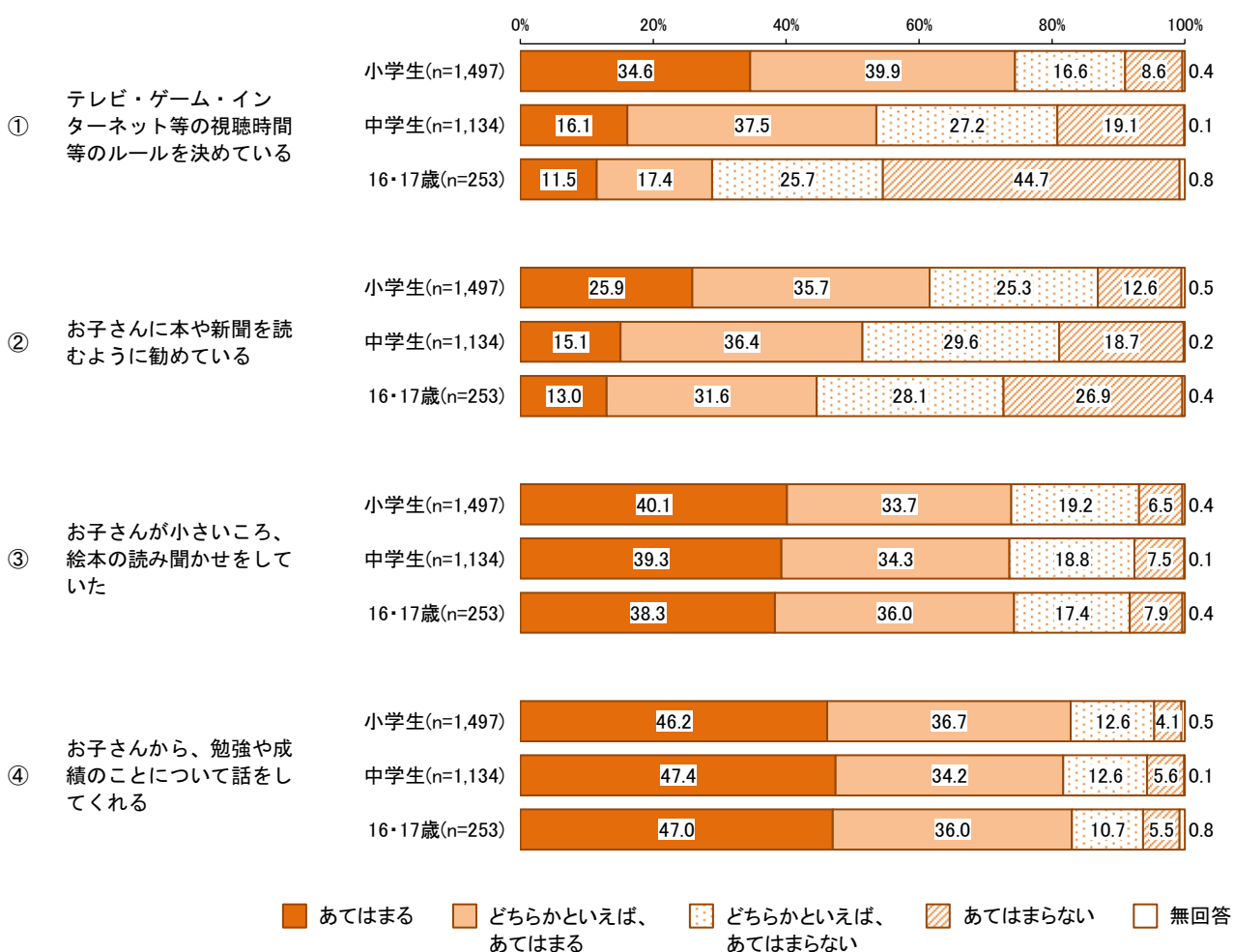
II 保護者調査の結果

(3) 保護者の関わり方

問 13	保護者の方とお子さんの関わり方について、次のようなことにどれくらい当てはまりますか。(①～④それぞれについて、あてはまるもの1つに○)
------	---

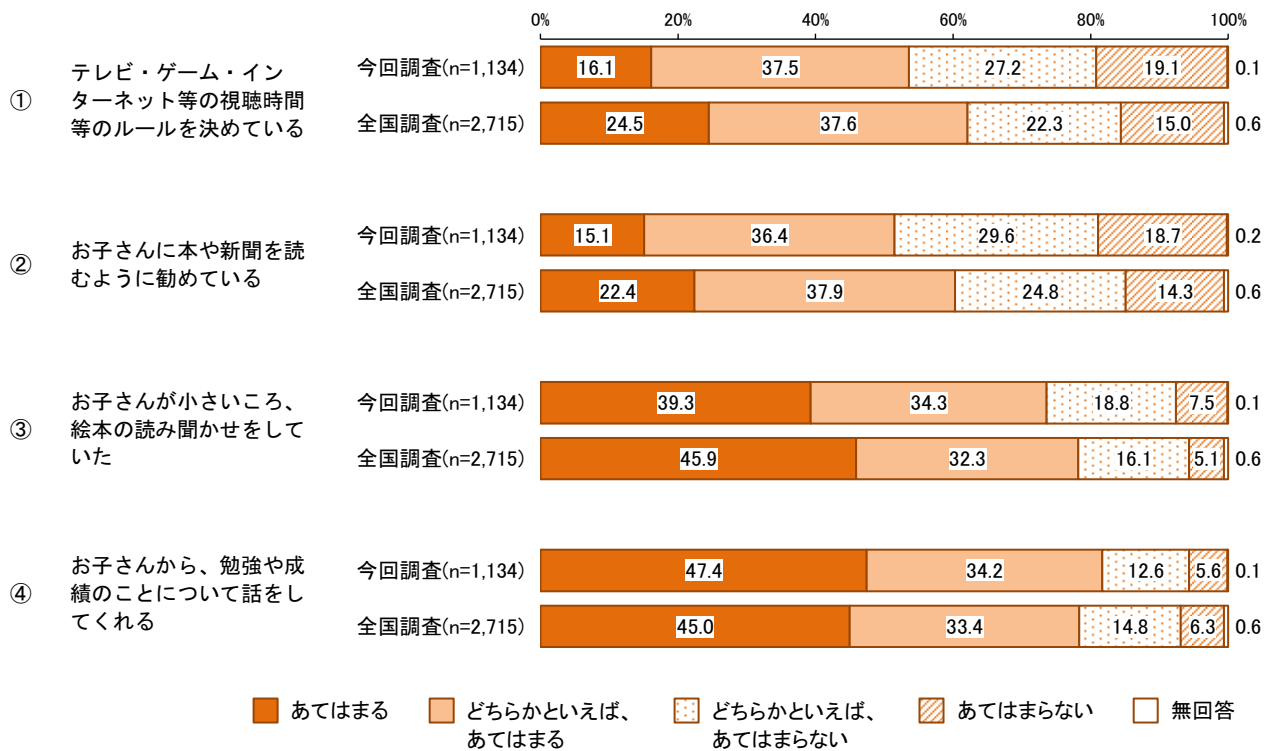
保護者の関わり方をみると、「①テレビ・ゲーム・インターネット等の視聴時間等のルールを決めている」と「②お子さんに本や新聞を読むように勧めている」については、子どもの年齢が低いほど『あてはまる』(「あてはまる」と「どちらかといえば、あてはまる」の合計)の割合が高くなっています。「③お子さんが小さいころ、絵本の読み聞かせをしていた」と「④お子さんから、勉強や成績のことについて話をしてくれる」は、『あてはまる』の割合がいずれの年齢も7～8割近くとなっています。

図 保護者の関わり方



全国調査と比較すると、『あてはまる』は、「④お子さんから、勉強や成績のことについて話をしてくれる」は全国調査を上回っていますが、それ以外の項目は全国調査を下回っています。

図 保護者の関わり方 - 全国調査との比較【中学生】



## II 保護者調査の結果

### ①テレビ・ゲーム・インターネット等の視聴時間等のルールを決めている

等価世帯収入水準別にみると、小学生と中学生では、収入水準の高い世帯ほど『あてはまる』の割合が高くなる傾向にあり、小学生の中央値以上の世帯では 80.2%となっています。一方で 16・17 歳の中央値の 2 分の 1 以上中央値未満の世帯で『あてはまらない』(「あてはまらない」と「どちらかといえば、あてはまらない」の合計)が 81.7%と、他の収入層と比較して高くなっています。

世帯の状況別にみると、ふたり親世帯の方がひとり親世帯よりも『あてはまる』の割合がいずれの年齢も高くなっており、小学生のふたり親世帯で 76.1%となっています。

図 等価世帯収入水準別 保護者の関わり方 - ①テレビ・ゲーム・インターネット等の視聴時間等のルールを決めている

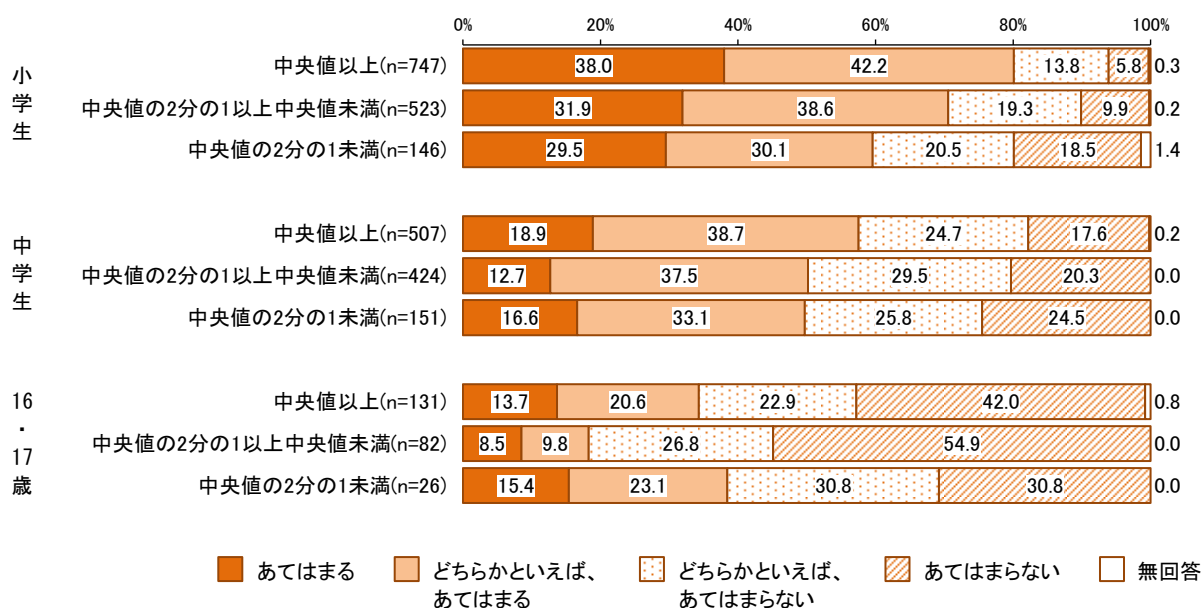
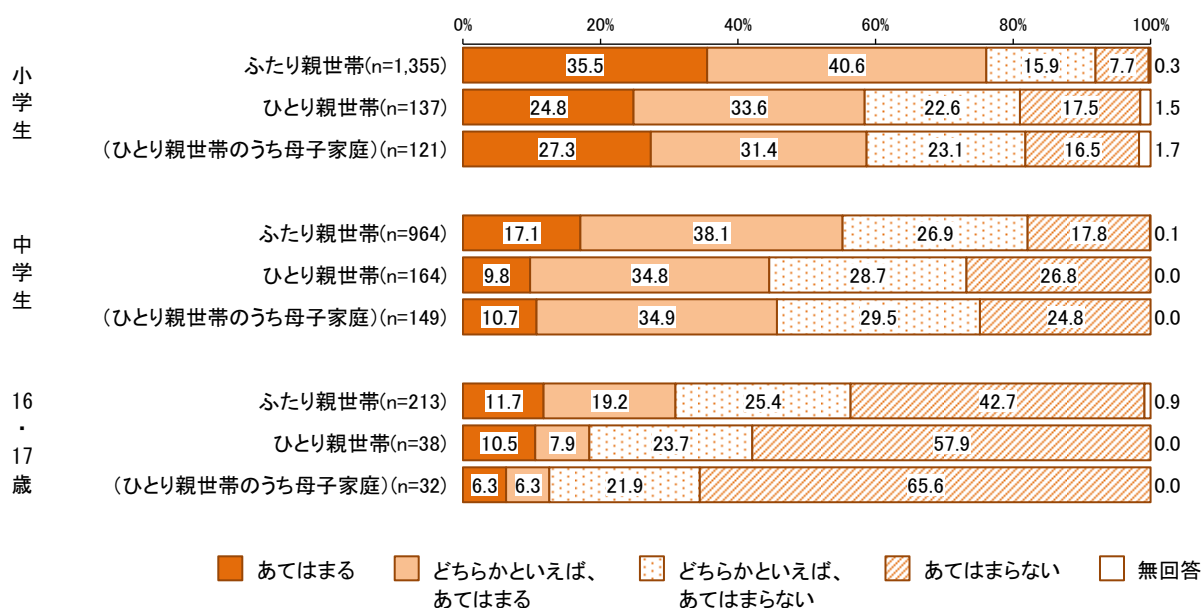


図 世帯の状況別 保護者の関わり方 - ①テレビ・ゲーム・インターネット等の視聴時間等のルールを決めている





②お子さんに本や新聞を読むように勧めている

等価世帯収入水準別にみると、小学生と中学生では、収入水準の高い世帯ほど『あてはまる』の割合が高くなる傾向にあり、小学生の中央値以上の世帯では 67.2%となっています。また、16・17 歳の中央値の 2 分の 1 未満の世帯の『あてはまる』も 50.0%と半数を占めています。

世帯の状況別にみると、小学生と中学生のふたり親世帯の『あてはまる』が、ひとり親世帯よりも高くなっていますが、16・17 歳ではその差はありません。

図 等価世帯収入水準別 保護者の関わり方 - ②お子さんに本や新聞を読むように勧めている

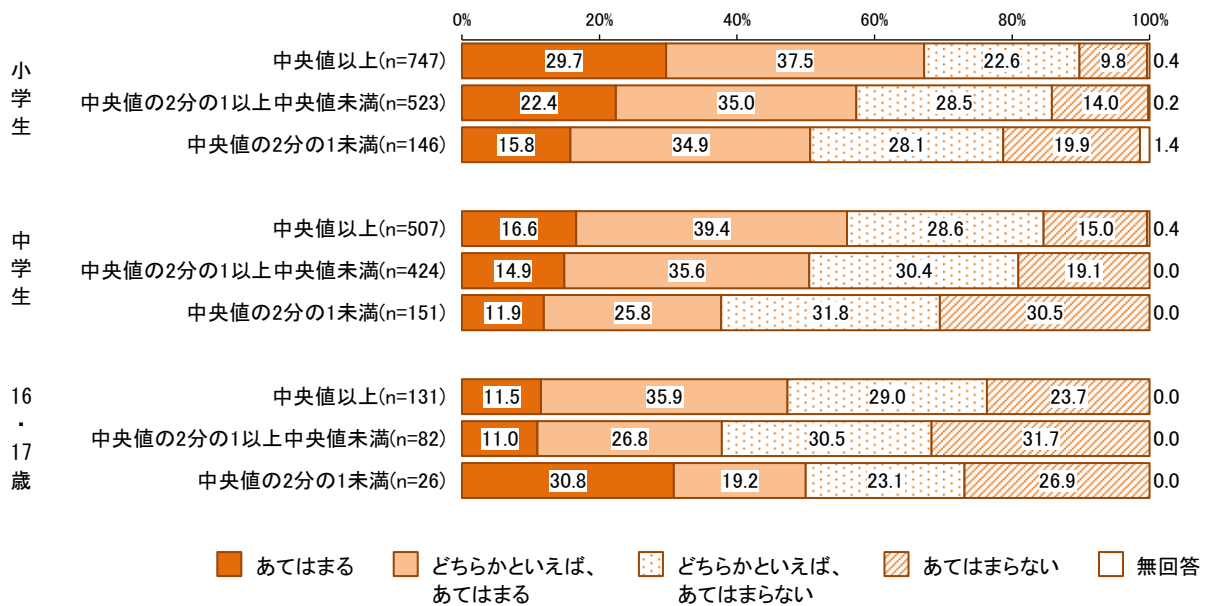
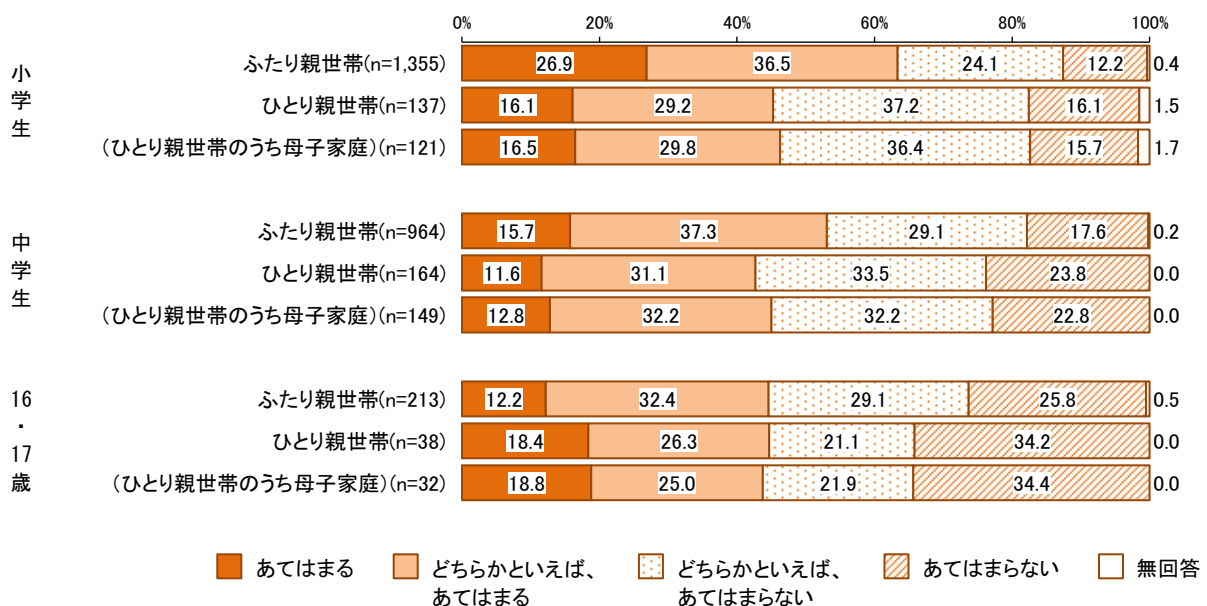


図 世帯の状況別 保護者の関わり方 - ②お子さんに本や新聞を読むように勧めている



## II 保護者調査の結果

### ③お子さんが小さいころ、絵本の読み聞かせをしていた

等価世帯収入水準別にみると、収入水準の高い世帯ほど『あてはまる』の割合がいずれの年齢も高くなる傾向にあり、16・17歳の中央値以上の世帯では78.6%となっています。一方で、16・17歳の中央値の2分の1未満の世帯で『あてはまらない』が38.5%と、他の収入層と比較して高くなっています。

世帯の状況別にみると、ふたり親世帯の『あてはまる』が、いずれの年齢もひとり親世帯よりも高くなる傾向にあり、特に16・17歳では13.3ポイントの差があります。

図 等価世帯収入水準別 保護者の関わり方 - ③お子さんが小さいころ、絵本の読み聞かせをしていた

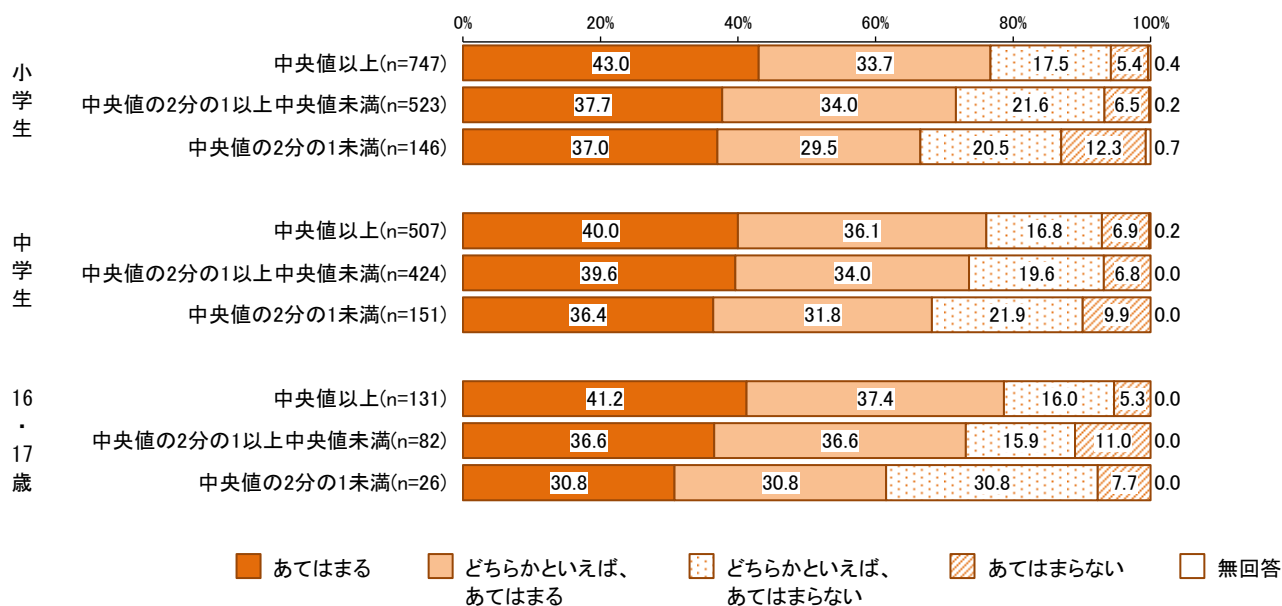
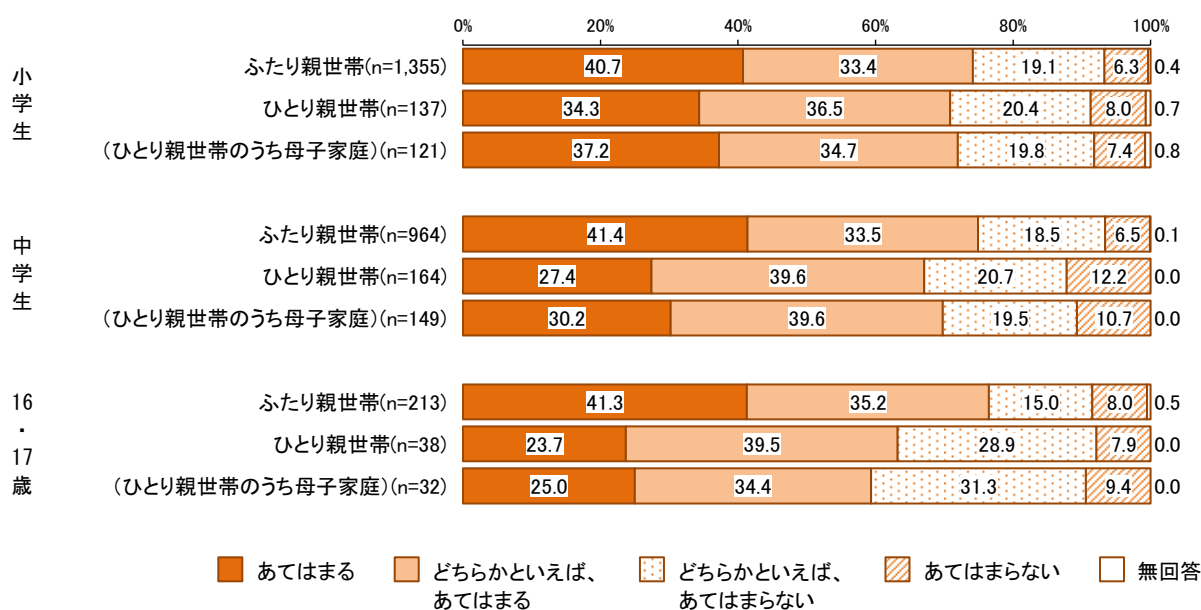


図 世帯の状況別 保護者の関わり方 - ③お子さんが小さいころ、絵本の読み聞かせをしていた



④お子さんから、勉強や成績のことについて話をしてくれる

等価世帯収入水準別にみると、小学生と中学生では中央値以上の世帯、16・17歳では中央値の2分の1未満の世帯の『あてはまる』が高くなっています。

世帯の状況別にみると、小学生と中学生ではふたり親世帯の『あてはまる』がひとり親世帯より高いのに対して、16・17歳はひとり親世帯の『あてはまる』がふたり親世帯より若干高くなっています。

図 等価世帯収入水準別 保護者の関わり方 - ④お子さんから、勉強や成績のことについて話をしてくれる

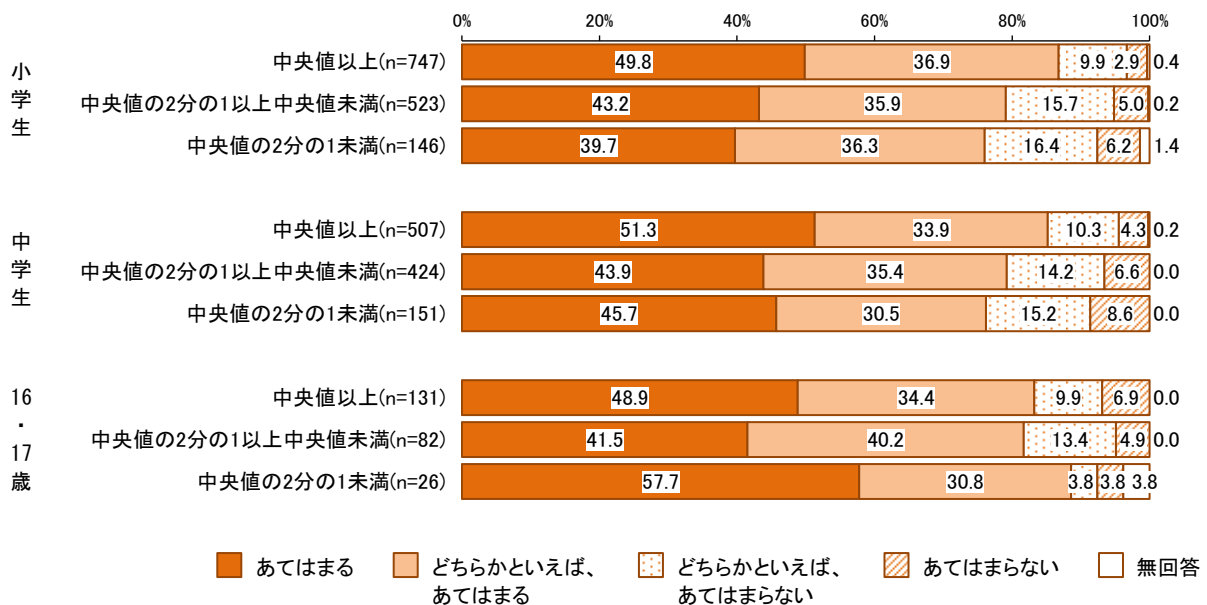
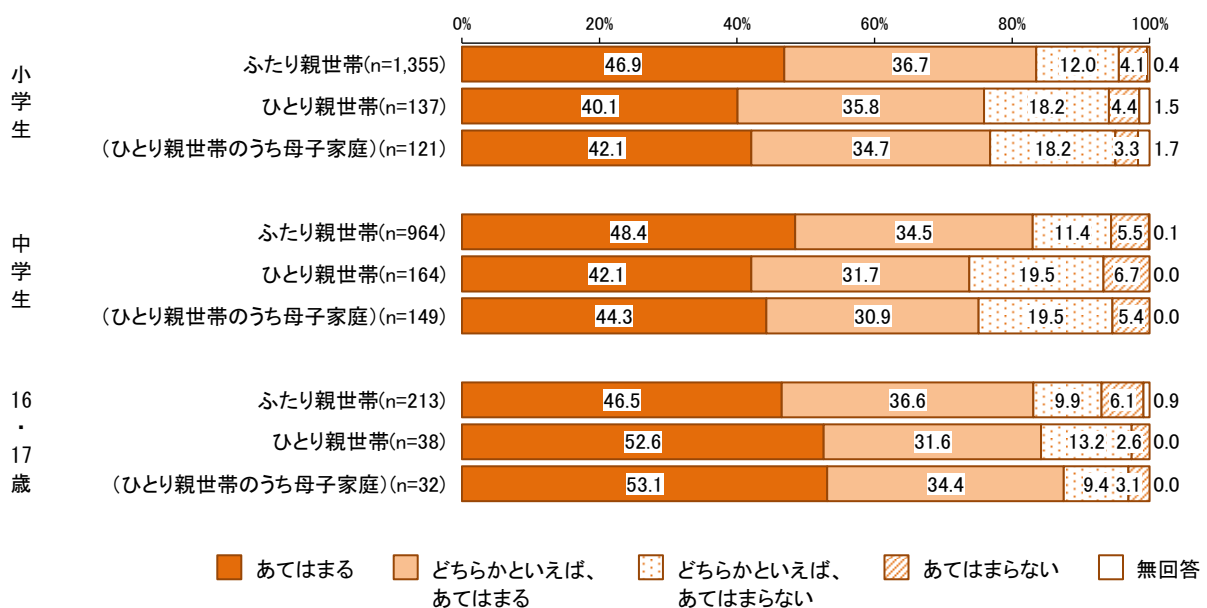


図 世帯の状況別 保護者の関わり方 - ④お子さんから、勉強や成績のことについて話をしてくれる



II 保護者調査の結果

(4)子どもとの会話の程度

問 14 あなたは、お子さんとどのくらい話しますか。(あてはまるもの1つに○)

子どもとの会話の程度をみると、いずれの年齢も「よく話している」の割合が最も高いですが、年齢があがるにつれて、その割合が低くなっています。

等価世帯収入水準別にみると、小学生と中学生では、収入水準の高い世帯ほど「よく話している」が高い傾向にありますが、16・17歳では収入水準の高い世帯ほど「よく話している」が低くなる傾向にあります。

世帯の状況別にみると、ふたり親世帯の「よく話している」が、いずれの年齢もひとり親世帯より高くなっています。

図 子どもとの会話の程度

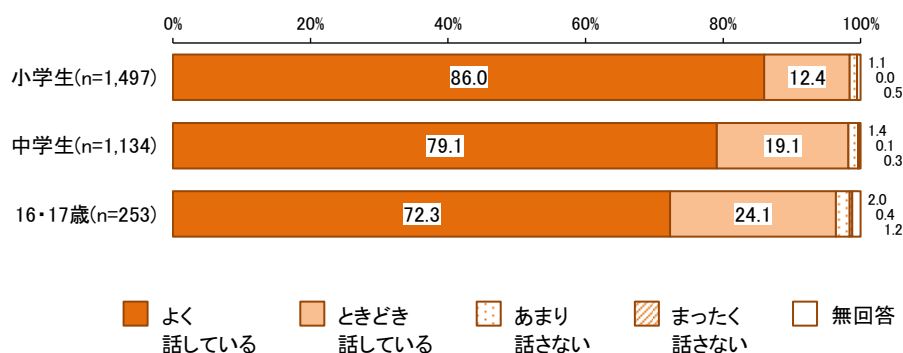


図 等価世帯収入水準別 子どもとの会話の程度

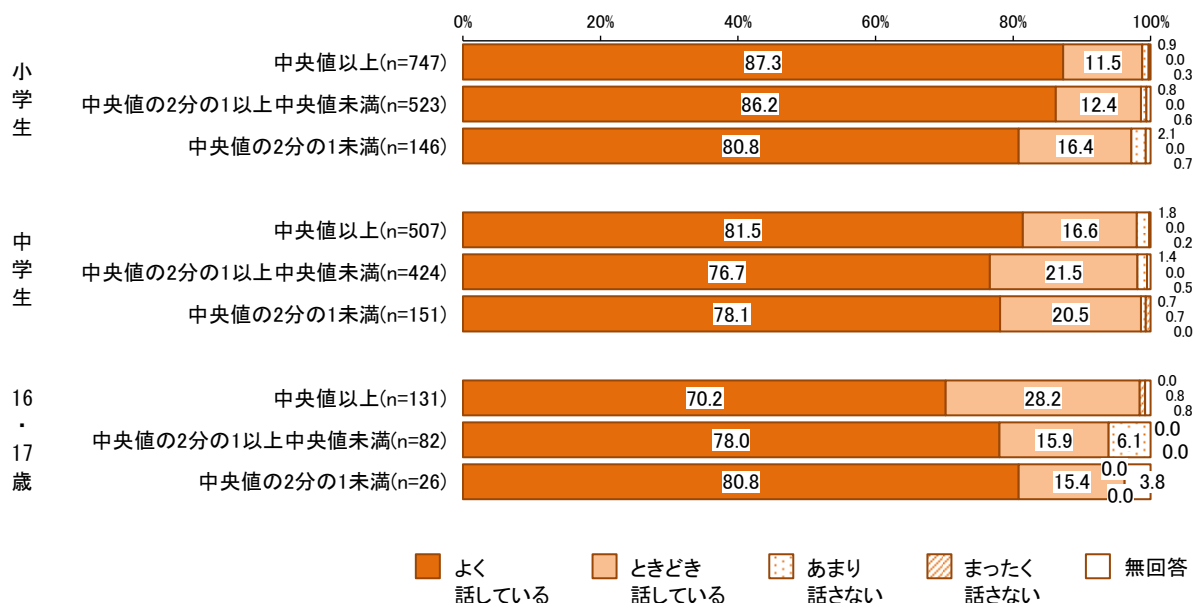
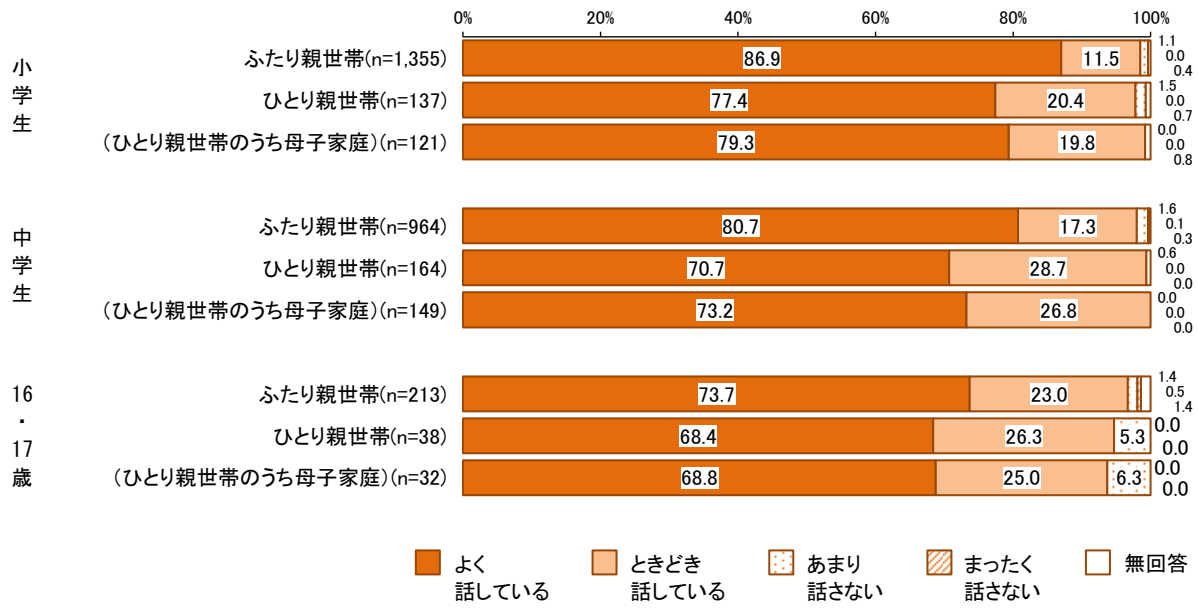


図 世帯の状況別 子どもとの会話の程度



## 4. 学校・地域との関わり方

### (1) 学校行事への参加

問 15	あなたは、次のようなことをどの程度していますか。(①②それぞれについて、あてはまるもの1つに○)
------	--

#### ①授業参観や運動会などの学校行事への参加

学校行事への参加をみると、授業参観や運動会などの学校行事への参加では、「よく参加している」の割合がいずれの年齢も最も高く、小学生では 88.8%となっています。「まったく参加していない」は、16・17 歳で 4.0%となっています。

等価世帯収入水準別にみると、小学生と中学生では収入水準の高い世帯ほど「よく参加している」が高くなる傾向にあります。また、16・17 歳の中央値の 2 分の 1 以上中央値未満の世帯で「あまり参加していない」が 14.6%と高くなっています。

図 授業参観や運動会などの学校行事への参加

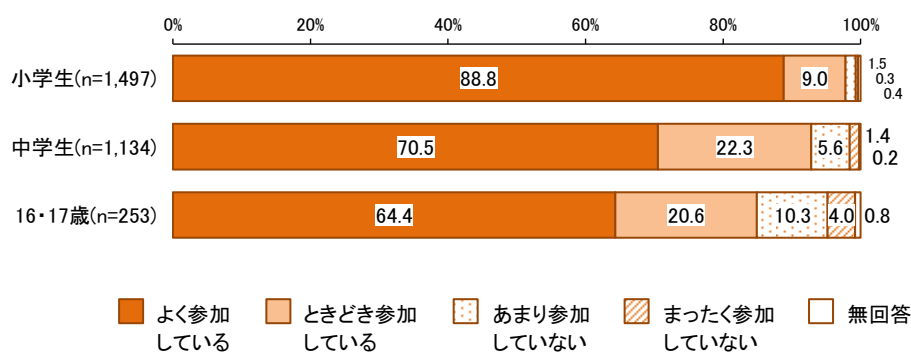
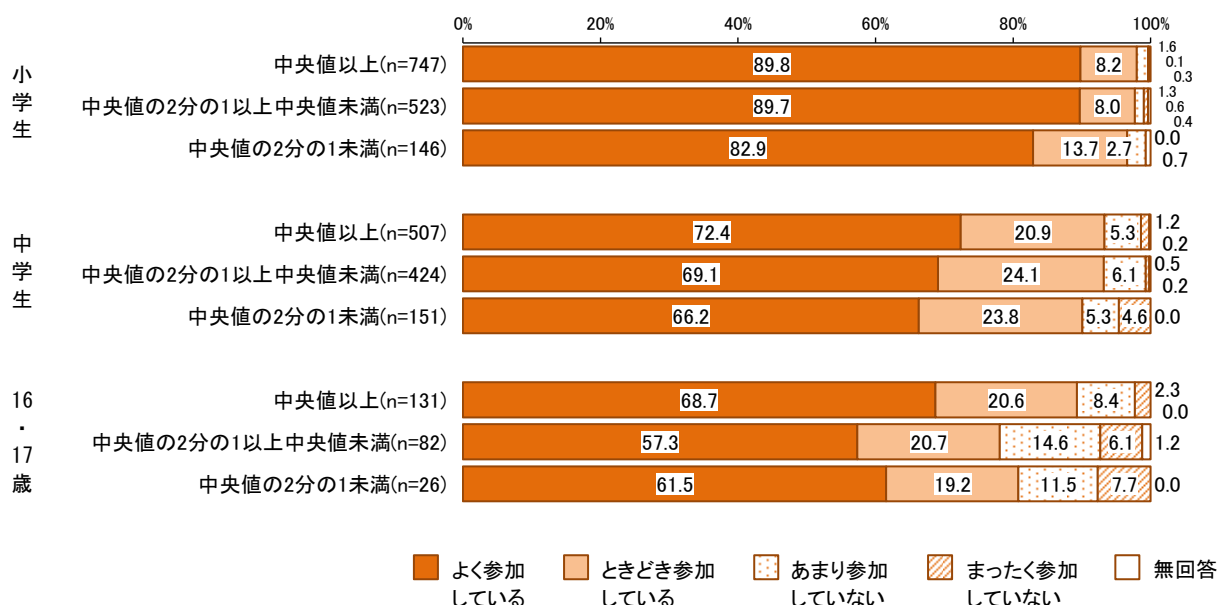
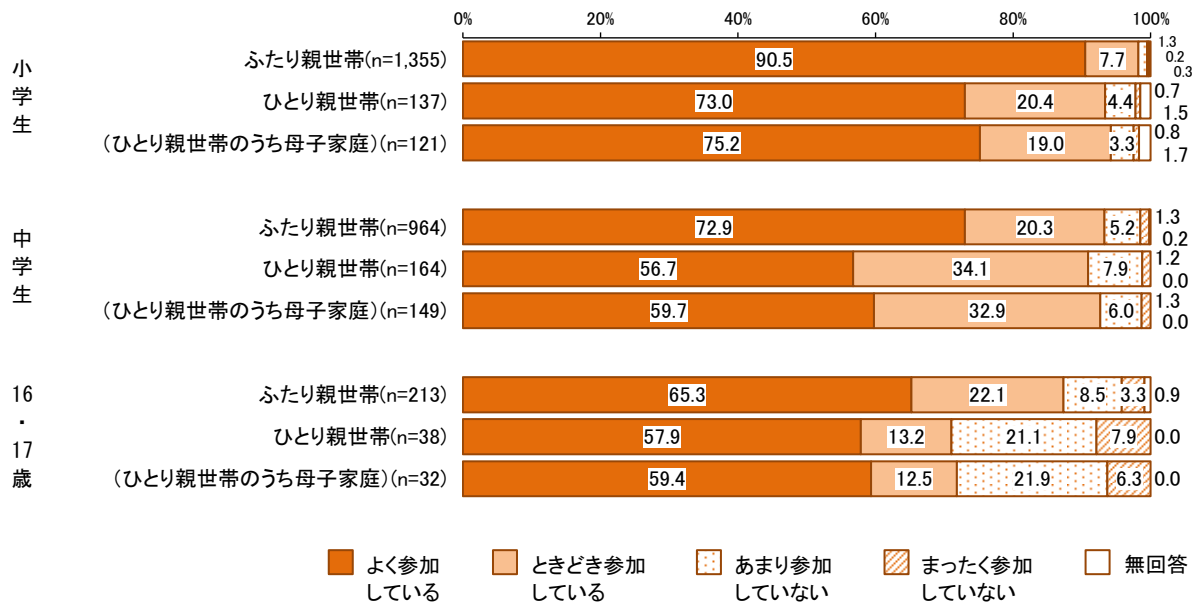


図 等価世帯収入水準別 授業参観や運動会などの学校行事への参加



世帯の状況別にみると、ふたり親世帯の「よく参加している」が、いずれの年齢もひとり親世帯よりも高くなる傾向にあり、特に小学生では17.5ポイントの差があります。

図 世帯の状況別 授業参観や運動会などの学校行事への参加



## II 保護者調査の結果

### ②PTA活動や保護者会、放課後学習支援等のボランティアなどへの参加

PTA活動や保護者会、放課後学習支援等のボランティアなどへの参加では、小学生と16・17歳で『参加している』（「よく参加している」と「ときどき参加している」の合計）が、中学生では『参加していない』（「あまり参加していない」と「まったく参加していない」の合計）が、それぞれ半数を超えています。

等価世帯収入水準別にみると、中央値以上の世帯では小学生と16・17歳は『参加している』の割合が半数を超えています。中学生は『参加していない』の割合が半数を超えています。また、16・17歳の中央値の2分の1未満の世帯では「よく参加している」の割合が38.5%と、他の収入層と比較して特になくなっていきます。

世帯の状況別にみると、ふたり親世帯の『参加している』が、いずれの年齢もひとり親世帯よりも高くなる傾向にあり、特に16・17歳で22.4ポイントの差があります。

図 PTA活動や保護者会、放課後学習支援等のボランティアなどへの参加

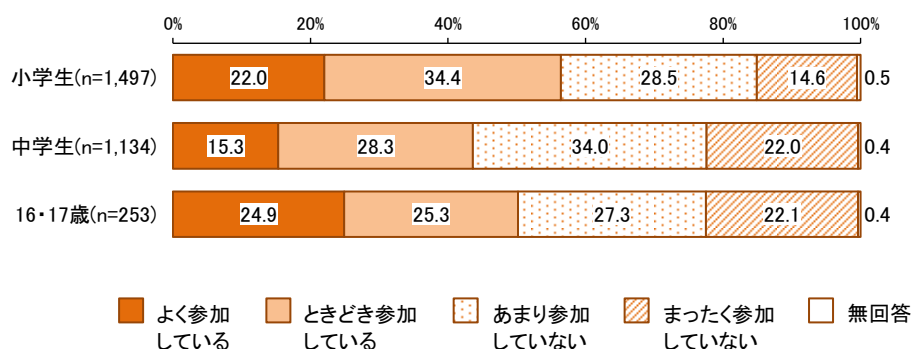


図 等価世帯収入水準別 PTA活動や保護者会、放課後学習支援等のボランティアなどへの参加

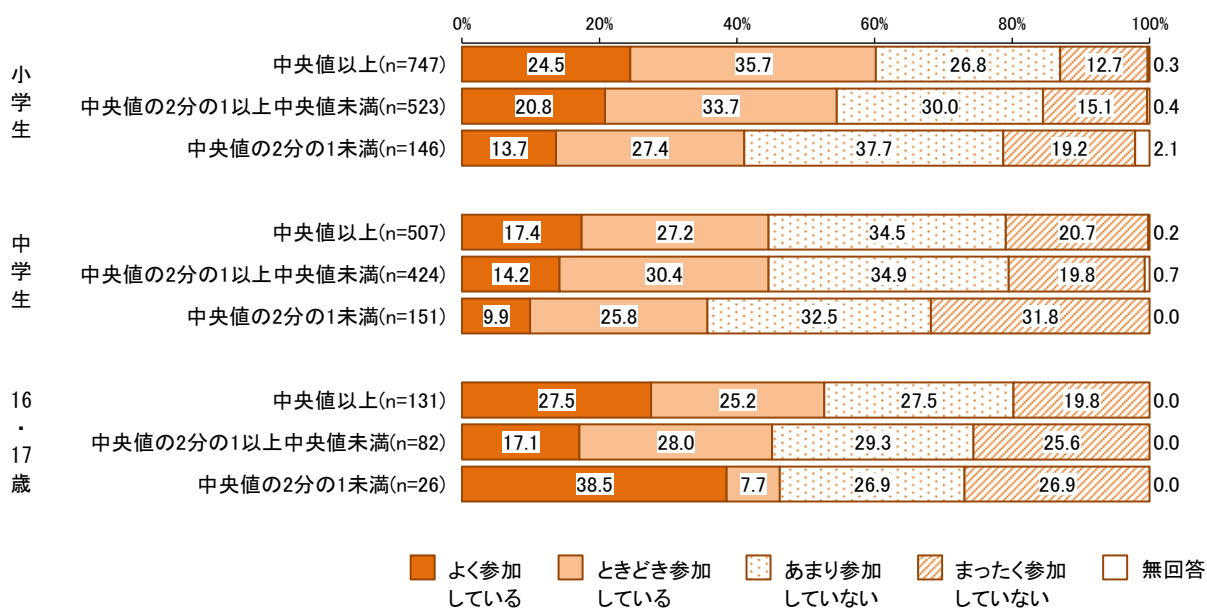
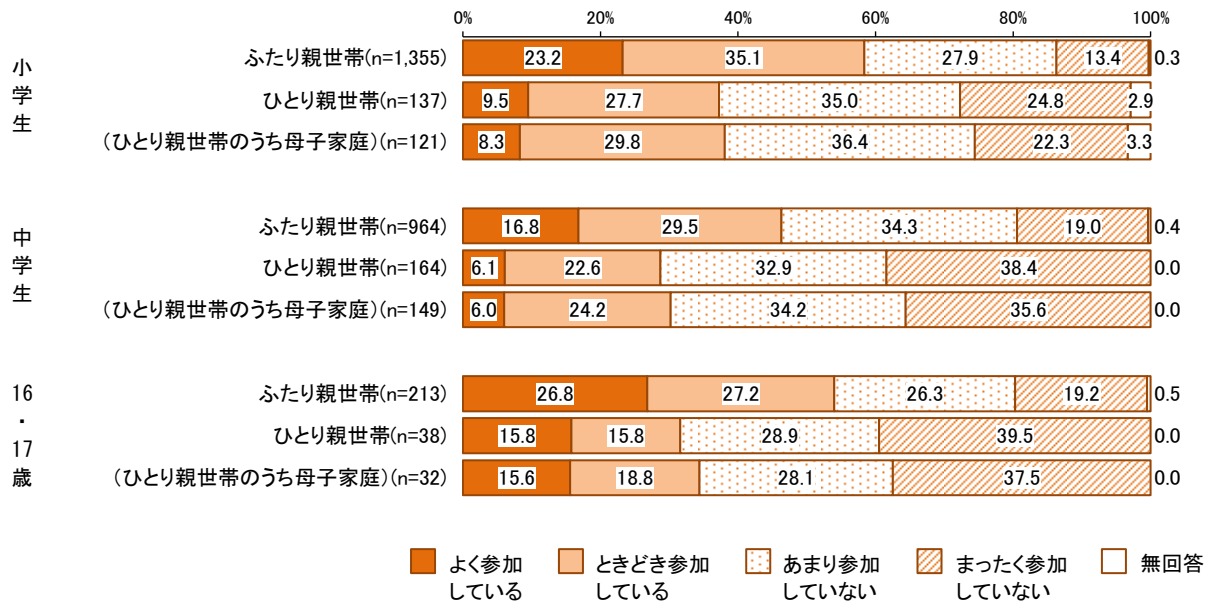




図 世帯の状況別 PTA活動や保護者会、放課後学習支援等のボランティアなどへの参加



II 保護者調査の結果

(2) 近所付き合いの程度

問 16 あなたは、近所づきあいをどの程度されていますか。(あてはまるもの1つに○)

近所付き合いの程度をみると、小学生では「困っているときは、相談したり助け合ったりする人がいる」の割合が最も高く、中学生と16・17歳では「たまに立ち話をするくらいの人がある」の割合が最も高くなっています。

等価世帯収入水準別にみると、小学生と中学生では「困っているときは、相談したり助け合ったりする人がいる」の割合が収入水準の高い世帯ほど高くなっています。また、16・17歳の中央値の2分の1以上中央値未満の世帯では「困っているときは、相談したり助け合ったりする人がいる」が19.5%と、他の収入層と比較して低くなっています。

図 近所付き合いの程度

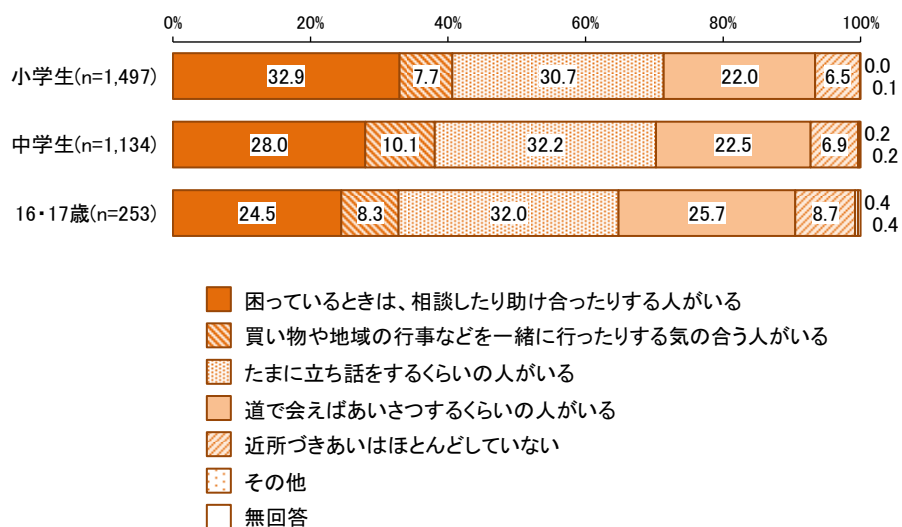
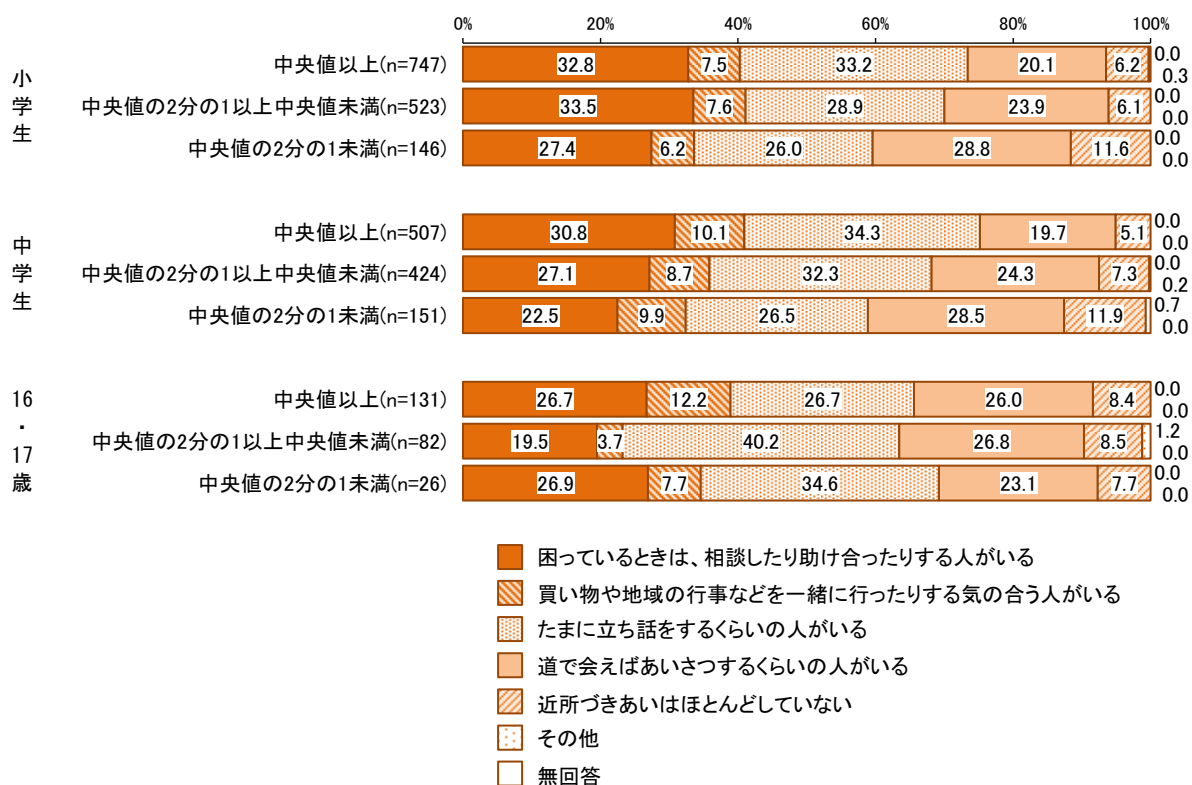


図 等価世帯収入水準別 近所付き合いの程度



世帯の状況別にみると、いずれの年齢もひとり親世帯の方が「近所づきあいはほとんどしていない」の割合がふたり親世帯よりも高く、特に16・17歳で15ポイント以上の差があります。

福祉事務所管内別にみると、16・17歳の東福祉事務所で「近所づきあいはほとんどしていない」の割合が16.2%と高くなっています。

図 世帯の状況別 近所付き合いの程度

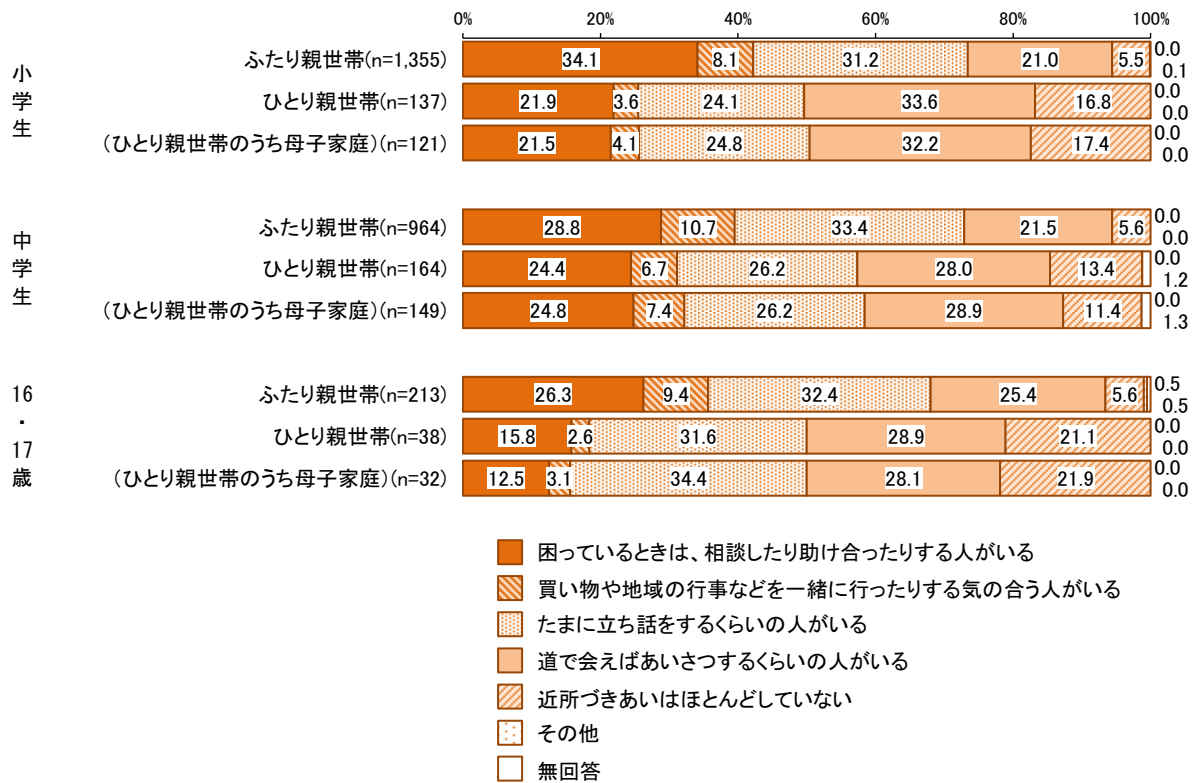
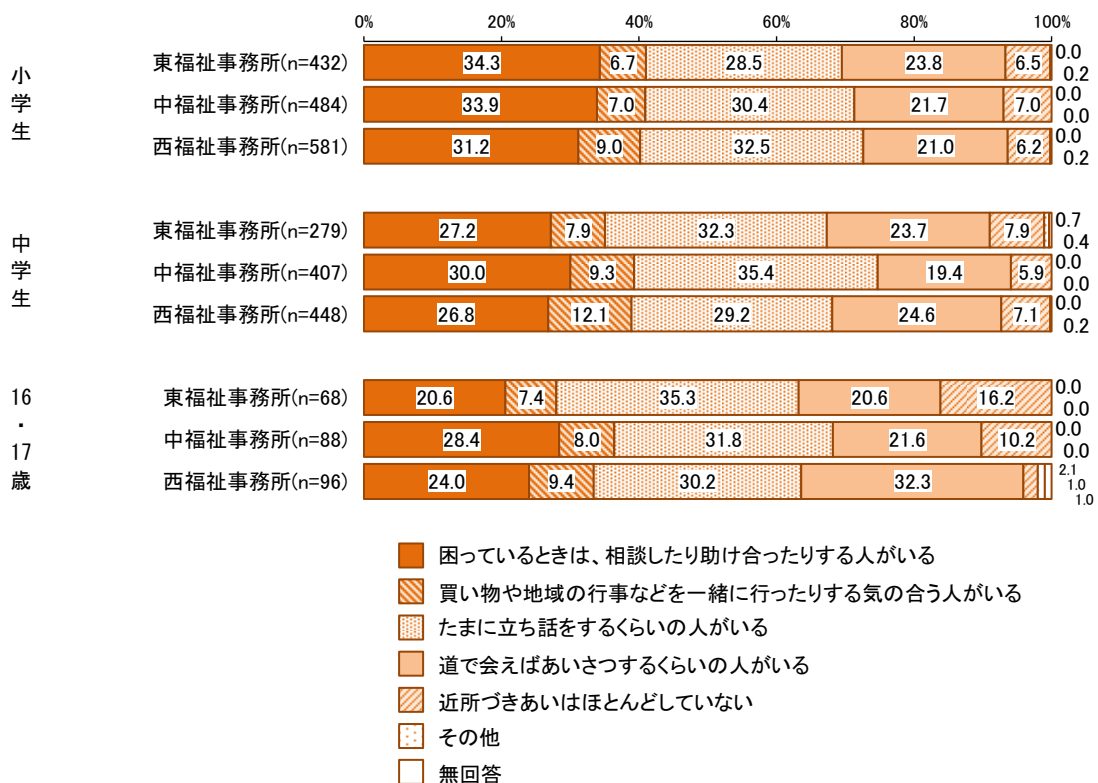


図 福祉事務所管内別 近所付き合いの程度



## II 保護者調査の結果

### (3) 地域の人に支えられていると感じるか

問 17	あなたは、地域の人に（もしくは社会で）支えられていると感じますか。（あてはまるもの1つに○）
------	--

地域の人に支えられていると感じるかをみると、いずれの年齢も「感じる」が6割台、「感じない」が3割台となっています。

等価世帯収入水準別にみると、収入水準の高い世帯ほど「感じる」の割合がいずれの年齢も高くなっています。

世帯の状況別にみると、ふたり親世帯の「感じる」が、いずれの年齢も7割近くとなっています。

福祉事務所管内別にみると、小学生の西福祉事務所で「感じる」が7割を超えています。

図 地域の人に支えられていると感じるか

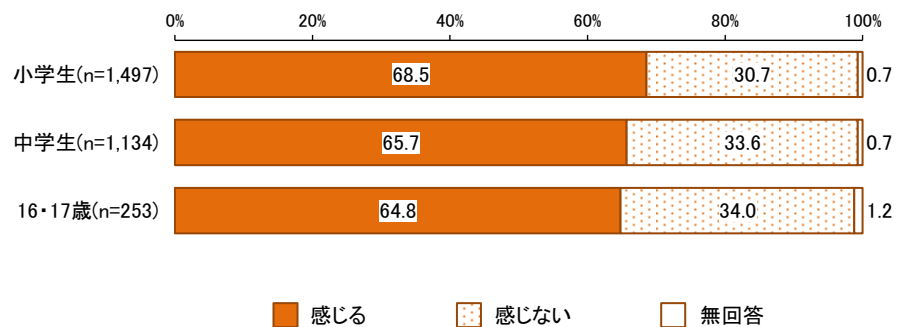


図 等価世帯収入水準別 地域の人に支えられていると感じるか

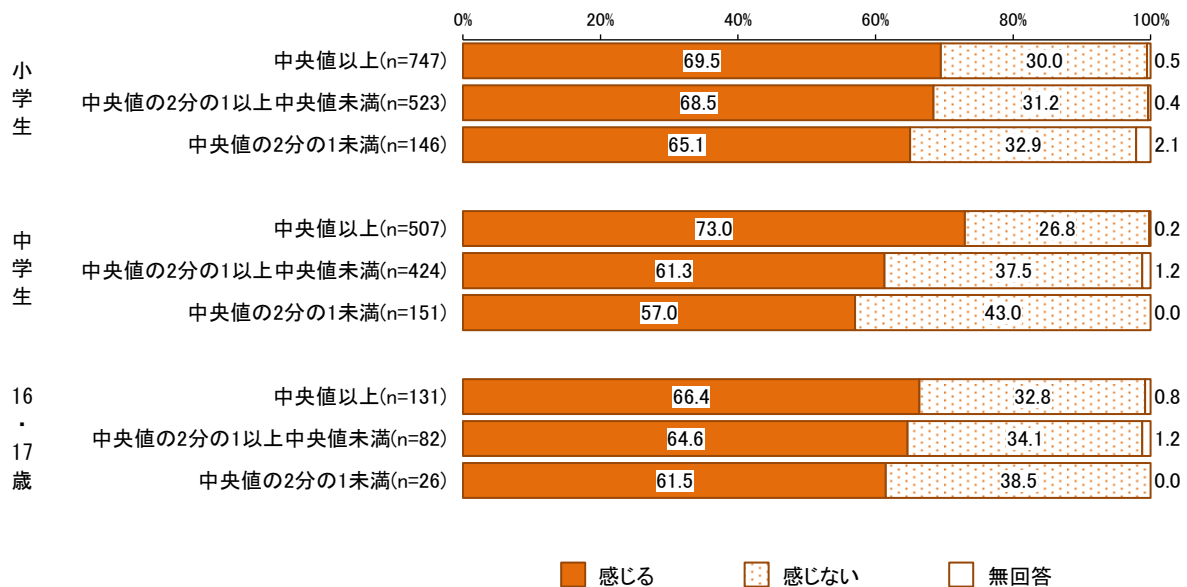


図 世帯の状況別 地域の人に支えられていると感じるか

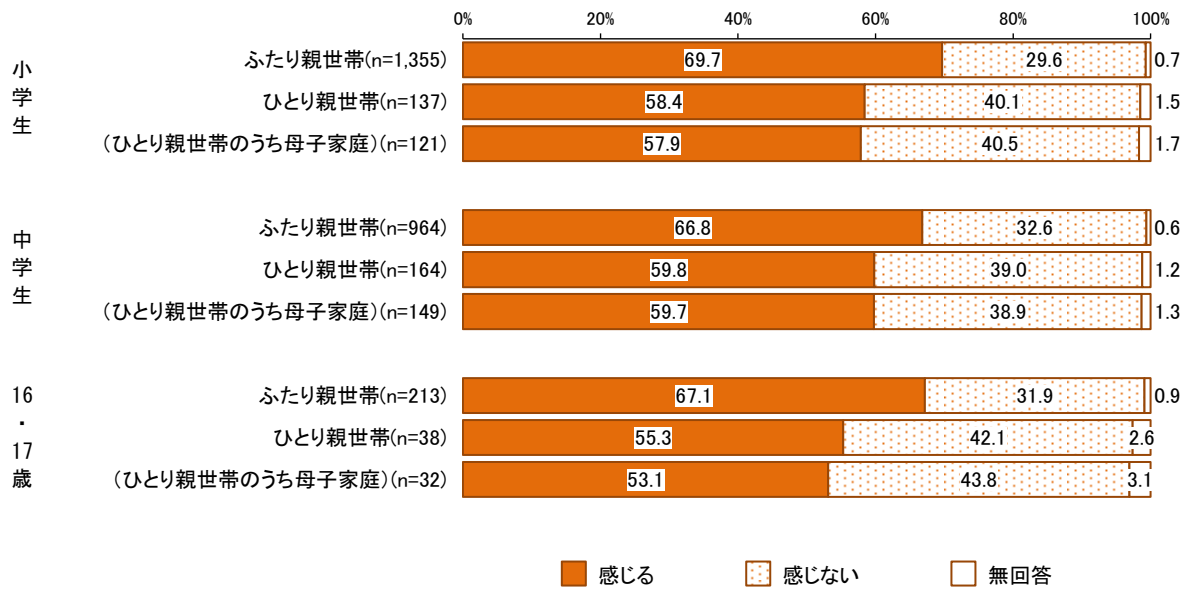
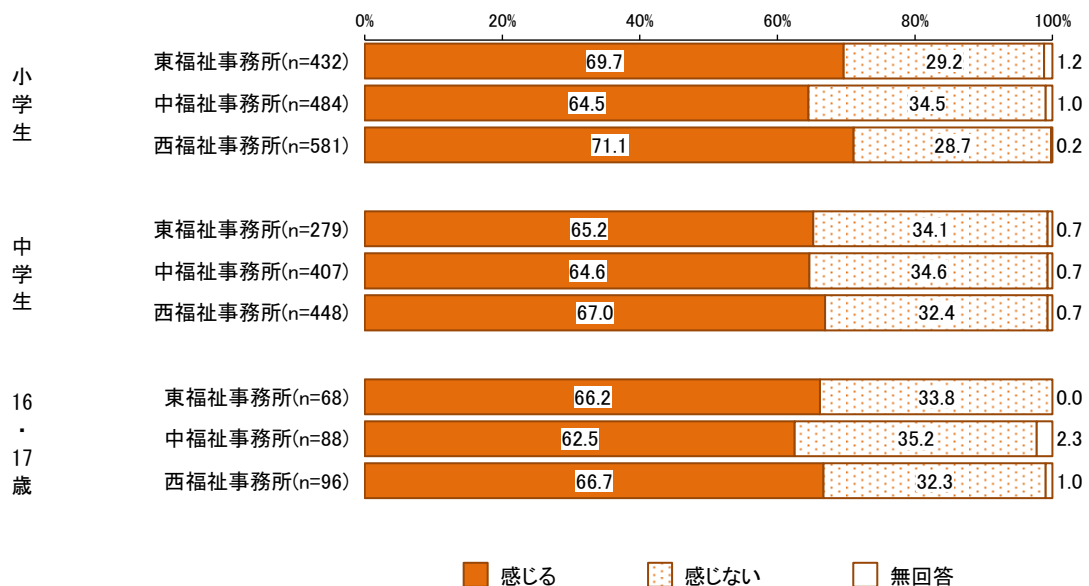


図 福祉事務所管内別 地域の人に支えられていると感じるか



II 保護者調査の結果

(4) 東大阪での居留意向

問 18	東大阪市での子育てについて、今後の意向（希望）をお聞かせください。（あてはまるもの1つに○をつけて理由もご記入ください）
------	--

東大阪での居留意向をみると、いずれの年齢も「これからも東大阪市内で子育てを行いたい」の割合が6割前後と最も高くなっています。次いで「わからない」が高く、3割前後となっています。

等価世帯収入水準別にみると、中学生では収入水準の高い世帯ほど「これからも東大阪市内で子育てを行いたい」の割合が高く、中央値以上の世帯で66.7%となっています。

世帯の状況別にみると、ふたり親世帯の「これからも東大阪市内で子育てを行いたい」が、いずれの年齢もひとり親世帯より高く、特に16・17歳では10ポイント以上の差があります。

福祉事務所管内別にみると、16・17歳の東福祉事務所の世帯で「これからも東大阪市内で子育てを行いたい」が48.5%と低くなっています。

図 東大阪での居留意向

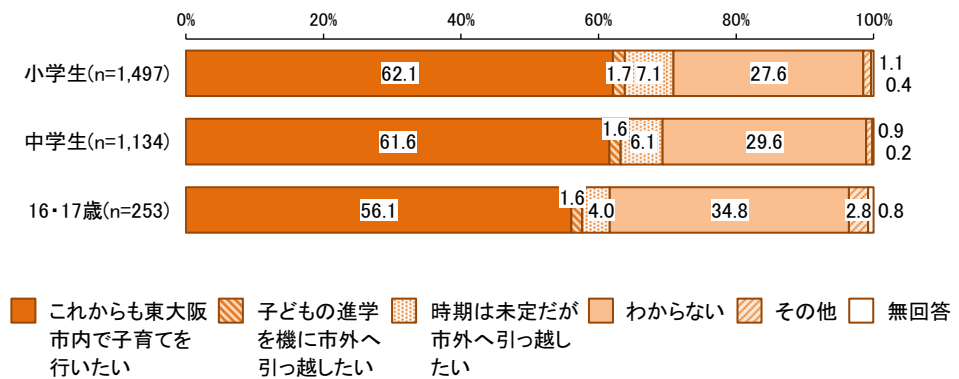


図 等価世帯収入水準別 東大阪での居留意向

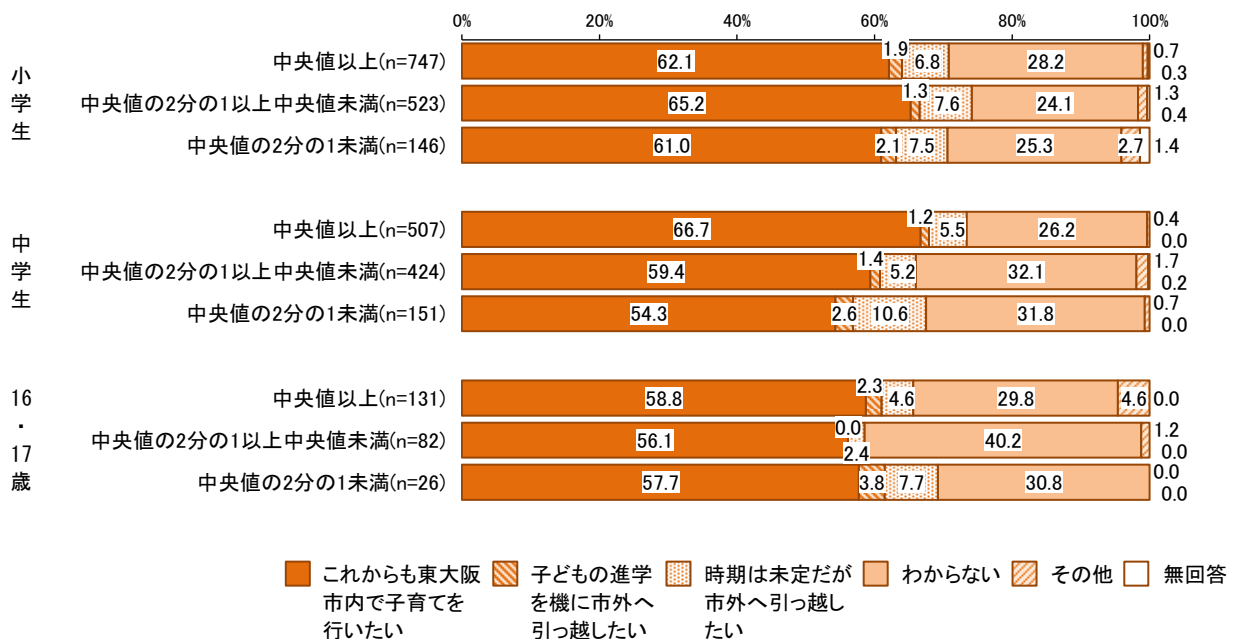


図 世帯の状況別 東大阪での居住意向

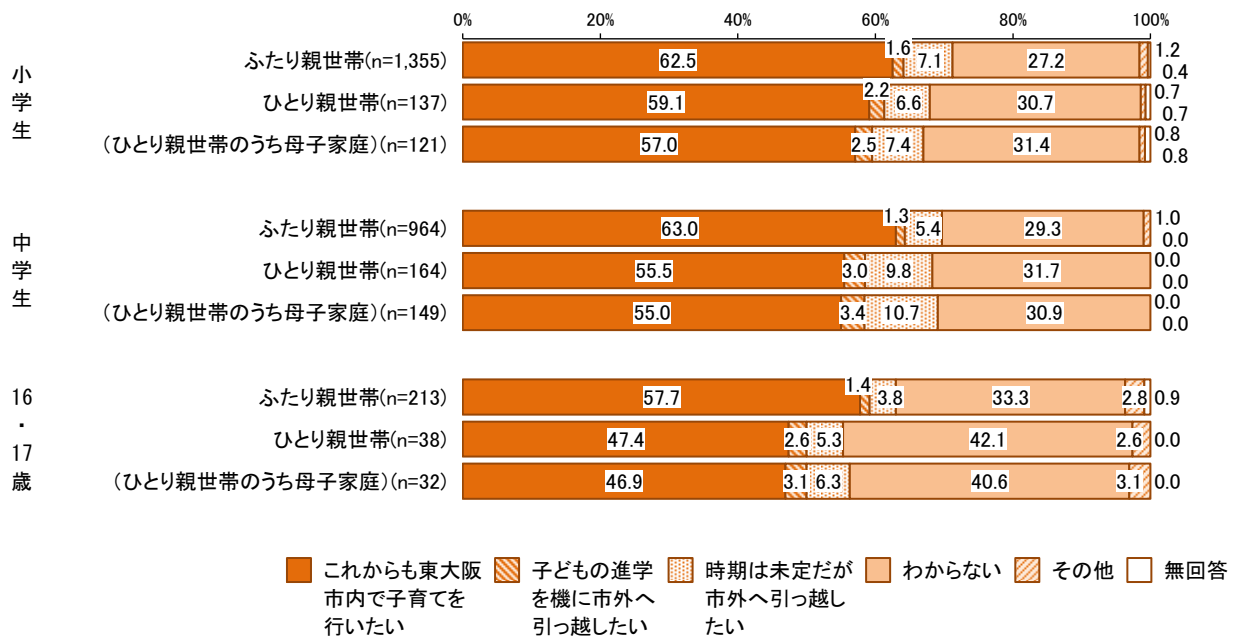
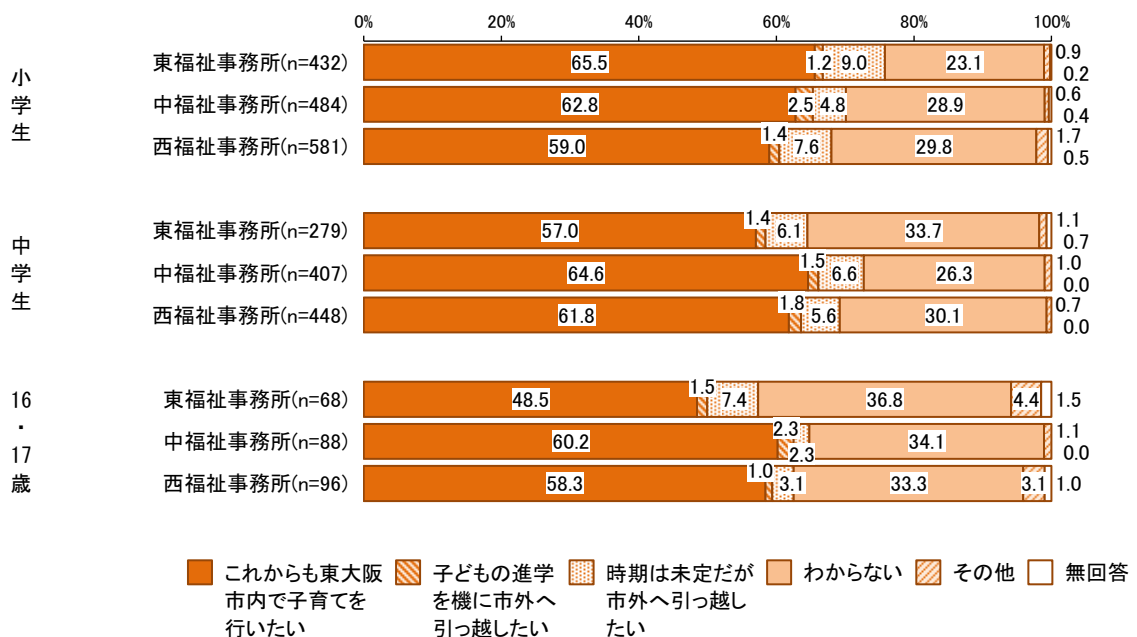


図 福祉事務所管内別 東大阪での居住意向



## II 保護者調査の結果

### (5) 地域活動の参加有無

問 19	あなたのお子さんは、いままでに、次のような地域の行事や活動に参加したことがありますか。(あてはまるものすべてに○)
------	---

地域活動の参加有無をみると、いずれの年齢も「近所のお祭り」の割合が 8 割以上で最も高く、次いで「子供会や町内会などが開いた運動会やクリスマス会などの行事」、「公園や道路などの地域清掃行事」の順に高くなっています。また、いずれの年齢も「いずれにも参加していない」は 1 割程度となっています。

等価世帯収入水準別にみると、中央値の 2 分の 1 未満の世帯はいずれの年齢も「近所のお祭り」や「子供会や町内会などが開いた運動会やクリスマス会などの行事」などへの参加割合が低く、「いずれにも参加していない」も 2 割程度と高くなっています。

世帯の状況別にみると、ふたり親世帯の方がひとり親世帯よりも、いずれの年齢も「子供会や町内会などが開いた運動会やクリスマス会などの行事」や「公園や道路などの地域清掃行事」への参加割合が高くなっています。

図 地域活動の参加有無

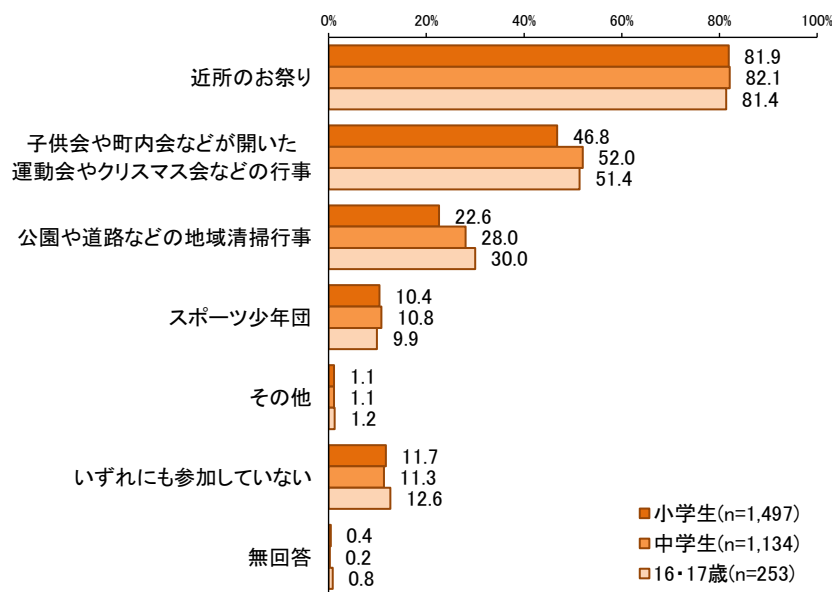




表 等価世帯収入水準、世帯の状況別 地域活動の参加有無

		回答者数(n)	近所のお祭り	子供会や町内会などが開いた運動会やクリスマス会などの行事	清掃行事	公園や道路などの地域	スポーツ少年団	その他	いずれにも参加していない	無回答
等価世帯収入水準別	小学生	中央値以上	747	81.4	48.6	24.0	10.6	0.9	12.4	0.5
		中央値の2分の1以上中央値未満	523	84.5	48.9	22.8	9.0	1.5	8.4	-
		中央値の2分の1未満	146	75.3	32.2	17.1	14.4	0.7	19.2	0.7
	中学生	中央値以上	507	83.6	55.2	28.8	13.0	1.0	10.3	-
		中央値の2分の1以上中央値未満	424	84.2	52.6	29.0	10.6	0.9	8.5	-
		中央値の2分の1未満	151	71.5	45.7	22.5	6.0	2.6	22.5	-
	16・17歳	中央値以上	131	84.0	51.1	33.6	10.7	-	11.5	-
		中央値の2分の1以上中央値未満	82	80.5	57.3	28.0	12.2	3.7	13.4	1.2
		中央値の2分の1未満	26	69.2	30.8	19.2	3.8	-	19.2	-
世帯の状況別	小学生	ふたり親世帯	1,355	82.0	48.2	23.0	10.0	1.2	11.4	0.4
		ひとり親世帯	137	81.8	33.6	19.0	13.9	0.7	13.1	0.7
		(ひとり親世帯のうち母子家庭)	121	82.6	32.2	19.0	14.9	0.8	13.2	0.8
	中学生	ふたり親世帯	964	83.2	53.5	28.6	11.0	1.0	10.4	0.1
		ひとり親世帯	164	77.4	44.5	24.4	9.8	1.8	15.2	0.6
		(ひとり親世帯のうち母子家庭)	149	78.5	43.6	26.2	10.7	2.0	15.4	0.7
	16・17歳	ふたり親世帯	213	84.0	52.1	31.0	10.8	0.9	10.8	0.9
		ひとり親世帯	38	68.4	47.4	26.3	5.3	2.6	21.1	-
		(ひとり親世帯のうち母子家庭)	32	68.8	46.9	21.9	-	3.1	25.0	-

## 5. 進学期待・展望

### (1) 進学の見通し

問 20	お子さんは将来、現実的に見てどの段階まで進学すると思いますか。(あてはまるもの1つに○)
------	--

進学の見通しをみると、「大学またはそれ以上」の割合がいずれの年齢も5～6割台と最も高く、16・17歳で68.0%となっています。次いで小学生と中学生では「まだわからない」、16・17歳では「短大・高専・専門学校まで」が高くなっています。

全国調査と比較すると、「短大・高専・専門学校まで」の割合が、全国調査より4.3ポイント低くなっており、「まだわからない」の割合が、全国調査より4.0ポイント高くなっています。

等価世帯収入水準別にみると、小学生と中学生では収入水準の高い世帯ほど「大学またはそれ以上」の割合が高くなっています。また、16・17歳の中央値以上の世帯で「大学またはそれ以上」の割合が78.6%と8割近くとなっています。

世帯の状況別にみると、ふたり親世帯の「大学またはそれ以上」が、いずれの年齢もひとり親世帯よりも高くなる傾向にあります。その差は小学生と中学生は20ポイント以上、16・17歳は約10ポイントとなっています。

父母の学歴状況別にみると、いずれも大卒以上の世帯の「大学またはそれ以上」がいずれの年齢も高く、小学生と中学生ではその他の層の約2倍となっています。

図 進学の見通し

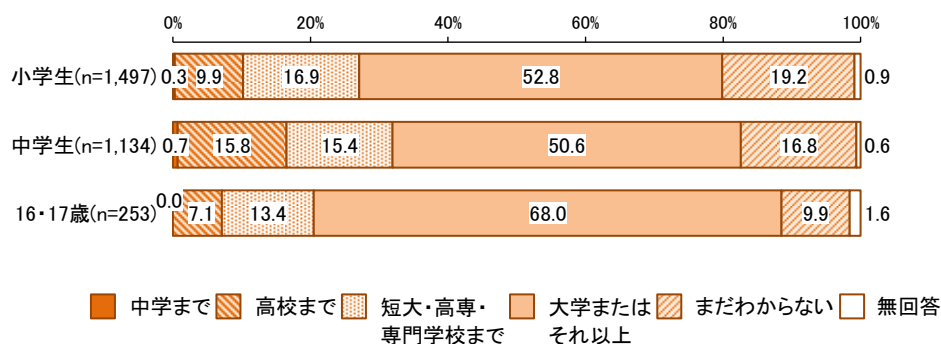


図 進学の見通し - 全国調査との比較【中学生】

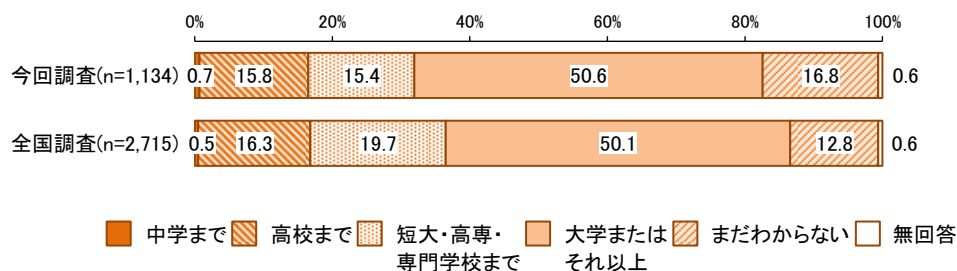


図 等価世帯収入水準別 進学の見通し

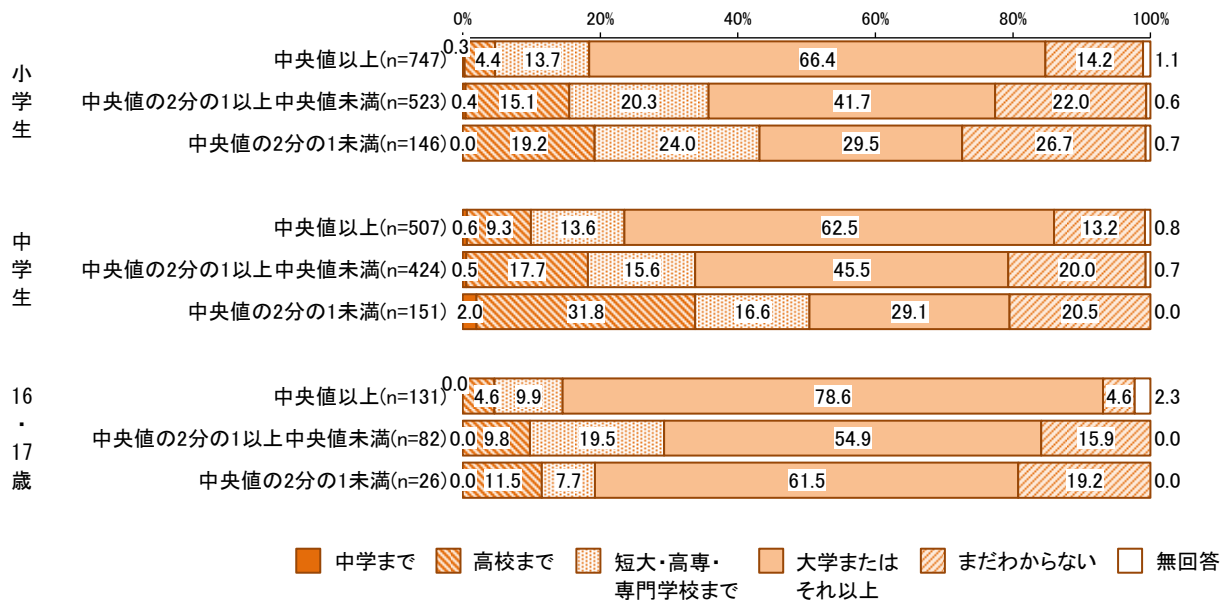
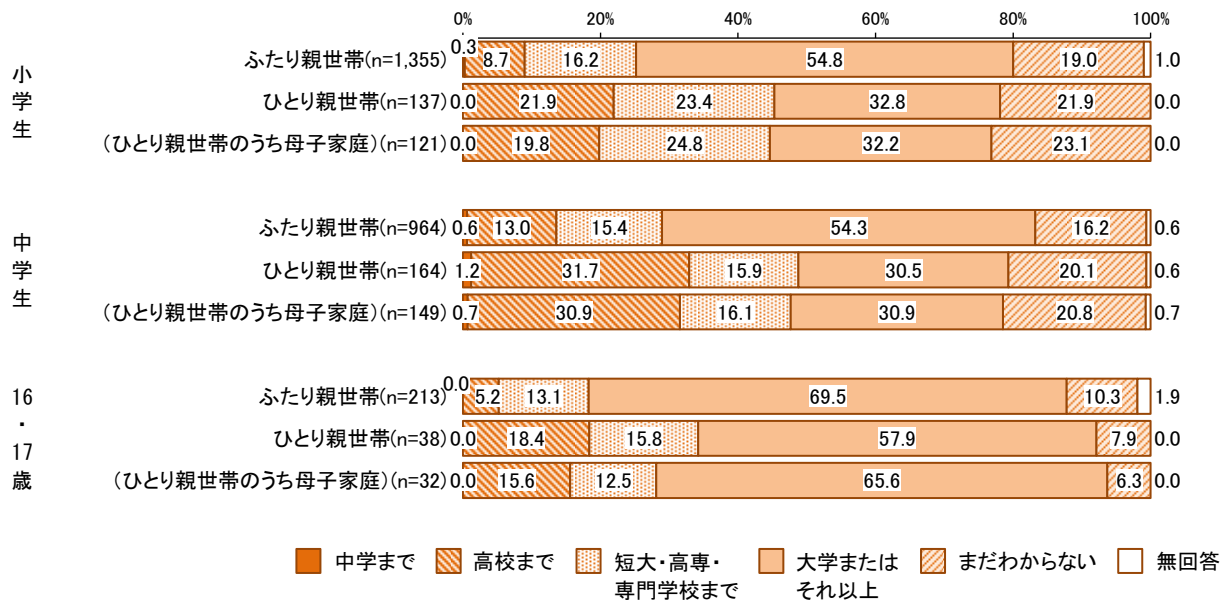
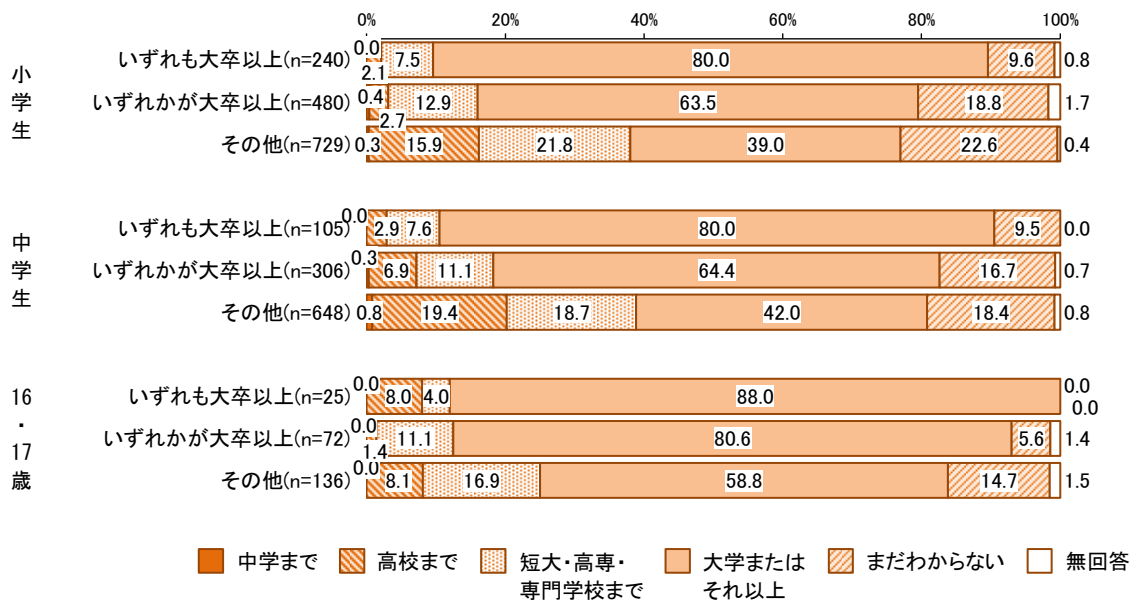


図 世帯の状況別 進学の見通し



## II 保護者調査の結果

図 父母の学歴の状況別 進学の見通し



(2) 想定する進学先の理由

問 21	問 20 で 1～4 と答えた場合、その理由は何ですか。(1～5 については、あてはまるものすべてに○)
------	--

想定する進学先の理由をみると、小学生では「一般的な進路だと思うから」が 46.6%、中学生と 16・17 歳では「お子さんがそう希望しているから」がそれぞれ 49.1%、82.1%と最も高くなっています。子どもの年齢が上がるほど、子ども本人の意向に沿う進学先を選択している事がうかがえます。

進学の見通し別にみると、高校までと回答した世帯では「お子さんの学力から」の割合が高くなる傾向にあります。

図 想定する進学先の理由

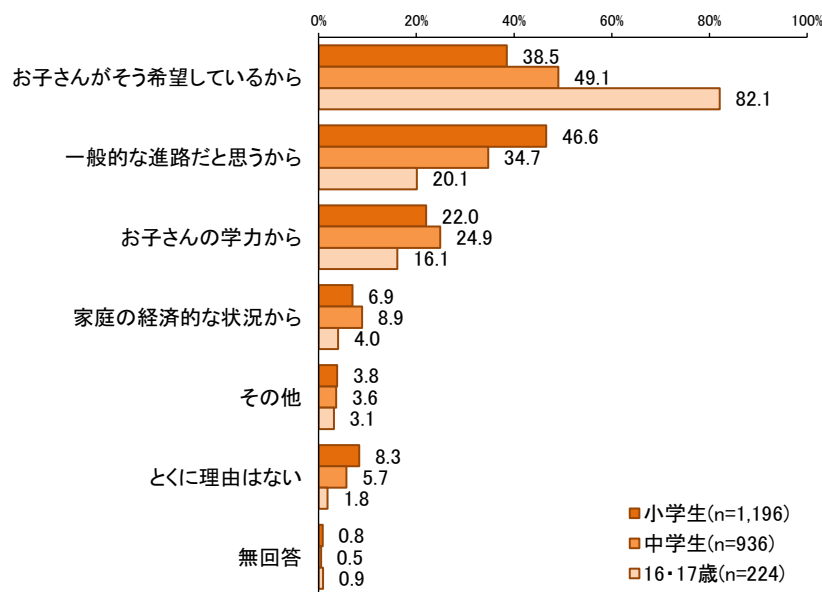
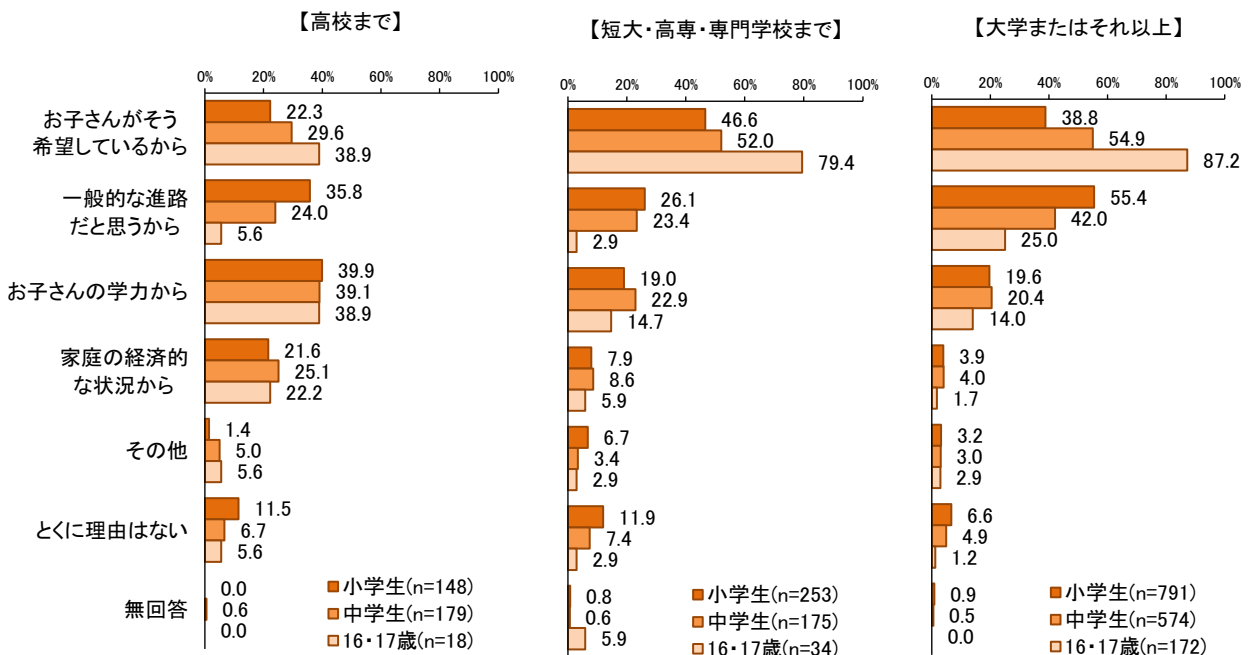


図 進学の見通し別 想定する進学先の理由



## II 保護者調査の結果

等価世帯収入水準別にみると、小学生では収入水準の高い世帯ほど「一般的な進路だと思うから」の割合が高くなりますが、それ以外は収入にかかわらず「お子さんがそう希望しているから」が高くなっています。特に16・17歳はいずれの収入層も「お子さんがそう希望しているから」が7～8割となっています。

世帯の状況別にみると、小学生のひとり親世帯では「お子さんがそう希望しているから」と「一般的な進路だと思うから」がどちらも42.1%と拮抗しています。中学生と16・17歳ではふたり親世帯の方が「お子さんがそう希望しているから」の割合が高くなる傾向にあります。

表 等価世帯収入水準、世帯の状況別 想定する進学先の理由

		回答者数(n)	望しているから お子さんがそう希	思っ 一般的 進路だ と	ら お子 さんの 学力か	家庭 の 経済 的 な 状 況 か	その他	とくに理由はない	無回答	
等価世帯収入水準別	小学生	中央値以上	633	36.8	50.7	21.8	5.4	4.1	6.8	1.1
		中央値の2分の1以上中央値未満	405	40.2	42.7	23.0	8.4	3.0	10.6	0.5
		中央値の2分の1未満	106	47.2	36.8	22.6	10.4	2.8	4.7	-
	中学生	中央値以上	436	51.1	38.5	23.9	6.0	4.4	5.3	0.5
		中央値の2分の1以上中央値未満	336	49.7	32.7	27.4	8.9	3.3	6.0	-
		中央値の2分の1未満	120	45.0	27.5	24.2	19.2	2.5	5.0	1.7
	16・17歳	中央値以上	122	83.6	25.4	19.7	2.5	2.5	-	0.8
		中央値の2分の1以上中央値未満	69	84.1	13.0	13.0	2.9	5.8	4.3	-
		中央値の2分の1未満	21	71.4	23.8	4.8	9.5	-	-	4.8
世帯の状況別	小学生	ふたり親世帯	1,085	38.2	47.1	22.2	6.5	3.6	8.6	0.8
		ひとり親世帯	107	42.1	42.1	19.6	11.2	4.7	5.6	-
		(ひとり親世帯のうち母子家庭)	93	47.3	40.9	18.3	11.8	3.2	5.4	-
	中学生	ふたり親世帯	802	49.9	35.7	24.6	7.2	3.4	6.1	0.5
		ひとり親世帯	130	44.6	28.5	27.7	19.2	4.6	3.1	0.8
		(ひとり親世帯のうち母子家庭)	117	44.4	27.4	27.4	20.5	5.1	2.6	0.9
	16・17歳	ふたり親世帯	187	85.0	20.9	17.6	3.2	3.2	0.5	0.5
		ひとり親世帯	35	71.4	11.4	8.6	8.6	2.9	8.6	2.9
		(ひとり親世帯のうち母子家庭)	30	73.3	13.3	6.7	6.7	-	10.0	3.3

「高校まで」を選択した人を等価世帯収入水準別にみると、中学生と16・17歳の中央値の2分の1未満の世帯で「家庭の経済的な状況から」が高くなっています。

「高校まで」を選択した人を世帯の状況別にみると、中学生と16・17歳ではふたり親世帯の方がひとり親世帯よりも「お子さんの学力から」と回答する割合が高くなっています。

表 等価世帯収入水準、世帯の状況別 想定する進学先の理由【「高校まで」を選択した人】

		回答者数(n)	お子さんがそう希望しているから	一般的な進路だと思うから	お子さんの学力から	家庭の経済的な状況から	その他	とくに理由はない	無回答	
等価世帯収入水準別	小学生	中央値以上	33	21.2	27.3	42.4	18.2	-	12.1	-
		中央値の2分の1以上中央値未満	79	21.5	39.2	41.8	22.8	2.5	13.9	-
		中央値の2分の1未満	28	28.6	35.7	35.7	21.4	-	7.1	-
	中学生	中央値以上	47	23.4	19.1	48.9	8.5	12.8	8.5	-
		中央値の2分の1以上中央値未満	75	34.7	18.7	44.0	28.0	2.7	5.3	-
		中央値の2分の1未満	48	27.1	39.6	20.8	37.5	2.1	8.3	2.1
	16・17歳	中央値以上	6	33.3	-	83.3	-	-	-	-
		中央値の2分の1以上中央値未満	8	50.0	-	12.5	12.5	12.5	12.5	-
		中央値の2分の1未満	3	33.3	33.3	-	66.7	-	-	-
世帯の状況別	小学生	ふたり親世帯	118	22.9	33.1	39.0	20.3	1.7	12.7	-
		ひとり親世帯	30	20.0	46.7	43.3	26.7	-	6.7	-
		(ひとり親世帯のうち母子家庭)	24	25.0	45.8	41.7	29.2	-	8.3	-
	中学生	ふたり親世帯	125	32.8	20.8	43.2	21.6	5.6	8.0	0.8
		ひとり親世帯	52	23.1	28.8	30.8	34.6	3.8	3.8	-
		(ひとり親世帯のうち母子家庭)	46	23.9	26.1	26.1	37.0	4.3	2.2	-
	16・17歳	ふたり親世帯	11	36.4	-	45.5	9.1	9.1	9.1	-
		ひとり親世帯	7	42.9	14.3	28.6	42.9	-	-	-
		(ひとり親世帯のうち母子家庭)	5	40.0	20.0	20.0	40.0	-	-	-

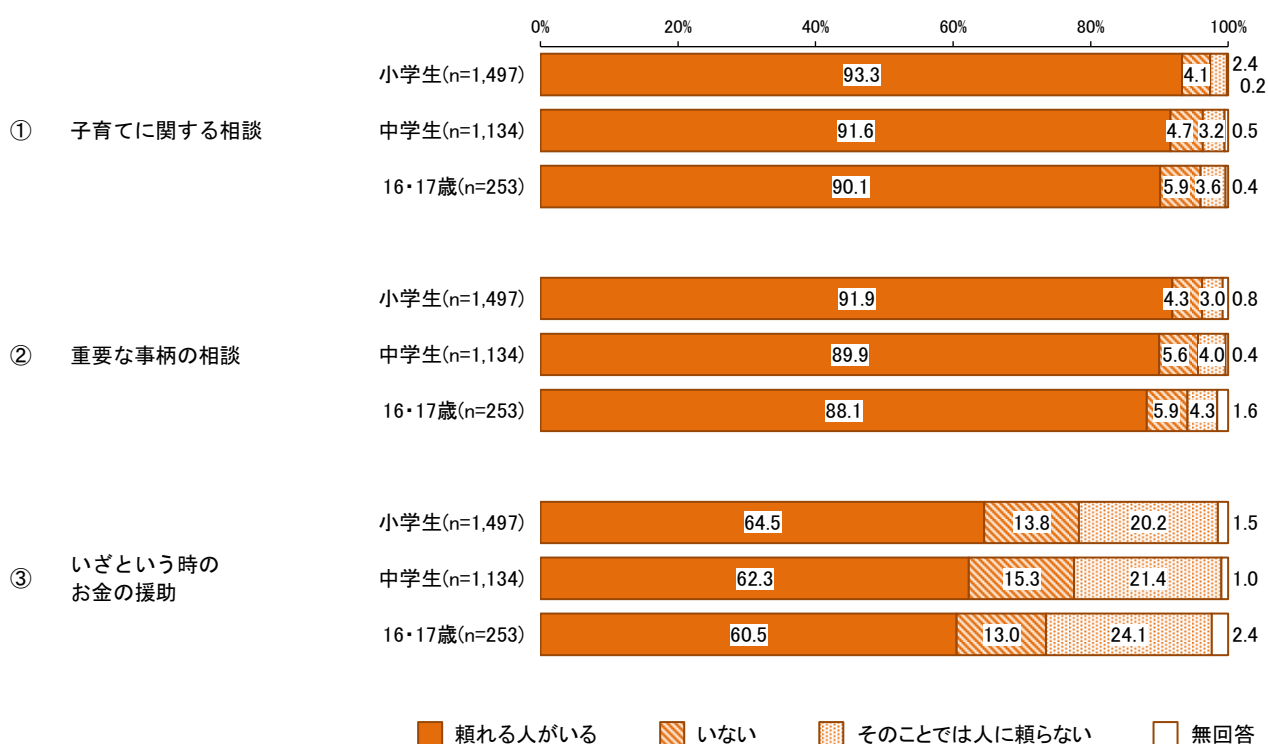
## 6. 頼れる相手の有無

### (1) 保護者の頼れる相手

問 22	あなたは次に挙げる事柄で頼れる人はいますか。(①～③それぞれについて、1～3のあてはまるもの1つに○) また、「1 頼れる人がいる」場合、それはだれですか。(①～⑦のあてはまるものすべてに○)
------	--

保護者の頼れる相手の有無をみると、いずれの年齢も「頼れる人がいる」は「①子育てに関する相談」と「②重要な事柄の相談」で9割前後、「③いざという時のお金の援助」で6割台となっています。一方で、「③いざという時のお金の援助」で「そのことでは人に頼らない」の割合は、いずれの年齢も2割台となっています。

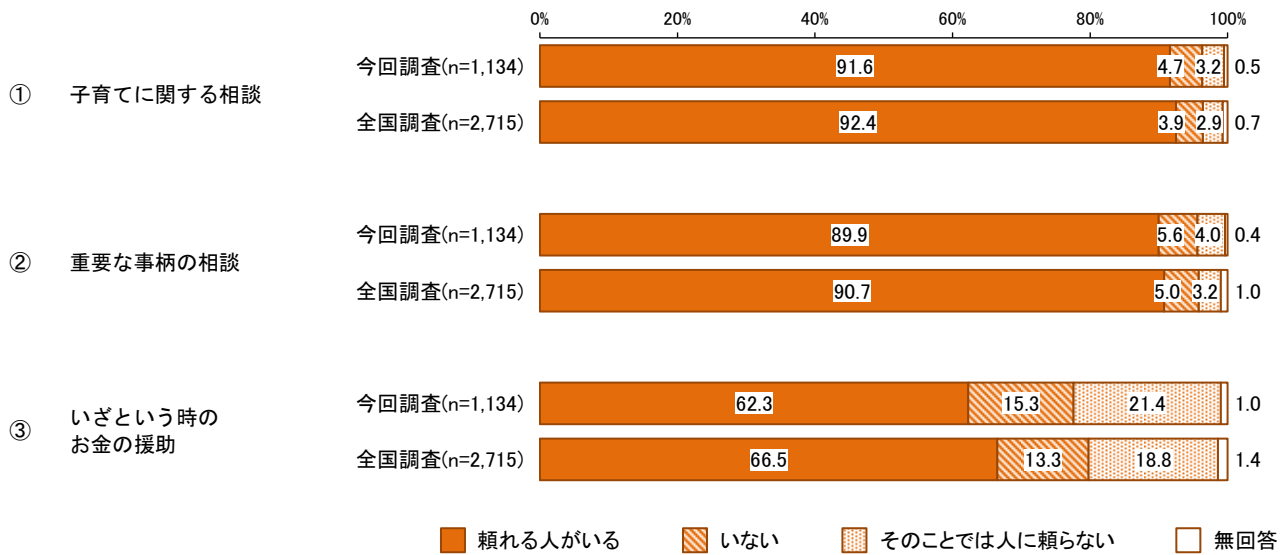
図 保護者の頼れる相手の有無





全国調査と比較すると、「③いざという時のお金の援助」での「頼れる人がいる」の割合が、全国調査よりも4.2ポイント低くなっています。

図 保護者の頼れる相手の有無 - 全国調査との比較【中学生】



## II 保護者調査の結果

### ①子育てに関する相談

等価世帯収入水準別にみると、いずれの年齢も収入水準の高い世帯ほど「頼れる人がいる」の割合が高くなる傾向となっています。一方で16・17歳の中央値の2分の1未満の世帯では「いない」が15.4%と、他の収入層と比較して高くなっています。

世帯の状況別にみると、ふたり親世帯の「頼れる人がいる」が、いずれの年齢もひとり親世帯より高く、特に16・17歳では14.1ポイントの差があります。

図 等価世帯収入水準別 保護者の頼れる相手の有無 - ①子育てに関する相談

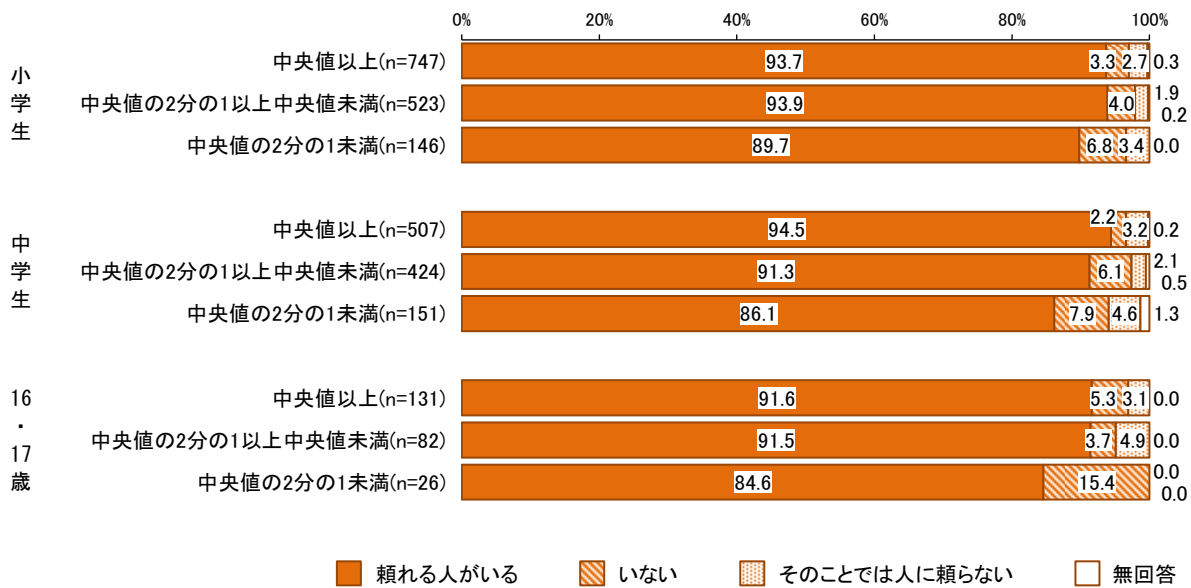
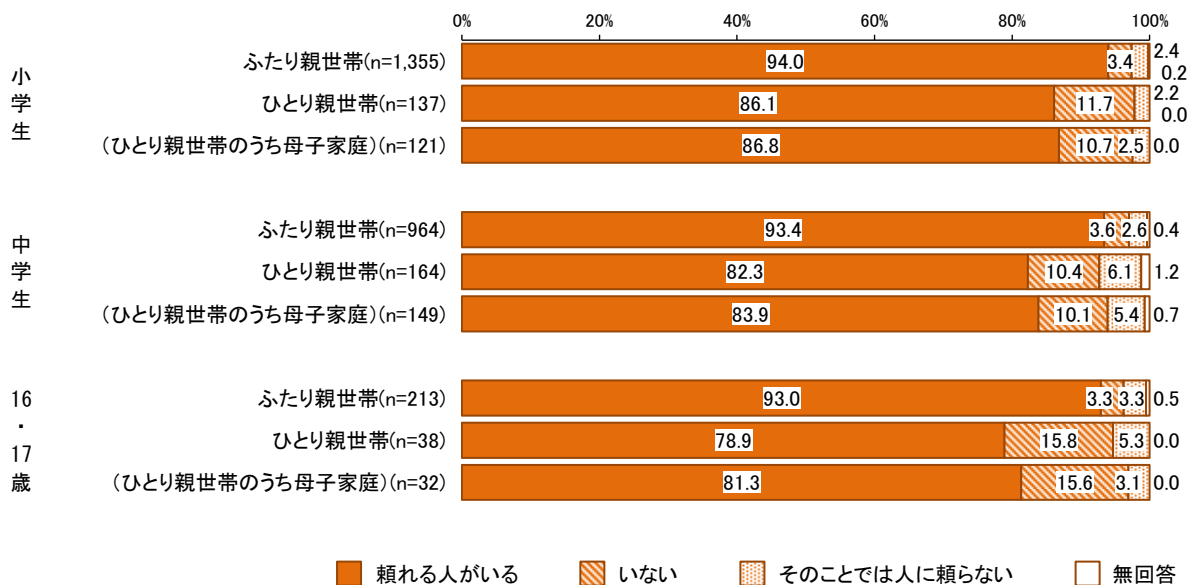


図 世帯の状況別 保護者の頼れる相手の有無 - ①子育てに関する相談



②重要な事柄の相談

等価世帯収入水準別にみると、いずれの年齢も収入水準の高い世帯ほど「頼れる人がいる」の割合が高くなっています。一方で中学生と16・17歳の中央値の2分の1未満の世帯では「いない」がそれぞれ11.9%、15.4%と、他の収入層と比較して高くなっています。

世帯の状況別にみると、ふたり親世帯の「頼れる人がいる」が、いずれの年齢もひとり親世帯より高く、特に16・17歳では20ポイント以上の差があります。

図 等価世帯収入水準別 保護者の頼れる相手の有無 - ②重要な事柄の相談

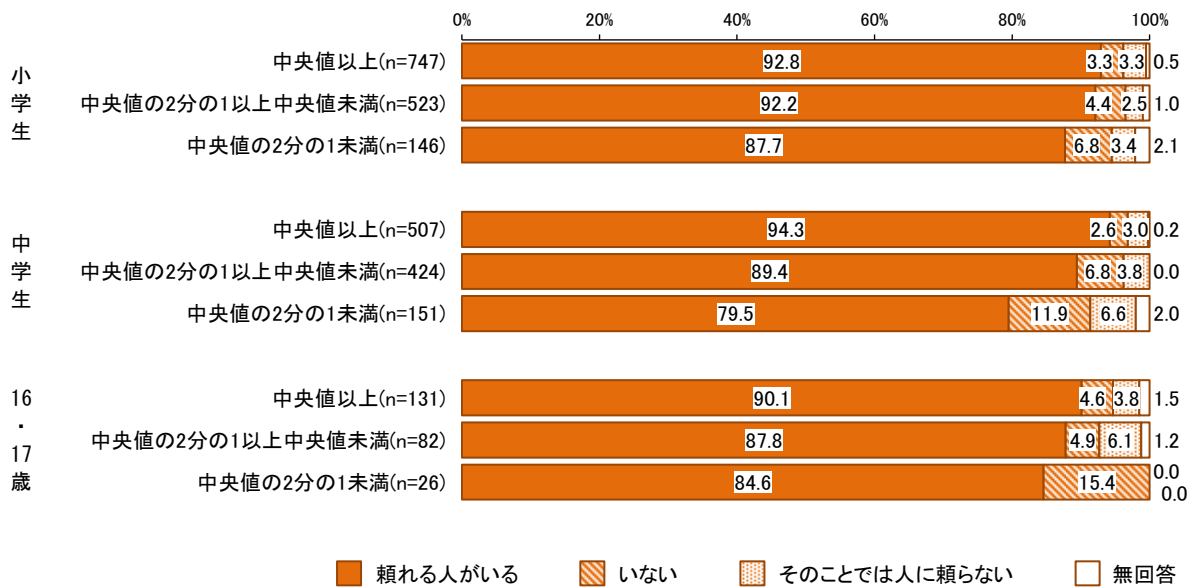
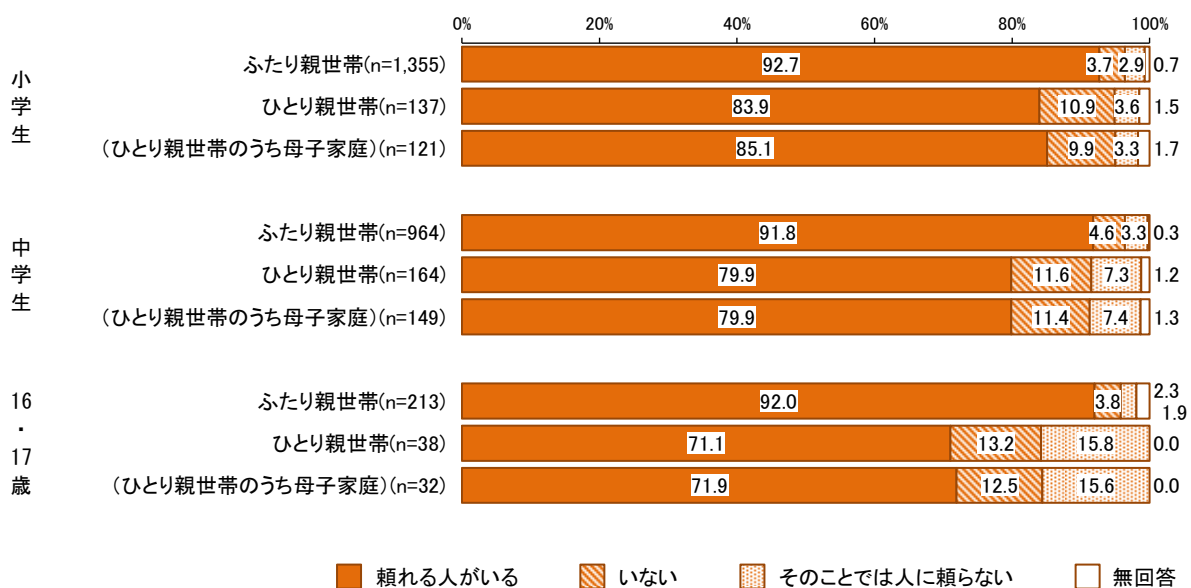


図 保護者の頼れる相手の有無 - ②重要な事柄の相談



## II 保護者調査の結果

### ③いざという時のお金の援助

等価世帯収入水準別にみると、小学生と中学生では収入水準の高い世帯ほど「頼れる人がいる」の割合が高くなっています。一方で16・17歳は、収入水準にかかわらず約6割となっています。

世帯の状況別にみると、ふたり親世帯の「頼れる人がいる」が、いずれの年齢もひとり親世帯より高く、特に小学生と中学生では20ポイント以上の差があります。

図 等価世帯収入水準別 保護者の頼れる相手の有無 - ③いざという時のお金の援助

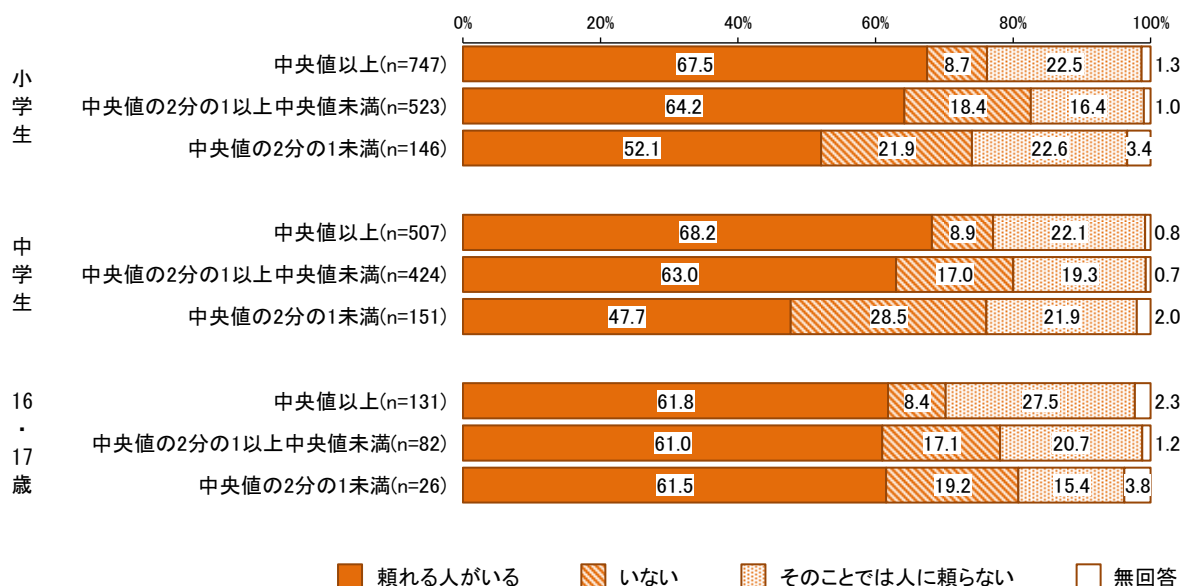
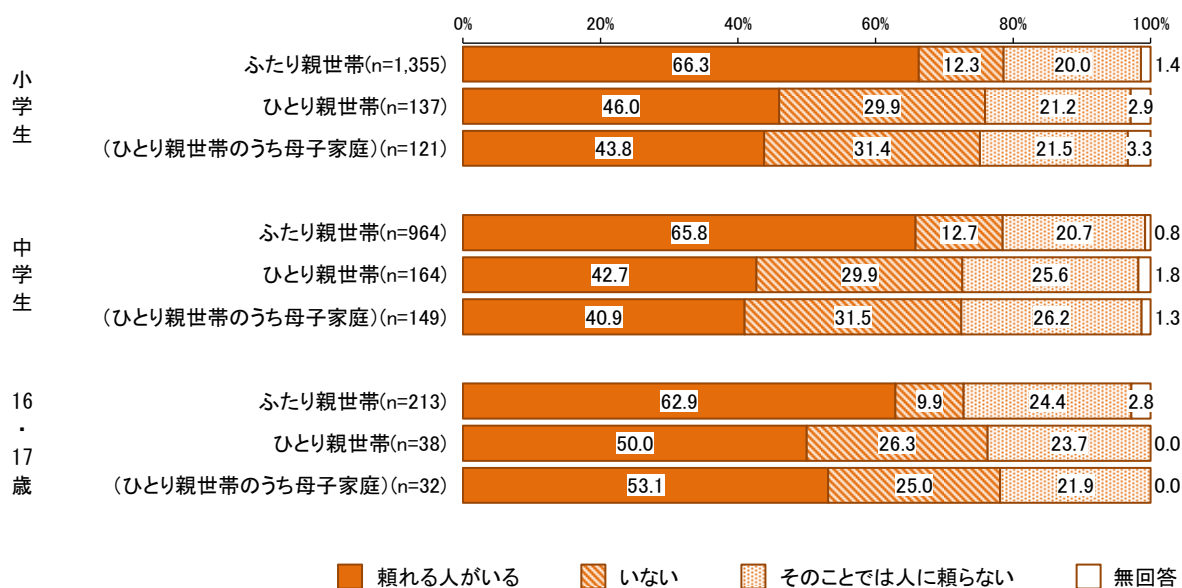


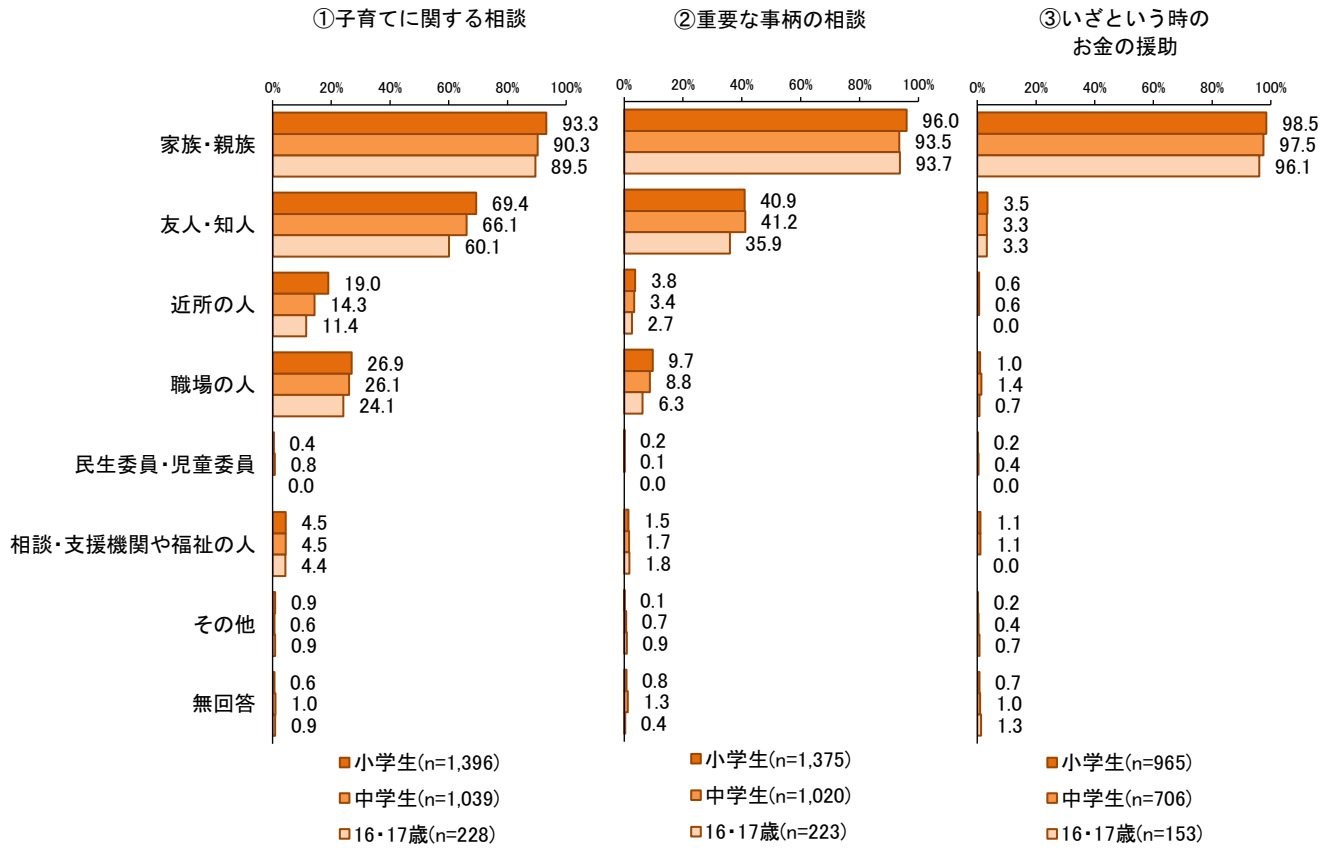
図 世帯の状況別 保護者の頼れる相手の有無 - ③いざという時のお金の援助



保護者の頼れる相手

保護者の頼れる相手の詳細をみると、いずれの相談項目も「家族・親族」が最も高くなっています。また、「①子育てに関する相談」では、いずれの年齢も「友人・知人」が6割台、「職場の人」が2割台となっています。

図 保護者の頼れる相手



## II 保護者調査の結果

### ①子育てに関する相談

等価世帯収入水準別にみると、小学生と中学生の中央値の2分の1未満の世帯で「相談・支援機関や福祉の人」は、それぞれ7.6%、10.8%となり、他の収入層と比較してやや高くなっています。また、小学生の中央値の2分の1未満の世帯では「職場の人」が31.3%と高くなっています。

世帯の状況別にみると、ふたり親世帯では「家族・親族」が、ひとり親世帯では「職場の人」「相談・支援機関や福祉の人」が、いずれの年齢も高い傾向にあります。

表 等価世帯収入水準、世帯の状況別 保護者の頼れる相手 - ①子育てに関する相談

		回答者数(n)	家族・親族	友人・知人	近所の人	職場の人	民生委員・児童委員	相談・支援機関や福祉の人	その他	無回答	
等価世帯収入水準別	小学生	中央値以上	700	94.4	72.0	20.9	28.9	0.4	3.3	1.0	0.4
		中央値の2分の1以上中央値未満	491	94.1	68.0	17.1	23.6	0.2	5.5	0.6	0.4
		中央値の2分の1未満	131	88.5	58.8	13.0	31.3	0.8	7.6	2.3	0.8
	中学生	中央値以上	479	93.1	66.4	16.7	28.0	0.6	3.1	0.6	1.0
		中央値の2分の1以上中央値未満	387	89.1	68.0	13.7	24.3	0.8	4.1	-	0.8
		中央値の2分の1未満	130	86.2	59.2	10.0	24.6	1.5	10.8	0.8	0.8
	16・17歳	中央値以上	120	90.0	65.0	11.7	22.5	-	4.2	1.7	0.8
		中央値の2分の1以上中央値未満	75	89.3	57.3	13.3	28.0	-	4.0	-	-
		中央値の2分の1未満	22	86.4	50.0	9.1	27.3	-	-	-	4.5
世帯の状況別	小学生	ふたり親世帯	1,274	94.0	70.5	20.3	26.1	0.4	4.1	0.8	0.5
		ひとり親世帯	118	86.4	58.5	5.9	35.6	0.8	9.3	2.5	0.8
		(ひとり親世帯のうち母子家庭)	105	86.7	58.1	4.8	37.1	-	8.6	1.9	1.0
	中学生	ふたり親世帯	900	91.7	66.2	14.9	24.2	0.8	4.0	0.3	1.0
		ひとり親世帯	135	82.2	66.7	11.1	38.5	0.7	7.4	2.2	0.7
		(ひとり親世帯のうち母子家庭)	125	80.8	68.0	11.2	40.8	0.8	7.2	2.4	0.8
	16・17歳	ふたり親世帯	198	91.4	60.1	12.6	21.7	-	3.5	1.0	-
		ひとり親世帯	30	76.7	60.0	3.3	40.0	-	10.0	-	6.7
		(ひとり親世帯のうち母子家庭)	26	73.1	65.4	3.8	46.2	-	7.7	-	7.7

②重要な事柄の相談

等価世帯収入水準別にみると、小学生と中学生の中央値の2分の1未満の世帯で「相談・支援機関や福祉の人」は、それぞれ6.3%、6.7%となり、他の収入層と比較してやや高くなっています。一方で、16・17歳の中央値の2分の1未満の世帯では「友人・知人」が22.7%と低くなっています。

世帯の状況別にみると、ふたり親世帯では「家族・親族」が、ひとり親世帯では「友人・知人」「職場の人」「相談・支援機関や福祉の人」が、いずれの年齢も高い傾向にあります。

表 等価世帯収入水準、世帯の状況別 保護者の頼れる相手 - ②重要な事柄の相談

		回答者数(n)	家族・親族	友人・知人	近所の人	職場の人	民生委員・児童委員	相談・支援機関や福祉の人	その他	無回答	
等価世帯収入水準別	小学生	中央値以上	693	96.4	43.3	3.9	10.4	0.3	0.7	-	0.9
		中央値の2分の1以上中央値未満	482	97.3	37.8	3.5	8.7	-	1.5	-	0.6
		中央値の2分の1未満	128	89.8	43.8	3.9	10.2	0.8	6.3	0.8	-
	中学生	中央値以上	478	95.6	43.3	3.6	9.0	0.2	0.8	0.6	1.3
		中央値の2分の1以上中央値未満	379	93.1	39.6	3.2	8.7	-	1.1	-	1.1
		中央値の2分の1未満	120	89.2	38.3	4.2	8.3	-	6.7	2.5	1.7
	16・17歳	中央値以上	118	95.8	39.0	4.2	6.8	-	1.7	1.7	-
		中央値の2分の1以上中央値未満	72	91.7	38.9	1.4	6.9	-	1.4	-	-
		中央値の2分の1未満	22	86.4	22.7	-	4.5	-	-	-	4.5
世帯の状況別	小学生	ふたり親世帯	1,256	97.0	40.5	4.0	8.7	0.2	1.0	-	0.9
		ひとり親世帯	115	86.1	45.2	1.7	20.9	0.9	6.1	0.9	-
		(ひとり親世帯のうち母子家庭)	103	86.4	47.6	1.0	20.4	1.0	5.8	1.0	-
	中学生	ふたり親世帯	885	94.9	40.2	3.5	7.8	0.1	1.2	0.5	1.1
		ひとり親世帯	131	84.7	48.9	3.1	15.3	-	3.8	2.3	2.3
		(ひとり親世帯のうち母子家庭)	119	84.0	51.3	2.5	16.0	-	4.2	2.5	1.7
	16・17歳	ふたり親世帯	196	95.9	34.2	3.1	5.1	-	1.5	0.5	-
		ひとり親世帯	27	77.8	48.1	-	14.8	-	3.7	3.7	3.7
		(ひとり親世帯のうち母子家庭)	23	73.9	56.5	-	17.4	-	4.3	4.3	4.3

## II 保護者調査の結果

### ③いざという時のお金の援助

等価世帯収入水準別にみると、16・17歳の中央値の2分の1未満の世帯で「家族・親族」が87.5%と、他の収入層と比較して低くなっています。一方で、中央値の2分の1未満の世帯で「友人・知人」がいずれの年齢も1割前後と、他の収入層と比較して高くなっています。

世帯の状況別にみると、ひとり親世帯がふたり親世帯よりも「友人・知人」「職場の人」「相談・支援機関や福祉の人」が、いずれの年齢も高い傾向にあります。

表 等価世帯収入水準、世帯の状況別 保護者の頼れる相手 - ③いざという時のお金の援助

			回答者数(n)	家族・親族	友人・知人	近所の人	職場の人	民生委員・児童委員	相談・支援機関や福祉の人	その他	無回答
等価世帯収入水準別	小学生	中央値以上	504	99.0	2.6	0.2	0.4	-	0.8	-	0.6
		中央値の2分の1以上中央値未満	336	99.4	2.7	0.9	1.2	0.3	0.9	0.3	0.6
		中央値の2分の1未満	76	96.1	10.5	1.3	2.6	-	5.3	-	-
	中学生	中央値以上	346	98.0	2.6	0.3	0.6	-	-	-	1.2
		中央値の2分の1以上中央値未満	267	98.1	3.0	1.1	2.2	0.7	1.9	1.1	0.7
		中央値の2分の1未満	72	94.4	8.3	-	1.4	-	2.8	-	1.4
	16・17歳	中央値以上	81	100.0	1.2	-	-	-	-	-	-
		中央値の2分の1以上中央値未満	50	94.0	2.0	-	2.0	-	-	2.0	2.0
		中央値の2分の1未満	16	87.5	12.5	-	-	-	-	-	6.3
世帯の状況別	小学生	ふたり親世帯	899	98.7	3.0	0.6	0.8	0.2	0.9	0.2	0.8
		ひとり親世帯	63	96.8	11.1	1.6	4.8	-	4.8	-	-
		(ひとり親世帯のうち母子家庭)	53	96.2	9.4	1.9	5.7	-	5.7	-	-
	中学生	ふたり親世帯	634	97.9	2.7	0.5	0.9	0.2	0.5	0.5	1.1
		ひとり親世帯	70	94.3	8.6	1.4	4.3	1.4	4.3	-	-
		(ひとり親世帯のうち母子家庭)	61	93.4	8.2	-	4.9	1.6	4.9	-	-
	16・17歳	ふたり親世帯	134	98.5	1.5	-	0.7	-	-	0.7	0.7
		ひとり親世帯	19	78.9	15.8	-	-	-	-	-	5.3
		(ひとり親世帯のうち母子家庭)	17	76.5	17.6	-	-	-	-	-	5.9

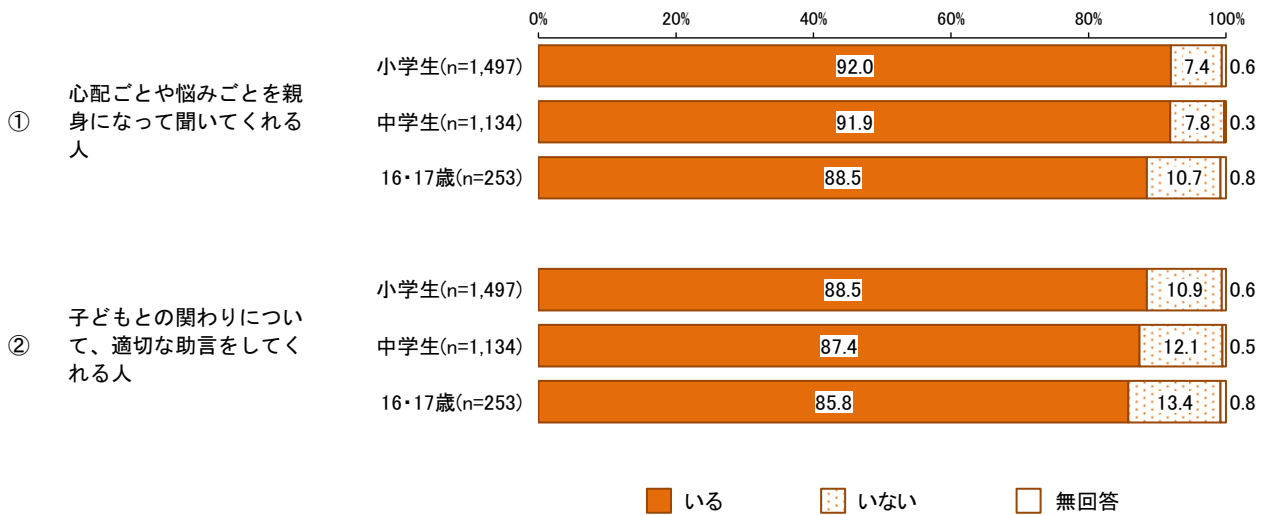


(2)相談相手

問 23 あなたには、次のような人がいますか。(あてはまるもの1つに○)

相談相手を見ると、いずれの年齢も、「いる」の割合は「①心配ごとや悩みごとを親身になって聞いてくれる人」で9割前後、「②子どもとの関わりについて、適切な助言をしてくれる人」で8割台となっています。

図 相談相手



## II 保護者調査の結果

### ①心配ごとや悩みごとを親身になって聞いてくれる人

等価世帯収入水準別にみると、小学生と中学生では収入水準の高い世帯ほど「いる」の割合が高くなっています。一方で中学生の中央値の2分の1未満の世帯で「いない」が15.9%と、他の収入層と比較して高くなっています。

世帯の状況別にみると、ふたり親世帯の「いる」が、いずれの年齢もひとり親世帯より高く、特に小学生と中学生で10ポイント以上の差があります。

図 等価世帯収入水準別 相談相手 - ①心配ごとや悩みごとを親身になって聞いてくれる人

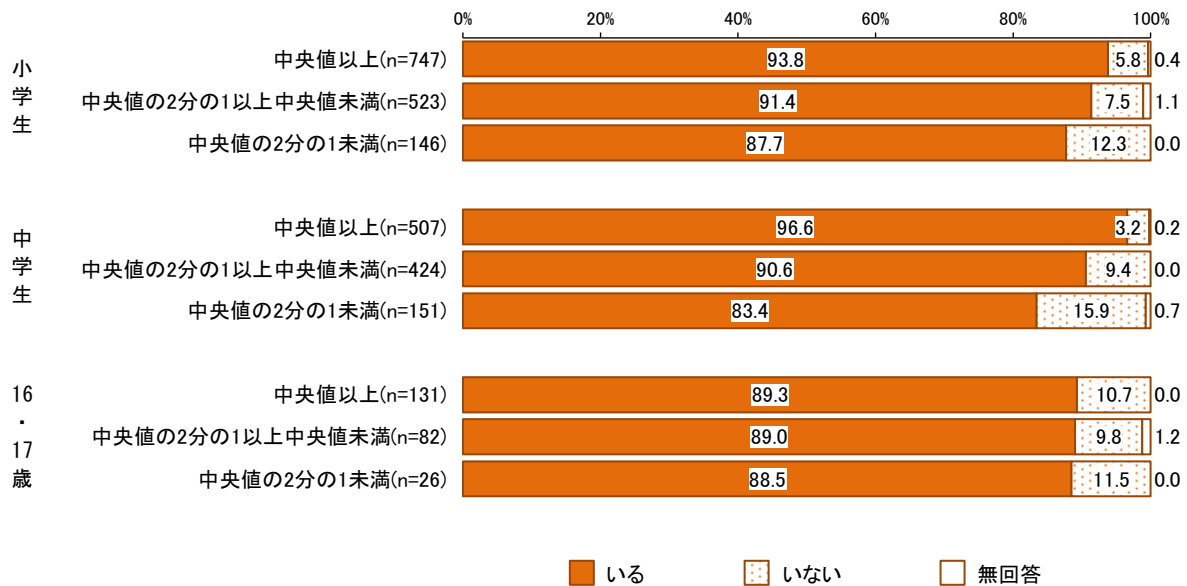
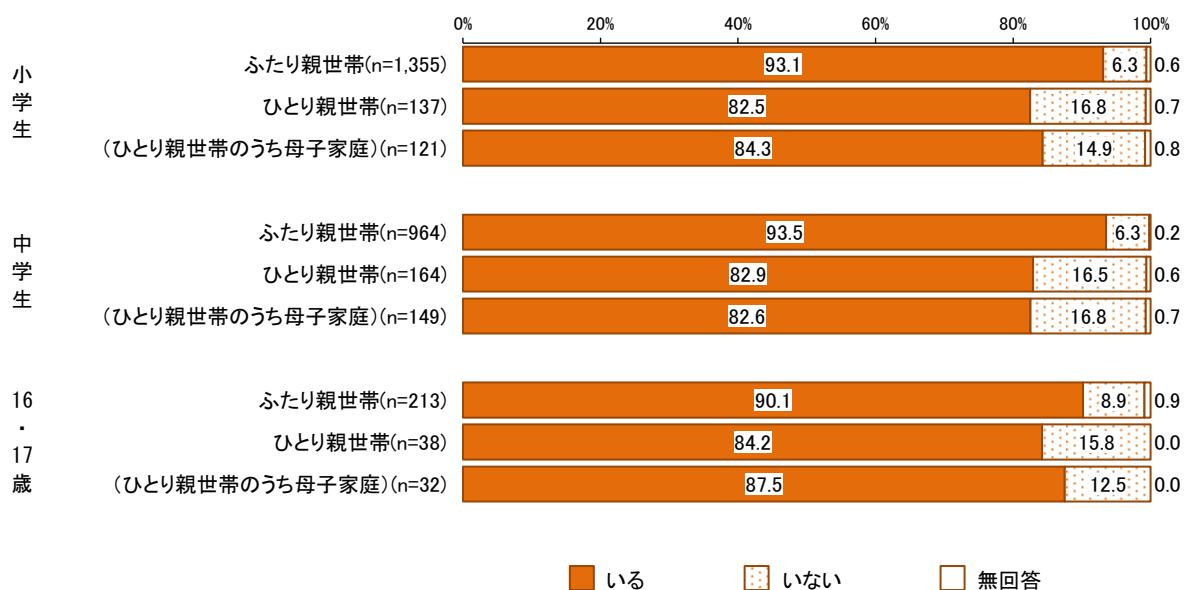


図 世帯の状況別 相談相手 - ①心配ごとや悩みごとを親身になって聞いてくれる人



②子どもとの関わりについて、適切な助言をしてくれる人

等価世帯収入水準別にみると、小学生と中学生では収入水準の高い世帯ほど「いる」の割合が高くなっています。一方で中学生の中央値の2分の1未満の世帯で「いない」が21.9%と、2割以上を占めています。

世帯の状況別にみると、ふたり親世帯の「いる」が、いずれの年齢もひとり親世帯より高く10ポイント前後の差があります。

図 等価世帯収入水準別 相談相手 - ②子どもとの関わりについて、適切な助言をしてくれる人

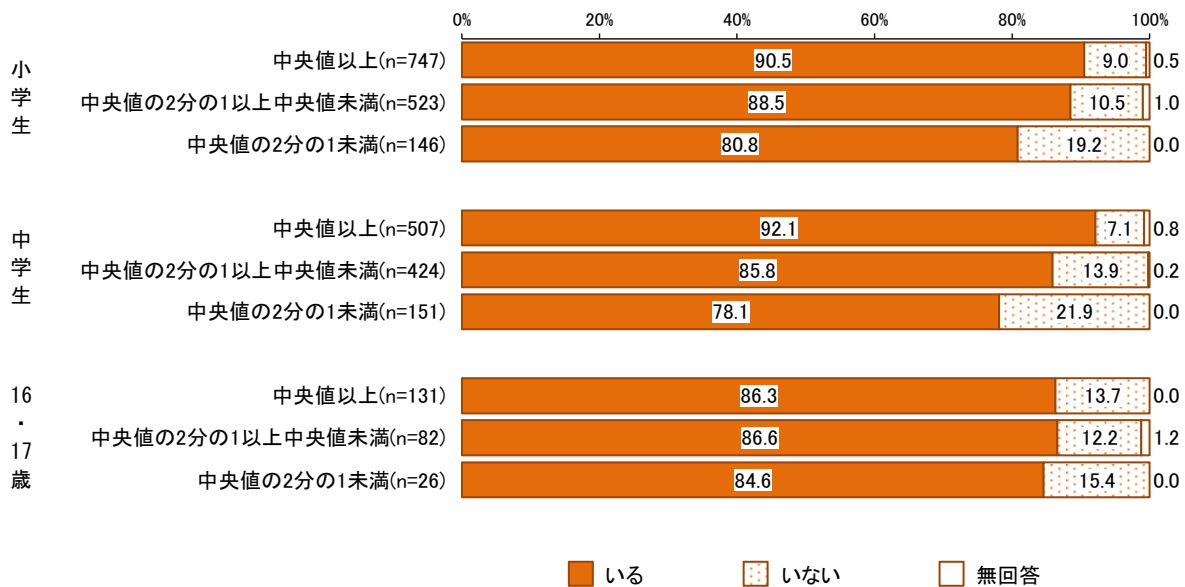
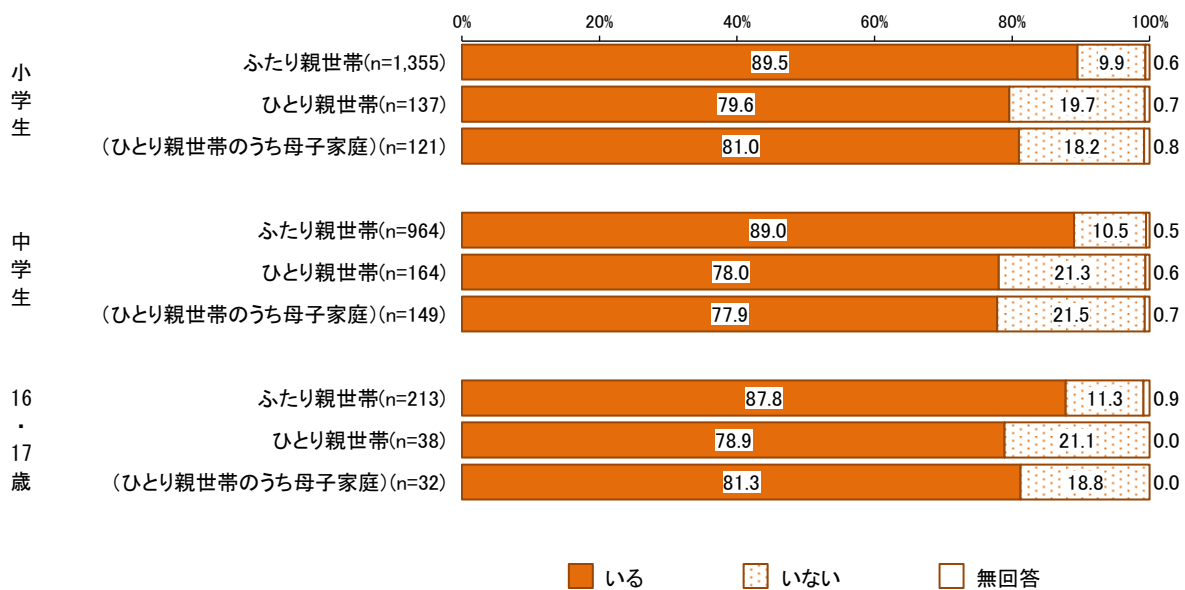


図 世帯の状況別 相談相手 - ②子どもとの関わりについて、適切な助言をしてくれる人



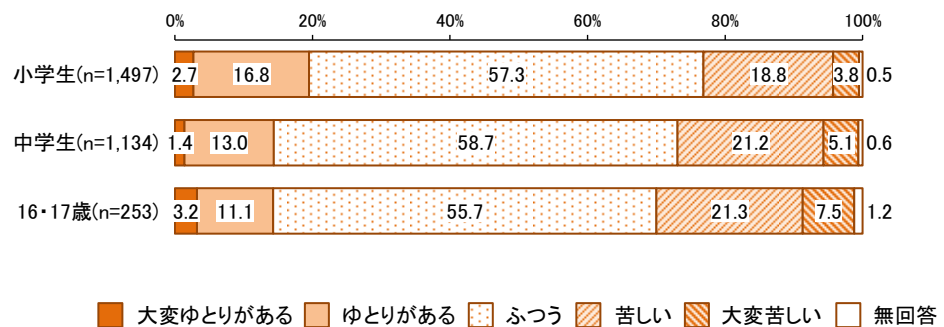
## 7. 経済的な状況

### (1) 主観的暮らし向き

問 24 あなたは、現在の暮らしの状況をどのように感じていますか。(あてはまるもの1つに○)

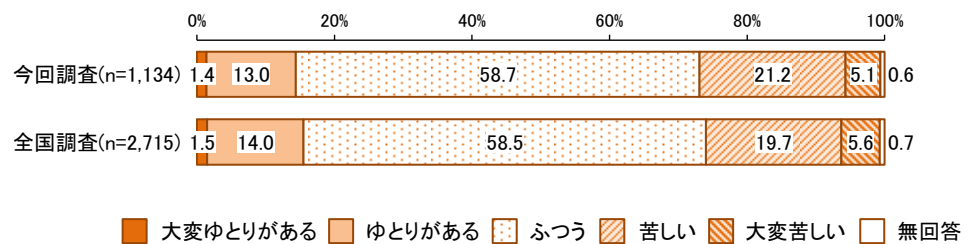
主観的暮らし向きをみると、いずれの年齢も『ゆとりがある』(「大変ゆとりがある」と「ゆとりがある」の合計)が1割台、『苦しい』(「大変苦しい」と「苦しい」の合計)が2割台となっています。「ふつう」は、いずれの年齢も5割台となっています。

図 主観的暮らし向き



全国調査と比較すると、主観的暮らし向きに大きな差はありません。

図 主観的暮らし向き - 全国調査との比較【中学生】



等価世帯収入水準別にみると、中央値の2分の1未満の世帯はいずれの年齢も『苦しい』が半数以上となっています。

世帯の状況別にみると、ひとり親世帯の『苦しい』が、いずれの年齢もふたり親世帯よりも高く、5割前後となっています。

福祉事務所管内別にみると、16・17歳の中福祉事務所の世帯で「大変苦しい」が11.4%と高くなっています。

図 等価世帯収入水準別 主観的暮らし向き

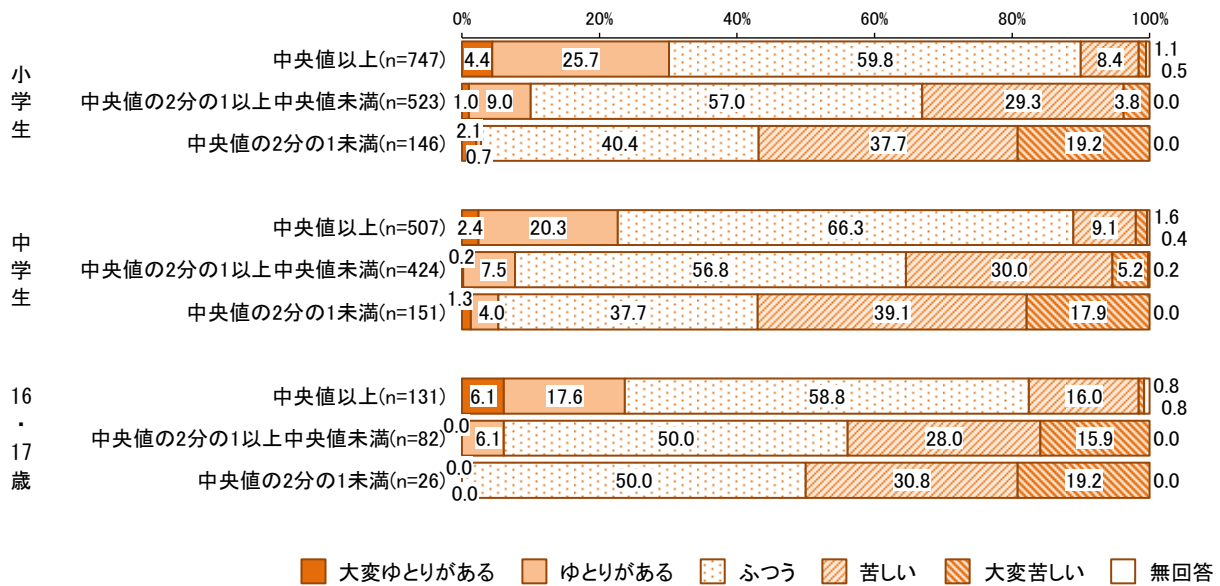
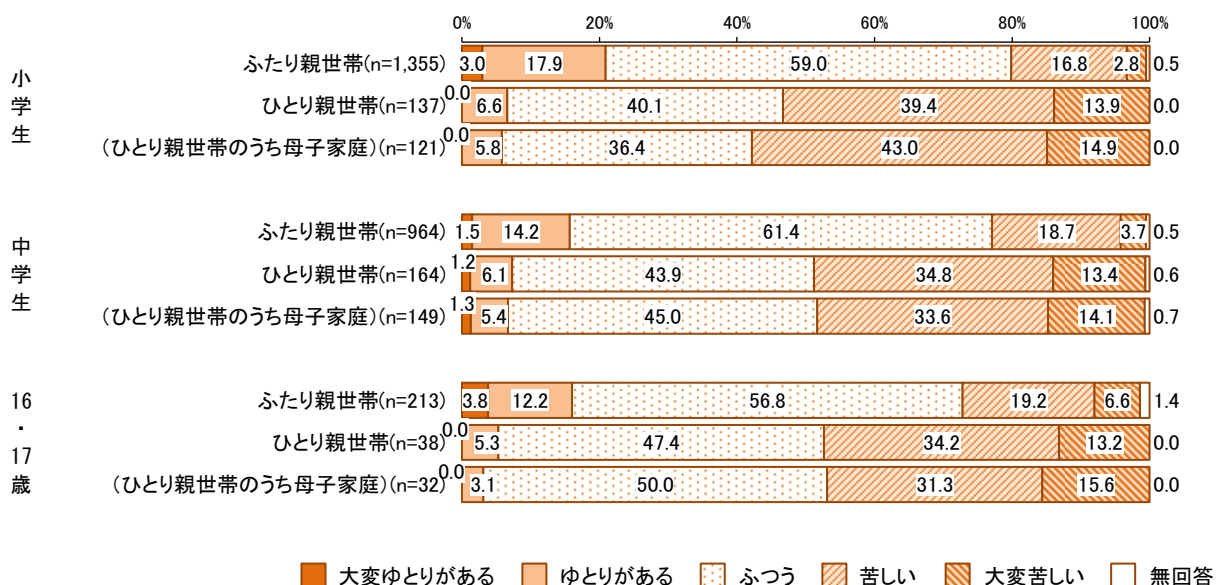
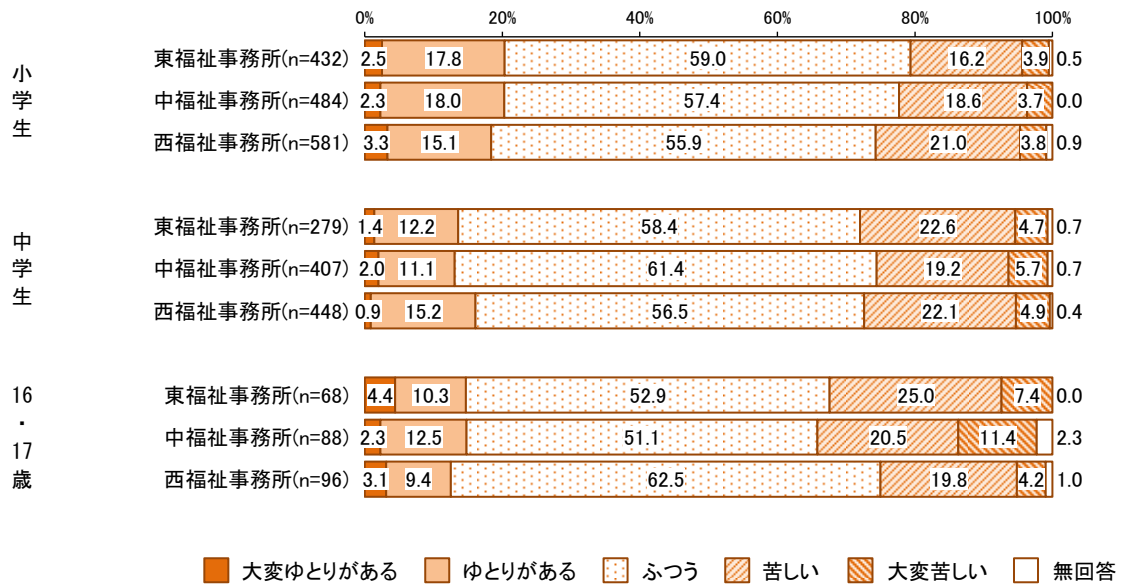


図 世帯の状況別 主観的暮らし向き



II 保護者調査の結果

図 福祉事務所管内別 主観的暮らし向き

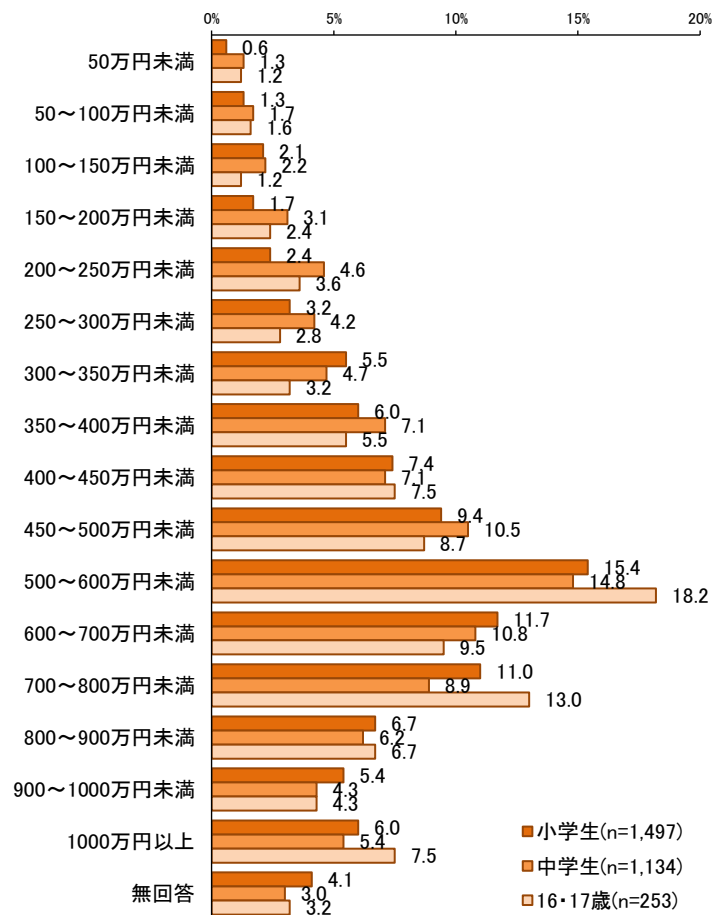


(2)世帯収入

問 25	<p>世帯全体のおおよその年間収入(手取り)はいくらですか。(あてはまるもの1つに○)</p> <p>※収入には、同居し、生計を同一にしている家族全員の以下の収入が含まれます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・勤め先収入(定期収入、賞与等)</li> <li>・事業所得(原材料費、人件費、営業上の諸経費等を除く)、内職収入(材料費等を除く)</li> <li>・公的年金・恩給、その他の社会保障給付金(生活保護、児童手当、児童扶養手当等)</li> <li>・農林漁業収入(農機具等の材料費、営業上の諸経費等を除く)</li> <li>・財産所得(預貯金利子、家賃収入等)</li> <li>・その他の収入(仕送り、養育費、個人年金、各種祝い金等)</li> </ul>
------	--

世帯収入をみると、いずれの年齢も「500～600 万円未満」が最も高く、次いで小学生と中学生は「600～700 万円未満」、16・17 歳は「700～800 万円未満」が高くなっています。

図 世帯収入



## II 保護者調査の結果

### 等価世帯収入

等価世帯収入をみると、いずれの年齢も「中央値以上」が最も高く、4～5割程度となっています。中学生の『60%未満』(60%未満 50%以上)と「50%未満」の合計が 20.6%と、小学生や 16・17 歳と比べて高くなっています。

世帯の状況別にみると、ふたり親世帯の「中央値以上」が、いずれの年齢も 5割以上に対して、ひとり親世帯の「中央値以上」が 1割前後と、大きな差があります。小学生と中学生のひとり親世帯では「50%未満」が約半数を占めています。

父母の学歴状況別にみると、いずれも大卒以上の世帯の「中央値以上」がいずれの年齢も高く、16・17 歳では 8割を占めています。

図 等価世帯収入

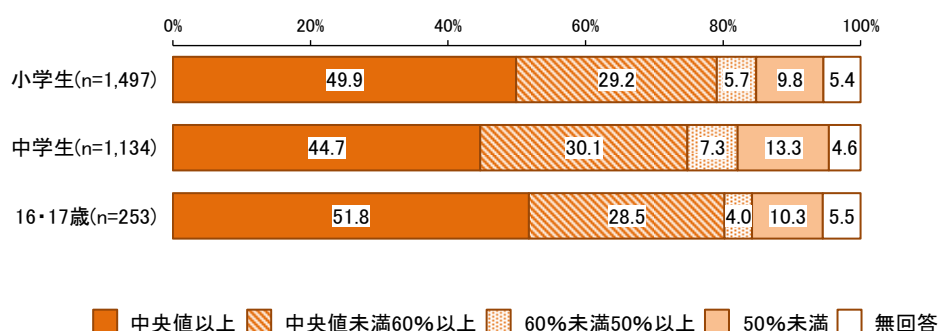


図 世帯の状況別 等価世帯収入

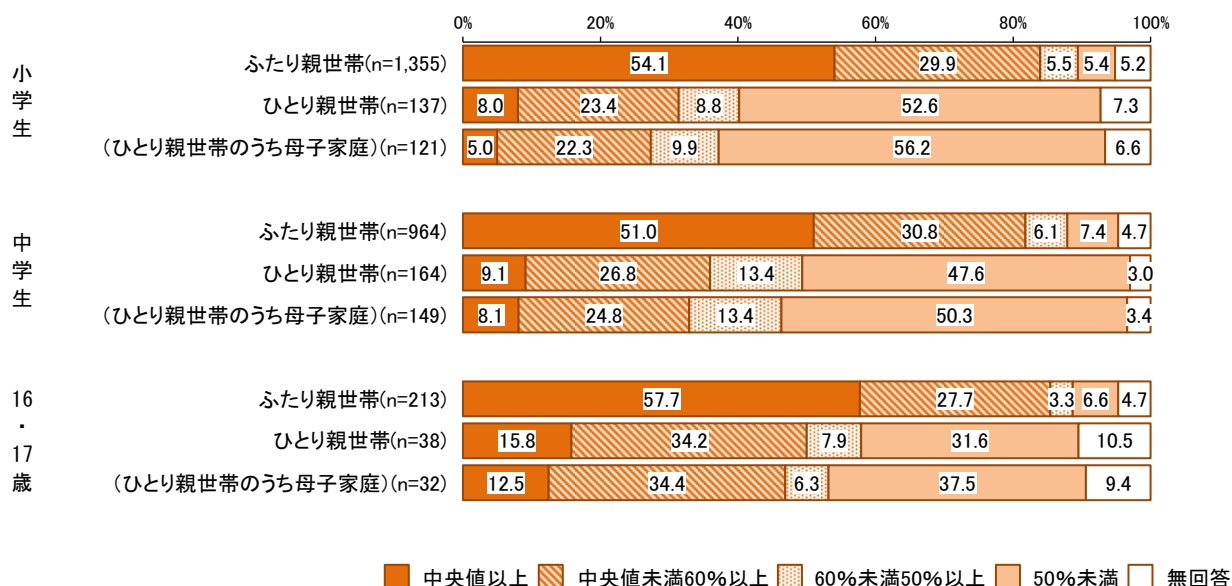
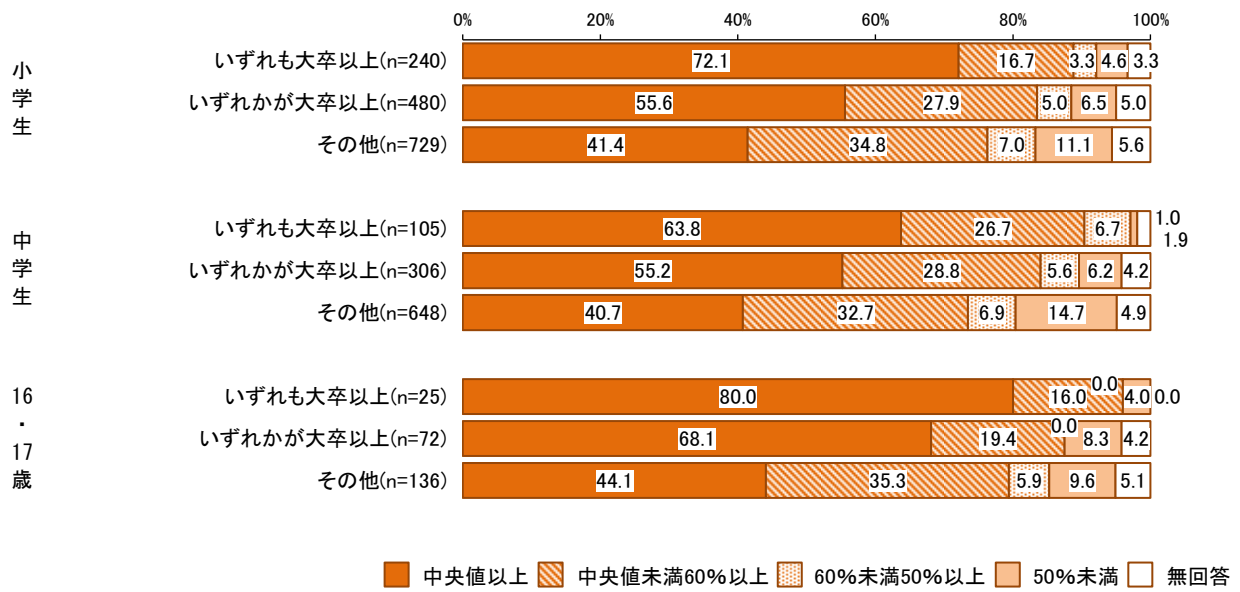




図 父母の学歴の状況別 等価世帯収入



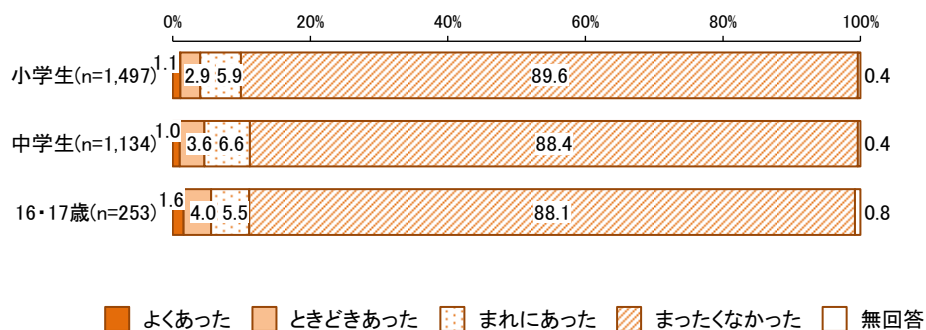
II 保護者調査の結果

(3)滞納・欠乏経験(食料が買えないこと)

問 26	あなたの世帯では、過去1年の間に、お金が足りなくて、家族が必要とする食料が買えないことがありましたか。ただし、嗜好品は含みません。(あてはまるもの1つに○)
------	--

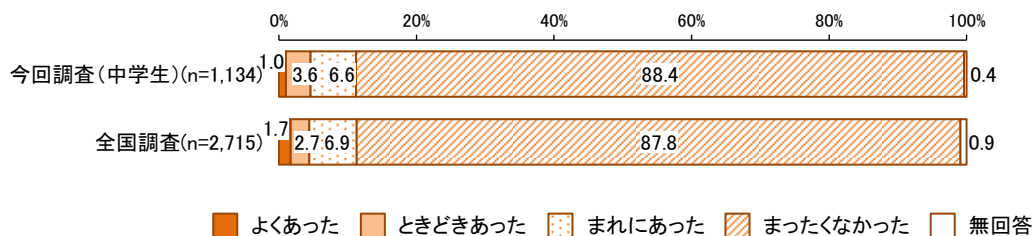
滞納・欠乏経験(食料が買えないこと)をみると、『あった』(「よくあった」と「ときどきあった」と「まれにあった」の合計)がいずれの年齢も1割前後となっています。

図 滞納・欠乏経験(食料が買えないこと)



全国調査と比較すると、滞納・欠乏経験(食料が買えないこと)に大きな差はありません。

図 滞納・欠乏経験(食料が買えないこと) - 全国調査との比較【中学生】



等価世帯収入水準別にみると、収入水準の低い世帯ほど『あった』の割合が高くなり、中央値の2分の1未満の世帯ではいずれの年齢も3割以上となっています。

世帯の状況別にみると、ひとり親世帯の『あった』がふたり親世帯よりも高く、特に小学生では31.3%となっています。

図 等価世帯収入水準別 滞納・欠乏経験(食料が買えないこと)

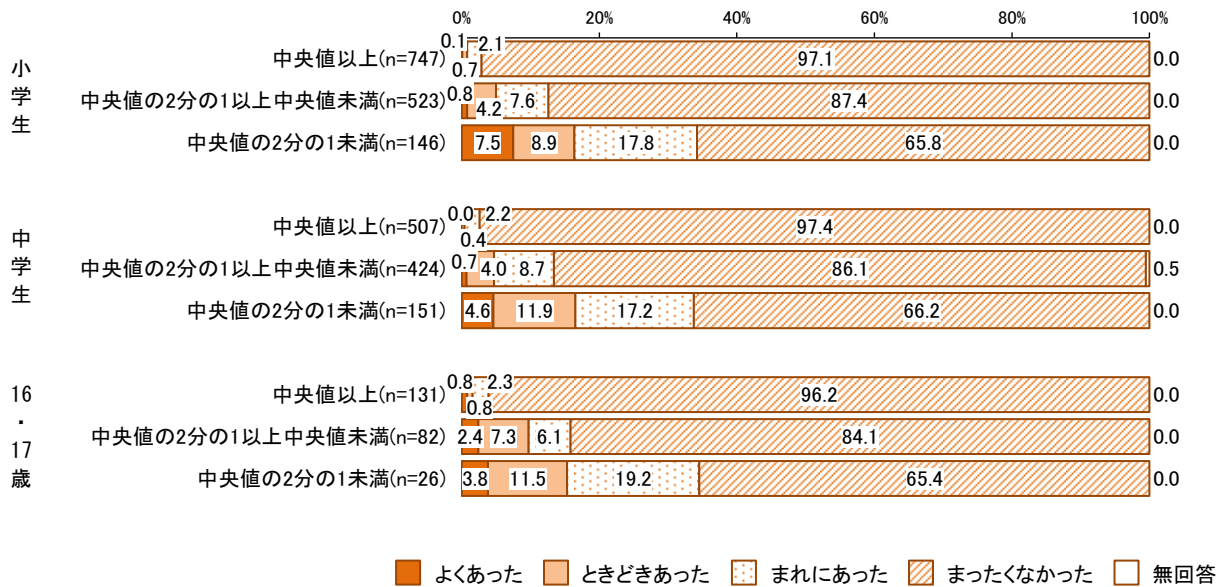
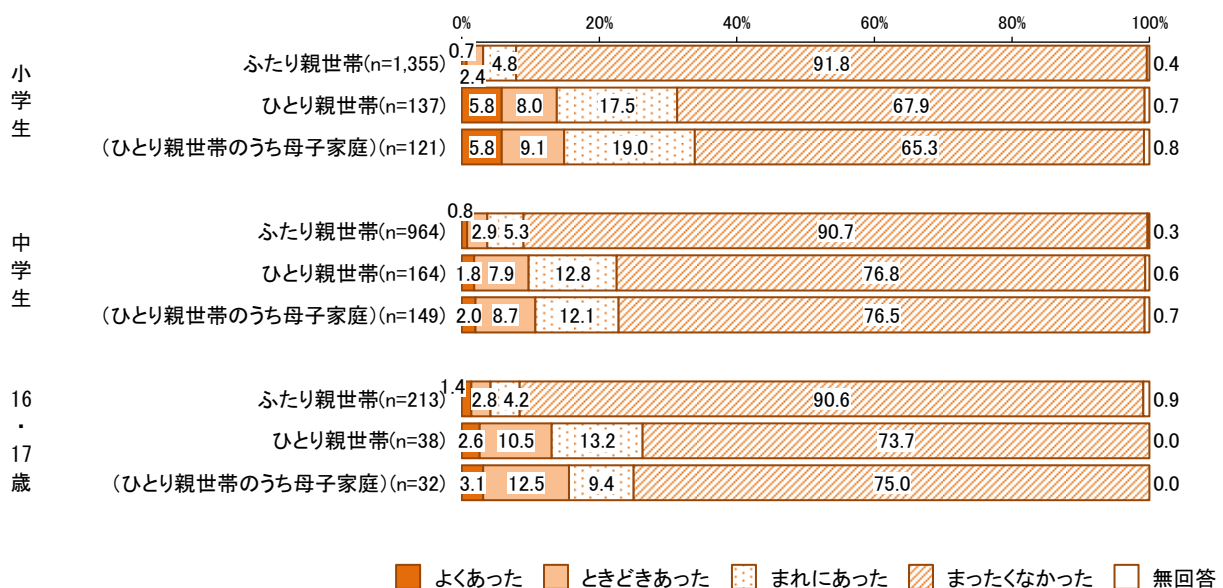


図 世帯の状況別 滞納・欠乏経験(食料が買えないこと)



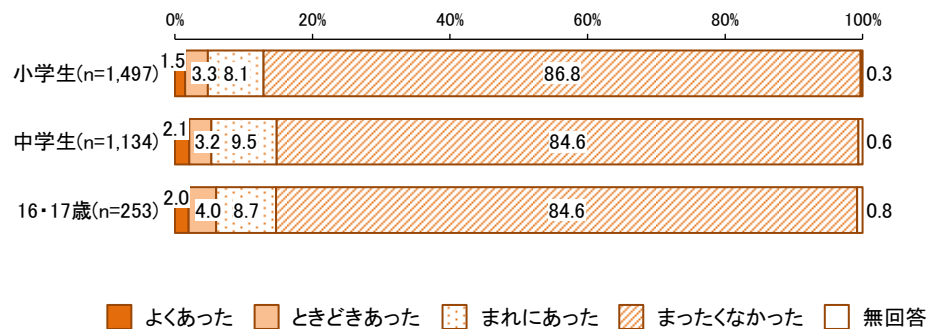
## II 保護者調査の結果

### (4) 滞納・欠乏経験(衣服が買えないこと)

問 27	あなたの世帯では、過去1年の間に、お金が足りなくて、家族が必要とする衣服が買えないことがありましたか。ただし、高価な衣服や貴金属・宝飾品は含みません。(あてはまるもの1つに○)
------	--

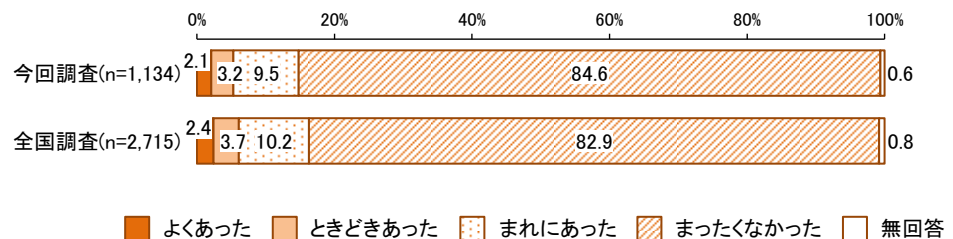
滞納・欠乏経験(衣服が買えないこと)をみると、『あった』(「よくあった」と「ときどきあった」と「まれにあった」の合計)がいずれの年齢も1割台となっています。

図 滞納・欠乏経験(衣服が買えないこと)



全国調査と比較すると、滞納・欠乏経験(衣服が買えないこと)に大きな差はありません。

図 滞納・欠乏経験(衣服が買えないこと) - 全国調査との比較【中学生】



等価世帯収入水準別にみると、収入水準の低い世帯ほど『あった』の割合が高くなり、中央値の2分の1未満の世帯ではいずれの年齢も3～4割程度となっています。

世帯の状況別にみると、ひとり親世帯の『あった』がふたり親世帯よりも高く、いずれの年齢も3割程度となっています。

図 等価世帯収入水準別 滞納・欠乏経験(衣服が買えないこと)

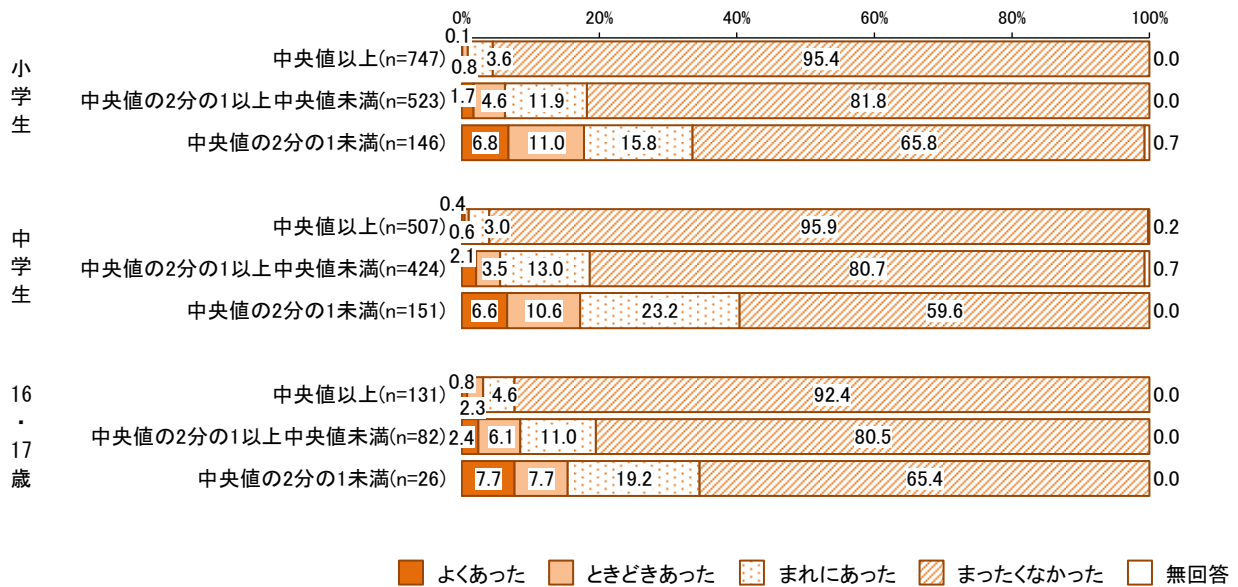
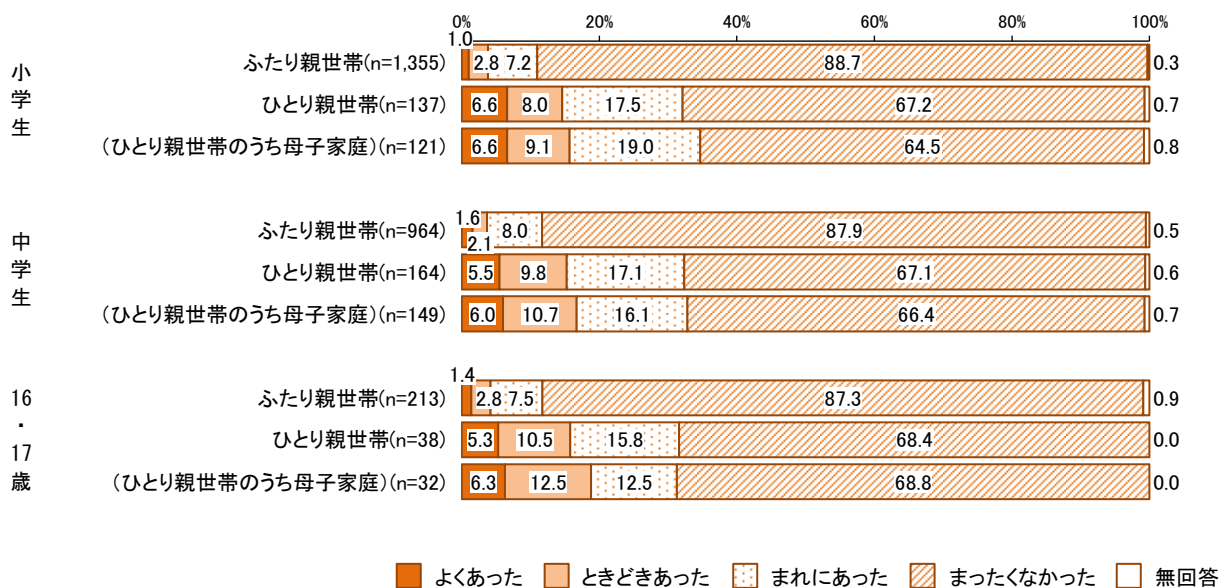


図 世帯の状況別 滞納・欠乏経験(衣服が買えないこと)



## II 保護者調査の結果

### (5)滞納・欠乏経験(電気・ガス・水道料金を払えないこと)

問 28	あなたの世帯では、経済的な理由で、次のような経験をされたことがありますか。過去 1 年のお考えください。(あてはまるものすべてに○)
------	--

滞納・欠乏経験(電気・ガス・水道料金を払えないこと)をみると、「食費を切りつめた」がいずれの年齢も 2～3 割台で高く、16・17 歳で 33.6%となっています。また、16・17 歳で「金融機関などに借金をしたことがある」が 13.0%と高くなっています。

等価世帯収入水準別にみると、中央値の 2 分の 1 未満の世帯で「食費を切りつめた」がいずれの年齢も割合が高く、特に 16・17 歳では 6 割以上を占めています。また、16・17 歳では中央値の 2 分の 1 以上中央値未満の世帯も 48.8%と高くなっています。

世帯の状況別にみると、ひとり親世帯の「食費を切りつめた」が、いずれの年齢もふたり親世帯より高く、20 ポイント以上の差があります。

図 滞納・欠乏経験(電気・ガス・水道料金を払えないこと)

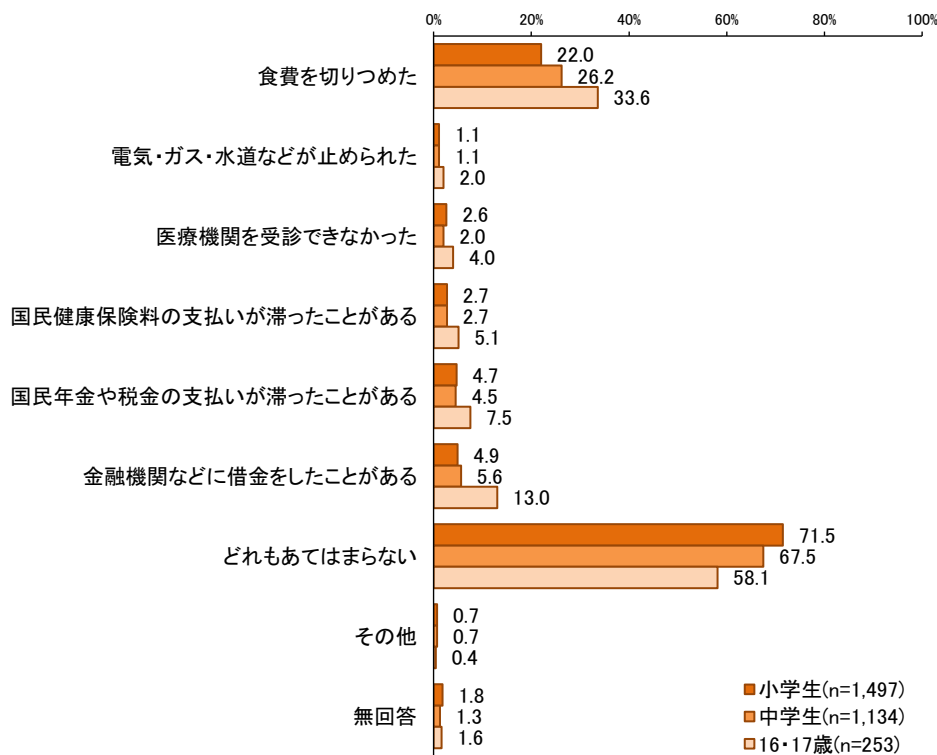


表 等価世帯収入水準、世帯の状況別 滞納・欠乏経験(電気・ガス・水道料金を払えないこと)

		回答者数(n)	食費を切りつめた	電気・ガス・水道などが止められた	医療機関を受診できなかった	国民健康保険料の支払いが滞ったことがある	国民年金や税金の支払いが滞ったことがある	金融機関などに借金をしたことがある	どれもあてはまらない	その他	無回答	
等価世帯収入水準別	小学生	中央値以上	747	9.8	-	0.5	0.5	1.3	1.9	85.5	0.7	2.1
		中央値の2分の1以上中央値未満	523	32.1	1.3	4.4	3.6	7.8	7.5	61.6	0.8	0.6
		中央値の2分の1未満	146	47.9	5.5	6.2	11.0	12.3	10.3	40.4	0.7	2.1
	中学生	中央値以上	507	12.6	0.6	0.8	0.4	1.0	3.2	84.0	0.6	0.8
		中央値の2分の1以上中央値未満	424	33.3	1.2	2.8	3.1	6.1	7.3	58.3	0.7	1.7
		中央値の2分の1未満	151	52.3	3.3	4.6	10.6	13.2	10.6	37.7	1.3	0.7
	16・17歳	中央値以上	131	19.1	-	1.5	2.3	3.1	9.2	75.6	-	-
		中央値の2分の1以上中央値未満	82	48.8	2.4	7.3	7.3	9.8	19.5	42.7	1.2	-
		中央値の2分の1未満	26	61.5	11.5	3.8	11.5	19.2	15.4	26.9	-	3.8
世帯の状況別	小学生	ふたり親世帯	1,355	19.9	0.4	2.4	2.1	4.1	4.4	73.7	0.7	1.8
		ひとり親世帯	137	43.8	7.3	4.4	9.5	10.9	9.5	48.2	0.7	1.5
		(ひとり親世帯のうち母子家庭)	121	47.9	6.6	5.0	9.9	9.9	9.1	44.6	0.8	1.7
	中学生	ふたり親世帯	964	23.1	0.6	1.7	2.2	4.4	5.5	71.4	0.6	1.1
		ひとり親世帯	164	43.9	4.3	4.3	6.1	5.5	6.7	45.7	0.6	1.8
		(ひとり親世帯のうち母子家庭)	149	45.6	4.0	4.7	5.4	5.4	5.4	46.3	0.7	0.7
	16・17歳	ふたり親世帯	213	29.6	0.9	4.2	4.2	6.1	11.3	61.5	0.5	1.4
		ひとり親世帯	38	57.9	7.9	2.6	10.5	15.8	23.7	36.8	-	2.6
		(ひとり親世帯のうち母子家庭)	32	59.4	9.4	3.1	12.5	18.8	21.9	37.5	-	3.1

## II 保護者調査の結果

### (6) 親から見た子どものはく奪指標

問 29	あなたの世帯では、経済的な理由で、次のような経験をされたことがありますか。(過去1年間でお考えください) (あてはまるものすべてに○)
------	---

親から見た子どものはく奪指標をみると、「子どもを習い事に通わすことができなかった」がいずれの年齢も1割程度で高くなっています。また、中学生と16・17歳で「子どもにおこづかいを渡すことができなかった」の割合も、それぞれ1割近くとなっています。

等価世帯収入水準別にみると、収入水準の低い世帯ほど「どれもあてはまらない」の割合が低く、何らかの滞り・欠乏経験をしたと答えた割合が高い傾向にあります。特に「子どもを習い事に通わすことができなかった」「子どもにおこづかいを渡すことができなかった」では、中央値の2分の1未満の世帯はいずれの年齢も2～3割程度と高くなっています。

世帯の状況別にみると、ひとり親世帯で「どれもあてはまらない」が、いずれの年齢もふたり親世帯よりも低く、等価世帯収入水準別と同様の傾向がみられます。

図 親から見た子どものはく奪指標

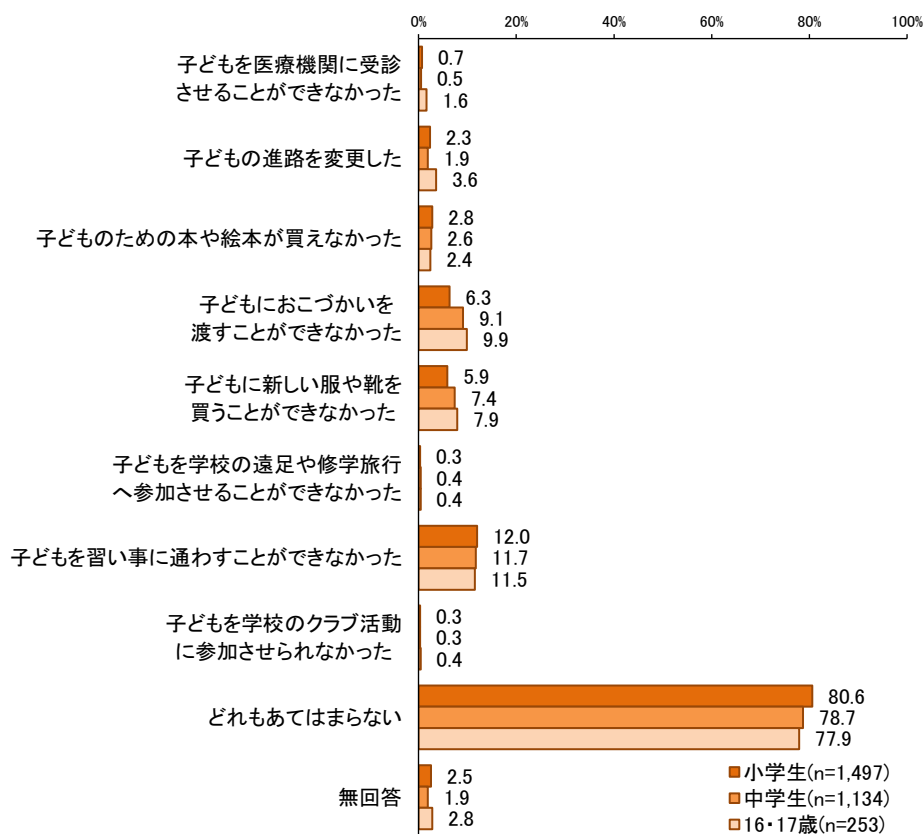




表 等価世帯収入水準、世帯の状況別 親から見た子どものはく奪指標

		回答者数(n)	子どもを医療機関に受診させることができなかった	子どもの進路を変更した	子どものための本や絵本が買えなかった	子どもにおこづかいを渡すことができなかった	子どもに新しい服や靴を買うことができなかった	子どもを学校の遠足や修学旅行へ参加させることができなかった	子どもを習い事に通わすことができなかった	子どもを学校のクラブ活動に参加させられなかった	どれもあてはまらない	無回答	
等価世帯収入水準別	小学生	中央値以上	747	0.1	1.2	0.9	1.2	1.7	0.3	4.8	0.4	90.2	2.7
		中央値の2分の1以上中央値未満	523	0.8	3.8	3.4	9.2	9.2	0.2	15.9	-	75.9	1.9
		中央値の2分の1未満	146	3.4	2.7	10.3	20.5	15.1	0.7	32.9	1.4	51.4	1.4
	中学生	中央値以上	507	0.2	0.4	0.6	2.6	2.0	-	3.6	-	93.3	0.8
		中央値の2分の1以上中央値未満	424	0.7	2.1	4.2	11.6	9.0	-	16.0	-	70.5	3.3
		中央値の2分の1未満	151	1.3	6.0	6.0	25.2	20.5	2.6	29.1	2.0	52.3	0.7
	16・17歳	中央値以上	131	-	-	0.8	3.8	3.8	-	6.9	0.8	90.1	0.8
		中央値の2分の1以上中央値未満	82	3.7	8.5	1.2	12.2	11.0	-	14.6	-	69.5	3.7
		中央値の2分の1未満	26	3.8	7.7	11.5	38.5	15.4	3.8	26.9	-	46.2	3.8
世帯の状況別	小学生	ふたり親世帯	1,355	0.4	2.1	2.4	4.7	4.6	0.2	9.7	0.2	83.2	2.6
		ひとり親世帯	137	3.6	4.4	6.6	22.6	18.2	0.7	34.3	1.5	54.0	2.2
		(ひとり親世帯のうち母子家庭)	121	4.1	4.1	7.4	25.6	19.0	0.8	36.4	1.7	51.2	1.7
	中学生	ふたり親世帯	964	0.4	1.1	2.1	6.7	5.8	0.3	8.8	-	83.1	1.7
		ひとり親世帯	164	1.2	6.7	6.1	22.0	17.1	0.6	28.7	1.8	54.3	3.0
		(ひとり親世帯のうち母子家庭)	149	1.3	6.7	6.7	23.5	18.8	0.7	28.9	2.0	54.4	2.7
	16・17歳	ふたり親世帯	213	1.4	3.3	0.9	7.0	5.6	-	8.0	-	82.6	3.3
		ひとり親世帯	38	2.6	5.3	10.5	26.3	21.1	2.6	31.6	-	52.6	-
		(ひとり親世帯のうち母子家庭)	32	3.1	6.3	9.4	31.3	21.9	3.1	37.5	-	46.9	-

## 8. 心理的な状態

### (1)心の状態

問 30	次の①～⑥の質問について、この1か月間のあなたの気持ちはどのようでしたか。(①～⑥それぞれについて、あてはまるもの1つに○)
------	--

今回の調査では、保護者の心理的な状態を把握するために K6<sup>\*</sup>指標についての調査項目を設定しています。K6 は「神経過敏に感じた」など 6 つの設問項目について「いつも」=4 点、「たいてい」=3 点、「ときどき」=2 点、「少しだけ」=1 点、「まったくない」=0 点として点数化(合計 0～24 点)したもので、点数が高いほどストレスの度合いが高い可能性があります。

※うつ病や不安障害などの精神疾患をスクリーニングすることを目的とした 6 つの設問

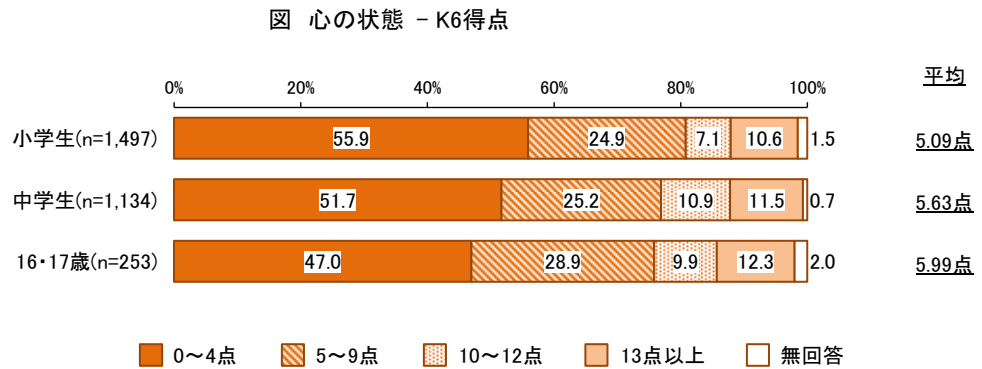
各項目をみると、「いつも」や「たいてい」が高いのは「①神経過敏に感じた」と「⑤何をするのも面倒だと感じた」で、特に 16・17 歳で「⑤何をするのも面倒だと感じた」に「たいてい」と回答したのは 11.1%と、1 割を超えています。また、「③そろそろ、落ち着かなく感じた」と「④気分が沈み込んで、何が起ころても気が晴れないように感じた」は、いずれの年齢も「少しだけ」が 2 割台となっています。

図 心の状態に関する項目

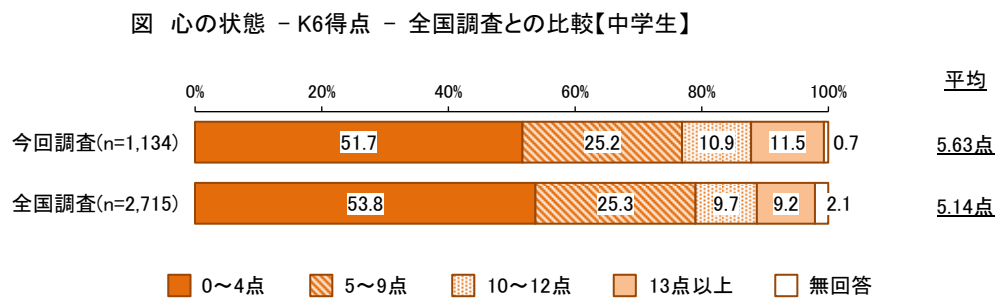
		回答者数 (n)	いつも (4点)	たいてい (3点)	ときどき (2点)	少しだけ (1点)	まったくない (0点)	無回答
① 神経過敏に感じた	小学生	1,497	6.5	9.5	23.4	21.8	37.9	0.7
	中学生	1,134	7.2	9.2	24.9	24.3	34.0	0.4
	16・17 歳	253	7.9	7.9	24.1	26.5	32.0	1.6
② 絶望的だと感じた	小学生	1,497	2.2	2.4	9.6	13.7	71.3	0.8
	中学生	1,134	1.9	4.1	12.0	16.2	65.3	0.4
	16・17 歳	253	3.2	1.2	10.7	18.6	65.2	1.2
③ そろそろ、落ち着かなく感じた	小学生	1,497	2.1	4.5	16.9	22.9	52.8	0.9
	中学生	1,134	2.4	5.4	18.2	24.5	49.1	0.4
	16・17 歳	253	3.2	4.7	20.2	27.7	42.7	1.6
④ 気分が沈み込んで、何が起ころても気が晴れないように感じた	小学生	1,497	3.3	4.9	14.2	25.5	51.5	0.7
	中学生	1,134	2.7	6.3	18.6	25.8	46.1	0.4
	16・17 歳	253	2.0	8.3	22.5	26.5	39.5	1.2
⑤ 何をするのも面倒だと感じた	小学生	1,497	5.6	7.1	20.8	30.8	34.9	0.8
	中学生	1,134	6.2	7.3	23.8	29.5	32.9	0.4
	16・17 歳	253	4.7	11.1	25.3	28.5	29.2	1.2
⑥ 自分は価値のない人間だと感じた	小学生	1,497	3.1	3.7	9.2	16.3	67.0	0.7
	中学生	1,134	3.3	3.5	12.6	17.5	62.6	0.4
	16・17 歳	253	4.0	6.7	9.5	21.3	57.3	1.2

K6 得点

心の状態を K6 得点で見ると、子どもの年齢が上がるほど点数が高くなっています。



全国調査と比較すると、平均点は全国調査よりも高くなっています。



## II 保護者調査の結果

等価世帯収入水準別にみると、収入水準の低い世帯ほど点数が高くなり、中学生と16・17歳では中央値の2分の1未満の世帯の平均点がそれぞれ8.09点、8.44点と、中央値以上の世帯と比較すると3点以上も高くなっています。

世帯の状況別にみると、いずれの年齢もひとり親世帯の点数がふたり親世帯よりも高い傾向にあり、平均で2～3点ほどの差があります。

図 等価世帯収入水準別 心の状態 - K6得点

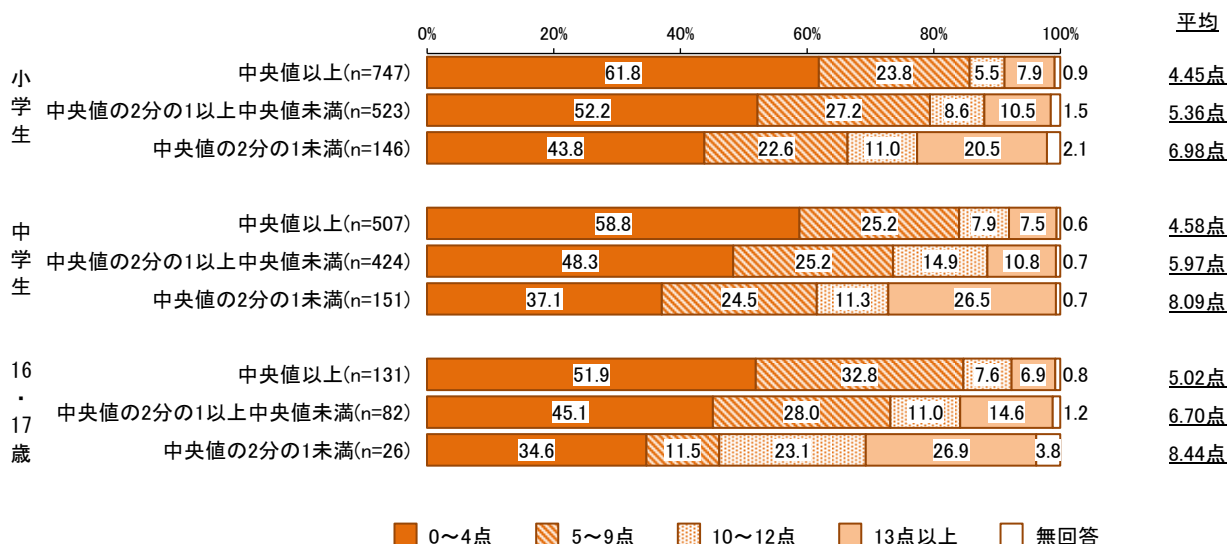
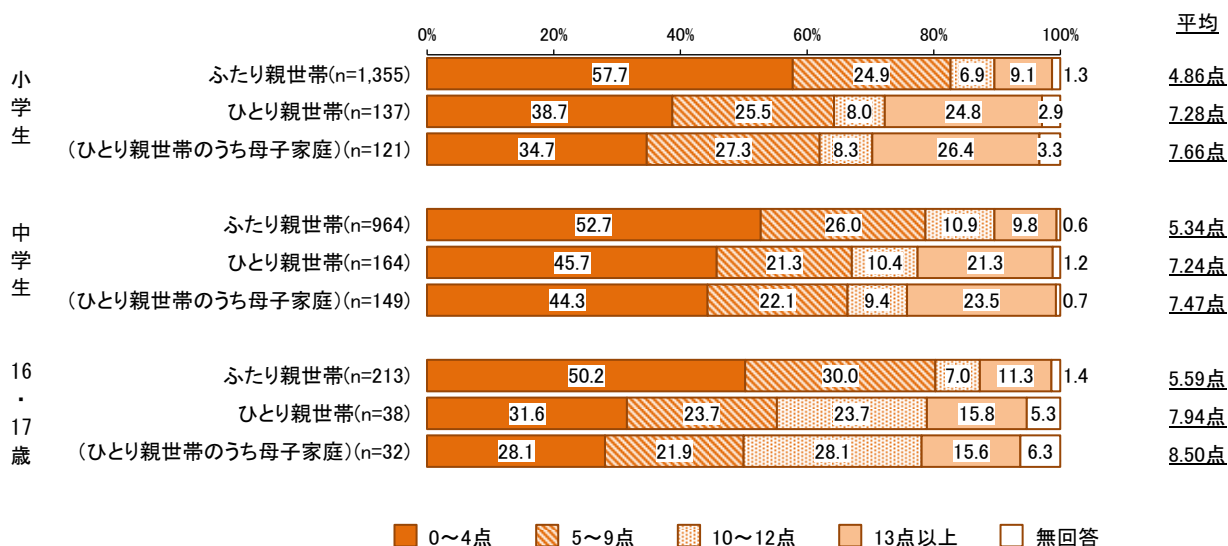


図 世帯の状況別 心の状態 - K6得点



(2)主観的幸福感

問 31	全体として、あなたは最近の生活に、どのくらい満足していますか。「0」（まったく満足していない）から「10」（十分に満足している）の数字で教えてください。（あてはまるもの1つに○）
------	---

主観的幸福感をみると、子どもの年齢が上がるほど、点数が下がる傾向にあります。特に「8～10点」と回答した割合は、小学生が42.8%に対し、16・17歳は30.0%と12.8ポイント低くなっています。

等価世帯収入水準別にみると、収入水準の高い世帯ほど点数が高くなる傾向にあります。小学生と中学生では中央値以上の世帯と中央値の2分の1未満の世帯で2点以上の差があります。

世帯の状況別にみると、ふたり親世帯の方がひとり親世帯よりもいずれの年齢も平均点で1点以上高くなっています。また、16・17歳では「0～2点」が、ふたり親世帯で6.6%に対して、ひとり親世帯が23.7%と15ポイント以上の差があります。

図 主観的幸福感

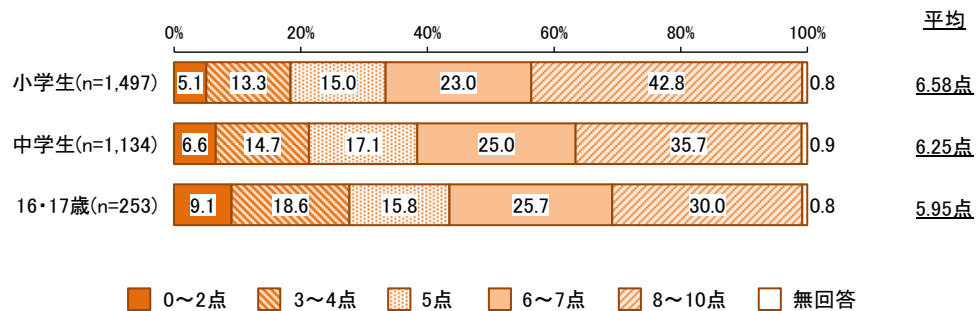
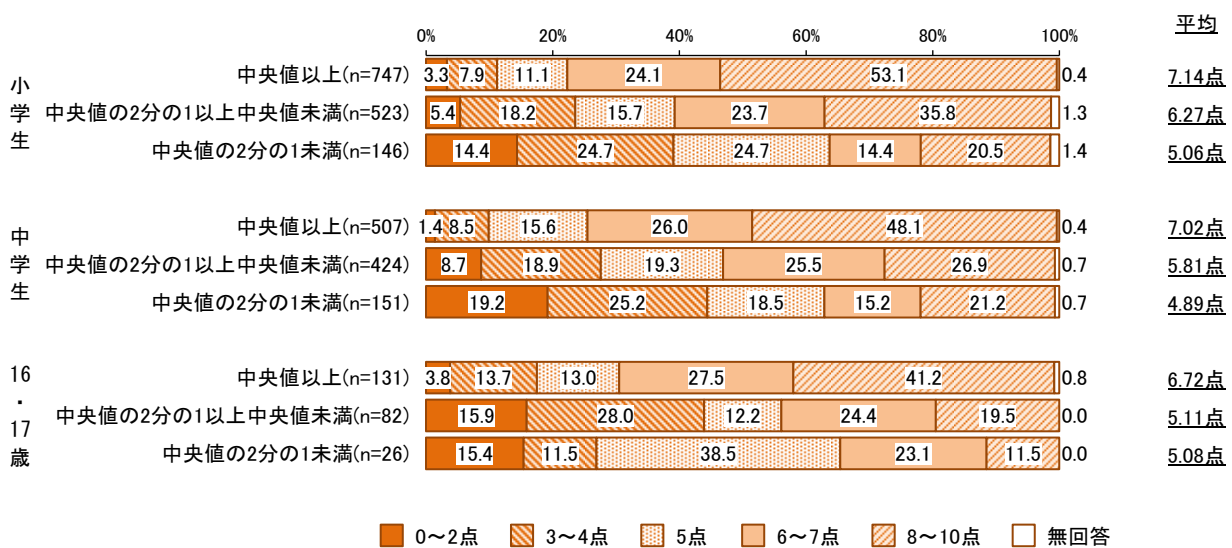
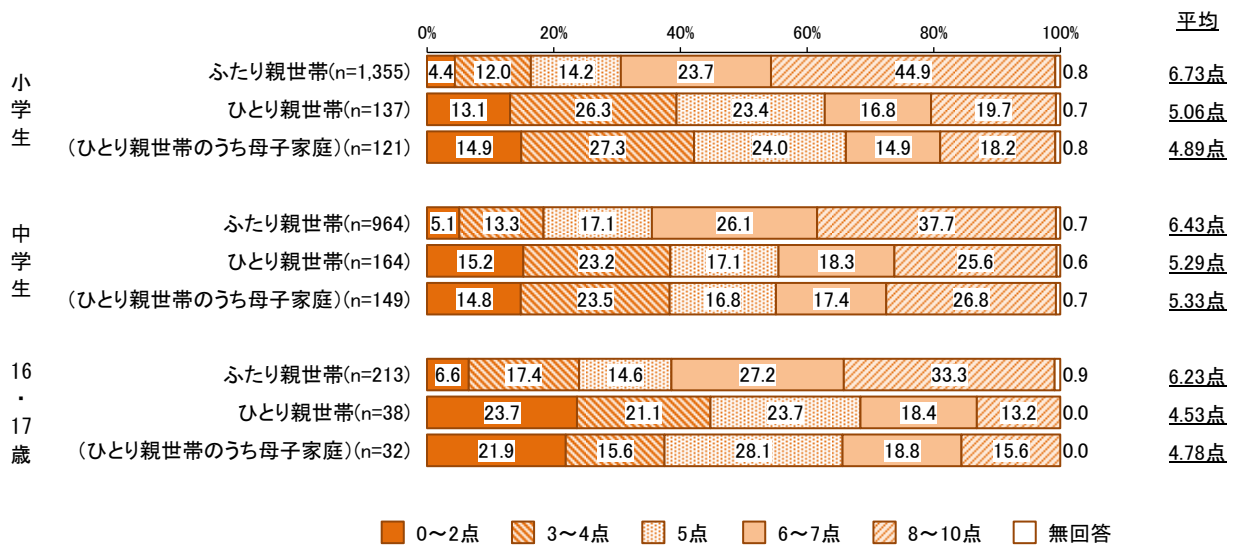


図 等価世帯収入水準別 主観的幸福感



II 保護者調査の結果

図 世帯の状況別 主観的幸福感



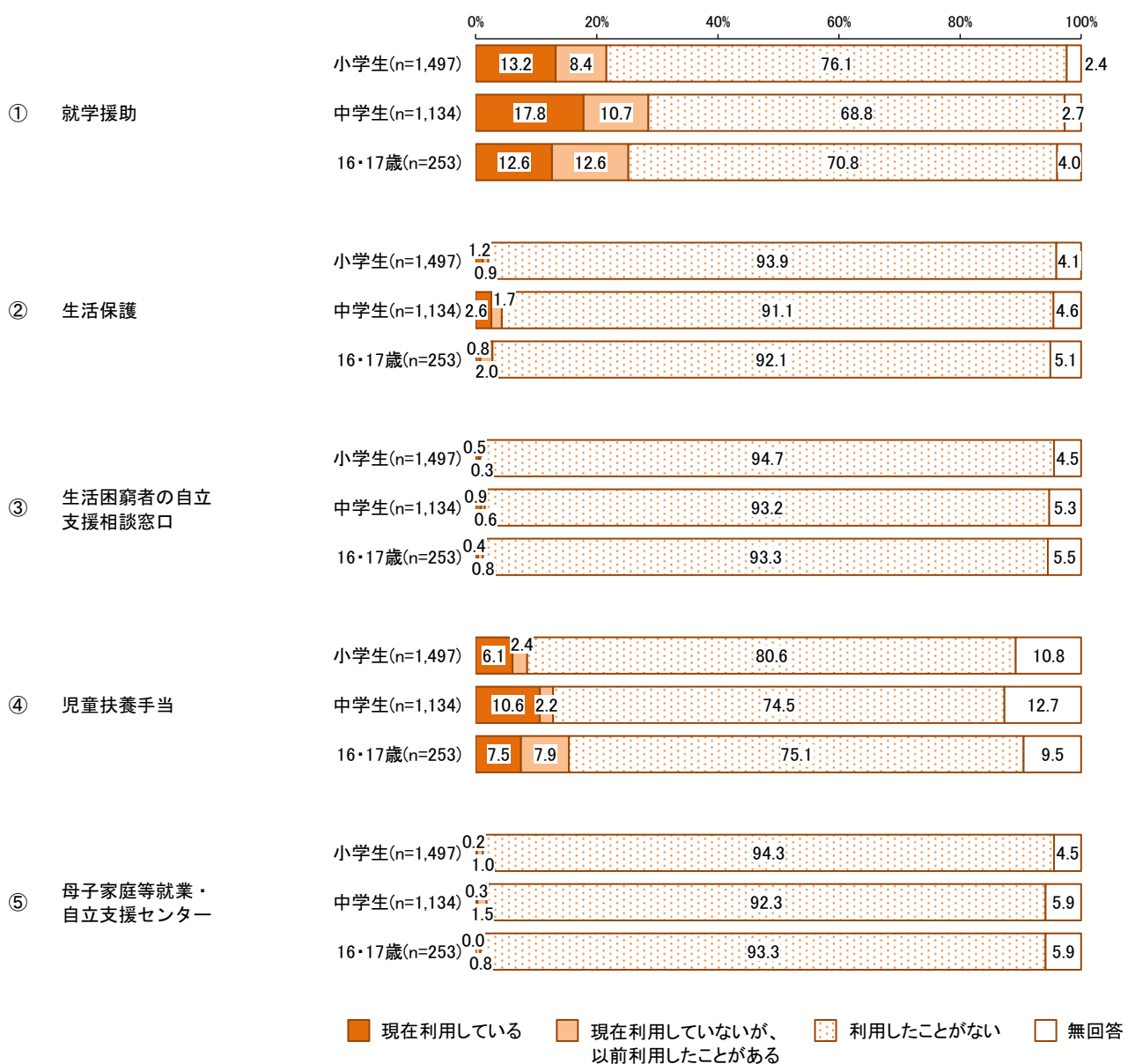
## 9. 支援の利用状況

### (1) 支援の利用状況

問 32	あなたのご家庭では、以下の支援制度をこれまでに利用したことがありますか。(①～⑤それぞれについて、1～3のあてはまるもの1つに○) また、「3 利用したことがない」場合、その理由は何ですか。(①～⑤のあてはまるもの1つに○)
------	--

支援の利用状況を見ると、『利用したことがある』(「現在利用している」と「現在利用していないが、以前利用したことがある」の合計)は、いずれの年齢も「① 就学援助」で1～2割程度、「④ 児童扶養手当」で1割前後となり、それ以外は大多数が「利用したことがない」となっています。

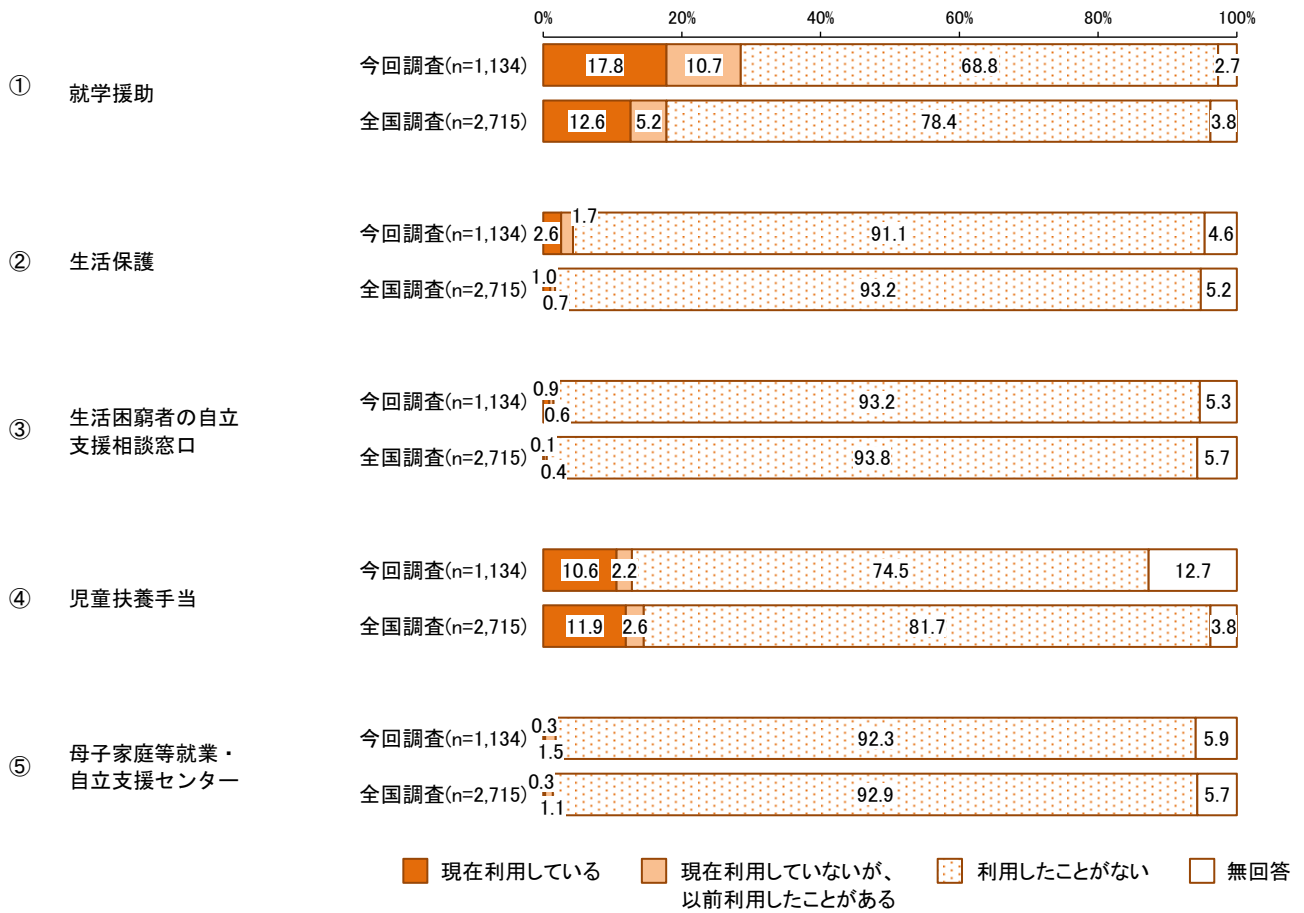
図 支援の利用状況



## II 保護者調査の結果

全国調査と比較すると、『利用したことがある』が全国調査よりも「① 就学援助」で 10.7 ポイント高く、「② 生活保護」で 2.6 ポイント高く、「④ 児童扶養手当」で 1.7 ポイント低くなっています。

図 支援の利用状況 - 全国調査との比較【中学生】

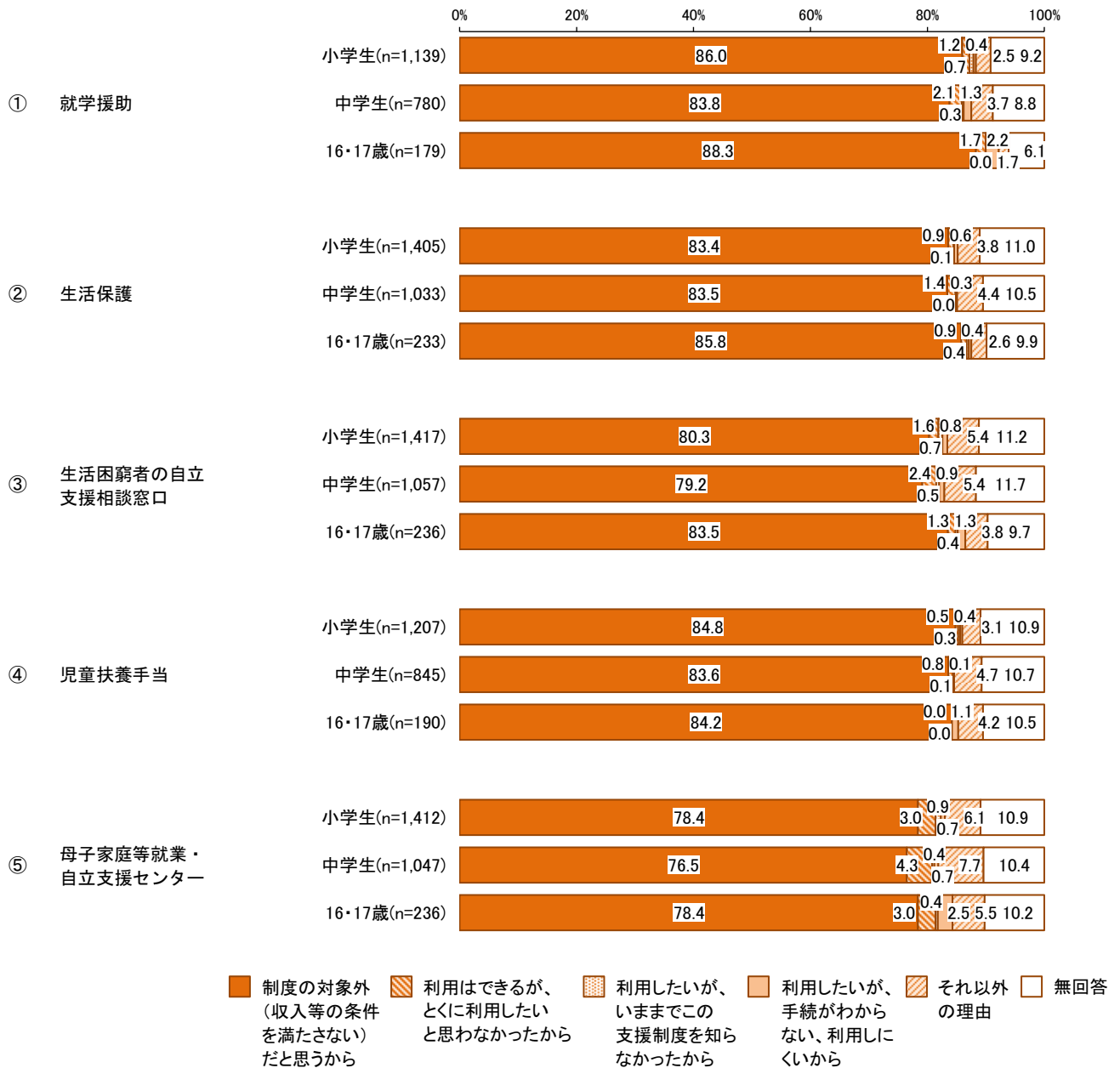




支援を利用したことがない理由

支援を利用したことがない理由をみると、すべての支援項目でいずれの年齢も「制度の対象外(収入等の条件を満たさない)だと思うから」が7～8割台と高くなっています。

図 支援を利用したことがない理由



II 保護者調査の結果

① 就学援助

等価世帯収入水準別にみると、利用の有無について、「現在利用している」は中央値の2分の1未満の世帯でいずれの年齢も6割台と高くなっています。利用したことがない理由は、16・17歳の中央値の2分の1未満の世帯で「利用はできるが、とくに利用したいと思わなかったから」「利用したいが、手続きがわからない、利用しにくいから」がそれぞれ28.6%、14.3%と高くなっています。

世帯の状況別にみると、ひとり親世帯の「現在利用している」が、いずれの年齢もふたり親世帯よりも高く、小学生と中学生の母子家庭で6割程度を占めています。利用したことがない理由は、中学生の母子家庭で「利用はできるが、とくに利用したいと思わなかったから」が16.0%と高くなっています。

表 等価世帯収入水準、世帯の状況別 支援の利用状況 - ① 就学援助

		利用の有無					利用したことがない理由							
		回答者数(n)	現在利用している	現在利用していないが、以前利用したことがある	利用したことがない	無回答	回答者数(n)	制度の対象外(収入等の条件を満たさない)だと思うから	利用はできるが、とくに利用したいと思わなかったから	利用はしたいが、いままでこの支援制度を知らなかったから	利用したいが、手続きがわからない、利用しにくいから	それ以外の理由	無回答	
等価世帯収入水準別	小学生	中央値以上	747	0.1	3.9	93.8	2.1	701	89.0	0.7	0.1	0.1	1.3	8.7
		中央値の2分の1以上中央値未満	523	18.0	14.9	65.4	1.7	342	83.9	1.8	1.2	0.3	4.7	8.2
		中央値の2分の1未満	146	60.3	8.2	28.1	3.4	41	63.4	4.9	7.3	4.9	7.3	12.2
	中学生	中央値以上	507	0.2	7.3	90.7	1.8	460	89.8	0.4	-	0.7	1.7	7.4
		中央値の2分の1以上中央値未満	424	21.7	17.2	58.7	2.4	249	78.3	4.0	0.4	1.2	7.2	8.8
		中央値の2分の1未満	151	69.5	3.3	21.9	5.3	33	54.5	12.1	3.0	9.1	6.1	15.2
	16・17歳	中央値以上	131	-	6.1	90.8	3.1	119	89.9	0.8	-	1.7	1.7	5.9
		中央値の2分の1以上中央値未満	82	15.9	26.8	53.7	3.7	44	90.9	-	-	2.3	-	6.8
		中央値の2分の1未満	26	65.4	3.8	26.9	3.8	7	42.9	28.6	-	14.3	-	14.3
世帯の状況別	小学生	ふたり親世帯	1,355	8.6	8.3	80.9	2.2	1,096	86.6	1.1	0.5	0.3	2.4	9.1
		ひとり親世帯	137	57.7	9.5	29.2	3.6	40	67.5	5.0	5.0	2.5	7.5	12.5
		(ひとり親世帯のうち母子家庭)	121	63.6	9.9	23.1	3.3	28	71.4	3.6	7.1	3.6	7.1	7.1
	中学生	ふたり親世帯	964	10.4	10.9	77.0	1.8	742	85.2	1.6	-	1.2	3.5	8.5
		ひとり親世帯	164	61.6	9.8	22.0	6.7	36	61.1	11.1	5.6	2.8	5.6	13.9
		(ひとり親世帯のうち母子家庭)	149	65.8	10.7	16.8	6.7	25	64.0	16.0	4.0	4.0	-	12.0
	16・17歳	ふたり親世帯	213	8.9	12.2	76.1	2.8	162	90.1	1.9	-	1.2	1.2	5.6
		ひとり親世帯	38	34.2	15.8	39.5	10.5	15	80.0	-	-	6.7	-	13.3
		(ひとり親世帯のうち母子家庭)	32	40.6	15.6	34.4	9.4	11	72.7	-	-	9.1	-	18.2

② 生活保護

等価世帯収入水準別にみると、利用の有無について、「現在利用している」は中学生の中央値の2分の1未満の世帯で13.9%となっています。

世帯の状況別にみると、ひとり親世帯の「現在利用している」が、いずれの年齢もふたり親世帯よりも高く、中学生では14.0%となっています。

表 等価世帯収入水準、世帯の状況別 支援の利用状況 - ② 生活保護

			利用の有無				利用したことがない理由							
			回答者数(n)	現在利用している	現在利用していないが、以前利用したことがある	利用したことがない	無回答	回答者数(n)	制度の対象外(収入等の条件を満たさない)だと思うから	利用できるが、とくに利用したいと思わなかったから	利用はできるが、いままでこの支援制度を知らなかったから	利用したいが、いままでこの支援制度を利用しにくいから	利用したいが、手続がわからない、それ以外の理由	無回答
等価世帯収入水準別	小学生	中央値以上	747	-	-	98.3	1.7	734	88.7	0.4	-	-	1.9	9.0
		中央値の2分の1以上中央値未満	523	0.6	1.7	93.1	4.6	487	81.1	0.6	0.2	0.6	5.5	11.9
		中央値の2分の1未満	146	8.2	2.7	78.8	10.3	115	67.0	6.1	0.9	5.2	8.7	12.2
	中学生	中央値以上	507	-	0.6	97.6	1.8	495	90.1	-	-	-	2.2	7.7
		中央値の2分の1以上中央値未満	424	1.7	1.7	92.0	4.7	390	80.0	1.8	-	0.3	6.2	11.8
		中央値の2分の1未満	151	13.9	6.0	68.2	11.9	103	68.9	6.8	-	1.9	8.7	13.6
	16・17歳	中央値以上	131	-	0.8	98.5	0.8	129	91.5	-	-	-	1.6	7.0
		中央値の2分の1以上中央値未満	82	-	2.4	89.0	8.5	73	84.9	-	-	1.4	1.4	12.3
		中央値の2分の1未満	26	3.8	7.7	80.8	7.7	21	57.1	4.8	4.8	-	9.5	23.8
世帯の状況別	小学生	ふたり親世帯	1,355	0.2	0.5	95.7	3.5	1,297	84.7	0.6	0.1	0.4	3.7	10.5
		ひとり親世帯	137	10.9	4.4	75.9	8.8	104	67.3	4.8	1.0	3.8	5.8	17.3
		(ひとり親世帯のうち母子家庭)	121	11.6	5.0	75.2	8.3	91	67.0	5.5	1.1	4.4	5.5	16.5
	中学生	ふたり親世帯	964	0.5	0.5	96.0	3.0	925	85.0	0.9	-	0.1	3.8	10.3
		ひとり親世帯	164	14.0	8.5	64.6	12.8	106	72.6	5.7	-	1.9	8.5	11.3
		(ひとり親世帯のうち母子家庭)	149	14.1	8.7	63.8	13.4	95	75.8	5.3	-	2.1	7.4	9.5
	16・17歳	ふたり親世帯	213	0.5	-	94.8	4.7	202	87.1	0.5	-	0.5	2.0	9.9
		ひとり親世帯	38	2.6	13.2	76.3	7.9	29	79.3	3.4	3.4	-	3.4	10.3
		(ひとり親世帯のうち母子家庭)	32	3.1	15.6	75.0	6.3	24	75.0	4.2	4.2	-	4.2	12.5

II 保護者調査の結果

③ 生活困窮者の自立支援相談窓口

等価世帯収入水準別にみると、利用の有無について、「現在利用している」は中学生の中央値の2分の1未満の世帯で5.3%となっています。利用したことがない理由は、中学生の中央値の2分の1未満の世帯で「利用はできるが、とくに利用したいと思わなかったから」が12.1%と高くなっています。

世帯の状況別にみると、「現在利用している」は世帯状況にかかわらず、利用は僅かとなっています。利用したことがない理由は、中学生の母子家庭で「利用はできるが、とくに利用したいと思わなかったから」が10.3%と高くなっています。

表 等価世帯収入水準、世帯の状況別 支援の利用状況 - ③ 生活困窮者の自立支援相談窓口

			利用の有無				利用したことがない理由							
			回答者数(n)	現在利用している	現在利用していないが、以前利用したことがある	利用したことがない	無回答	回答者数(n)	制度の対象外(収入等の条件を満たさない)だと思うから	利用はできるが、とくに利用したいと思わなかったから	利用はしたいが、いままでこの支援制度を知らなかったから	利用したいが、手続きがわからない、利用しにくいから	それ以外の理由	無回答
等価世帯収入水準別	小学生	中央値以上	747	0.1	-	98.0	1.9	732	88.1	1.0	-	0.1	2.0	8.7
		中央値の2分の1以上中央値未満	523	0.4	0.4	94.5	4.8	494	77.7	1.2	0.8	0.6	7.1	12.6
		中央値の2分の1未満	146	2.1	2.1	83.6	12.3	122	50.8	8.2	4.9	5.7	18.0	12.3
	中学生	中央値以上	507	-	0.2	98.0	1.8	497	88.3	0.2	0.2	-	2.2	9.1
		中央値の2分の1以上中央値未満	424	0.5	0.2	93.9	5.4	398	77.1	2.5	0.3	-	7.8	12.3
		中央値の2分の1未満	151	5.3	3.3	76.8	14.6	116	47.4	12.1	2.6	7.8	12.1	18.1
	16・17歳	中央値以上	131	-	-	99.2	0.8	130	90.8	-	-	-	2.3	6.9
		中央値の2分の1以上中央値未満	82	-	1.2	90.2	8.5	74	81.1	1.4	-	1.4	4.1	12.2
		中央値の2分の1未満	26	3.8	3.8	84.6	7.7	22	50.0	4.5	4.5	9.1	9.1	22.7
世帯の状況別	小学生	ふたり親世帯	1,355	0.3	0.3	95.6	3.8	1,296	83.3	1.1	0.3	0.4	4.3	10.6
		ひとり親世帯	137	2.9	0.7	85.4	10.9	117	47.9	6.8	5.1	5.1	17.1	17.9
		(ひとり親世帯のうち母子家庭)	121	3.3	0.8	86.0	9.9	104	46.2	6.7	5.8	5.8	18.3	17.3
	中学生	ふたり親世帯	964	0.4	0.3	96.2	3.1	927	82.5	1.4	0.1	0.1	4.3	11.5
		ひとり親世帯	164	3.7	2.4	77.4	16.5	127	56.7	9.4	3.1	6.3	13.4	11.0
		(ひとり親世帯のうち母子家庭)	149	3.4	2.0	77.9	16.8	116	57.8	10.3	2.6	6.9	12.9	9.5
	16・17歳	ふたり親世帯	213	-	0.5	94.8	4.7	202	86.6	0.5	-	0.5	3.0	9.4
		ひとり親世帯	38	2.6	2.6	84.2	10.5	32	65.6	6.3	3.1	6.3	6.3	12.5
		(ひとり親世帯のうち母子家庭)	32	3.1	3.1	84.4	9.4	27	59.3	7.4	3.7	7.4	7.4	14.8

④ 児童扶養手当

等価世帯収入水準別にみると、利用の有無について、「現在利用している」は中央値の2分の1未満の世帯でいずれの年齢も4割前後と高く、特に中学生では45.0%となっています。

世帯の状況別にみると、小学生と中学生の母子家庭で「現在利用している」がいずれも7割程度を占めています。利用したことがない理由は、中学生のひとり親世帯で「利用はできるが、とくに利用したいと思わなかったから」、16・17歳のひとり親世帯で「利用したいが、手続きがわからない、利用しにくいから」が1割程度と高くなっています。

表 等価世帯収入水準、世帯の状況別 支援の利用状況 - ④ 児童扶養手当

			利用の有無				利用したことがない理由							
			回答者数(n)	現在利用している	現在利用していないが、以前利用したことがある	利用したことがない	無回答	回答者数(n)	制度の対象外(収入等の条件を満たさない)だと思うから	利用はできるが、とくに利用したいと思わなかったから	利用したいが、いままでこの支援制度を知らなかったから	利用したいが、手続きがわからない、利用しにくいから	それ以外の理由	無回答
等価世帯収入水準別	小学生	中央値以上	747	0.1	1.5	89.7	8.7	670	88.2	0.4	0.1	-	1.9	9.3
		中央値の2分の1以上中央値未満	523	5.0	4.2	79.5	11.3	416	82.5	0.5	0.5	0.7	4.3	11.5
		中央値の2分の1未満	146	41.1	1.4	41.8	15.8	61	72.1	1.6	1.6	3.3	9.8	11.5
	中学生	中央値以上	507	-	2.0	86.2	11.8	437	89.5	-	-	-	2.7	7.8
		中央値の2分の1以上中央値未満	424	11.3	2.4	73.8	12.5	313	81.2	1.0	0.3	-	6.4	11.2
		中央値の2分の1未満	151	45.0	2.6	36.4	15.9	55	54.5	7.3	-	1.8	12.7	23.6
	16・17歳	中央値以上	131	-	6.1	88.5	5.3	116	89.7	-	-	-	2.6	7.8
		中央値の2分の1以上中央値未満	82	6.1	12.2	67.1	14.6	55	80.0	-	-	3.6	3.6	12.7
		中央値の2分の1未満	26	38.5	7.7	42.3	11.5	11	45.5	-	-	-	18.2	36.4
世帯の状況別	小学生	ふたり親世帯	1,355	-	1.9	86.9	11.2	1,177	85.0	0.5	0.3	0.3	3.1	10.9
		ひとり親世帯	137	67.2	7.3	19.7	5.8	27	77.8	-	3.7	3.7	3.7	11.1
		(ひとり親世帯のうち母子家庭)	121	72.7	6.6	15.7	5.0	19	84.2	-	5.3	5.3	-	5.3
	中学生	ふたり親世帯	964	-	1.5	84.3	14.2	813	84.6	0.5	0.1	0.1	4.2	10.5
		ひとり親世帯	164	71.3	6.7	18.9	3.0	31	58.1	9.7	-	-	19.4	12.9
		(ひとり親世帯のうち母子家庭)	149	74.5	7.4	14.8	3.4	22	59.1	13.6	-	-	18.2	9.1
	16・17歳	ふたり親世帯	213	-	6.6	84.0	9.4	179	85.5	-	-	0.6	3.9	10.1
		ひとり親世帯	38	50.0	15.8	26.3	7.9	10	70.0	-	-	10.0	-	20.0
		(ひとり親世帯のうち母子家庭)	32	56.3	12.5	25.0	6.3	8	62.5	-	-	12.5	-	25.0

II 保護者調査の結果

⑤ 母子家庭等就業・自立支援センター

等価世帯収入水準別にみると、利用の有無について、収入にかかわらず「現在利用している」はわずかとなっています。

世帯の状況別にみると、利用の有無について、世帯の状況にかかわらず「現在利用している」はわずかとなっています。利用したことがない理由は、小学生と中学生の母子家庭で「利用はできるが、とくに利用したいと思わなかったから」が、それぞれ 25.5%、30.6%と高くなっています。

表 等価世帯収入水準、世帯の状況別 支援の利用状況 - ⑤ 母子家庭等就業・自立支援センター

		利用の有無					利用したことがない理由							
		回答者数(n)	現在利用している	現在利用していないが、以前利用したことがある	利用したことがない	無回答	回答者数(n)	制度の対象外(収入等の条件を満たさない)だと思うから	利用はできるが、とくに利用したいと思わなかったから	利用したいが、いままではこの支援制度を知らなかったから	利用したいが、手続きがわからない、利用しにくいから	それ以外の理由	無回答	
等価世帯収入水準別	小学生	中央値以上	747	0.1	0.4	97.7	1.7	730	87.0	1.2	-	0.3	2.7	8.8
		中央値の2分の1以上中央値未満	523	-	1.0	94.3	4.8	493	75.5	2.8	1.4	0.6	7.9	11.8
		中央値の2分の1未満	146	1.4	4.1	82.2	12.3	120	41.7	15.0	5.0	4.2	20.8	13.3
	中学生	中央値以上	507	-	0.4	97.2	2.4	493	87.0	0.8	-	-	4.3	7.9
		中央値の2分の1以上中央値未満	424	-	0.7	93.4	5.9	396	73.7	4.8	0.5	0.5	9.3	11.1
		中央値の2分の1未満	151	2.0	6.6	75.5	15.9	114	39.5	19.3	1.8	4.4	19.3	15.8
	16・17歳	中央値以上	131	-	-	99.2	0.8	130	88.5	1.5	-	0.8	3.1	6.2
		中央値の2分の1以上中央値未満	82	-	1.2	90.2	8.5	74	74.3	2.7	-	4.1	6.8	12.2
		中央値の2分の1未満	26	-	3.8	84.6	11.5	22	36.4	9.1	4.5	9.1	13.6	27.3
世帯の状況別	小学生	ふたり親世帯	1,355	-	0.4	95.8	3.8	1,298	83.1	1.2	0.4	0.3	4.9	10.2
		ひとり親世帯	137	2.2	7.3	80.3	10.2	110	22.7	24.5	7.3	5.5	20.0	20.0
		(ひとり親世帯のうち母子家庭)	121	0.8	8.3	81.0	9.9	98	19.4	25.5	8.2	6.1	21.4	19.4
	中学生	ふたり親世帯	964	-	0.5	95.7	3.7	923	82.6	1.1	0.1	-	5.9	10.4
		ひとり親世帯	164	1.8	7.3	73.8	17.1	121	32.2	28.9	2.5	5.8	21.5	9.1
		(ひとり親世帯のうち母子家庭)	149	2.0	8.1	72.5	17.4	108	31.5	30.6	1.9	6.5	22.2	7.4
	16・17歳	ふたり親世帯	213	-	-	95.3	4.7	203	84.2	1.0	-	0.5	4.4	9.9
		ひとり親世帯	38	-	5.3	81.6	13.2	31	45.2	16.1	3.2	12.9	9.7	12.9
		(ひとり親世帯のうち母子家庭)	32	-	6.3	81.3	12.5	26	34.6	19.2	3.8	15.4	11.5	15.4

## 10. 新型コロナウイルス感染症の影響

### (1) コロナの仕事への影響

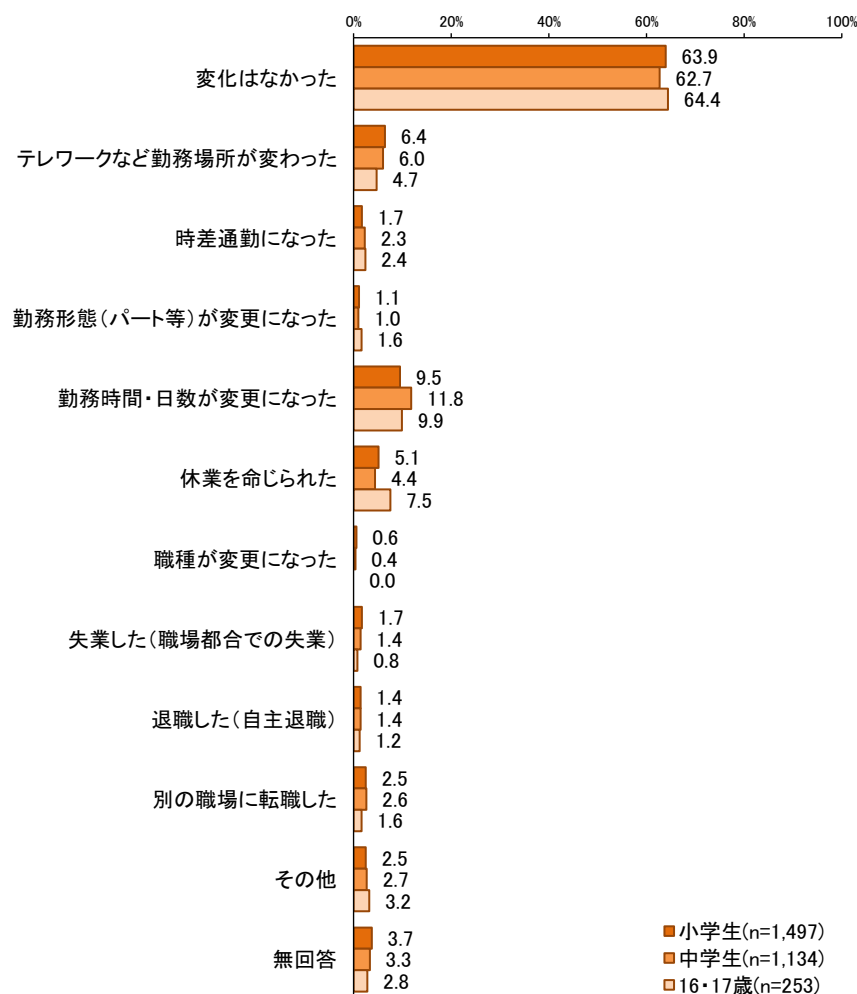
問 33	新型コロナウイルス感染症の影響により、あなたの職場や職種が変わる、または仕事内容が変わるなどの変化はありましたか。(あなたにとってもっとも影響が大きかったもの1つに○)
------	--

コロナの仕事への影響をみると、影響のあった内訳としては「勤務時間・日数が変更になった」がいずれの年齢も1割前後で最も高く、次いで小学生と中学生で「テレワークなど勤務場所が変わった」、16・17歳で「休業を命じられた」が高くなっています。「変化はなかった」はいずれの年齢も6割台となっています。

等価世帯収入水準別にみると、中央値以上の世帯で「テレワークなど勤務場所が変わった」がいずれの年齢も1割近くとなっています。また、16・17歳の中央値の2分の1未満の世帯で「休業を命じられた」が11.5%と比較的高くなっています。一方、いずれの年齢も中央値の2分の1未満の世帯では「変化はなかった」は5割台と他の収入層と比べて低くなっています。

世帯の状況別にみると、いずれの年齢もひとり親世帯では「勤務時間・日数が変更になった」と「休業を命じられた」がふたり親世帯より高くなっています。

図 コロナの仕事への影響  
【もっとも影響が大きかったもの1つ】



II 保護者調査の結果

表 等価世帯収入水準、世帯の状況別 コロナの仕事への影響

【もっとも影響が大きかったもの1つ】

		回答者数(n)	変化はなかった	テレワークなど勤務場所が変わった	時差通勤になった	勤務形態(パート等)が変更になった	勤務時間・日数が変更になった	休業を命じられた	職種が変更になった	失業した(職場都合での失業)	退職した(自主退職)	別の職場に転職した	その他	無回答	
等価世帯収入水準別	小学生	中央値以上	747	67.2	9.1	1.6	0.8	6.3	4.1	0.9	1.1	1.2	2.0	1.9	3.7
		中央値の2分の1以上中央値未満	523	60.8	5.2	1.5	1.5	13.0	5.9	0.2	2.3	1.9	2.1	2.7	2.9
		中央値の2分の1未満	146	55.5	-	1.4	2.1	15.1	7.5	0.7	2.7	1.4	5.5	4.8	3.4
	中学生	中央値以上	507	64.7	8.9	2.6	0.6	9.3	3.0	0.8	1.2	1.0	3.2	2.2	2.8
		中央値の2分の1以上中央値未満	424	62.7	4.2	2.4	1.4	13.0	5.2	0.2	1.7	0.9	1.7	3.1	3.5
		中央値の2分の1未満	151	56.3	2.0	-	0.7	17.2	7.9	-	2.0	3.3	4.0	4.6	2.0
	16・17歳	中央値以上	131	67.2	7.6	3.1	1.5	7.6	6.1	-	-	1.5	0.8	2.3	2.3
		中央値の2分の1以上中央値未満	82	68.3	1.2	2.4	-	12.2	7.3	-	1.2	1.2	1.2	2.4	2.4
		中央値の2分の1未満	26	50.0	3.8	-	7.7	15.4	11.5	-	3.8	-	3.8	3.8	-
世帯の状況別	小学生	ふたり親世帯	1,355	65.1	6.9	1.3	1.2	9.2	4.7	0.6	1.6	1.3	2.1	2.4	3.6
		ひとり親世帯	137	51.1	2.2	5.1	0.7	13.1	8.8	0.7	2.2	2.2	6.6	3.6	3.6
		(ひとり親世帯のうち母子家庭)	121	48.8	2.5	5.8	0.8	13.2	9.9	0.8	2.5	2.5	7.4	3.3	2.5
	中学生	ふたり親世帯	964	63.3	6.4	2.2	1.0	11.3	3.9	0.5	1.3	1.5	2.6	2.6	3.3
		ひとり親世帯	164	60.4	3.7	3.0	0.6	14.6	7.3	-	1.8	1.2	2.4	2.4	2.4
		(ひとり親世帯のうち母子家庭)	149	59.7	4.0	3.4	0.7	14.8	7.4	-	2.0	1.3	2.7	2.7	1.3
	16・17歳	ふたり親世帯	213	65.3	4.2	2.3	1.4	9.4	7.5	-	0.5	1.4	1.4	3.3	3.3
		ひとり親世帯	38	57.9	7.9	2.6	2.6	13.2	7.9	-	2.6	-	2.6	2.6	-
		(ひとり親世帯のうち母子家庭)	32	56.3	6.3	3.1	3.1	15.6	9.4	-	3.1	-	3.1	-	-



(2) コロナの仕事への影響は負担となったか

問 34 仕事の変化はあなたにとって負担になったと思いますか。(あてはまるもの1つに○)

コロナの仕事への影響は負担となったかをみると、いずれの年齢も『負担に感じた』(「とても負担に感じた」と「まあまあ負担に感じた」の合計)が5~6割台、『負担に感じなかった』(「まったく負担に感じなかった」と「あまり負担に感じなかった」の合計)が2~3割台となっています。特に16・17歳の『負担に感じた』が68.7%となっており、負担を感じている割合が高くなっています。

等価世帯収入水準別にみると、中央値の2分の1未満の世帯のいずれの年齢も『負担に感じた』が7割以上で、特に16・17歳は92.3%と9割以上が負担を感じています。

世帯の状況別にみると、小学生と16・17歳のひとり親世帯では『負担に感じた』がふたり親世帯よりも大幅に高く、16・17歳で93.8%となっています。中学生も『負担に感じた』がふたり親世帯よりも高くなっていますが、大きな差はありません。

図 コロナの仕事への影響は負担となったか

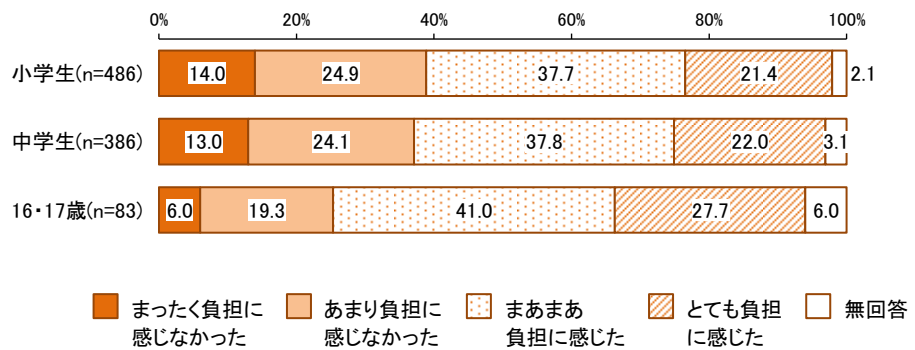
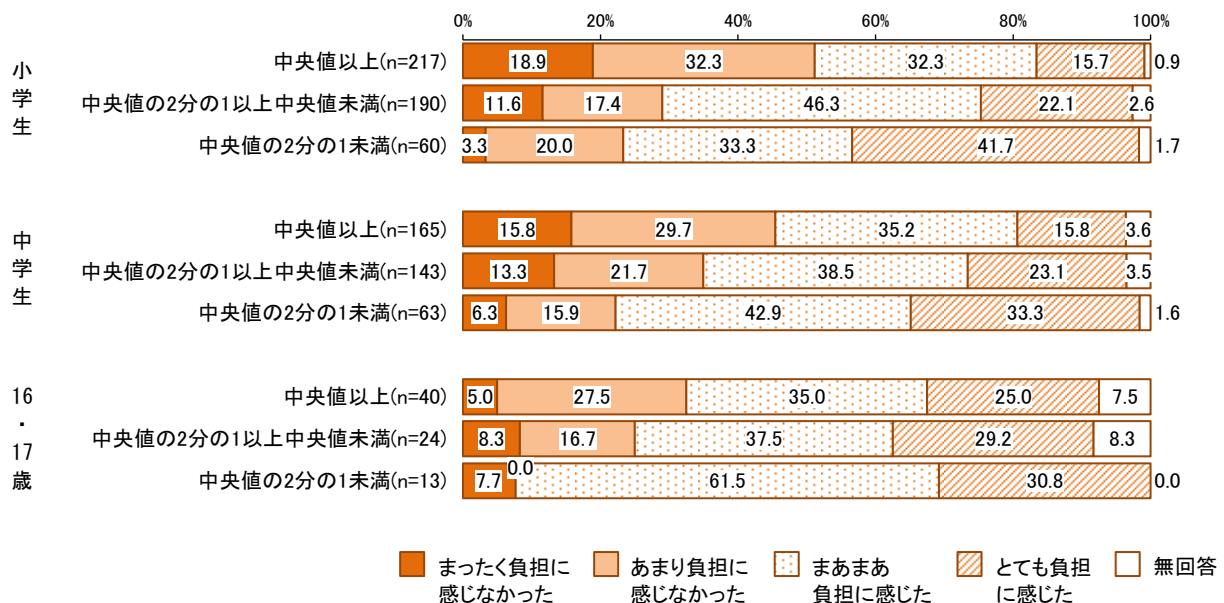
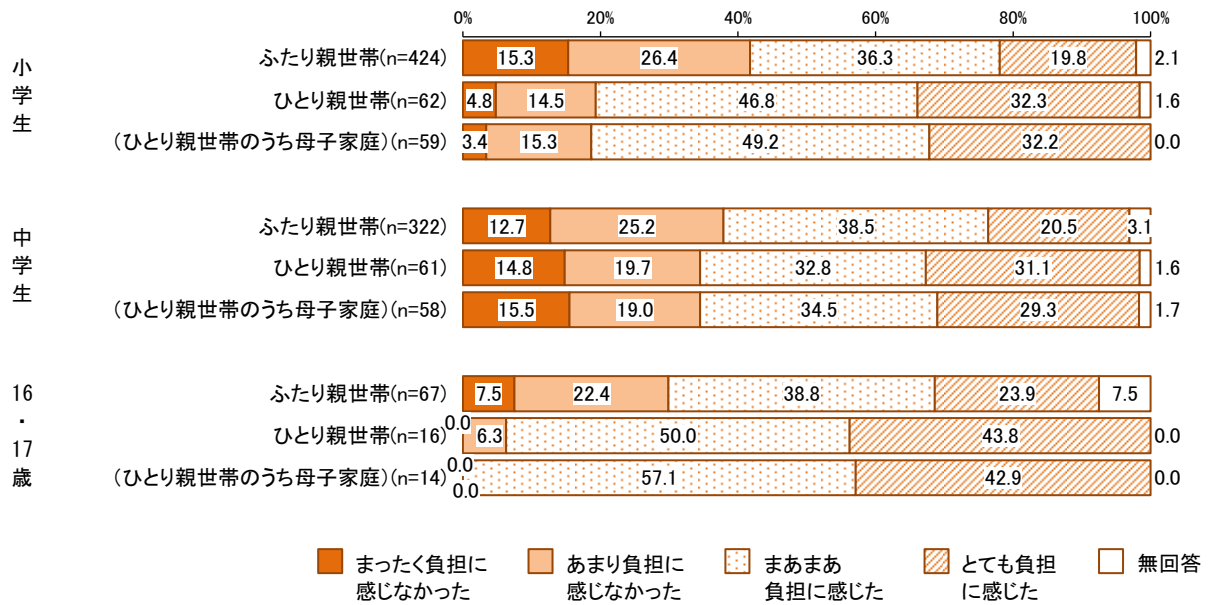


図 等価世帯収入水準別 コロナの仕事への影響は負担となったか



II 保護者調査の結果

図 世帯の状況別 コロナの仕事への影響は負担となったか



## 11. 相談窓口の認知状況

### (1) 相談窓口の認知度

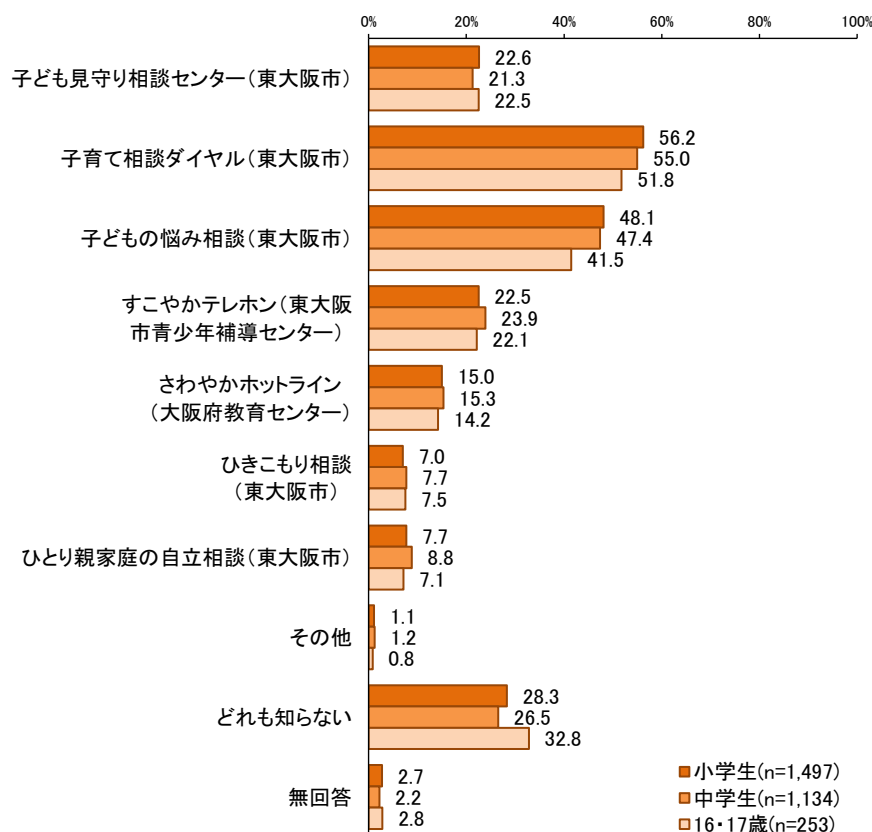
問 35	あなたは、子どものことや子育てについて相談できる、次のような相談窓口を知っていますか。(あてはまるものすべてに○)
------	---

相談窓口の認知度をみると、いずれの年齢も「子育て相談ダイヤル(東大阪市)」、「子どもの悩み相談(東大阪市)」の順で 4～5 割と高くなっており、「すこやかテレホン(東大阪市青少年補導センター)」、「子ども見守り相談センター(東大阪市)」がいずれの年齢も 2 割台となっています。「どれも知らない」は、いずれの年齢も 2～3 割台となっています。

等価世帯収入水準別にみると、中学生と 16・17 歳の中央値の 2 分の 1 以上中央値未満の世帯で「子どもの悩み相談(東大阪市)」が 5 割台、小学生と中学生の中央値の 2 分の 1 未満の世帯で「ひとり親家庭の自立相談(東大阪市)」が 1～2 割台と、他の収入層と比べて高くなっています。

世帯の状況別にみると、小学生と 16・17 歳のひとり親世帯で「子ども見守り相談センター(東大阪市)」が 3 割台と高くなっています。

図 相談窓口の認知度



II 保護者調査の結果

表 等価世帯収入水準、世帯の状況別 相談窓口の認知度

		回答者数(n)	子ども見守り相談センター(東大阪 市)	子育て相談ダイヤル(東大阪市)	子どもの悩み相談(東大阪市)	すこやかテレホン(東大阪市青少年 補導センター)	さわやかホットライン(大阪府教育 センター)	ひきこもり相談(東大阪市)	ひとり親家庭の自立相談(東大阪 市)	その他	どれも知らない	無回答	
等価世帯収入水準別	小学生	中央値以上	747	22.8	57.3	48.7	22.0	15.5	7.0	7.0	0.8	28.9	1.6
		中央値の2分の1以上中央値未満	523	21.6	56.0	49.5	23.3	14.1	6.5	4.6	1.3	27.7	3.1
		中央値の2分の1未満	146	28.1	56.8	45.9	24.0	17.8	10.3	21.9	2.1	25.3	3.4
	中学生	中央値以上	507	19.3	55.0	47.1	24.1	12.8	8.1	6.5	0.8	27.0	2.4
		中央値の2分の1以上中央値未満	424	21.5	58.7	50.2	24.8	18.9	6.6	8.5	0.7	23.8	1.7
		中央値の2分の1未満	151	26.5	45.7	41.7	21.2	13.2	9.3	16.6	2.6	32.5	2.6
	16・17歳	中央値以上	131	19.8	47.3	38.2	20.6	16.8	9.2	7.6	0.8	36.6	3.8
		中央値の2分の1以上中央値未満	82	24.4	59.8	51.2	26.8	13.4	7.3	8.5	-	32.9	-
		中央値の2分の1未満	26	30.8	57.7	34.6	11.5	3.8	3.8	3.8	3.8	19.2	-
世帯の状況別	小学生	ふたり親世帯	1,355	21.8	56.8	48.3	22.6	14.8	6.7	5.3	1.1	28.0	2.6
		ひとり親世帯	137	30.7	50.4	46.7	22.6	18.2	10.2	31.4	1.5	30.7	2.9
		(ひとり親世帯のうち母子家庭)	121	32.2	49.6	44.6	23.1	18.2	10.7	33.9	1.7	31.4	3.3
	中学生	ふたり親世帯	964	21.1	56.7	48.8	24.7	15.2	7.2	5.9	0.8	25.9	1.8
		ひとり親世帯	164	22.0	45.7	40.2	19.5	15.9	9.8	25.0	3.0	29.9	4.3
		(ひとり親世帯のうち母子家庭)	149	22.8	47.7	43.0	21.5	16.8	10.7	27.5	2.0	28.9	2.7
	16・17歳	ふたり親世帯	213	20.7	51.6	43.7	22.1	15.0	8.5	5.2	0.9	32.9	3.3
		ひとり親世帯	38	34.2	55.3	31.6	23.7	10.5	2.6	18.4	-	28.9	-
		(ひとり親世帯のうち母子家庭)	32	34.4	53.1	28.1	18.8	12.5	-	15.6	-	31.3	-

(2) 困った時の相談相手

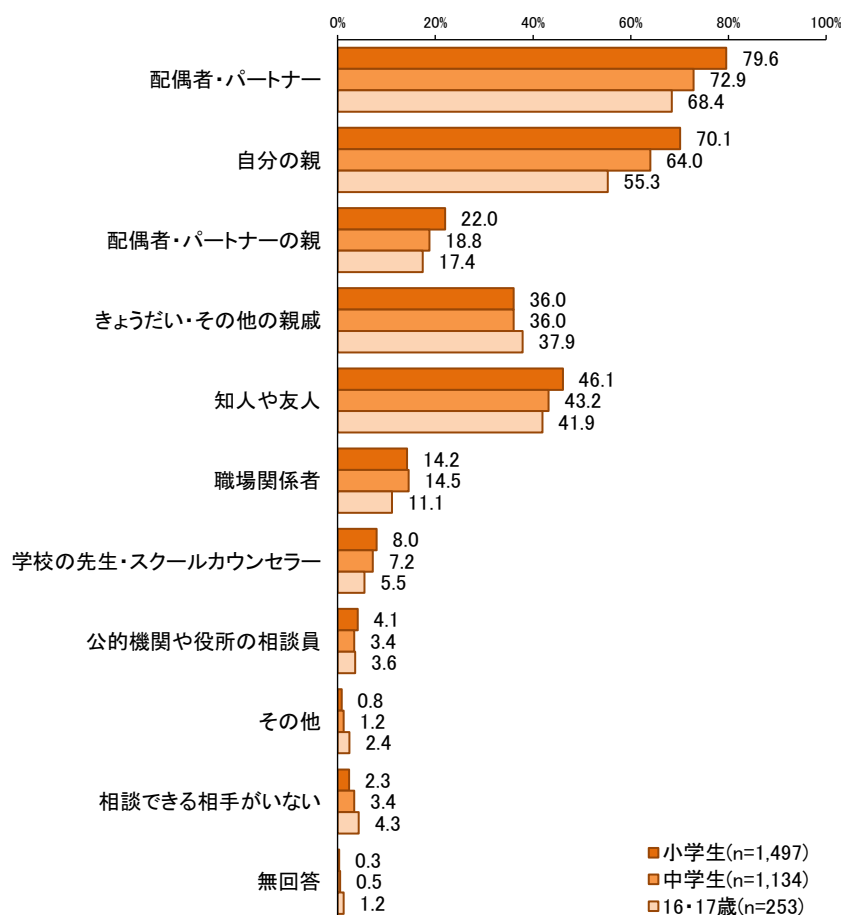
問 36	あなたが本当に困ったときや悩みがあるとき、相談相手や相談先はどこですか。(あてはまるものすべてに○)
------	--

困った時の相談相手を見ると、いずれの年齢も「配偶者・パートナー」が最も高く、小学生で 79.6%と 8 割近くとなっています。次いで「自分の親」、「知人や友人」、「きょうだい・その他の親戚」の順に高くなっています。

等価世帯収入水準別にみると、いずれの年齢も中央値以上の世帯と中央値の 2 分の 1 以上中央値未満の世帯で「配偶者・パートナー」、中央値の 2 分の 1 未満の世帯で「自分の親」の割合が最も高くなっています。一方、中央値の 2 分の 1 未満の世帯では、「知人や友人」が 16・17 歳で 23.1%と低く、中学生と 16・17 歳で「相談できる相手がない」がともに 1 割台となっています。

世帯の状況別にみると、いずれの年齢もふたり親世帯で「配偶者・パートナー」、ひとり親世帯で「自分の親」の割合が最も高くなっています。

図 困った時の相談相手



II 保護者調査の結果

表 等価世帯収入水準、世帯の状況別 困った時の相談相手

		回答者数(n)	配偶者・パートナー	自分の親	配偶者・パートナーの親	きょうだい・その他の親戚	知人や友人	職場関係者	学校の先生・スクールカウンセラー	公的機関や役所の相談員	その他	相談できる相手がいない	無回答	
等価世帯収入水準別	小学生	中央値以上	747	86.9	72.4	23.7	38.8	47.4	17.0	8.3	4.4	0.8	1.2	0.1
		中央値の2分の1以上中央値未満	523	79.5	69.4	22.4	34.6	45.3	10.7	7.1	3.8	1.0	2.7	0.2
		中央値の2分の1未満	146	43.8	65.1	13.0	32.9	43.8	14.4	8.2	4.8	0.7	5.5	0.7
	中学生	中央値以上	507	84.8	68.6	21.5	38.5	46.2	16.2	8.5	3.2	0.6	0.6	0.4
		中央値の2分の1以上中央値未満	424	71.0	64.2	20.5	35.6	43.2	14.6	5.9	3.3	1.7	4.0	0.2
		中央値の2分の1未満	151	41.7	55.0	8.6	31.8	39.7	11.3	7.9	5.3	1.3	11.3	-
	16・17歳	中央値以上	131	80.2	61.1	19.8	36.6	46.6	13.0	6.1	3.8	3.8	3.1	-
		中央値の2分の1以上中央値未満	82	59.8	53.7	15.9	42.7	42.7	11.0	4.9	3.7	1.2	3.7	1.2
		中央値の2分の1未満	26	42.3	46.2	15.4	38.5	23.1	7.7	-	-	-	11.5	-
世帯の状況別	小学生	ふたり親世帯	1,355	86.9	70.6	24.1	37.1	46.3	13.7	8.5	4.1	0.7	1.7	0.1
		ひとり親世帯	137	8.8	66.4	1.5	25.5	43.8	19.7	3.6	5.1	2.2	8.8	0.7
		(ひとり親世帯のうち母子家庭)	121	8.3	67.8	0.8	25.6	44.6	19.0	3.3	5.0	2.5	8.3	0.8
	中学生	ふたり親世帯	964	84.1	65.8	21.8	35.4	42.6	13.0	7.0	3.4	0.7	1.9	0.3
		ひとり親世帯	164	9.8	56.1	1.8	40.2	47.0	23.8	9.1	3.7	3.0	12.2	0.6
		(ひとり親世帯のうち母子家庭)	149	10.1	57.7	1.3	39.6	48.3	24.2	10.1	4.0	2.7	12.8	0.7
	16・17歳	ふたり親世帯	213	79.3	54.9	20.2	36.6	39.9	10.3	5.2	3.3	2.3	2.8	1.4
		ひとり親世帯	38	10.5	57.9	2.6	47.4	52.6	15.8	7.9	5.3	2.6	13.2	-
		(ひとり親世帯のうち母子家庭)	32	9.4	56.3	-	43.8	53.1	12.5	6.3	3.1	-	15.6	-

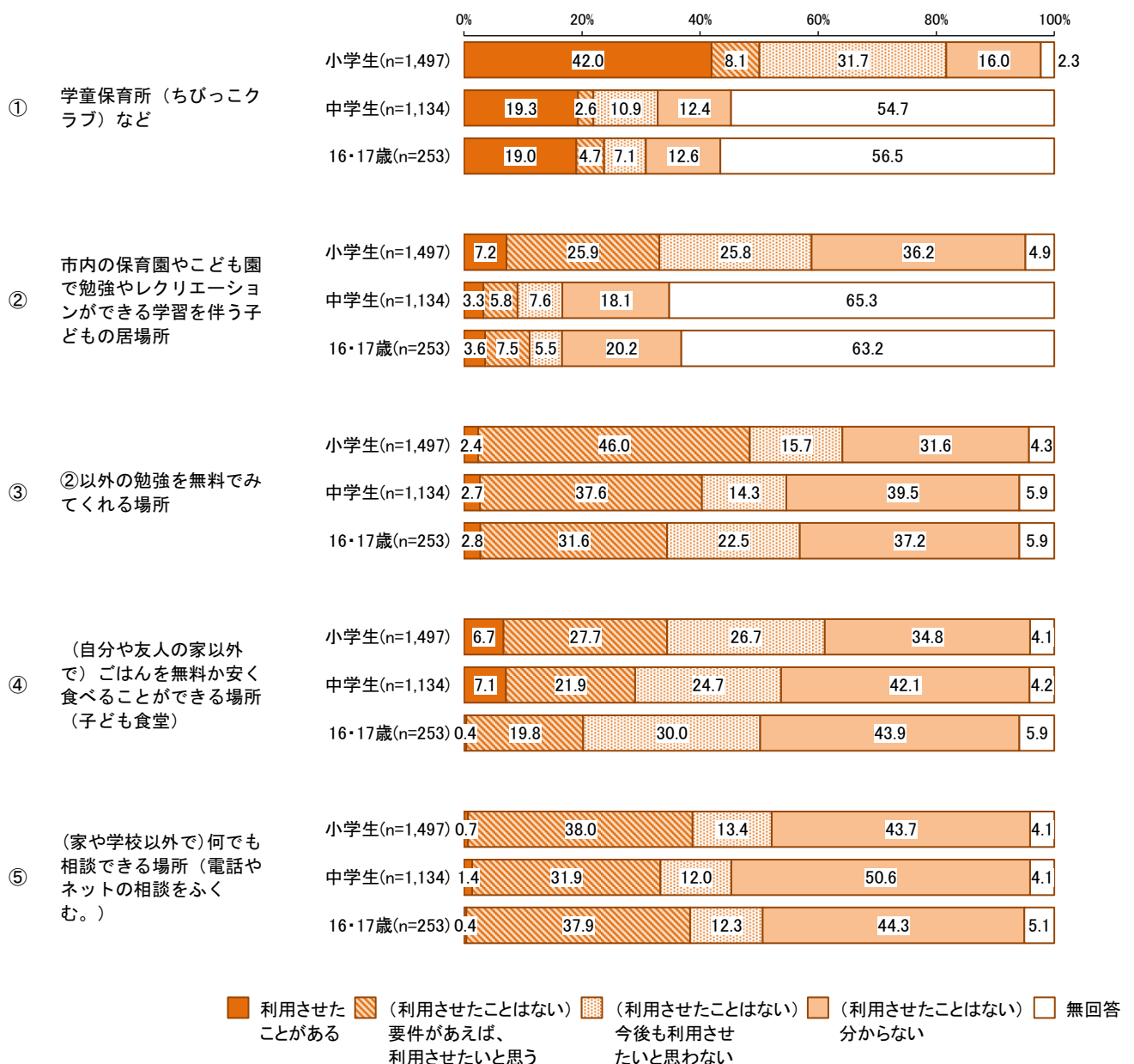
## 12. 子どもの居場所の利用状況

### (1) 子どもの居場所の利用意向

問 37	あなたは、お子さんに次の①～⑤のような場所を利用させたことがありますか。また、利用させたことがない場合、今後利用させたいと思いますか。(①～⑤それぞれについて、あてはまるもの1つに○)
------	--

子どもの居場所の利用意向をみると、「利用させたことがある」は「①学童保育所など」で小学生が4割程度、中学生と16・17歳が2割近くとなっています。それ以外では「②学習を伴う子どもの居場所」を除くと、「(利用させたことはない)要件があえば、利用させたいと思う」がいずれの年齢も2～4割程度、「(利用させたことはない)今後も利用させたいと思わない」がいずれの年齢も1～3割程度、「(利用させたことはない)分からない」がいずれの年齢も3～5割程度となっています。

図 子どもの居場所の利用意向



## II 保護者調査の結果

### ① 学童保育所(ちびっこクラブ)など

等価世帯収入水準別にみると、「利用させたことがある」は小学生と中学生では中央値の2分の1未満の世帯、16・17歳では中央値の2分の1以上中央値未満の世帯が最も高くなっています。

世帯の状況別にみると、いずれの年齢もひとり親世帯の方がふたり親世帯よりも「利用させたことがある」が高く、小学生では20ポイント以上の差があります。

福祉事務所管内別にみると、いずれの年齢も西福祉事務所の世帯の「利用させたことがある」の割合が、他の福祉事務所よりも高い傾向にあります。

図 等価世帯収入水準別 子どもの居場所の利用意向 - ① 学童保育所など

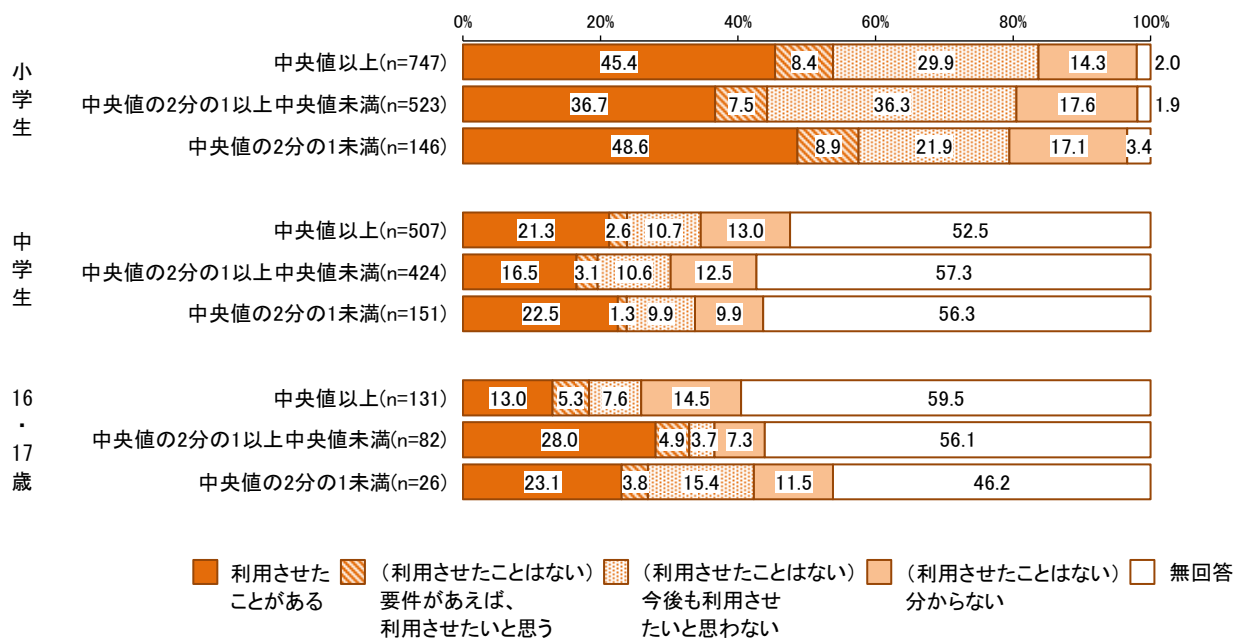


図 世帯の状況別 子どもの居場所の利用意向 - ① 学童保育所など

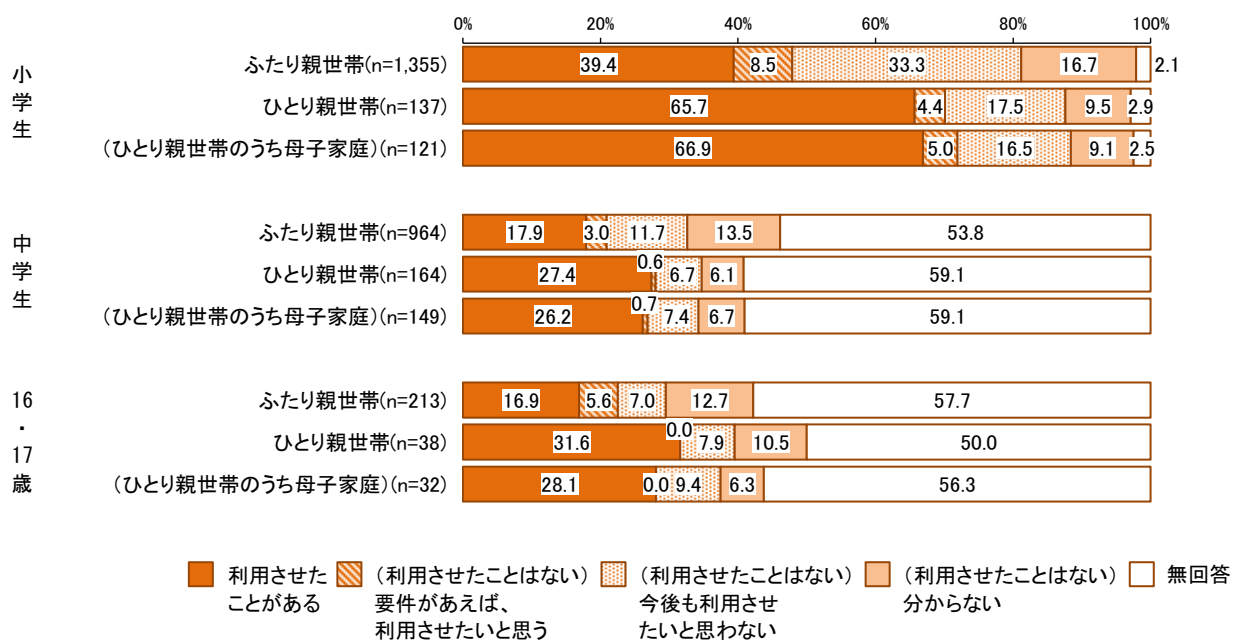
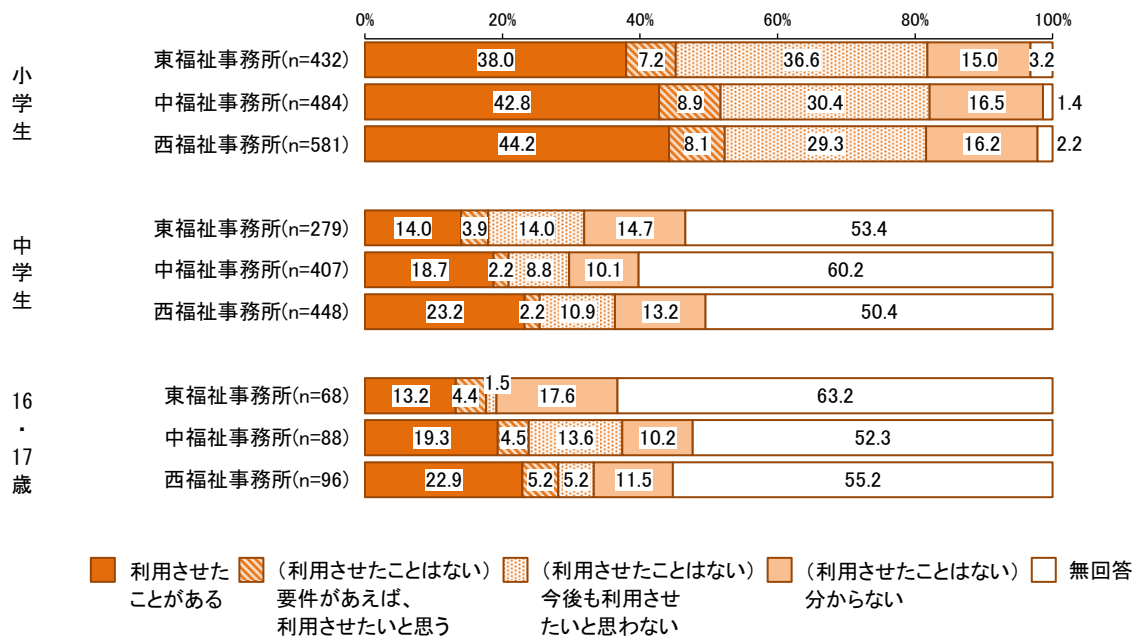




図 福祉事務所管内別 子どもの居場所の利用意向 - ① 学童保育所など



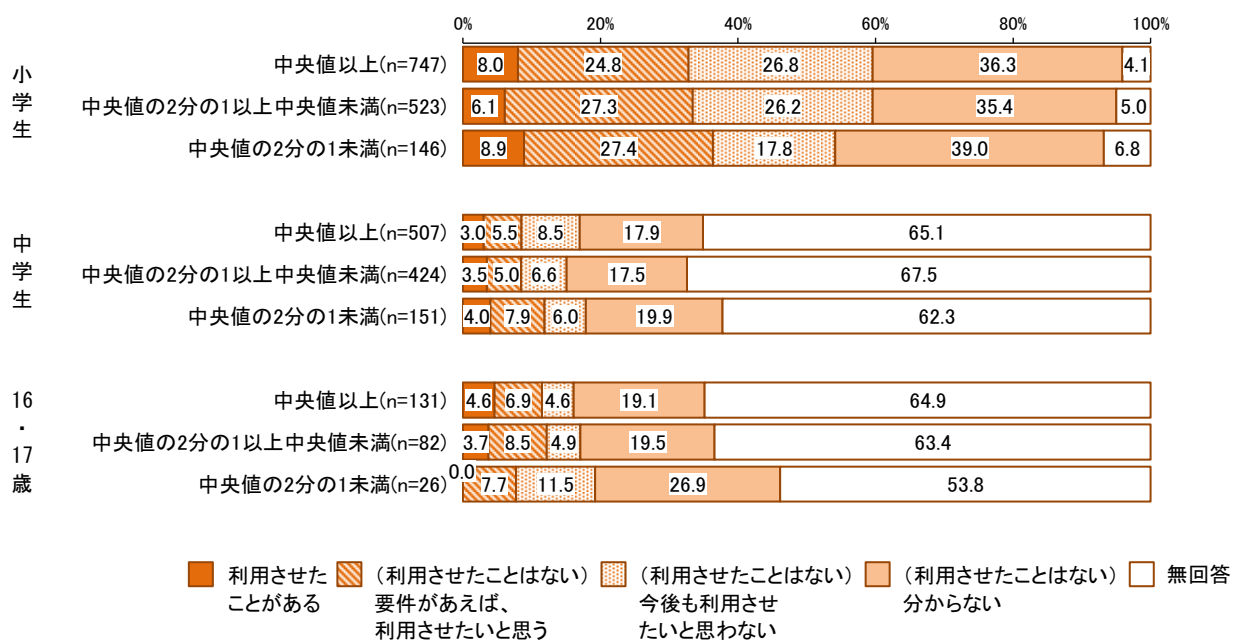
② 市内の保育園やこども園で勉強やレクリエーションができる学習を伴う子どもの居場所

等価世帯収入水準別にみると、16・17歳では中央値の2分の1未満の世帯で「(利用させたことはない) 今後も利用させたいと思わない」と「(利用させたことはない) 分からない」の割合が比較的高くなっています。

世帯の状況別にみると、小学生のひとり親世帯の「(利用させたことはない) 分からない」が44.5%と、ふたり親世帯の35.4%よりも9.1ポイントの差があります。

福祉事務所管内別にみると、いずれの年齢も中福祉事務所の世帯の「利用させたことがある」の割合が、他の福祉事務所よりも高い傾向にあります。

図 等価世帯収入水準別 子どもの居場所の利用意向 - ② 学習を伴う子どもの居場所



II 保護者調査の結果

図 世帯の状況別 子どもの居場所の利用意向 - ② 学習を伴う子どもの居場所

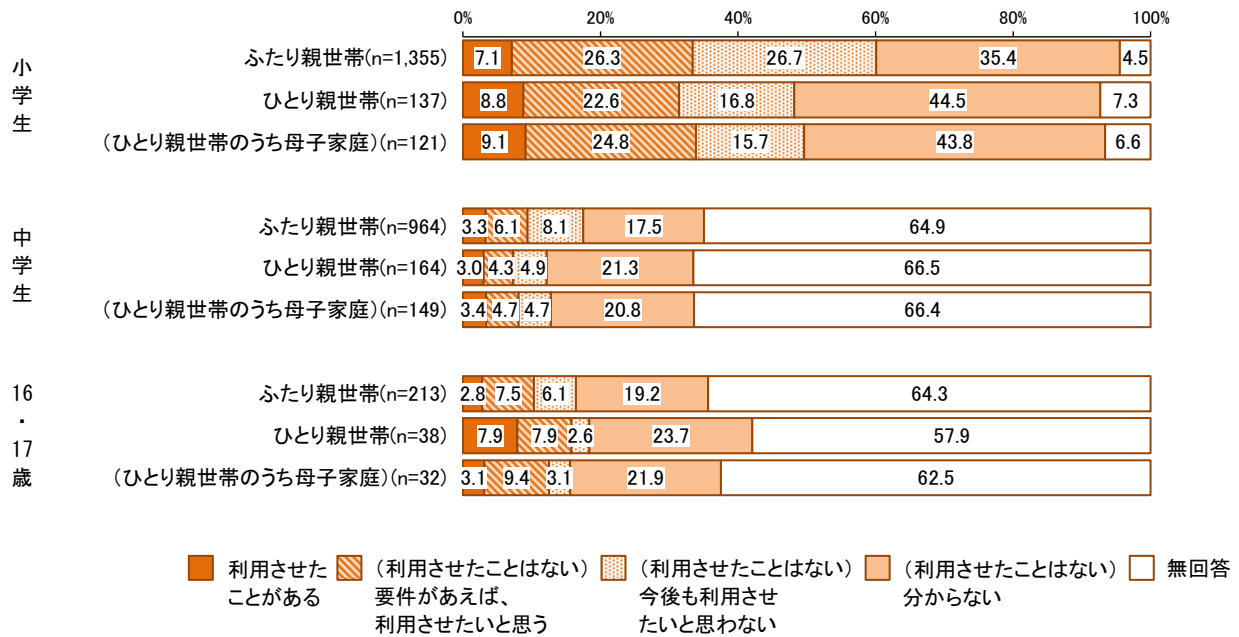
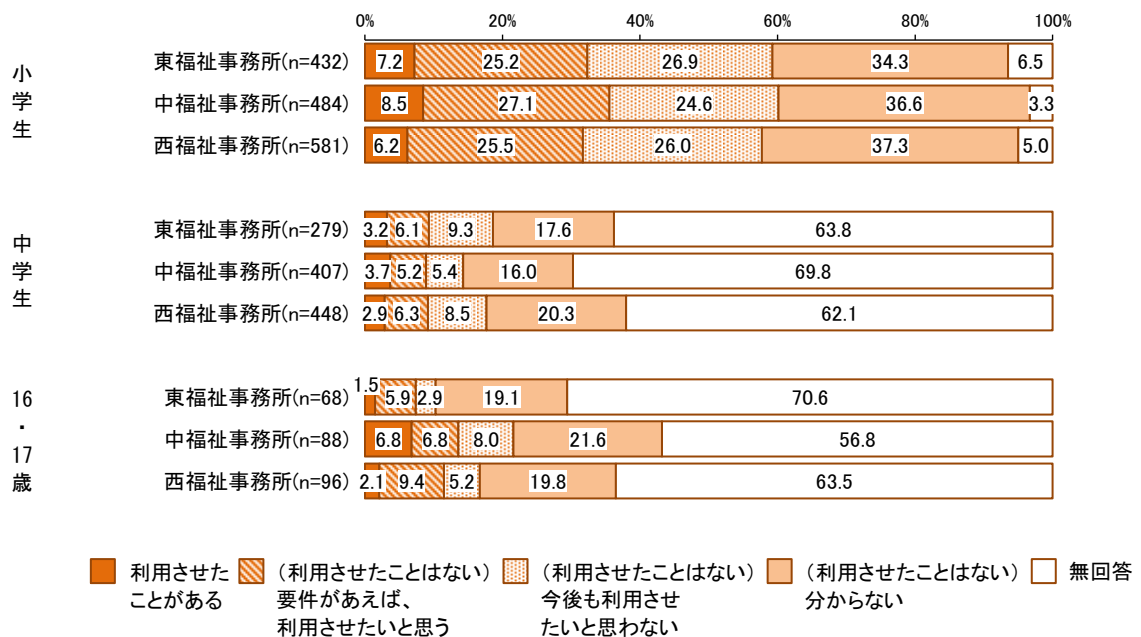


図 福祉事務所管内別 子どもの居場所の利用意向 - ② 学習を伴う子どもの居場所



③ ②以外の勉強を無料でみてくれる場所

等価世帯収入水準別にみると、小学生では収入水準の低い世帯ほど「(利用させたことはない)要件があえば、利用させたいと思う」の割合が高くなっています。また、中学生の中央値の2分の1以上中央値未満の世帯でも「(利用させたことはない)要件があえば、利用させたいと思う」が45.0%と高くなっています。

世帯の状況別にみると、いずれの年齢もふたり親世帯の方がひとり親世帯よりも「(利用させたことはない)今後も利用させたいと思わない」が高く、小学生では10.9ポイントの差があります。

福祉事務所管内別にみると、16・17歳の中福祉事務所の世帯の「(利用させたことはない)分からない」が46.6%と、他の福祉事務所よりも高くなっています。

図 等価世帯収入水準別 子どもの居場所の利用意向 - ③ ②以外の勉強を無料でみてくれる場所

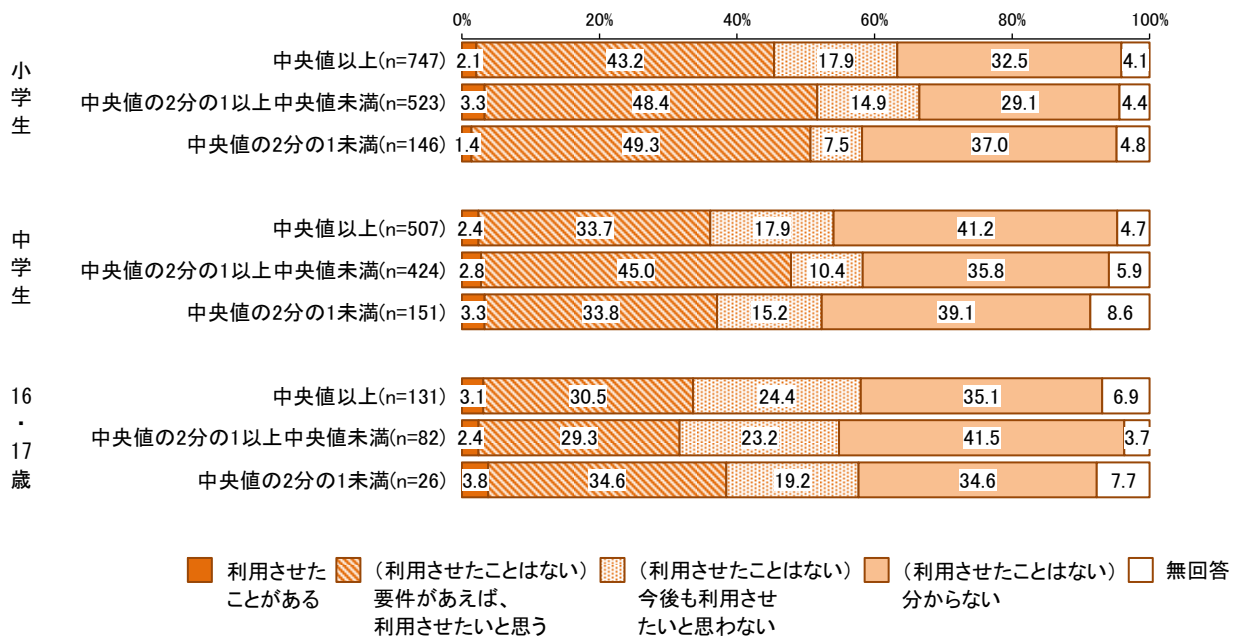
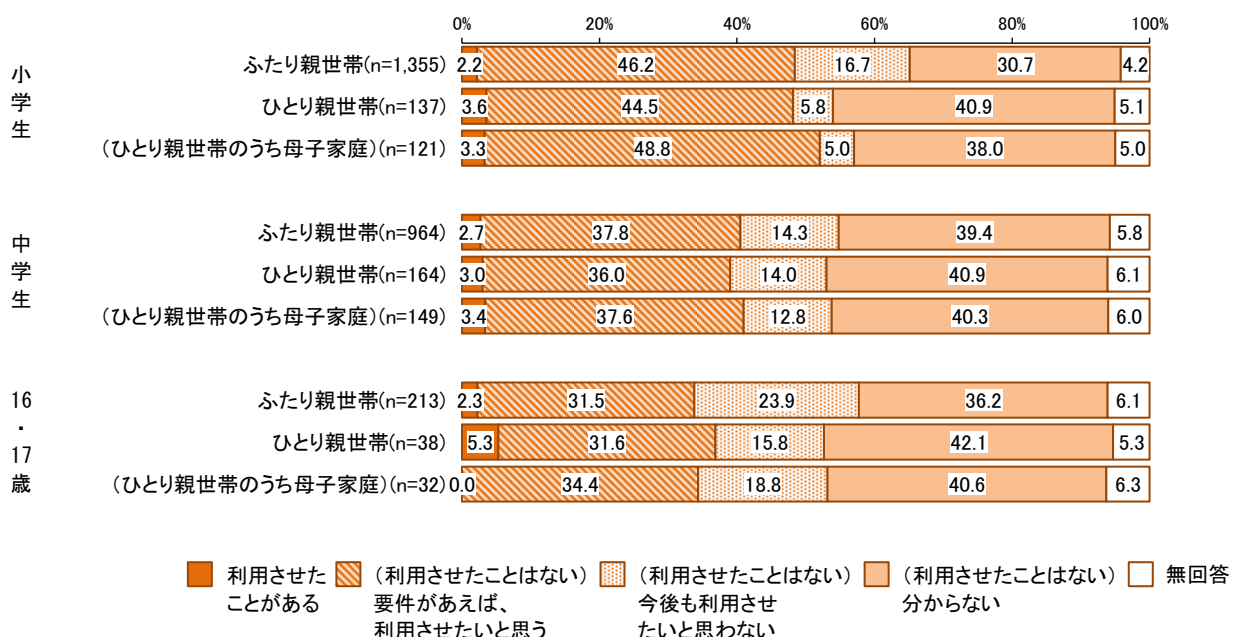
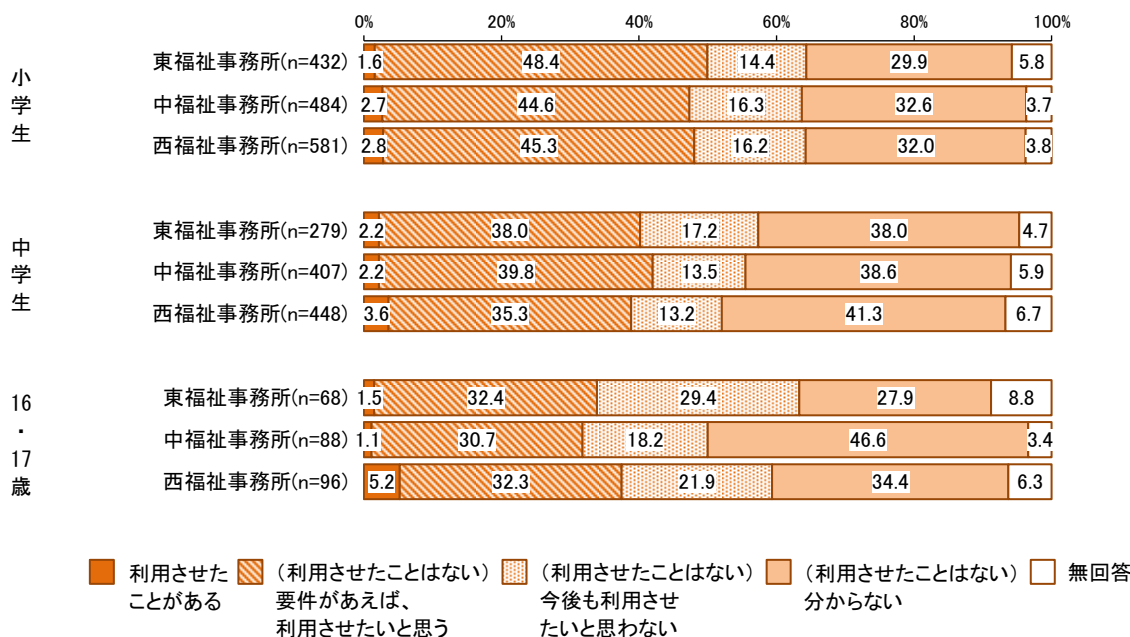


図 世帯の状況別 子どもの居場所の利用意向 - ③ ②以外の勉強を無料でみてくれる場所



II 保護者調査の結果

図 福祉事務所管内別 子どもの居場所の利用意向 - ③ ②以外の勉強を無料でみてくれる場所



④ (自分や友人の家以外で)ごはんを無料か安く食べることができる場所(子ども食堂)

等価世帯収入水準別にみると、小学生と中学生の中央値の2分の1以上中央値未満の世帯で「(利用させたことはない)要件があえば、利用させたいと思う」が、それぞれ3割近くと高くなっています。

世帯の状況別にみると、小学生のふたり親世帯で「(利用させたことはない)要件があえば、利用させたいと思う」が28.0%と、ひとり親世帯より高くなっています。

福祉事務所管内別にみると、小学生と中学生で中福祉事務所の世帯の「利用させたことがある」の割合が、それぞれ1割以上を占めています。

図 等価世帯収入水準別 子どもの居場所の利用意向 - ④ 子ども食堂

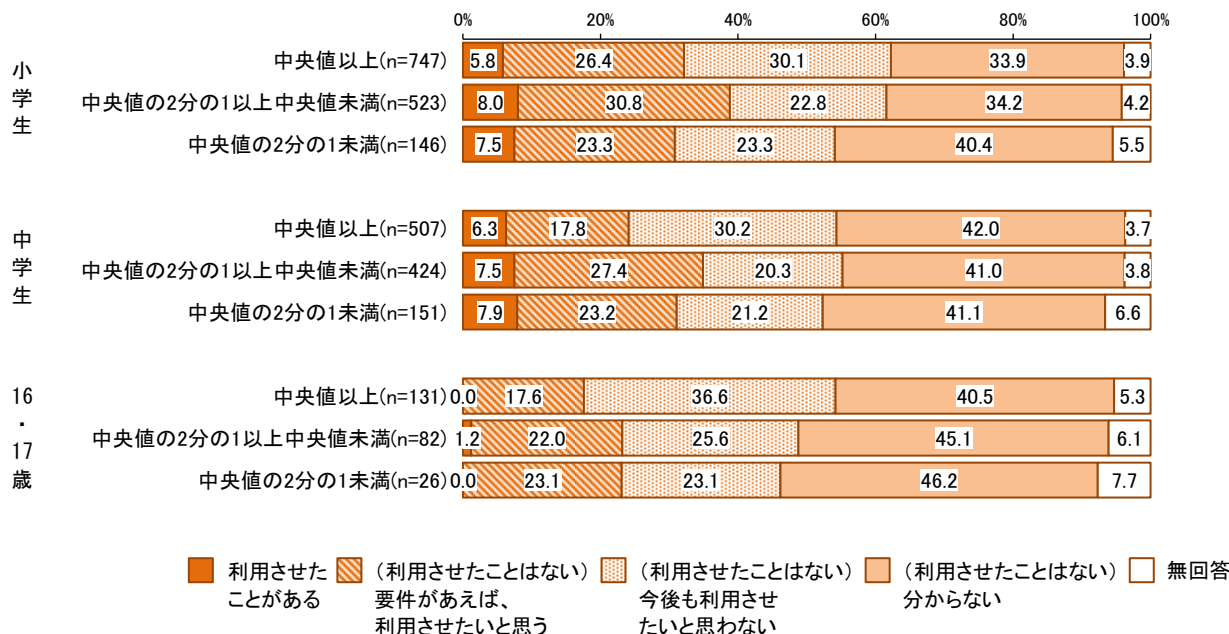


図 世帯の状況別 子どもの居場所の利用意向 - ④ 子ども食堂

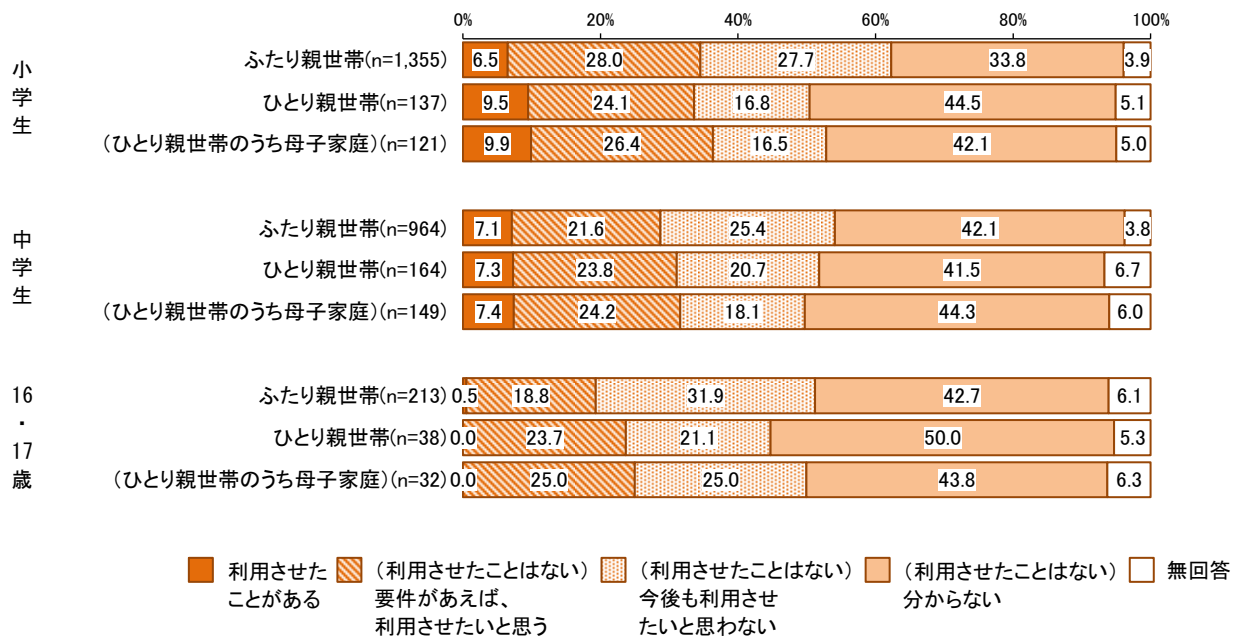
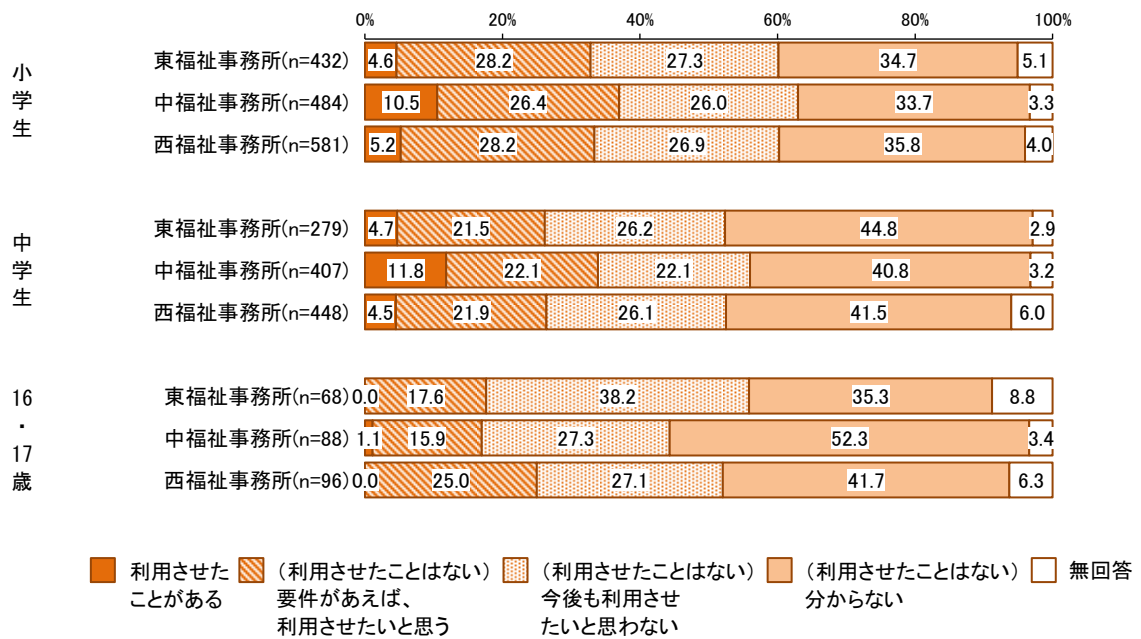


図 福祉事務所管内別 子どもの居場所の利用意向 - ④ 子ども食堂





II 保護者調査の結果

⑤ (家や学校以外で)何でも相談できる場所(電話やネットの相談をふくむ。)

等価世帯収入水準別にみると、いずれの年齢も「(利用させたことはない)分からない」の回答が最も高く、小学生の中央値の2分の1未満の世帯で53.4%と半数以上を占めています。

世帯の状況別にみると、いずれの年齢もふたり親世帯の方がひとり親世帯よりも「(利用させたことはない)要件があれば、利用させたいと思う」が高く、16・17歳では10.5ポイントの差があります。

福祉事務所管内別にみると、16・17歳の中福祉事務所の世帯で「(利用させたことはない)分からない」が5割を超えています。

図 等価世帯収入水準別 子どもの居場所の利用意向 - ⑤ 何でも相談できる場所

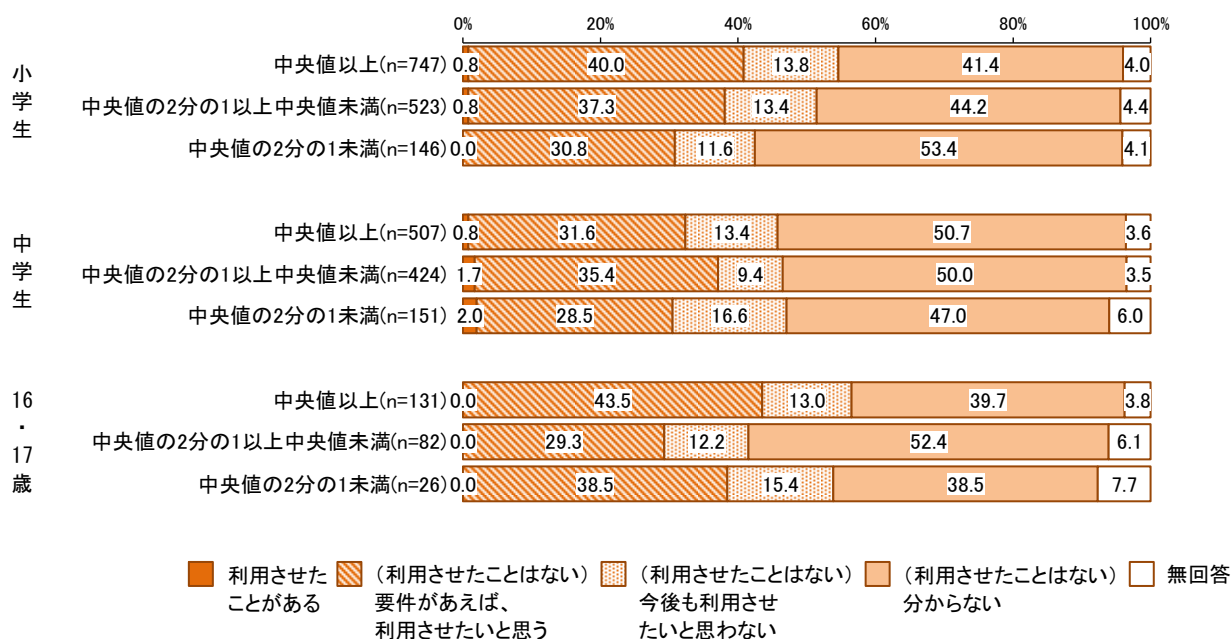


図 世帯の状況別 子どもの居場所の利用意向 - ⑤ 何でも相談できる場所

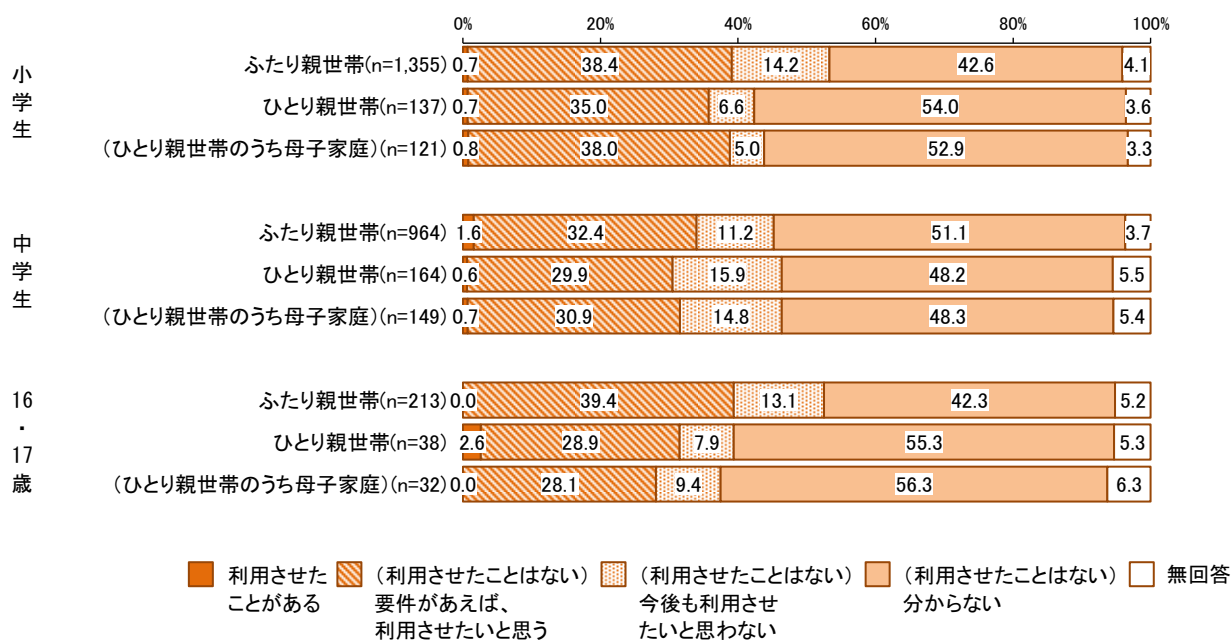
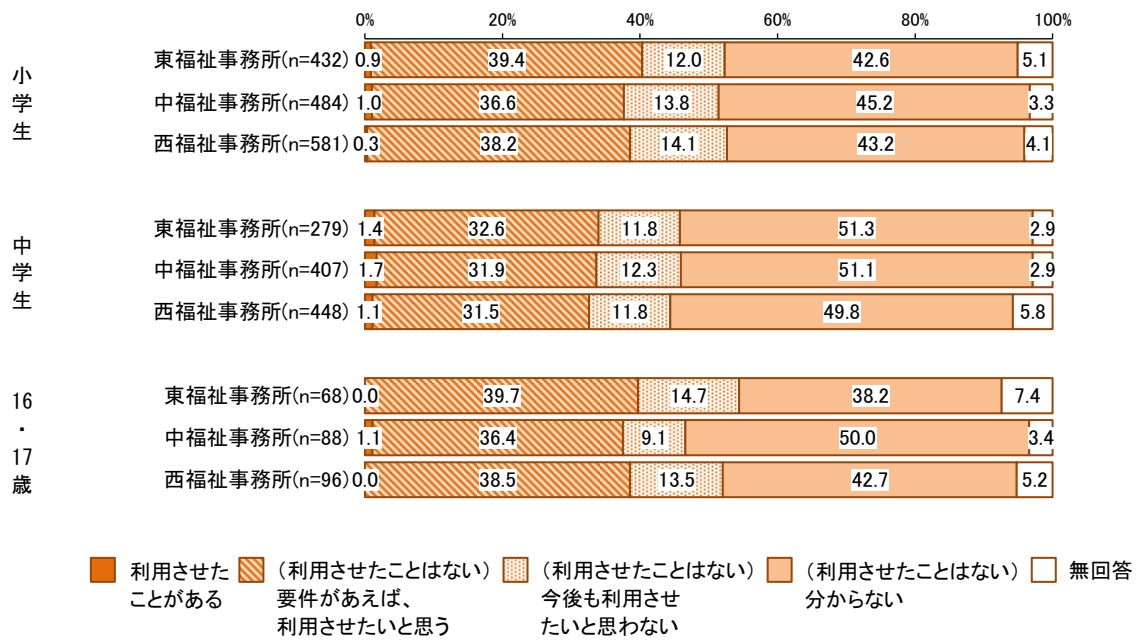


図 福祉事務所管内別 子どもの居場所の利用意向 - ⑤ 何でも相談できる場所



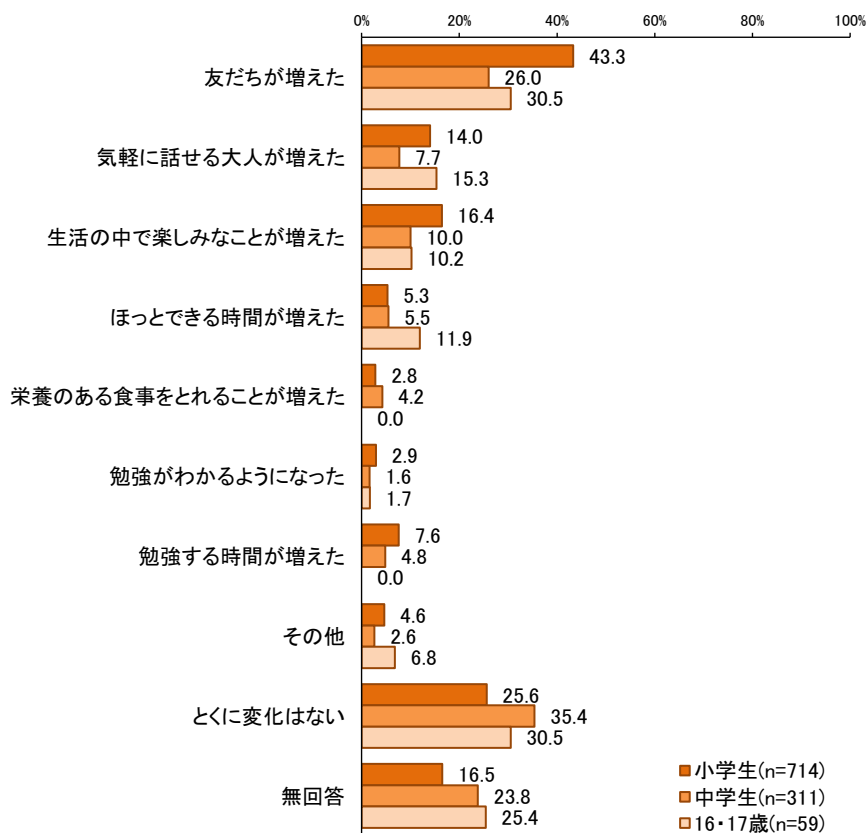
## II 保護者調査の結果

### (2) 子どもの居場所の効果

問 38	問 37 で、1つでも「1 利用させたことがある」と答えた方にお聞きします。そこを利用したことで、お子さんに以下のような変化があったと思いますか。(1～8については、あてはまるものすべてに○)
------	--

子どもの居場所の効果を見ると、「友だちが増えた」がいずれの年齢も最も高く、小学生で 43.3%となっています。次いで小学生と中学生で「生活の中で楽しみなことが増えた」、16・17 歳で「気軽に話せる大人が増えた」が高くなっています。「とくに変化はない」は、いずれの年齢も 2～3 割台となっています。

図 子どもの居場所の効果





等価世帯収入水準別にみると、小学生は収入にかかわらず「友だちが増えた」が3～4台で最も高くなっています。中学生は収入にかかわらず「とくに変化はない」が最も高くなっています。16・17歳は、中央値の2分の1以上中央値未満の世帯で「友だちが増えた」が44.4%、「生活の中で楽しみなことが増えた」と「ほっとできる時間が増えた」がともに18.5%と、他の収入層と比べて高くなっています。

世帯の状況別にみると、16・17歳ではひとり親世帯の「友だちが増えた」が42.9%と、ふたり親世帯よりも15ポイント以上高くなっていますが、母子家庭は22.2%と低くなっています。また、小学生のひとり親世帯の「勉強する時間が増えた」が11.3%で1割以上となっています。

表 等価世帯収入水準、世帯の状況別 子どもの居場所の効果

		回答者数(n)	友だちが増えた	気軽に話せる大人が増えた	生活の中で楽しみなことが増えた	ほっとできる時間が増えた	栄養のある食事をとれることが増えた	勉強がわかるようになった	勉強する時間が増えた	その他	とくに変化はない	無回答	
等価世帯収入水準別	小学生	中央値以上	375	49.1	14.4	16.8	4.8	1.6	1.3	6.1	5.1	22.7	17.1
		中央値の2分の1以上中央値未満	235	36.6	13.2	16.2	4.7	3.8	3.8	7.2	4.7	30.6	14.9
		中央値の2分の1未満	75	40.0	16.0	17.3	8.0	5.3	6.7	13.3	2.7	25.3	16.0
	中学生	中央値以上	144	24.3	9.0	7.6	4.9	0.7	1.4	6.3	1.4	34.0	29.9
		中央値の2分の1以上中央値未満	106	27.4	7.5	12.3	6.6	7.5	2.8	1.9	1.9	39.6	17.0
		中央値の2分の1未満	48	25.0	6.3	14.6	6.3	6.3	-	6.3	6.3	29.2	25.0
	16・17歳	中央値以上	22	22.7	18.2	-	4.5	-	4.5	-	-	27.3	40.9
		中央値の2分の1以上中央値未満	27	44.4	11.1	18.5	18.5	-	-	-	7.4	37.0	11.1
		中央値の2分の1未満	7	14.3	14.3	-	-	-	-	-	28.6	28.6	28.6
世帯の状況別	小学生	ふたり親世帯	613	43.9	14.2	17.5	5.1	2.8	2.6	7.0	4.9	25.4	16.3
		ひとり親世帯	97	40.2	13.4	10.3	7.2	3.1	5.2	11.3	2.1	26.8	17.5
		(ひとり親世帯のうち母子家庭)	87	40.2	12.6	10.3	6.9	3.4	5.7	12.6	2.3	26.4	18.4
	中学生	ふたり親世帯	254	26.0	7.5	9.8	5.9	4.3	2.0	4.7	2.4	35.8	23.2
		ひとり親世帯	55	25.5	9.1	10.9	3.6	3.6	-	5.5	1.8	34.5	27.3
		(ひとり親世帯のうち母子家庭)	49	24.5	10.2	12.2	2.0	4.1	-	6.1	2.0	34.7	26.5
	16・17歳	ふたり親世帯	45	26.7	13.3	6.7	11.1	-	2.2	-	8.9	28.9	31.1
		ひとり親世帯	14	42.9	21.4	21.4	14.3	-	-	-	-	35.7	7.1
		(ひとり親世帯のうち母子家庭)	9	22.2	11.1	11.1	11.1	-	-	-	-	55.6	11.1

### Ⅲ 子ども調査の結果

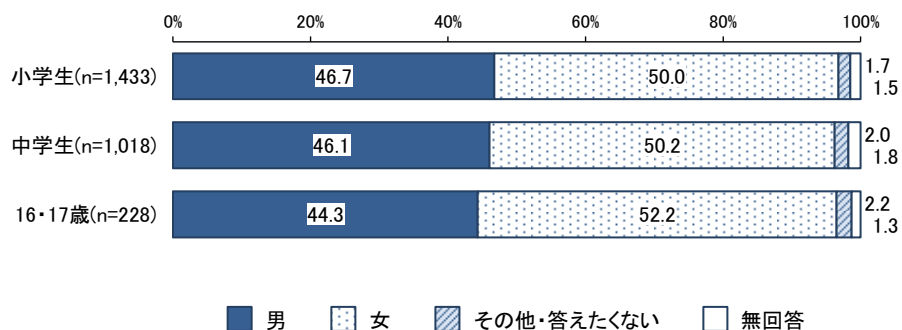
#### 1. 属性

##### (1) 性別

小中学生 問1	あなたの性別を教えてください。(あてはまるもの1つに○)
16・17歳 問1	

小学生は、「女」が50.0%、「男」が46.7%、「その他・答えたくない」が1.7%となっています。  
 中学生は、「女」が50.2%、「男」が46.1%、「その他・答えたくない」が2.0%となっています。  
 16・17歳は、「女」が52.2%、「男」が44.3%、「その他・答えたくない」が2.2%となっています。  
 いずれの年齢も、「女」が5割以上で、「男」よりやや高くなっています。

図 性別



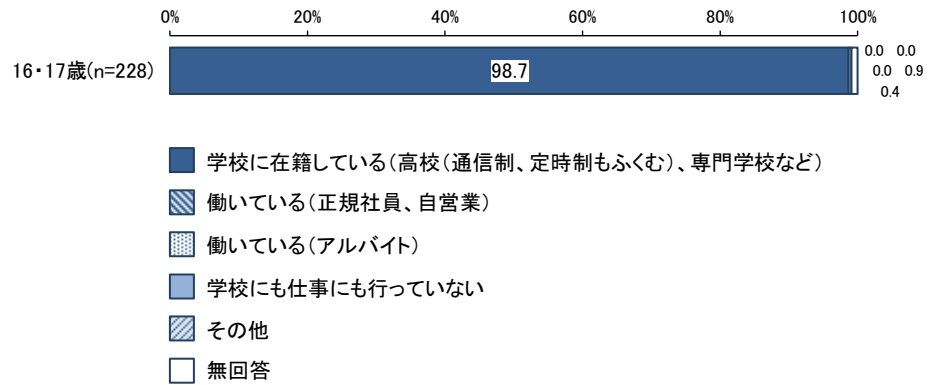
## 2. 学習状況

### (1) 就学就業状況

16・17歳 問2	あなたの現在の状況について教えてください。(あてはまるもの1つだけに○)
-----------	--------------------------------------

「学校に在籍している(高校(通信制、定時制もふくむ)、専門学校など)」が 98.7%、「学校にも仕事にも行っていない」が 0.4%となっています。

図 就学就業状況



### Ⅲ 子ども調査の結果

#### (2) 授業以外の学習環境

小中学生 問2 16・17歳 問3	(学校に在籍している方へお聞きします) あなたは、ふだん学校の授業以外で、どのように勉強をしていますか。※勉強には学校の宿題もふくみます。(1～8については、あてはまるものすべてに○)
----------------------	--

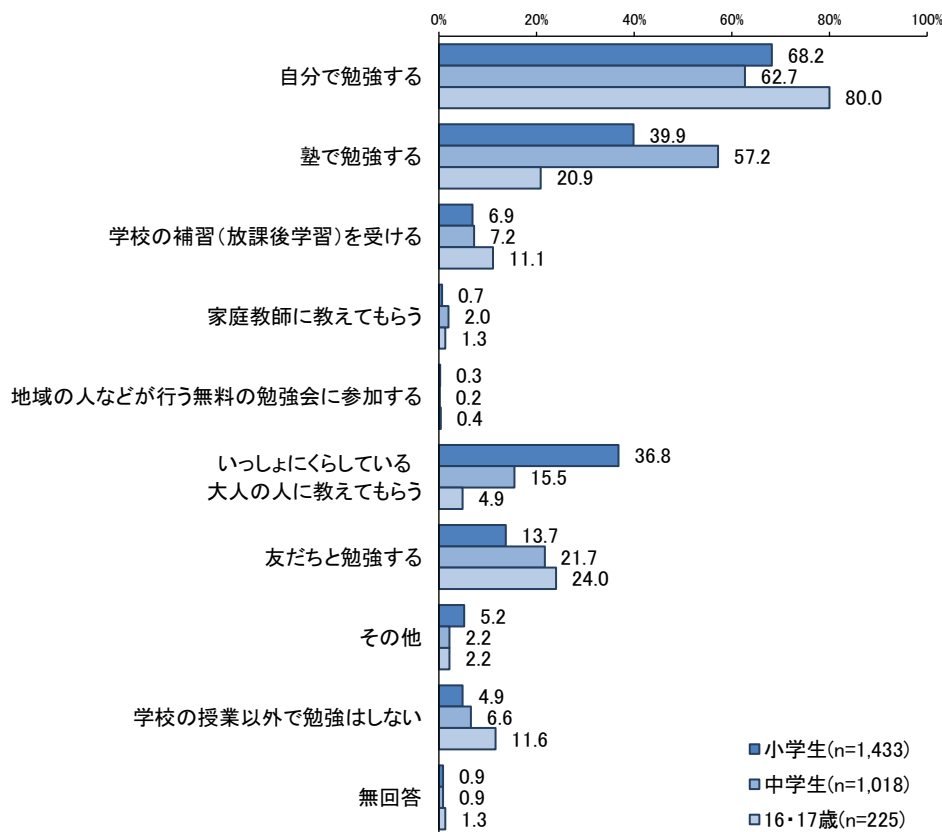
小学生は、「自分で勉強する」が 68.2%で最も高く、次いで「塾で勉強する」が 39.9%、「いっしょにくらしている大人の人に教えてもらう」が 36.8%となっています。

中学生は、「自分で勉強する」が 62.7%で最も高く、次いで「塾で勉強する」が 57.2%、「友だちと勉強する」が 21.7%となっています。

16・17 歳は、「自分で勉強する」が 80.0%で最も高く、次いで「友だちと勉強する」が 24.0%、「塾で勉強する」が 20.9%となっています。

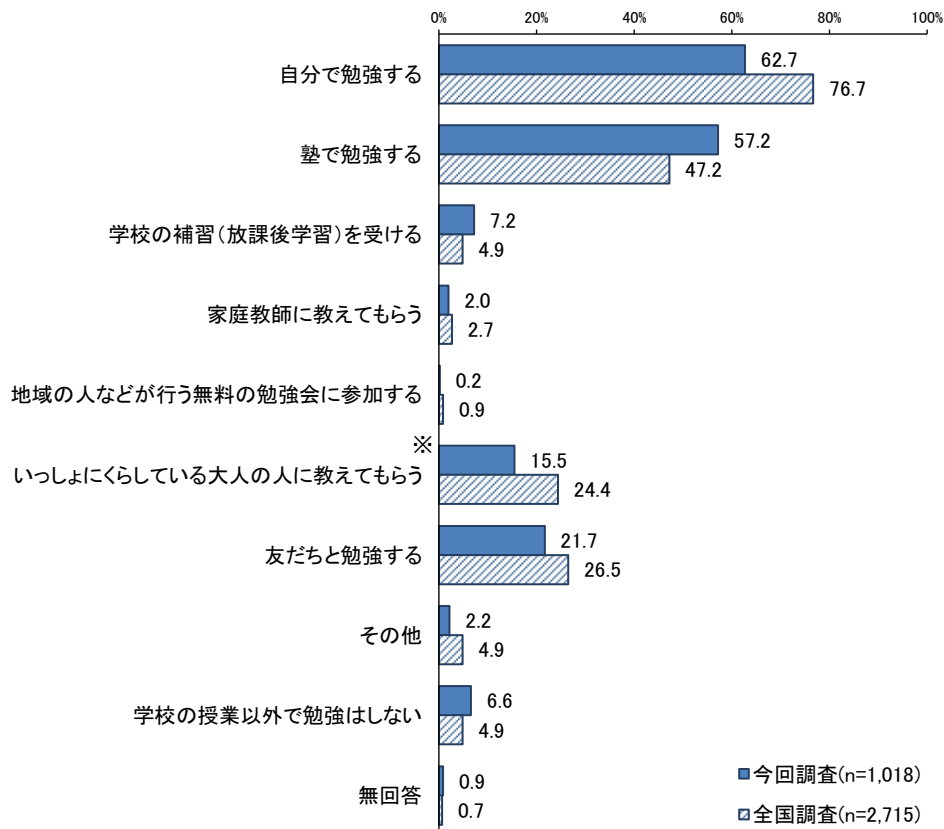
いずれの年齢も、「自分で勉強する」が最も高く、次いで、小学生と中学生は「塾で勉強する」、16・17 歳は「友だちと勉強する」の順番となっています。

図 授業以外の学習環境



全国調査と比較すると、「自分で勉強する」、「いっしょにくらしている大人の人に教えてもらう」、「友だちと勉強する」はいずれも全国調査より低くなっており、特に「自分で勉強する」は 14.0 ポイントの差となっています。一方、「塾で勉強する」は全国調査より 10.0 ポイント高くなっています。

図 授業以外の学習環境 - 全国調査との比較【中学生】



※全国調査では「家の人に教えてもらう」

### Ⅲ 子ども調査の結果

等価世帯収入水準別にみると、小学生と中学生は、収入水準の高い世帯ほど「塾で勉強する」が高くなっています。16・17歳は、中央値の2分の1未満の世帯で「自分で勉強する」と「学校の補習(放課後学習)を受ける」が他の収入層と比べて高くなっています。

世帯の状況別にみると、小学生は、ふたり親世帯で「塾で勉強する」と「いっしょにくらしている大人の人に教えてもらう」がひとり親世帯と比べて高くなっています。中学生と16・17歳は、ふたり親世帯で「塾で勉強する」がひとり親世帯と比べて高くなっています。

福祉事務所管内別にみると、小学生は、中福祉事務所で「自分で勉強する」と「いっしょにくらしている大人の人に教えてもらう」が他の福祉事務所と比べて高くなっています。16・17歳は、西福祉事務所で「自分で勉強する」が他の福祉事務所と比べて低くなっています。

表 等価世帯収入水準、世帯の状況、福祉事務所管内別 授業以外の学習環境

		回答者数(n)	自分で勉強する	塾で勉強する	学校の補習(放課後学習)を受ける	家庭教師に教えてもらう	地域の人などが行う無料の勉強会に参加する	いっしょにくらしている大人の人に教えてもらう	友だちと勉強する	その他	学校の授業以外で勉強はしない	無回答	
等価世帯収入水準別	小学生	中央値以上	686	68.8	48.8	4.8	1.0	0.3	37.8	13.6	3.6	3.5	0.4
		中央値の2分の1以上中央値未満	473	68.7	31.7	8.0	0.2	0.2	37.0	14.4	7.6	5.5	1.5
		中央値の2分の1未満	129	62.8	27.1	13.2	-	-	34.9	14.7	7.8	11.6	1.6
	中学生	中央値以上	417	62.8	66.4	5.3	2.6	-	17.3	20.6	1.0	3.8	1.0
		中央値の2分の1以上中央値未満	374	63.1	54.0	7.8	1.6	-	15.2	24.3	2.7	7.0	0.8
		中央値の2分の1未満	125	63.2	35.2	8.8	1.6	0.8	12.0	17.6	4.0	13.6	0.8
	16・17歳	中央値以上	113	82.3	20.4	8.8	1.8	-	5.3	23.9	1.8	11.5	1.8
		中央値の2分の1以上中央値未満	69	76.8	23.2	10.1	-	-	5.8	24.6	1.4	13.0	1.4
		中央値の2分の1未満	20	90.0	15.0	25.0	5.0	5.0	5.0	25.0	5.0	5.0	-
世帯の状況別	小学生	ふたり親世帯	1,240	69.1	41.2	6.3	0.6	0.2	38.3	13.9	4.9	4.1	0.9
		ひとり親世帯	116	58.6	31.0	12.1	-	-	27.6	15.5	9.5	12.9	1.7
		(ひとり親世帯のうち母子家庭)	103	60.2	27.2	12.6	-	-	27.2	16.5	10.7	11.7	1.9
	中学生	ふたり親世帯	811	63.0	59.8	6.8	2.0	-	16.4	21.6	2.1	5.4	0.9
		ひとり親世帯	142	62.7	43.7	8.5	2.1	0.7	11.3	21.8	2.1	12.0	0.7
		(ひとり親世帯のうち母子家庭)	128	61.7	43.8	9.4	1.6	0.8	11.7	22.7	2.3	12.5	0.8
	16・17歳	ふたり親世帯	184	81.0	21.2	11.4	1.6	0.5	4.9	23.9	2.2	12.0	1.6
		ひとり親世帯	28	78.6	10.7	10.7	-	-	7.1	21.4	-	10.7	-
		(ひとり親世帯のうち母子家庭)	23	87.0	13.0	13.0	-	-	4.3	13.0	-	8.7	-
福祉事務所管内別	小学生	東福祉事務所	390	66.2	36.2	4.9	0.3	-	35.1	14.4	4.4	6.2	1.3
		中福祉事務所	431	72.4	40.6	5.3	0.9	0.7	42.2	13.9	6.3	4.4	0.2
		西福祉事務所	538	66.4	43.3	9.3	0.6	-	34.9	13.8	5.2	4.3	1.3
	中学生	東福祉事務所	228	69.7	53.1	11.0	1.3	-	18.9	25.0	2.6	6.1	1.3
		中福祉事務所	352	61.4	57.7	6.3	1.4	-	14.8	19.0	2.8	6.3	0.6
		西福祉事務所	378	60.6	59.5	5.6	2.9	0.3	14.3	22.5	1.1	6.6	0.8
	16・17歳	東福祉事務所	59	81.4	18.6	16.9	1.7	-	1.7	23.7	1.7	15.3	1.7
		中福祉事務所	71	88.7	16.9	11.3	1.4	1.4	7.0	25.4	1.4	8.5	-
		西福祉事務所	83	73.5	22.9	8.4	1.2	-	6.0	22.9	2.4	12.0	2.4

(3) 授業以外の学習時間

小中学生 問3 16・17歳 問4	あなたは、ふだん学校の授業以外に、1日あたりどれくらいの時間勉強をしますか。 ※ 学校の宿題をする時間や、塾などでの勉強時間もふくみます。(①、②それぞれについて、あてはまるもの1つに○)
----------------------	---

① 学校がある日(月～金曜日)

小学生は、「30分以上、1時間より少ない」が38.1%で最も高く、次いで「1時間以上、2時間より少ない」が26.5%、「30分より少ない」が16.3%となっています。

中学生は、「1時間以上、2時間より少ない」が27.3%で最も高く、次いで「30分以上、1時間より少ない」が22.2%、「30分より少ない」が17.3%、「2時間以上、3時間より少ない」が15.9%、「まったくしない」が11.9%となっています。

16・17歳は、「30分より少ない」が24.9%で最も高く、次いで「まったくしない」が24.0%、「1時間以上、2時間より少ない」が19.6%、「30分以上、1時間より少ない」が15.6%となっています。

小学生は「30分以上、1時間より少ない」、中学生は「1時間以上、2時間より少ない」、16・17歳は「30分より少ない」が最も高くなっています。

② 学校がない日(土・日曜日・祝日)

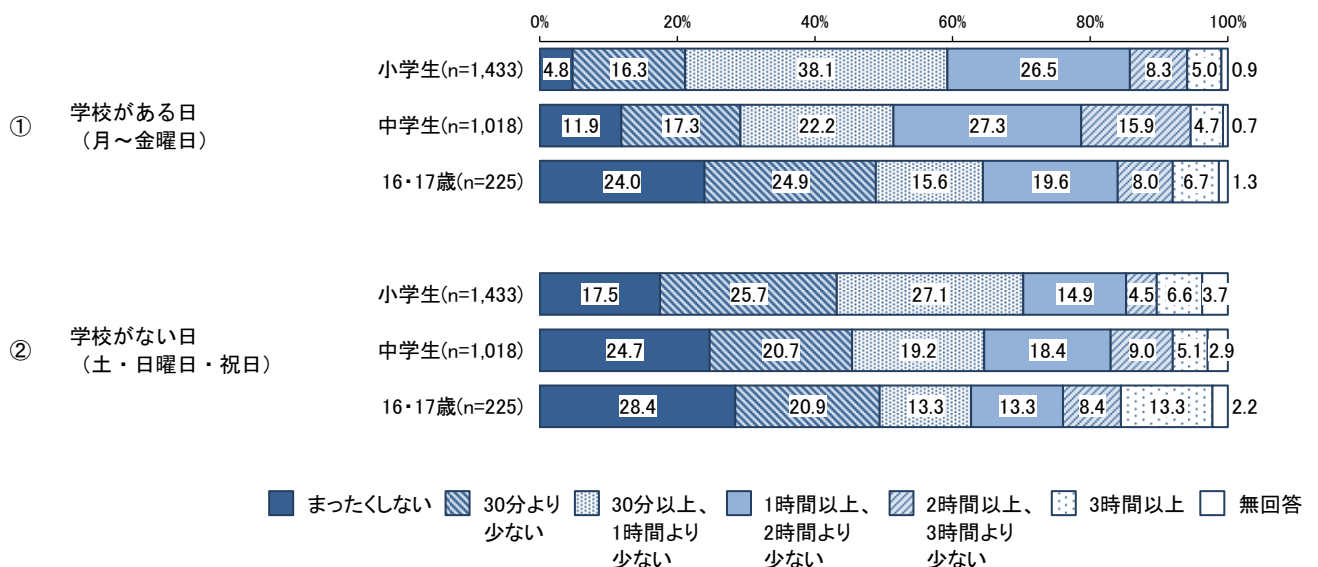
小学生は、「30分以上、1時間より少ない」が27.1%で最も高く、次いで「30分より少ない」が25.7%、「まったくしない」が17.5%、「1時間以上、2時間より少ない」が14.9%となっています。

中学生は、「まったくしない」が24.7%で最も高く、次いで「30分より少ない」が20.7%、「30分以上、1時間より少ない」が19.2%、「1時間以上、2時間より少ない」が18.4%となっています。

16・17歳は、「まったくしない」が28.4%で最も高く、次いで「30分より少ない」が20.9%、「30分以上、1時間より少ない」、「1時間以上、2時間より少ない」、「3時間以上」がいずれも13.3%、「2時間以上、3時間より少ない」が8.4%となっています。

小学生は「30分以上、1時間より少ない」、中学生、16・17歳は「まったくしない」が最も高くなっています。

図 授業以外の学習時間



### Ⅲ 子ども調査の結果

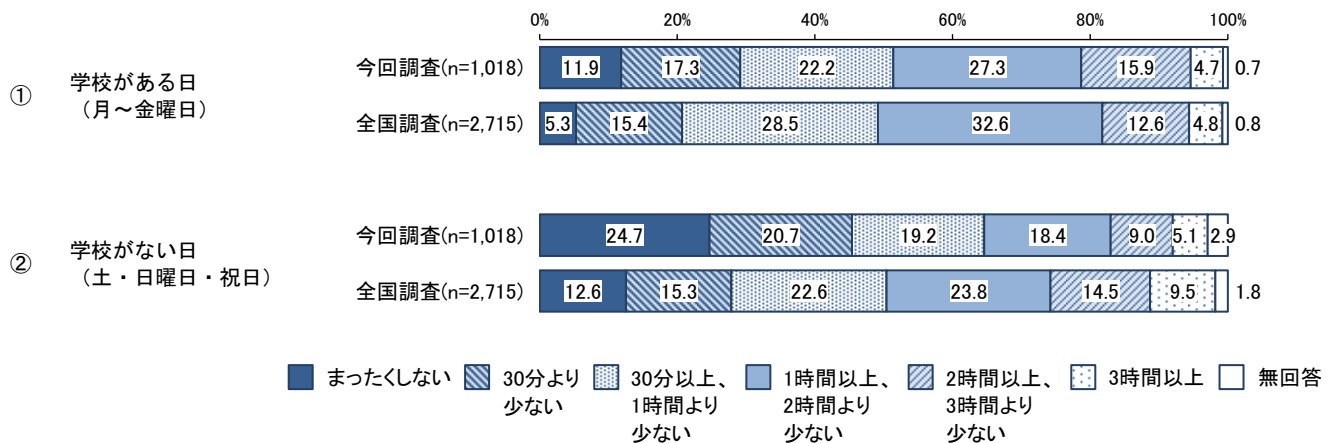
#### ① 学校がある日(月～金曜日)

全国調査と比較すると、全国調査、今回調査とも「1 時間以上、2 時間より少ない」、「30 分以上、1 時間より少ない」の順番で高くなっており、いずれも全国調査が高くなっています。一方、「まったくしない」は今回調査が 6.6 ポイント高くなっています。

#### ② 学校がない日(土・日曜日・祝日)

全国調査と比較すると、今回調査は「まったくしない」が最も高く、全国調査は「1 時間以上、2 時間より少ない」が最も高くなっています。「まったくしない」は今回調査が 24.7%、全国調査が 12.6%と、今回調査が全国調査の 2 倍近くとなっています。

図 授業以外の学習時間 - 全国調査との比較【中学生】





① 学校がある日(月～金曜日)

等価世帯収入水準別にみると、いずれの年齢も、収入水準の低い世帯ほど「まったくしない」が高くなっています。

世帯の状況別にみると、16・17歳は、ひとり親世帯で「まったくしない」が35.7%と高くなっています。

福祉事務所管内別にみると、西福祉事務所では、中学生で「1時間以上、2時間より少ない」が30.2%、16・17歳で「30分より少ない」が30.1%と、他の福祉事務所と比べて高くなっています。

図 等価世帯収入水準別 授業以外の学習時間 - ① 学校がある日(月～金曜日)

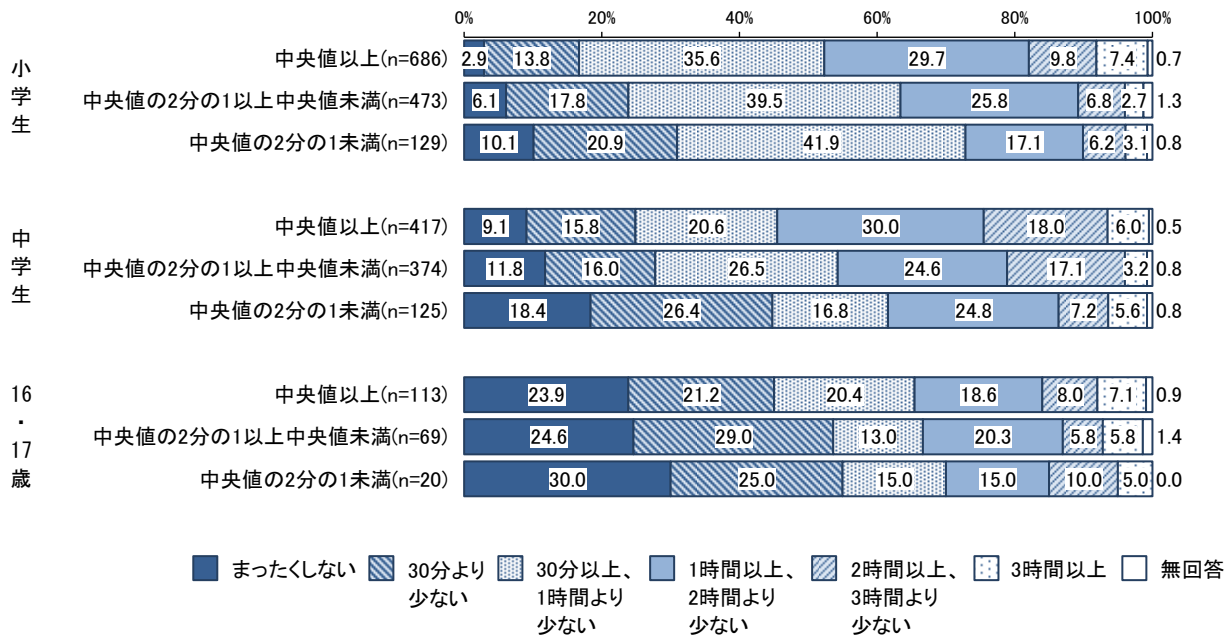
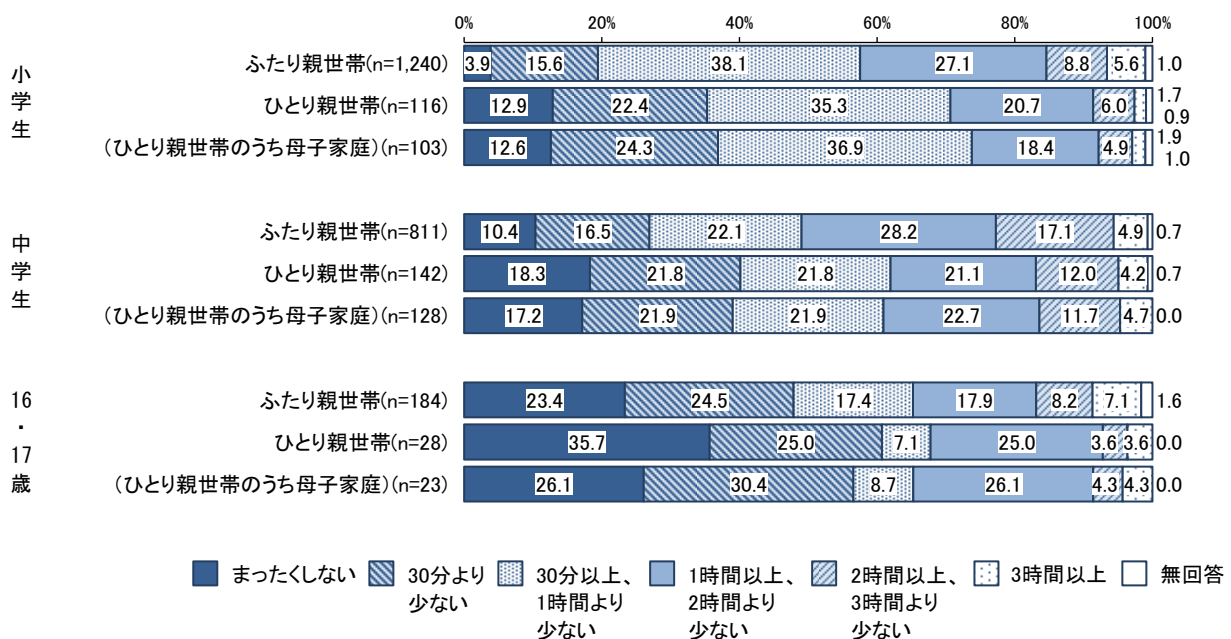
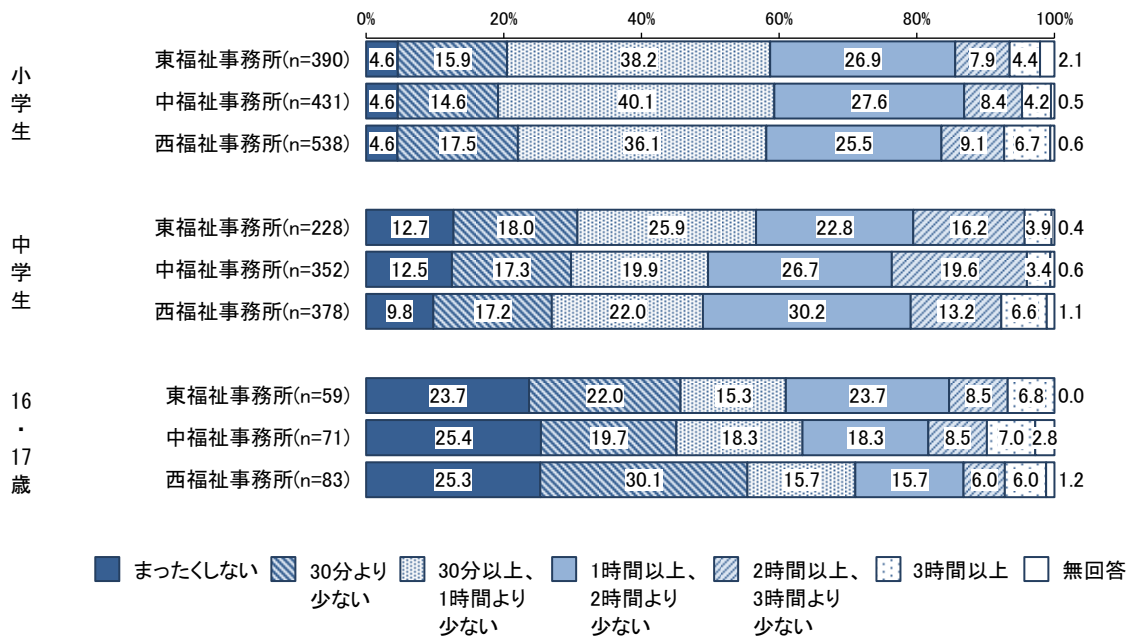


図 世帯の状況別 授業以外の学習時間 - ① 学校がある日(月～金曜日)



Ⅲ 子ども調査の結果

図 福祉事務所管内別 授業以外の学習時間 - ① 学校がある日(月～金曜日)



② 学校がない日(土・日曜日・祝日)

等価世帯収入水準別にみると、いずれの年齢も、収入水準の低い世帯ほど「まったくしない」が高くなっています。

世帯の状況別にみると、小学生では、ひとり親世帯は「30分より少ない」が最も高く3割台、ふたり親世帯は「30分以上、1時間より少ない」が28.0%で最も高くなっています。中学生と16・17歳では、ひとり親世帯で「まったくしない」が3割台と高くなっています。

福祉事務所管内別にみると、西福祉事務所では、16・17歳で「まったくしない」が31.3%と、他の福祉事務所と比べて高くなっています。

図 等価世帯収入水準別 授業以外の学習時間 - ② 学校がない日(土・日曜日・祝日)

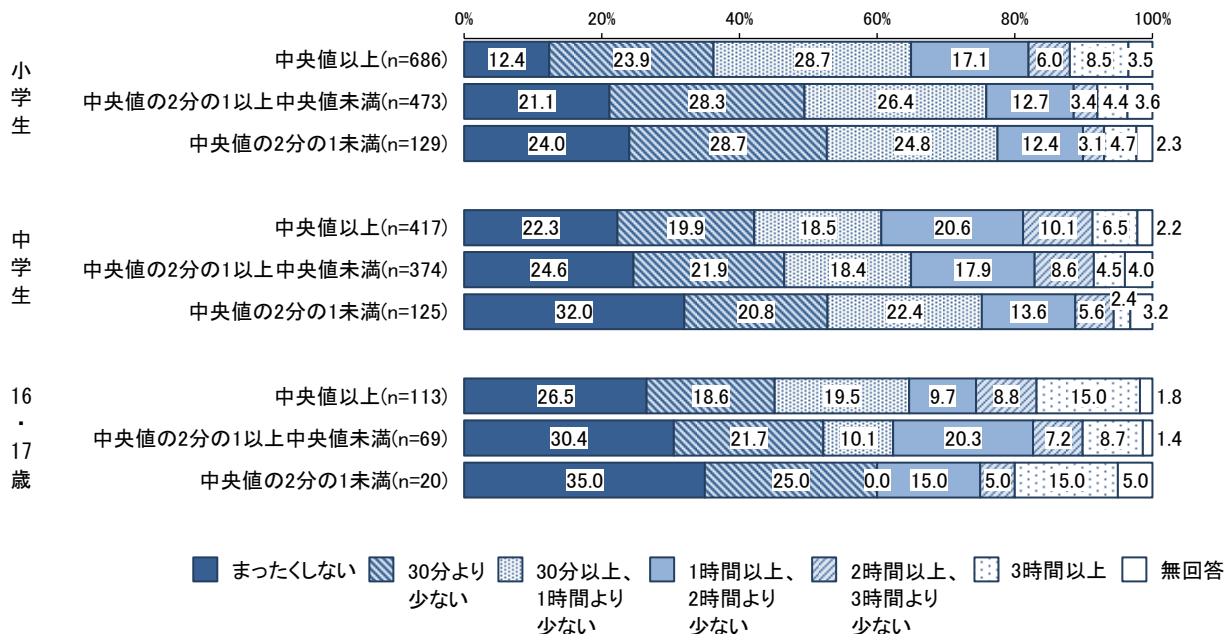


図 世帯の状況別 授業以外の学習時間 - ② 学校がない日(土・日曜日・祝日)

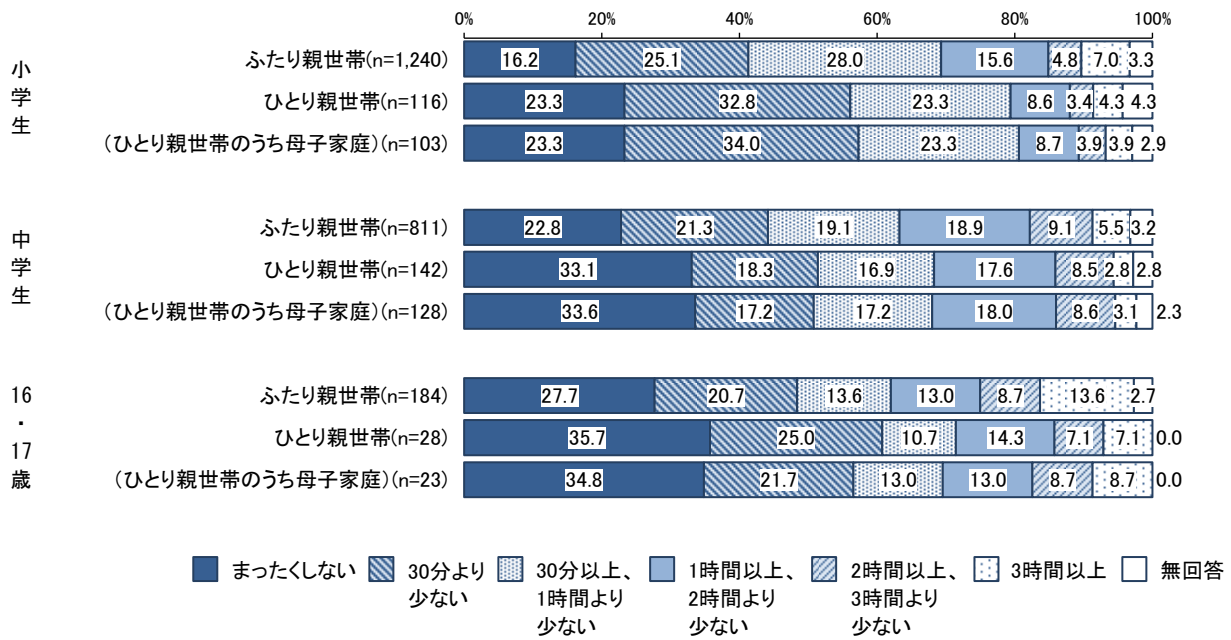
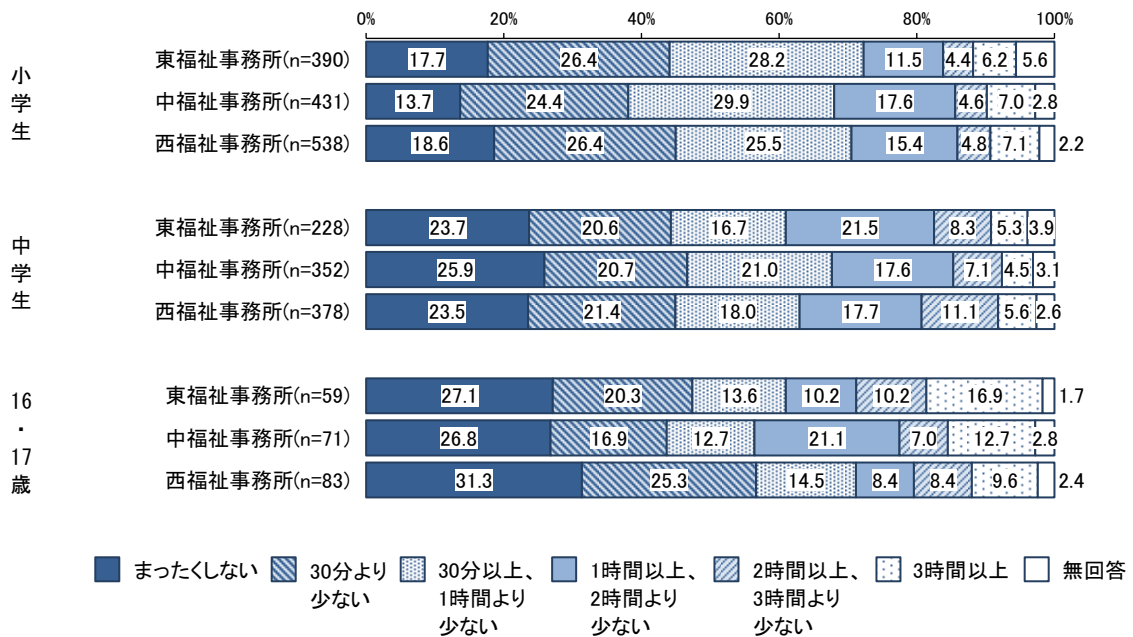


図 福祉事務所管内別 授業以外の学習時間 - ② 学校がない日(土・日曜日・祝日)



### Ⅲ 子ども調査の結果

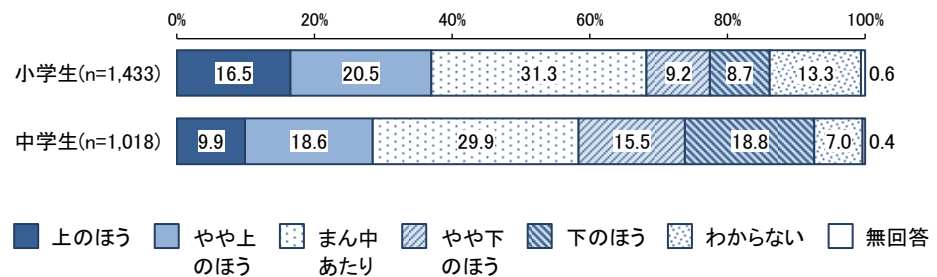
#### (4) 学習成績

小中学生 問4	あなたの成績は、クラスの中でどのくらいだと思いますか。(あてはまるもの1つに○)
---------	--

小学生は、『(やや)上のほう』(「上のほう」と「やや上のほう」の合計)が 37.0%、「まん中あたり」が 31.3%、『(やや)下のほう』(「下のほう」と「やや下のほう」の合計)が 17.9%、「わからない」が 13.3%となっています。

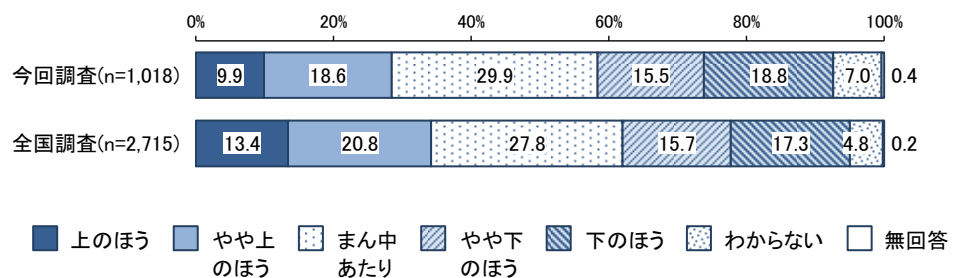
中学生は、『(やや)下のほう』が 34.3%、「まん中あたり」が 29.9%、『(やや)上のほう』が 28.5%となっています。

図 学習成績



全国調査と比較すると、『(やや)上のほう』は 5.7 ポイント低く、『(やや)下のほう』は 1.3 ポイント高くなっています。

図 学習成績 - 全国調査との比較【中学生】



等価世帯収入水準別にみると、小学生、中学生とも収入水準の低い世帯ほど、『(やや)上のほう』が低くなっています。中学生の中央値の2分の1未満の世帯では『(やや)下のほう』が5割を超えています。

世帯の状況別にみると、小学生、中学生とも、ふたり親世帯で『(やや)上のほう』がそれぞれ39.0%、31.9%と、ひとり親世帯と比べて高くなっています。一方、中学生では、ひとり親世帯で『(やや)下のほう』が5割以上と高くなっています。

図 等価世帯収入水準別 学習成績

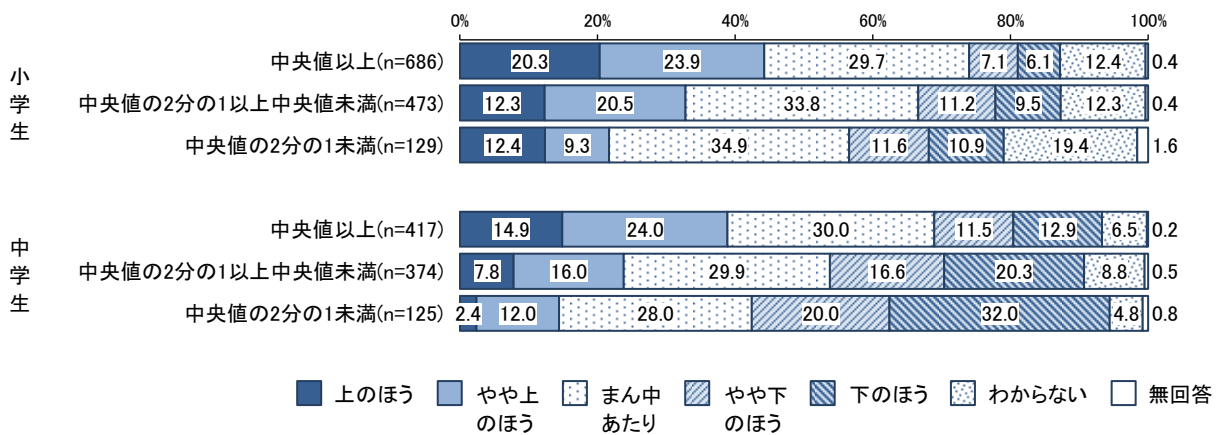
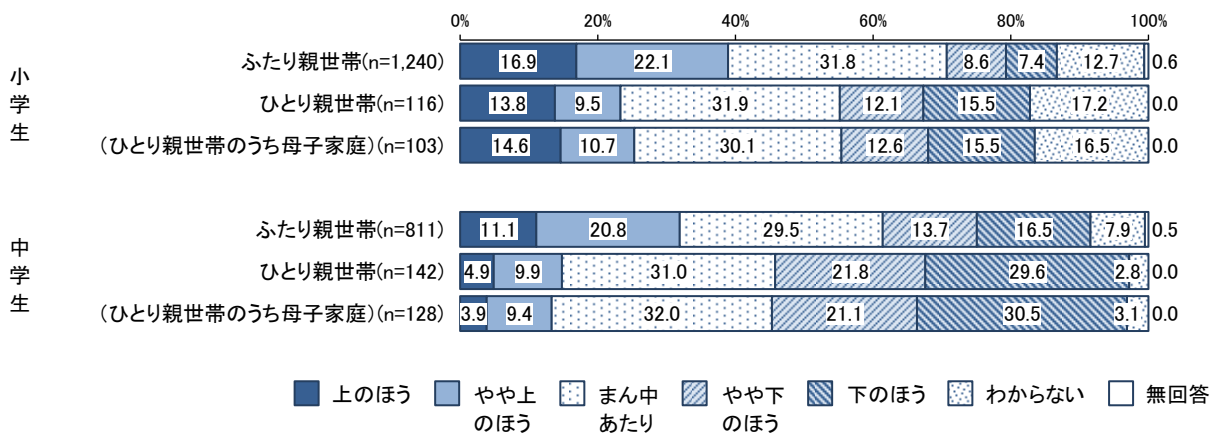


図 世帯の状況別 学習成績



### Ⅲ 子ども調査の結果

#### (5) 授業の理解度

小中学生 問5	あなたは、学校の授業がわからないことがありますか。(あてはまるもの1つに○)
16・17歳 問5	

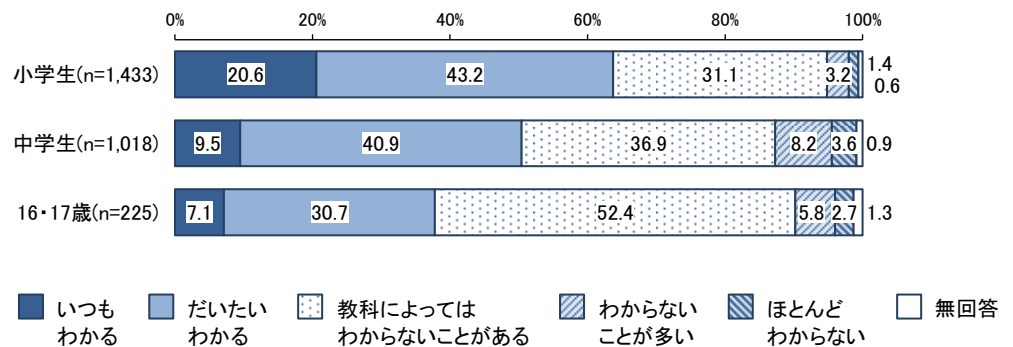
小学生は、『わかる』(「いつもわかる」と「だいたいわかる」の合計)が 63.8%で最も高く、次いで「教科によってはわからないことがある」が 31.1%、『わからない』(「わからないことが多い」と「ほとんどわからない」の合計)が 4.6%となっています。

中学生は、『わかる』が 50.4%で最も高く、次いで「教科によってはわからないことがある」が 36.9%、『わからない』が 11.8%となっています。

16・17 歳は、「教科によってはわからないことがある」が 52.4%で最も高く、次いで『わかる』が 37.8%、『わからない』が 8.5%となっています。

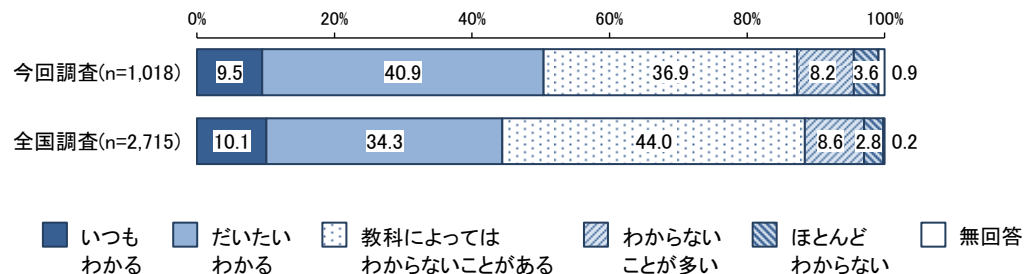
小学生と中学生は『わかる』、16・17 歳は「教科によってはわからないことがある」が最も高くなっています。

図 授業の理解度



全国調査と比較すると、『わかる』は 6.0 ポイント高くなっています。

図 授業の理解度 - 全国調査との比較【中学生】





等価世帯収入水準別にみると、小学生、中学生とも収入水準の高い世帯ほど、『わかる』が高くなっており、中央値以上の世帯では小学生は70.9%、中学生は59.2%と高くなっています。16・17歳では、中央値の2分の1未満の世帯で「教科によってはわからないことがある」が65.0%と高くなっています。

世帯の状況別にみると、小学生、中学生とも、ふたり親世帯で『わかる』がそれぞれ66.0%、54.3%と、ひとり親世帯と比べて高くなっています。16・17歳では、ひとり親世帯で「教科によってはわからないことがある」が64.3%と高くなっています。

福祉事務所管内別にみると、小学生と中学生では、福祉事務所管内による大きな差はみられません。16・17歳では、中福祉事務所で『わかる』が45.1%と、他の福祉事務所と比べて高くなっています。

図 等価世帯収入水準別 授業の理解度

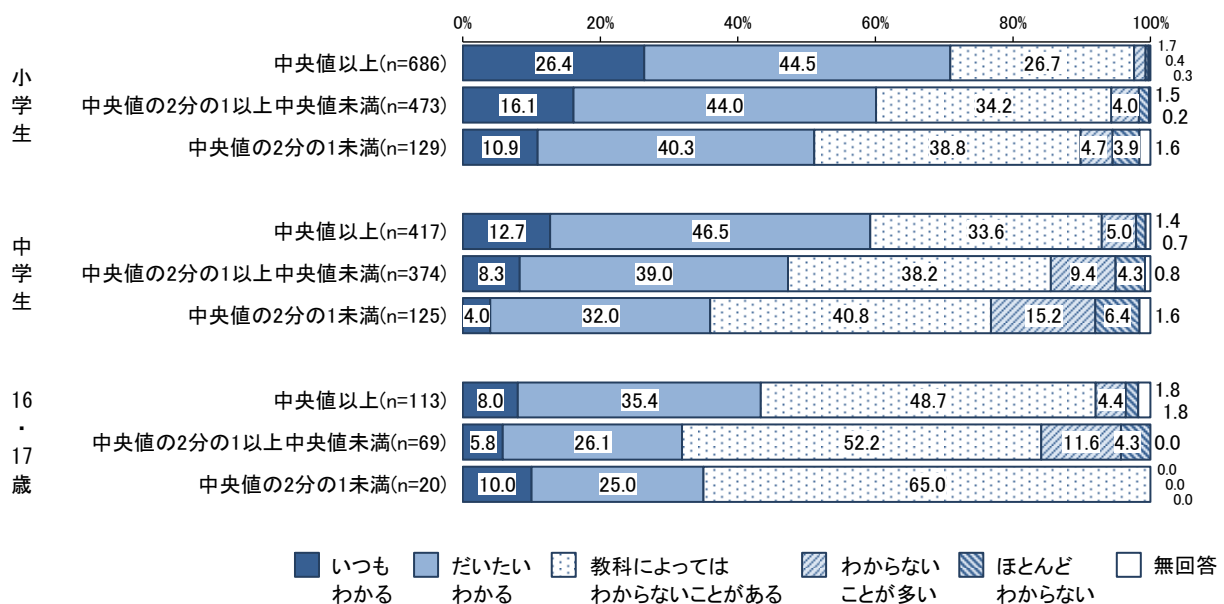
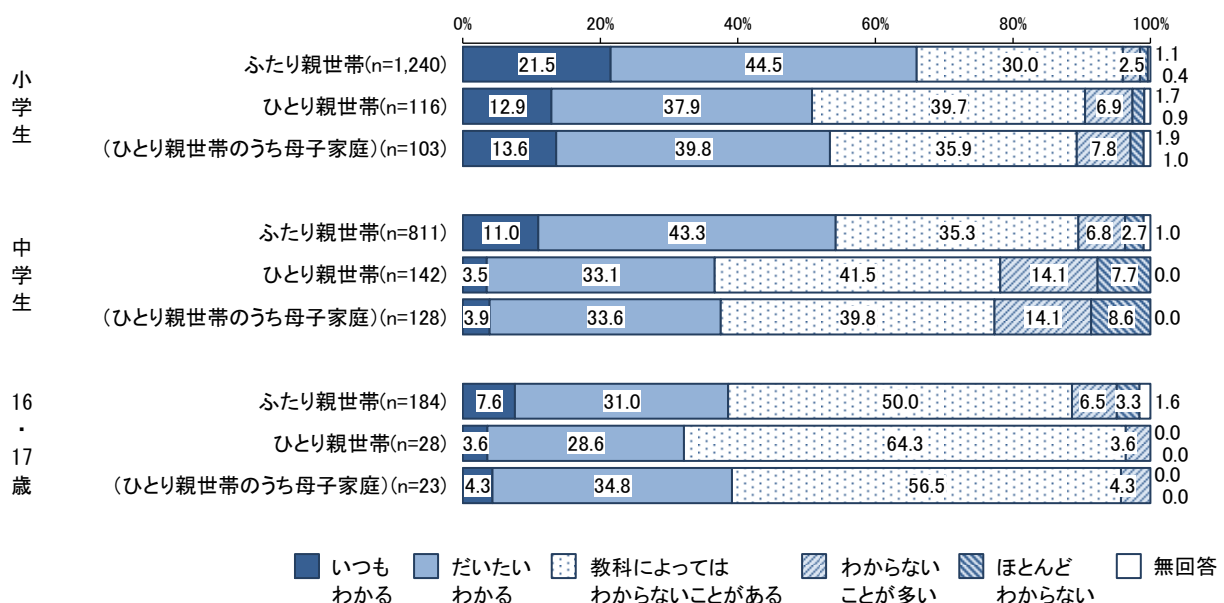
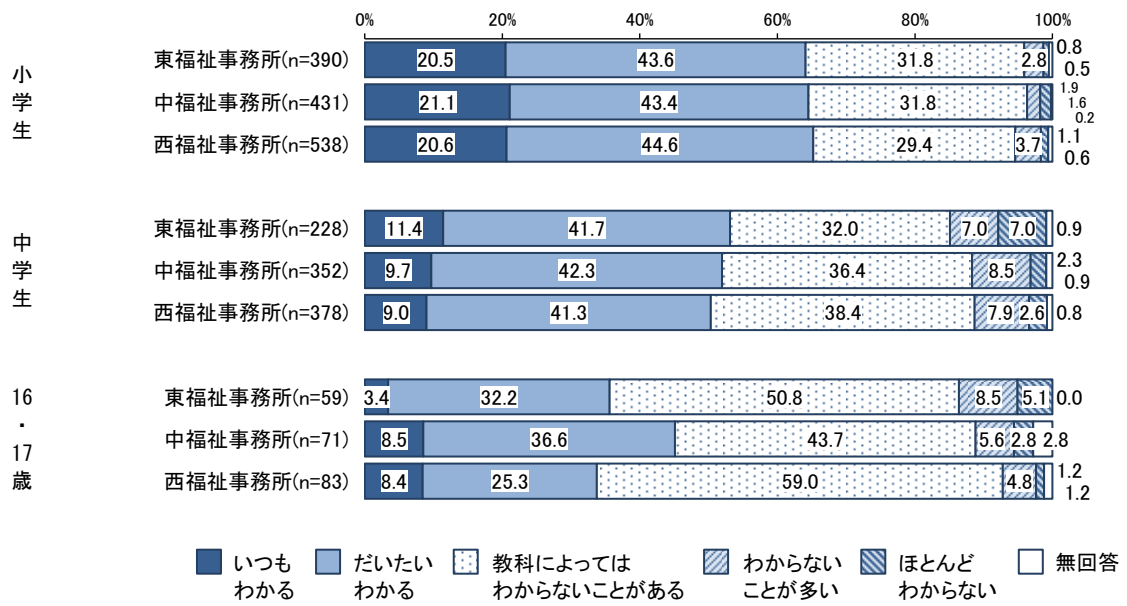


図 世帯の状況別 授業の理解度



Ⅲ 子ども調査の結果

図 福祉事務所管内別 授業の理解度





(6) 授業についていけなくなった時期

小中学生 問6	問5で「3 教科によってはわからないことがある」「4 わからないことが多い」「5 ほとんどわからない」と答えた人にお聞きします。いつごろから、授業がわからないことがあるようになりましたか。(あてはまるもの1つに○)
---------	---

① 小学生

「5年生になってから」が40.7%で最も高く、次いで「4年生のころ」が34.4%、「3年生のころ」が14.3%となっています。

等価世帯収入水準別にみると、中央値以上の世帯と中央値の2分の1未満の世帯では「5年生になってから」がそれぞれ47.0%、44.3%で最も高く、中央値の2分の1以上中央値未満の世帯では「4年生のころ」が36.7%で最も高くなっています。

世帯の状況別にみると、ふたり親世帯とひとり親世帯では「5年生になってから」がそれぞれ41.7%、37.5%で最も高く、母子家庭では「4年生のころ」が31.9%、「5年生になってから」が29.8%の順番で高くなっています。

図 授業についていけなくなった時期 - ① 小学生

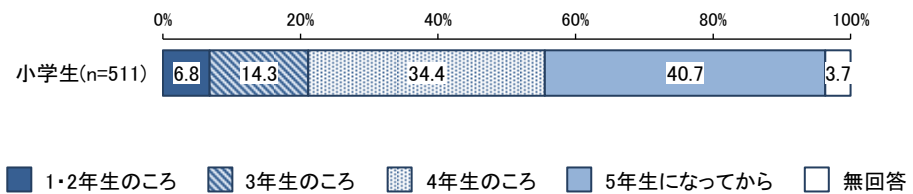


図 等価世帯収入水準別 授業についていけなくなった時期 - ① 小学生

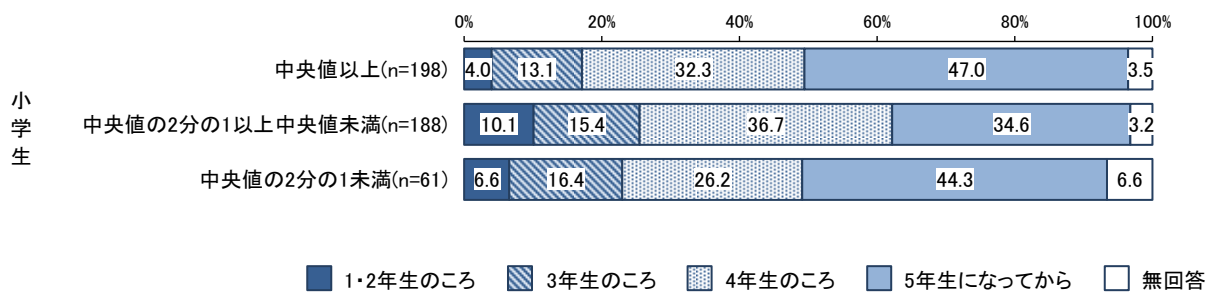
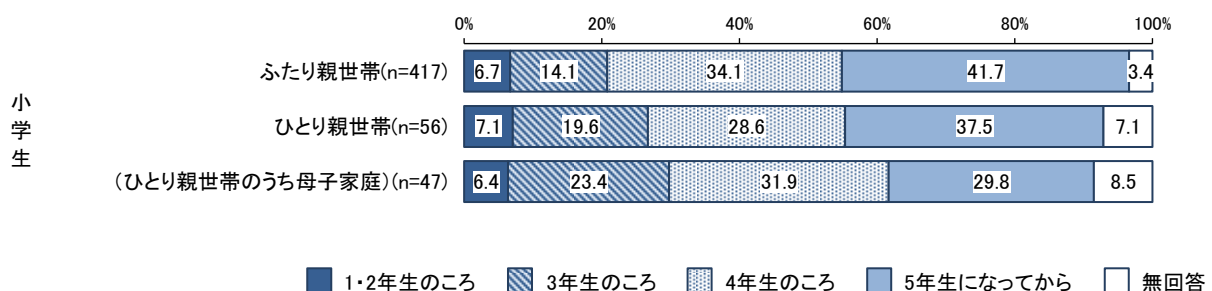


図 世帯の状況別 授業についていけなくなった時期 - ① 小学生



### Ⅲ 子ども調査の結果

#### ② 中学生

「中学1年生のころ」が47.4%で最も高く、次いで「中学2年生になってから」が18.8%、「小学5・6年生のころ」が16.9%となっています。

等価世帯収入水準別にみると、いずれの収入層においても「中学1年生のころ」が最も高く、中央値以上の世帯では5割を超えています。

世帯の状況別にみると、いずれの世帯も「中学1年生のころ」が最も高く、ひとり親世帯では約5割となっています。また、ひとり親世帯では「小学1・2年生のころ」が11.1%、ふたり親世帯では「中学2年生になってから」が21.8%と高くなっています。

図 授業についていけなくなった時期 - ② 中学生

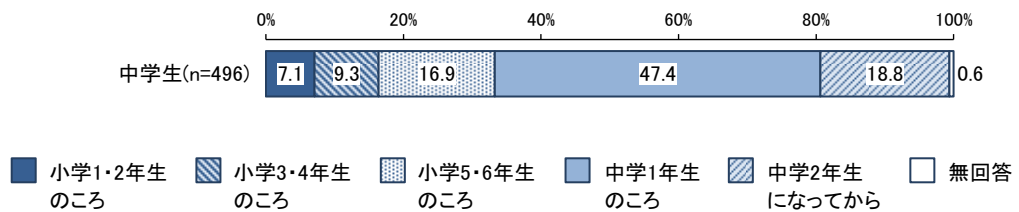


図 等価世帯収入水準別 授業についていけなくなった時期 - ② 中学生

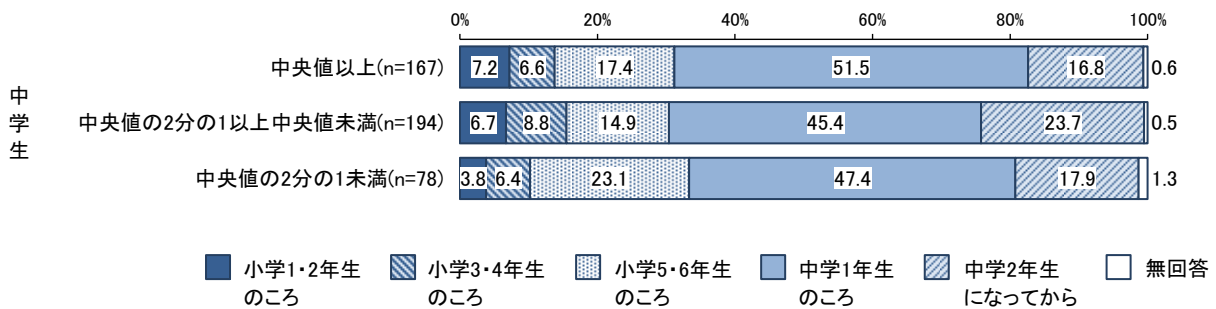
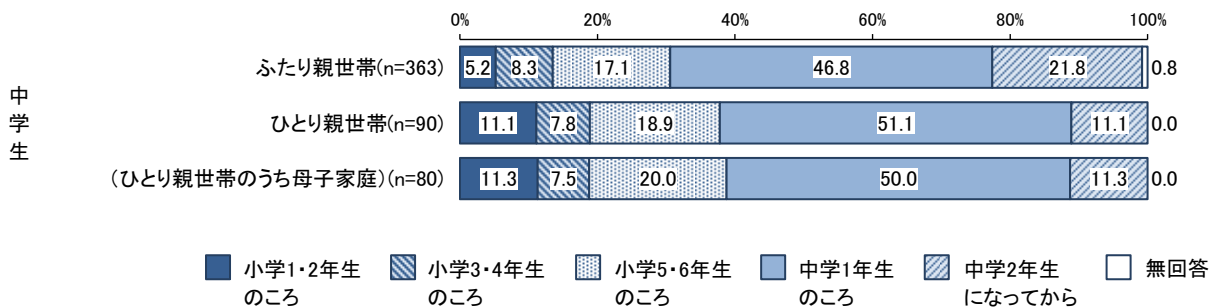


図 世帯の状況別 授業についていけなくなった時期 - ② 中学生



(7)学校の勉強がわからないときにあればよいこと

小中学生 問7	あなたは、学校の勉強がわからないとき、どのようなことがあればよいと思いますか。(あてはまるものすべてに○)
16・17歳 問6	

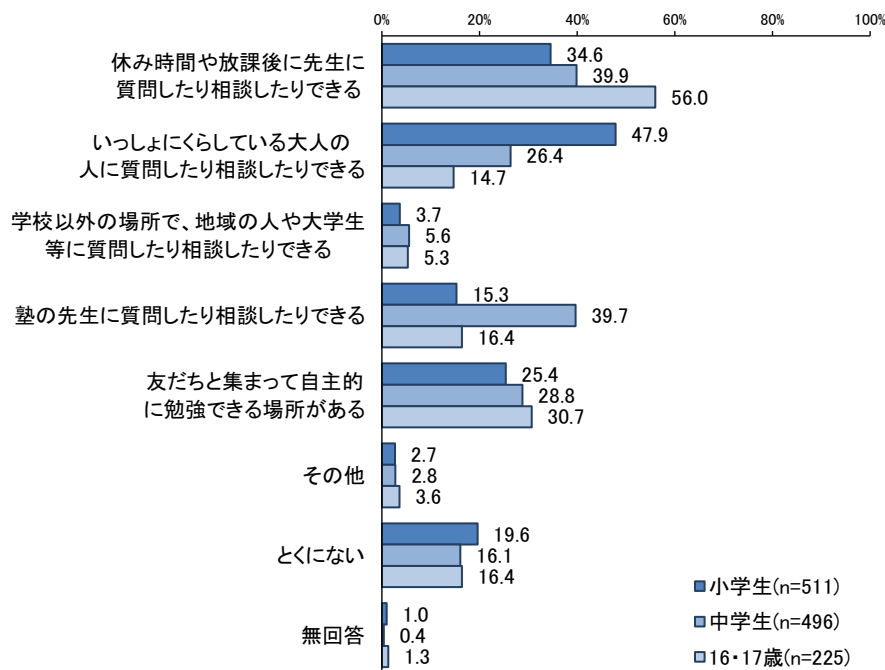
小学生は、「いっしょにくらしている大人の人に質問したり相談したりできる」が 47.9%で最も高く、次いで「休み時間や放課後に先生に質問したり相談したりできる」が 34.6%、「友だちと集まって自主的に勉強できる場所がある」が 25.4%となっています。

中学生は、「休み時間や放課後に先生に質問したり相談したりできる」が 39.9%で最も高く、次いで「塾の先生に質問したり相談したりできる」が 39.7%、「友だちと集まって自主的に勉強できる場所がある」が 28.8%、「いっしょにくらしている大人の人に質問したり相談したりできる」が 26.4%となっています。

16・17歳は、「休み時間や放課後に先生に質問したり相談したりできる」が 56.0%で最も高く、次いで「友だちと集まって自主的に勉強できる場所がある」が 30.7%、「塾の先生に質問したり相談したりできる」と「とくにない」がともに 16.4%、「いっしょにくらしている大人の人に質問したり相談したりできる」が 14.7%となっています。

小学生は「いっしょにくらしている大人の人に質問したり相談したりできる」、中学生と 16・17歳は「休み時間や放課後に先生に質問したり相談したりできる」が最も高くなっています。

図 学校の勉強がわからないときにあればよいこと



### Ⅲ 子ども調査の結果

等価世帯収入水準別にみると、小学生では、収入水準が高い世帯ほど「いっしょにくらしている大人の人に質問したり相談したりできる」が高くなっており、中央値以上の世帯で 54.5%と高くなっています。中学生では、収入水準が高い世代ほど「塾の先生に質問したり相談したりできる」が高くなっており、中央値以上の世帯で 53.9%と高くなっています。小学生と 16・17 歳では、中央値の 2 分の 1 未満の世帯で「とくにない」が高く 3 割台となっています。

世帯の状況別にみると、小学生では、ふたり親世帯は「いっしょにくらしている大人の人に質問したり相談したりできる」が最も高く、ひとり親世帯は「休み時間や放課後に先生に質問したり相談したりできる」が最も高くなっています。中学生では、ふたり親世帯で「塾の先生に質問したり相談したりできる」が 43.0%とひとり親世帯と比べて高くなっています。16・17 歳では、ふたり親世帯で「休み時間や放課後に先生に質問したり相談したりできる」が 58.2%と高く、ひとり親世帯で「とくにない」が 3 割台と高くなっています。

表 等価世帯収入水準、世帯の状況別 学校の勉強がわからないときにあればよいこと

		回答者数(n)	いっしょにくらしている大人の人に質問したり相談したりできる	休み時間や放課後に先生に質問したり相談したりできる	学校以外の場所で、地域の人や大学生等に質問したり相談したりできる	塾の先生に質問したり相談したりできる	友だちと集まって自主的に勉強できる場所がある	その他	とくにない	無回答	
等価世帯収入水準別	小学生	中央値以上	198	34.3	54.5	3.0	21.7	26.8	1.5	17.7	0.5
		中央値の 2 分の 1 以上中央値未満	188	32.4	46.8	4.3	11.7	22.9	2.7	20.2	1.1
		中央値の 2 分の 1 未満	61	34.4	36.1	4.9	4.9	21.3	4.9	31.1	-
	中学生	中央値以上	167	41.9	28.7	6.0	53.9	24.0	2.4	16.2	-
		中央値の 2 分の 1 以上中央値未満	194	38.1	23.2	3.1	34.0	35.1	1.5	17.0	1.0
		中央値の 2 分の 1 未満	78	37.2	30.8	9.0	23.1	25.6	6.4	15.4	-
	16・17 歳	中央値以上	113	57.5	16.8	5.3	17.7	31.0	5.3	15.9	1.8
		中央値の 2 分の 1 以上中央値未満	69	58.0	15.9	2.9	13.0	37.7	2.9	14.5	-
		中央値の 2 分の 1 未満	20	50.0	5.0	10.0	20.0	20.0	-	30.0	-
世帯の状況別	小学生	ふたり親世帯	417	33.1	50.6	3.6	16.5	26.1	2.2	18.7	0.7
		ひとり親世帯	56	42.9	35.7	3.6	10.7	19.6	5.4	26.8	1.8
		(ひとり親世帯のうち母子家庭)	47	42.6	27.7	4.3	8.5	21.3	6.4	29.8	2.1
	中学生	ふたり親世帯	363	40.8	25.9	5.2	43.0	28.7	2.5	15.2	0.6
		ひとり親世帯	90	33.3	30.0	5.6	27.8	31.1	5.6	20.0	-
		(ひとり親世帯のうち母子家庭)	80	31.3	30.0	6.3	27.5	31.3	5.0	20.0	-
	16・17 歳	ふたり親世帯	184	58.2	16.8	4.9	16.3	34.2	3.8	13.6	1.6
		ひとり親世帯	28	42.9	7.1	7.1	10.7	17.9	3.6	32.1	-
		(ひとり親世帯のうち母子家庭)	23	39.1	8.7	8.7	13.0	13.0	4.3	34.8	-

### 3. アルバイトの状況

#### (1) アルバイトの有無

16・17歳 問7	あなたは、アルバイトをしていますか。(あてはまるもの1つに○)
-----------	---------------------------------

「している」が23.1%、「していない」が76.4%となっています。

等価世帯収入水準別にみると、中央値の2分の1以上中央値未満の世帯で「している」が30.4%と他の収入水準と比べて高くなっています。

世帯の状況別にみると、いずれの世帯も「している」は2割以上となっており、ひとり親世帯で28.6%と高くなっています。

図 アルバイトの有無

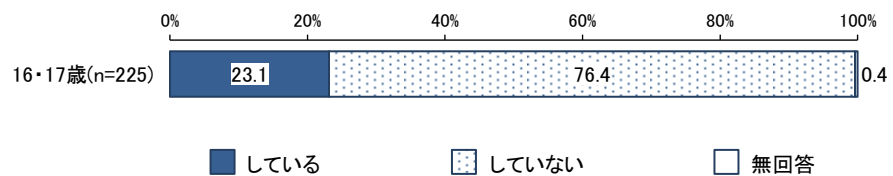


図 等価世帯収入水準別 アルバイトの有無

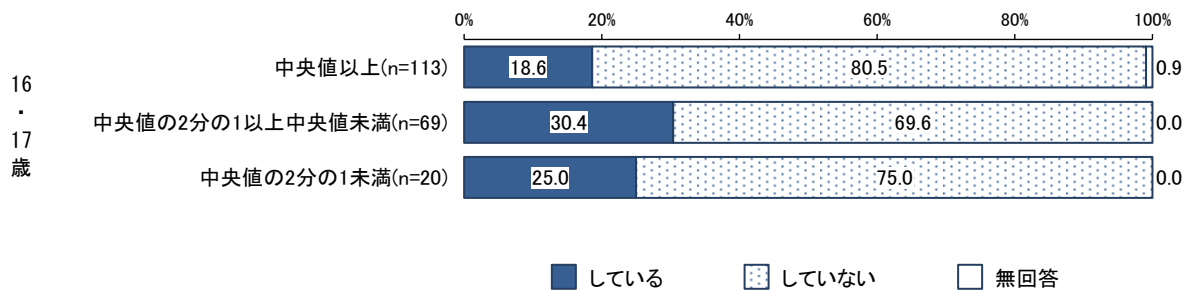
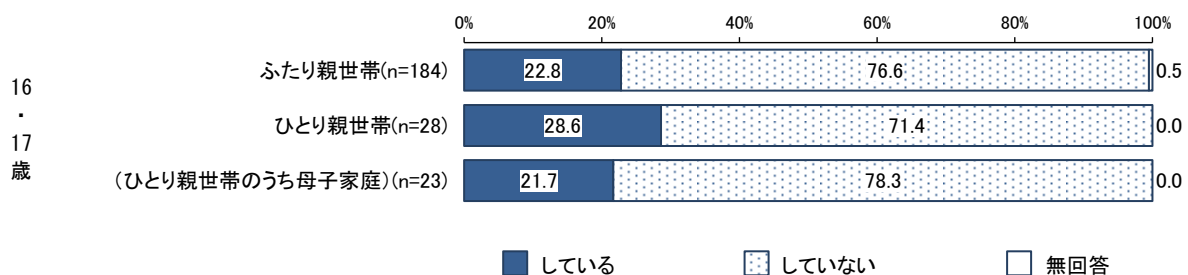


図 世帯の状況別 アルバイトの有無



### Ⅲ 子ども調査の結果

#### (2) アルバイトの頻度・目的

16・17歳 問8	あなたのアルバイトについてお聞きします。
-----------	----------------------

##### ① アルバイトをしている日

「土曜・日曜・祝日の学校が休みの日」が 90.4%で最も高く、次いで「学校のある日」が 88.5%、「夏休み・冬休み・春休み」が 84.6%となっています。

等価世帯収入水準別にみると、「土曜・日曜・祝日の学校が休みの日」と「夏休み・冬休み・春休み」では、収入水準が低い世帯ほど高くなっており、中央値の2分の1未満の世帯では100%となっています。

世帯の状況別にみると、ふたり親世帯では「学校のある日」と「土曜・日曜・祝日の学校が休みの日」がひとり親世帯と比べて高くなっています。

図 アルバイトをしている日

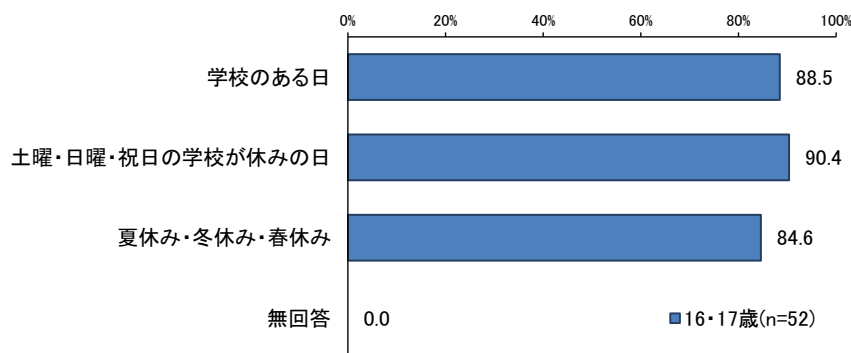


表 等価世帯収入水準、世帯の状況別 アルバイトをしている日

		回答者数 (n)	学校のある日	土曜・日曜・祝日の学校が休みの日	夏休み・冬休み・春休み	無回答	
収入水準別	16・17歳	中央値以上	21	85.7	85.7	71.4	-
		中央値の2分の1以上中央値未満	21	85.7	95.2	95.2	-
		中央値の2分の1未満	5	100.0	100.0	100.0	-
状況別の世帯	16・17歳	ふたり親世帯	42	90.5	92.9	83.3	-
		ひとり親世帯	8	75.0	87.5	100.0	-
		(ひとり親世帯のうち母子家庭)	5	80.0	80.0	100.0	-

② アルバイトの時間数 - 学校のある日

「4 時間」が 37.0%で最も高く、次いで「3 時間」が 26.1%、「5 時間」が 10.9%となっています。

等価世帯収入水準別にみると、中央値以上の世帯では「4 時間」が 50.0%、中央値の 2 分の 1 以上中央値未満の世帯では「3 時間」が 38.9%、中央値の 2 分の 1 未満の世帯では「5 時間」が 40.0%と最も高くなっています。

世帯の状況別にみると、ふたり親世帯では「3 時間」と「4 時間」がともに 3 割台に対して、ひとり親世帯では 4 時間以上が高くなっています。

図 アルバイトの時間数 - 学校のある日

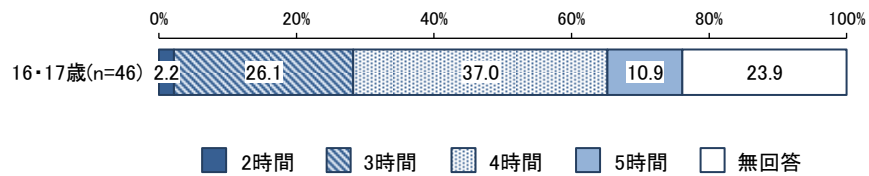


図 等価世帯収入水準別 アルバイトの時間数 - 学校のある日

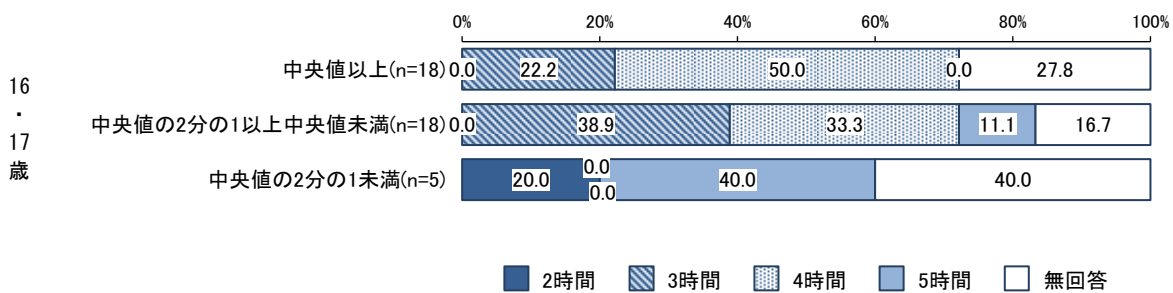
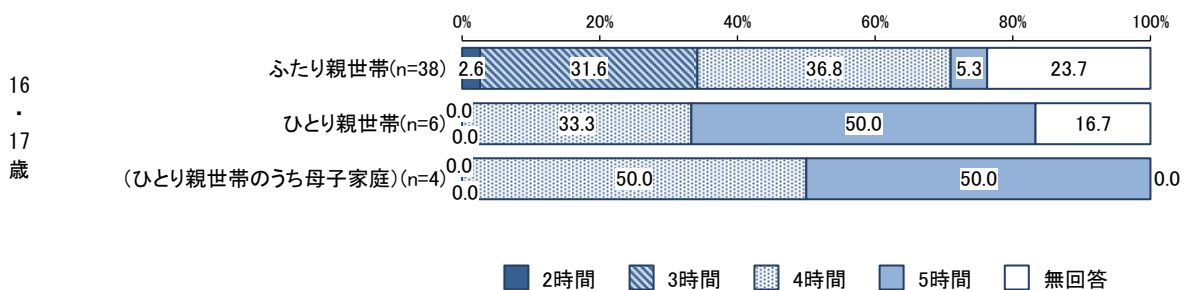


図 世帯の状況別 アルバイトの時間数 - 学校のある日



### Ⅲ 子ども調査の結果

#### ② アルバイトの時間数 - 学校が休みの日

「4 時間」が 22.4%で最も高く、次いで「5 時間」が 18.4%、「8 時間」が 14.3%、「6 時間」と「7 時間」がともに 10.2%となっています。

等価世帯収入水準別にみると、中央値の 2 分の 1 以上中央値未満の世帯では「7 時間」が 19.0%と高くなっており、6 時間以上の割合は 42.8%と他の収入層と比べて高くなっています。

世帯の状況別にみると、ふたり親世帯では「4 時間」が最も高く、ひとり親世帯では「8 時間」が最も高くなっています。

図 アルバイトの時間数 - 学校が休みの日

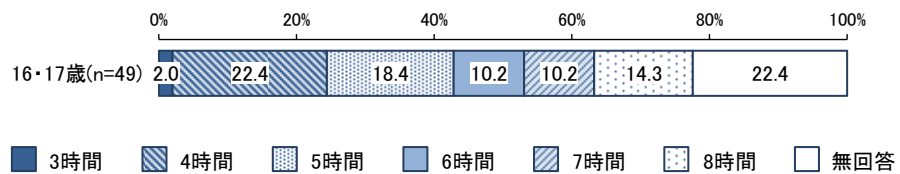


図 等価世帯収入水準別 アルバイトの時間数 - 学校が休みの日

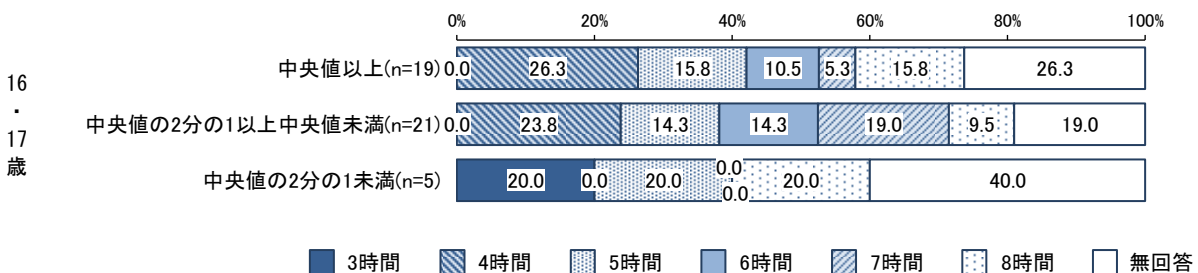
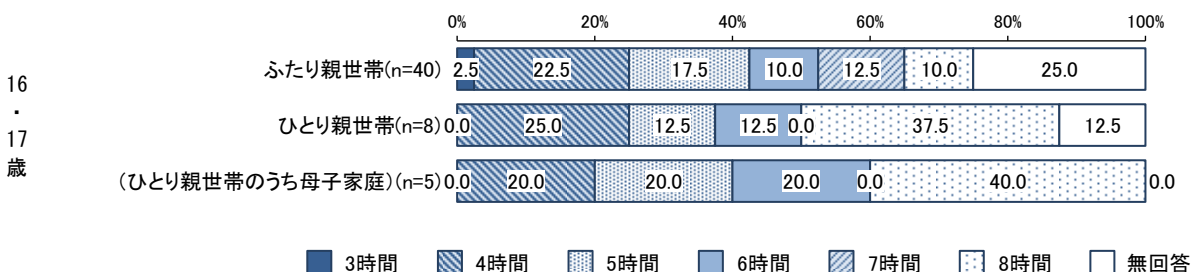


図 世帯の状況別 アルバイトの時間数 - 学校が休みの日





③ アルバイト代の使いみち

「自分で使うほかに自分のために貯めている」が 44.2%で最も高く、次いで「すべて自分のおこづかいとして使う」が 40.4%、「一部を家の生活費にしている」が 5.8%、「全部を家の生活費にしている」が 1.9%となっています。

等価世帯収入水準別にみると、収入水準が高い世帯ほど「すべて自分のおこづかいとして使う」が高くなっており、中央値以上の世帯では 47.6%となっています。中央値の 2 分の 1 以上中央値未満の世帯では「自分で使うほかに自分のために貯めている」が 57.1%と高くなっています。

世帯の状況別にみると、いずれの世帯も「自分で使うほかに自分のために貯めている」が最も高くなっていますが、ふたり親世帯では 42.9%となっており、「すべて自分のおこづかいとして使う」(40.5%)とほぼ同率となっています。

図 アルバイト代の使いみち

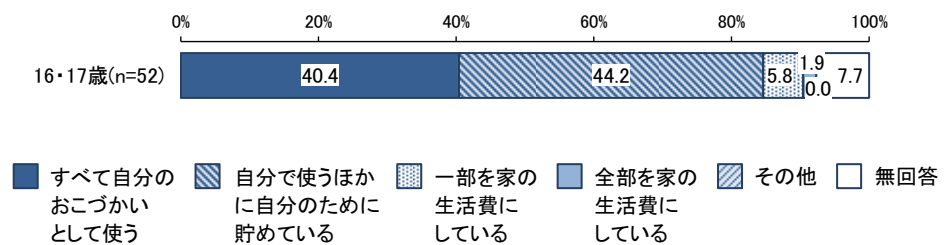


図 等価世帯収入水準別 アルバイト代の使いみち

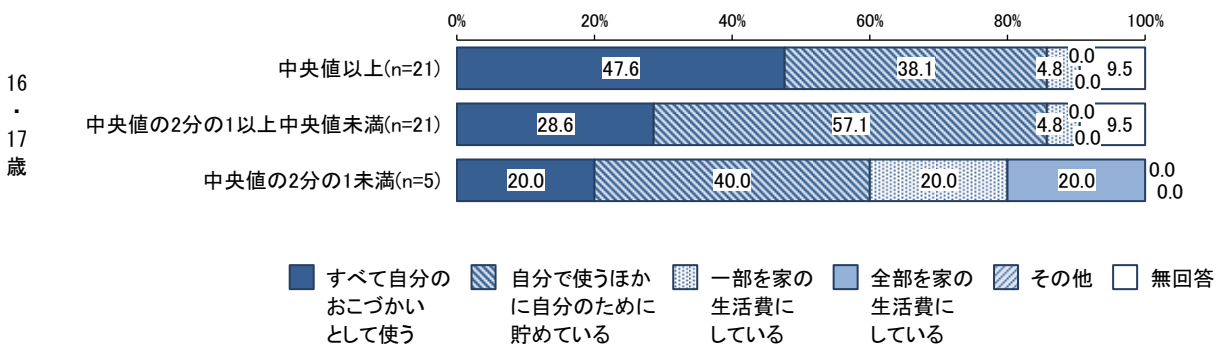
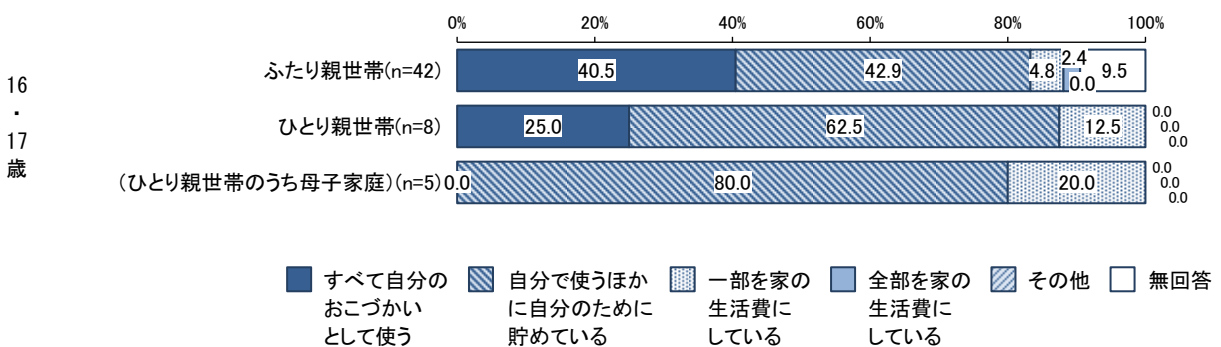


図 世帯の状況別 アルバイト代の使いみち



## 4. 進学希望

### (1) 進学希望

小中学生 問8 16・17歳 問9	あなたは、将来、どの段階まで進学したいですか。(あてはまるもの1つに○)
----------------------	--------------------------------------

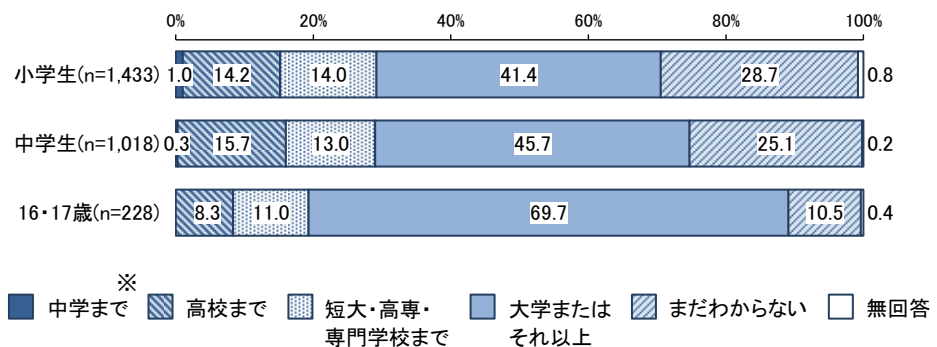
小学生は、「大学またはそれ以上」が41.4%で最も高く、次いで「まだわからない」が28.7%、「高校まで」が14.2%、「短大・高専・専門学校まで」が14.0%となっています。

中学生は、「大学またはそれ以上」が45.7%で最も高く、次いで「まだわからない」が25.1%、「高校まで」が15.7%、「短大・高専・専門学校まで」が13.0%となっています。

16・17歳は、「大学またはそれ以上」が69.7%で最も高く、次いで「短大・高専・専門学校まで」が11.0%、「まだわからない」が10.5%、「高校まで」が8.3%となっています。

いずれの年齢も「大学またはそれ以上」の割合が最も高く、次いで、小学生と中学生は「まだわからない」、16・17歳は「短大・高専・専門学校まで」の順番となっています。年齢が上がるにつれ、「大学またはそれ以上」の割合が高くなっています。

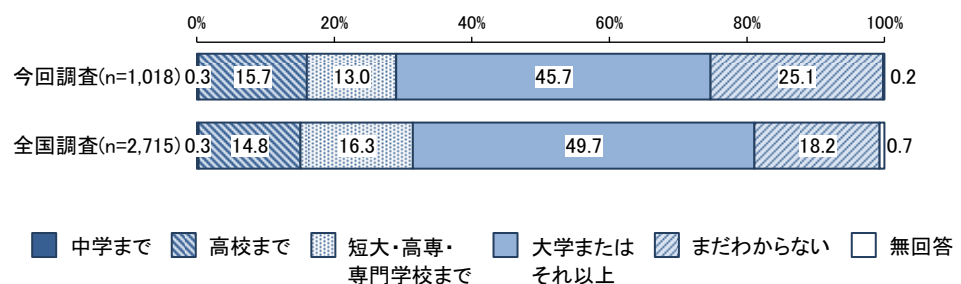
図 進学希望



※「中学まで」は小学生調査、中学生調査のみの項目

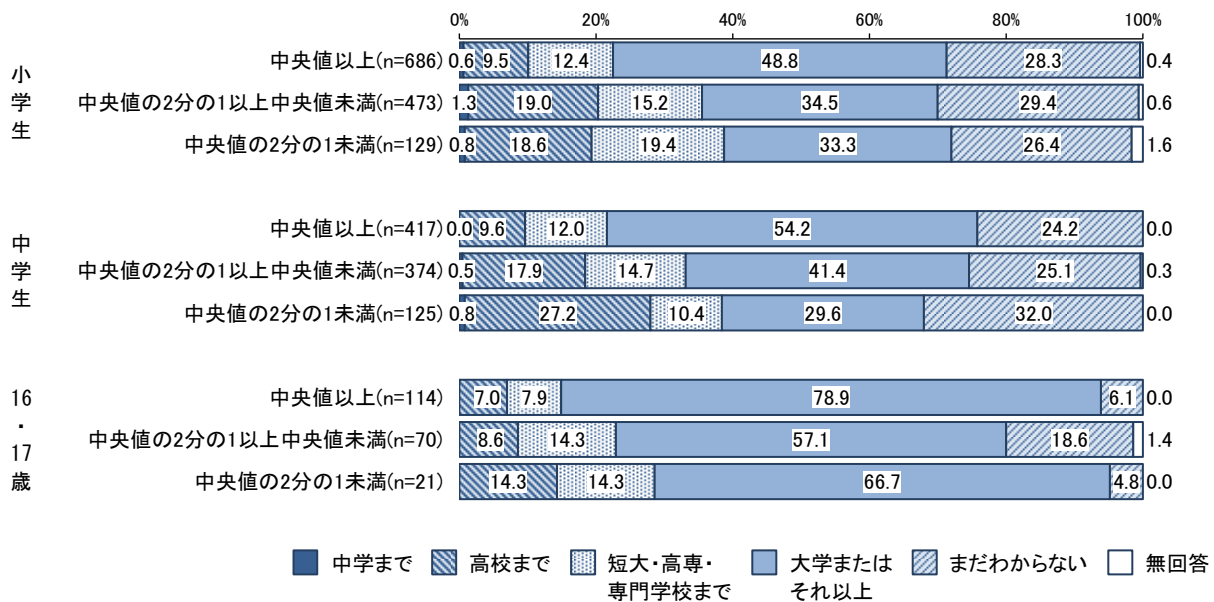
全国調査と比較すると、「大学またはそれ以上」の割合は4.0ポイント低くなっており、「まだわからない」が6.9ポイント高くなっています。

図 進学希望 - 全国調査との比較【中学生】



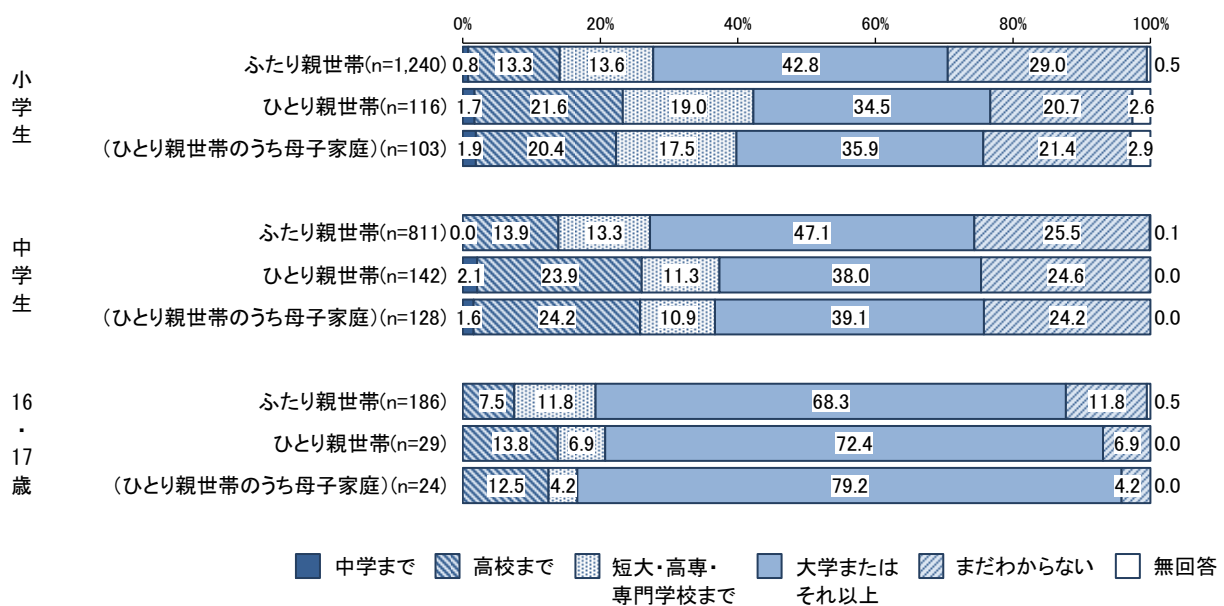
等価世帯収入水準別にみると、「高校まで」はいずれの年齢も収入水準が低い世帯ほど高い傾向となっており、中学生では中央値の2分の1未満の世帯で27.2%と最も高くなっています。「大学またはそれ以上」は16・17歳では中央値以上の世帯で78.9%と高くなっています。

図 等価世帯収入水準別 進学希望



世帯の状況別にみると、小学生と中学生では「大学またはそれ以上」はふたり親世帯がそれぞれ42.8%、47.1%とひとり親世帯と比べて高くなっていますが、16・17歳では母子家庭が79.2%と他の世帯と比べて高くなっています。

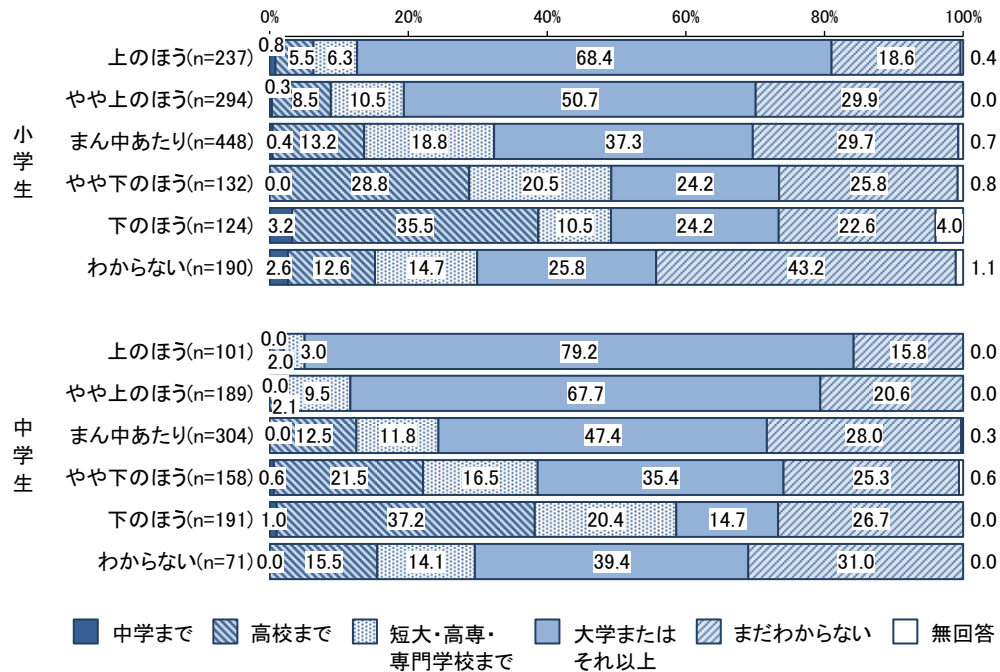
図 世帯の状況別 進学希望



### Ⅲ 子ども調査の結果

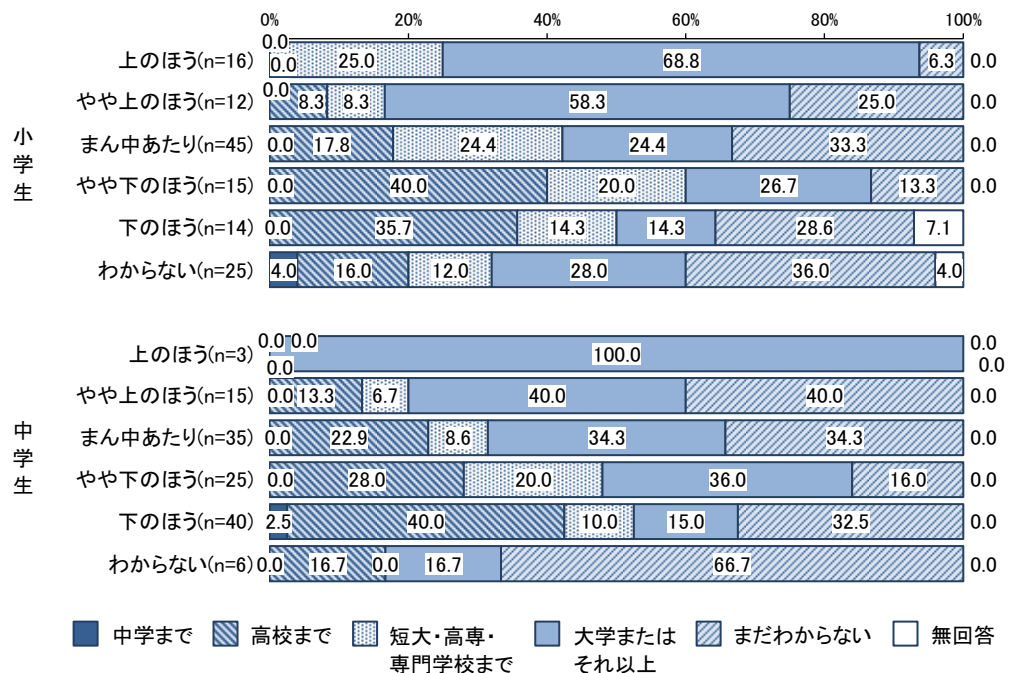
学習成績別にみると、小学生は、成績が真ん中あたり以上では「大学またはそれ以上」が最も高く、『(やや)上のほう』では5割を超えています。一方、『(やや)下のほう』では「高校まで」が最も高く、わからないでは「まだわからない」が43.2%と高くなっています。中学生は、成績が高くなるほど「大学またはそれ以上」が高くなっており、上のほうでは79.2%となっています。一方、下のほうでは「高校まで」が37.2%と高くなっています。

図 学習成績別 進学希望



等価世帯収入が中央値の2分の1未満の世帯を学習成績別にみると、小学生は、『(やや)上のほう』では「大学またはそれ以上」が5割を超えていますが、まん中あたりでは「まだわからない」が33.3%と最も高くなっています。中学生は、成績が上がるほど「大学またはそれ以上」は高くなる傾向となっていますが、やや上のほうとまん中あたりでは「まだわからない」と拮抗しています。

図 学習成績別 進学希望【等価世帯収入が中央値の2分の1未満】



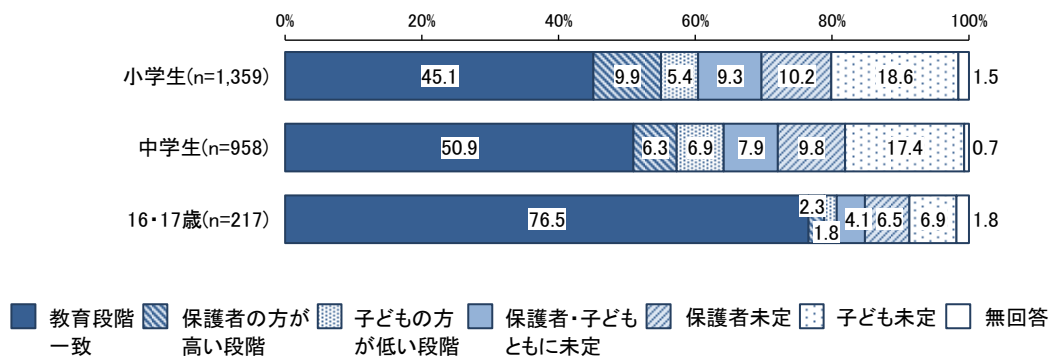
保護者と子どもの考えの一致・不一致の状況

小学生は、「教育段階一致」が 45.1%で最も高く、次いで「子ども未定」が 18.6%、「保護者未定」が 10.2% となっています。

中学生は、「教育段階一致」が 50.9%で最も高く、次いで「子ども未定」が 17.4%、「保護者未定」が 9.8% となっています。

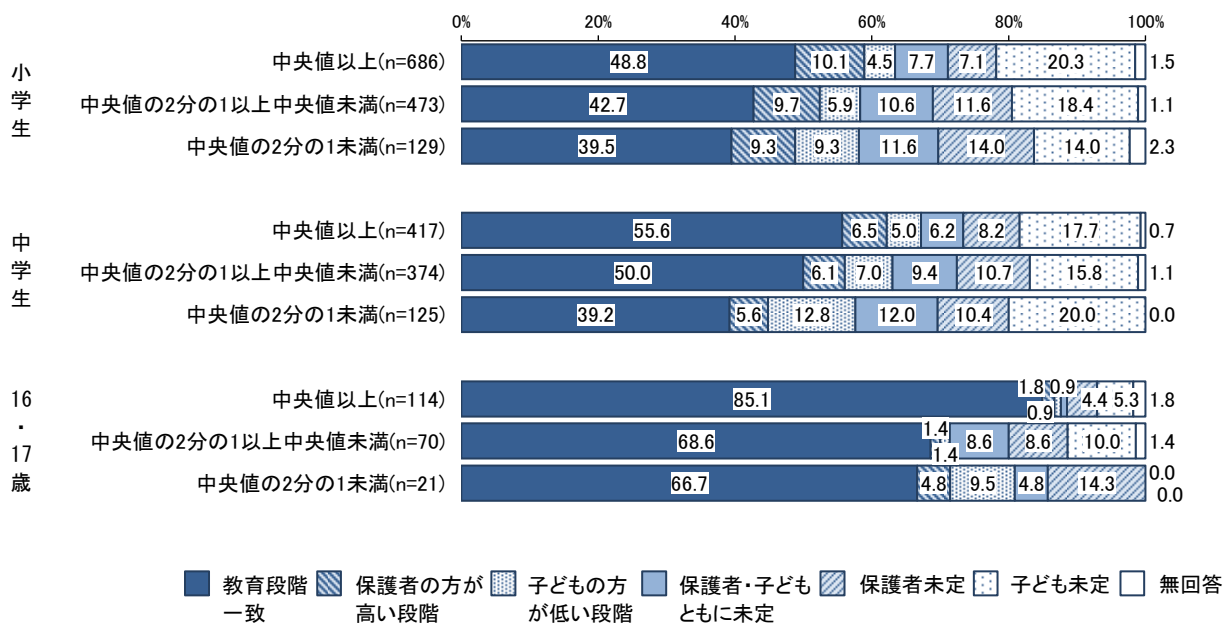
16・17 歳は、「教育段階一致」が 76.5%で最も高く、次いで「子ども未定」が 6.9%、「保護者未定」が 6.5% となっています。

図 保護者と子どもの考えの一致・不一致の状況



等価世帯収入水準別にみると、いずれの年齢も収入水準が高い世帯ほど「教育段階一致」は高くなっています。

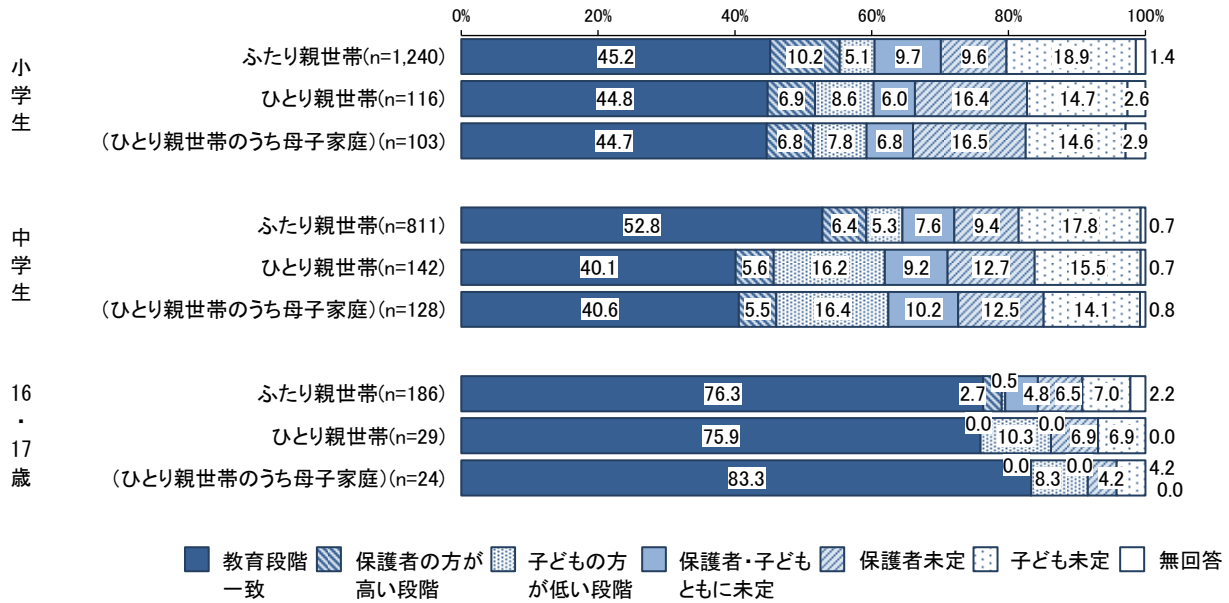
図 等価世帯収入水準別 保護者と子どもの考えの一致・不一致の状況



### Ⅲ 子ども調査の結果

世帯の状況別にみると、小学生は、ふたり親世帯では「保護者未定」がひとり親世帯と比べて低く、「子ども未定」がひとり親世帯と比べて高くなっています。中学生は、ふたり親世帯では「教育段階一致」は 52.8%とひとり親世帯と比べて高く、「子どもの方が低い段階」はひとり親世帯と比べて低くなっています。16・17 歳は、母子家庭では「教育段階一致」が 83.3%と他の世帯と比べて高くなっています。

図 世帯の状況別 保護者と子どもの考えの一致・不一致の状況





(2) 想定する進学先の理由

小中学生 問9	問8／問9で1～4と答えた場合、その理由を教えてください。(1～8については、あてはまるものすべてに○)
16・17歳 問10	

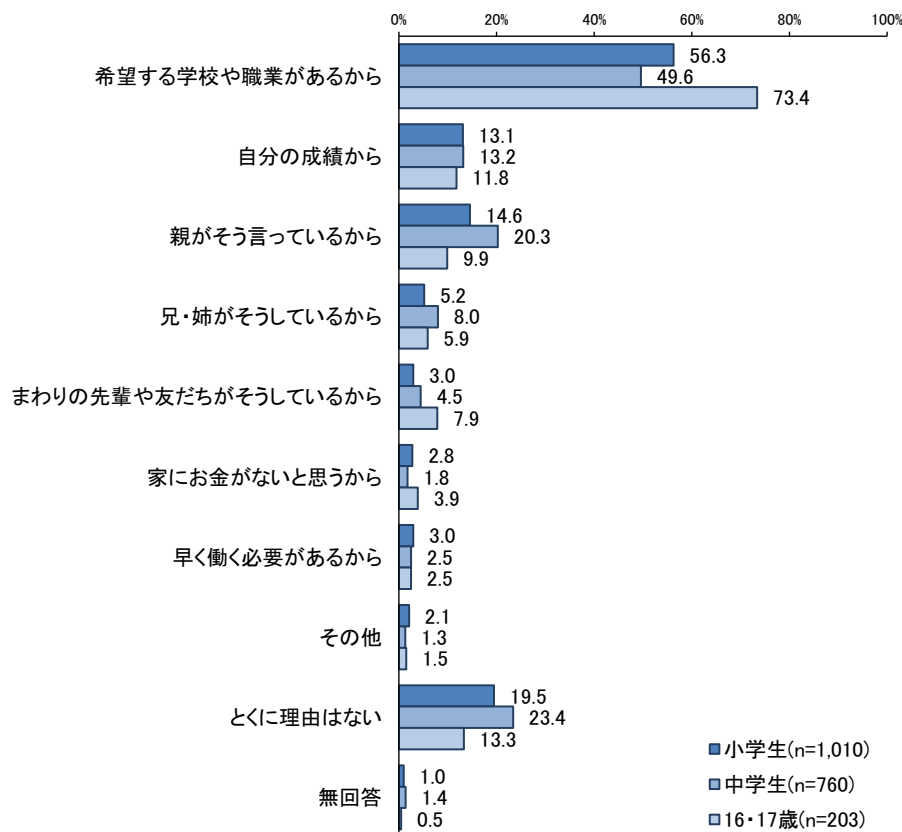
小学生は、「希望する学校や職業があるから」が 56.3%で最も高く、次いで「とくに理由はない」が 19.5%、「親がそう言っているから」が 14.6%、「自分の成績から」が 13.1%となっています。

中学生は、「希望する学校や職業があるから」が 49.6%で最も高く、次いで「とくに理由はない」が 23.4%、「親がそう言っているから」が 20.3%となっています。

16・17歳は、「希望する学校や職業があるから」が 73.4%で最も高く、次いで「とくに理由はない」が 13.3%、「自分の成績から」が 11.8%となっています。

いずれの年齢も、「希望する学校や職業があるから」の割合が最も高く、次いで「とくに理由はない」の順番となっています。

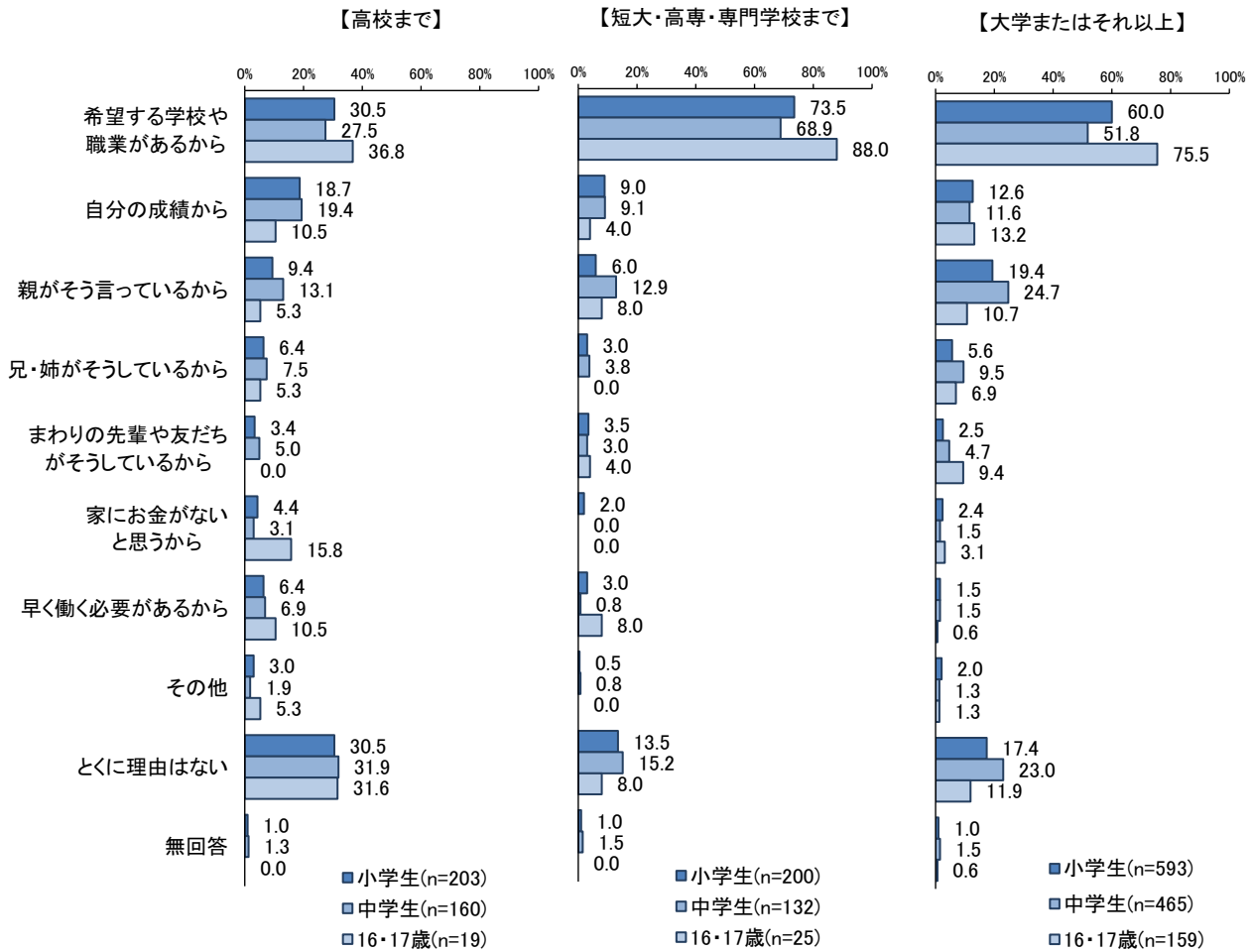
図 想定する進学先の理由



### Ⅲ 子ども調査の結果

進学希望別にみると、「希望する学校や職業があるから」はいずれの年齢も【短大・高専・専門学校まで】で最も高く、16・17歳で88.0%と高くなっています。「親がそう言っているから」はいずれの年齢も「大学またはそれ以上」で最も高くなっています。「とくに理由はない」は【高校まで】ではいずれの年齢も約3割となっており、他の進学希望に比べて高くなっています。

図 進学希望別 想定する進学先の理由





等価世帯収入水準別にみると、中央値の 2 分の 1 未満の世帯では「希望する学校や職業があるから」が中学生は 42.4%と他の収入水準と比べて低く、小学生と 16・17 歳はそれぞれ 67.7%、80.0%と他の収入水準と比べて高くなっています。また、中学生の中央値の 2 分の 1 未満の世帯では「とくに理由はない」が 35.3%と高くなっています。

世帯の状況別にみると、小学生と中学生のふたり親世帯では「親がそう言っているから」がひとり親世帯と比べて高く、16・17 歳のひとり親世帯では「兄・姉がそうしているから」と「家にお金がないと思うから」が 1 割強と高くなっています。

表 等価世帯収入水準、世帯の状況別 想定する進学先の理由

		回答者数(n)	希望する学校や職業があるから	自分の成績から	親がそう言っているから	兄・姉がそうしているから	まわりの先輩や友だちがそうしているから	家にお金がないと思うから	早く働く必要があるから	その他	とくに理由はない	無回答	
等価世帯収入水準別	小学生	中央値以上	489	57.3	14.1	16.2	5.1	2.9	1.8	2.5	2.5	18.6	0.8
		中央値の 2 分の 1 以上中央値未満	331	54.4	13.3	13.3	4.5	2.7	3.0	3.3	2.1	19.0	1.5
		中央値の 2 分の 1 未満	93	67.7	8.6	6.5	7.5	2.2	6.5	3.2	-	17.2	1.1
	中学生	中央値以上	316	52.2	11.7	21.8	9.2	4.4	-	3.2	1.6	23.1	1.9
		中央値の 2 分の 1 以上中央値未満	279	48.0	14.3	18.6	7.5	4.7	3.2	2.2	1.1	22.2	1.1
		中央値の 2 分の 1 未満	85	42.4	11.8	15.3	3.5	1.2	4.7	2.4	-	35.3	1.2
	16・17 歳	中央値以上	107	72.9	13.1	10.3	4.7	8.4	0.9	0.9	1.9	15.9	-
		中央値の 2 分の 1 以上中央値未満	56	71.4	8.9	8.9	7.1	8.9	8.9	3.6	1.8	14.3	-
		中央値の 2 分の 1 未満	20	80.0	-	5.0	10.0	5.0	10.0	-	-	-	-
世帯の状況別	小学生	ふたり親世帯	875	56.3	13.4	14.5	5.0	2.7	2.5	2.6	2.3	19.9	1.0
		ひとり親世帯	89	61.8	11.2	7.9	5.6	3.4	5.6	5.6	-	14.6	1.1
		(ひとり親世帯のうち母子家庭)	78	64.1	7.7	9.0	6.4	2.6	6.4	5.1	-	14.1	1.3
	中学生	ふたり親世帯	603	49.8	13.1	20.2	8.5	4.1	1.2	2.5	1.5	23.2	1.7
		ひとり親世帯	107	44.9	13.1	16.8	3.7	3.7	5.6	2.8	-	29.9	-
		(ひとり親世帯のうち母子家庭)	97	42.3	11.3	17.5	4.1	4.1	6.2	3.1	-	33.0	-
	16・17 歳	ふたり親世帯	163	72.4	12.3	8.6	5.5	8.6	3.1	1.8	1.8	14.1	0.6
		ひとり親世帯	27	77.8	3.7	7.4	11.1	-	11.1	3.7	-	7.4	-
		(ひとり親世帯のうち母子家庭)	23	73.9	4.3	8.7	13.0	-	13.0	-	-	8.7	-

## 5. 生活習慣

### (1) 食事の頻度

小中学生 問 10	あなたは週にどのくらい、食事をしていますか。(①～③それぞれについて、あてはまるもの1つに○)
16・17歳 問 11	

#### ① 朝食

「毎日食べる(週7日)」は、小学生は86.4%、中学生は76.5%、16・17歳は68.9%となっており、年齢が上がるほど低くなっています。16・17歳では、「週1～2日、ほとんど食べない」が12.7%と1割を超えています。

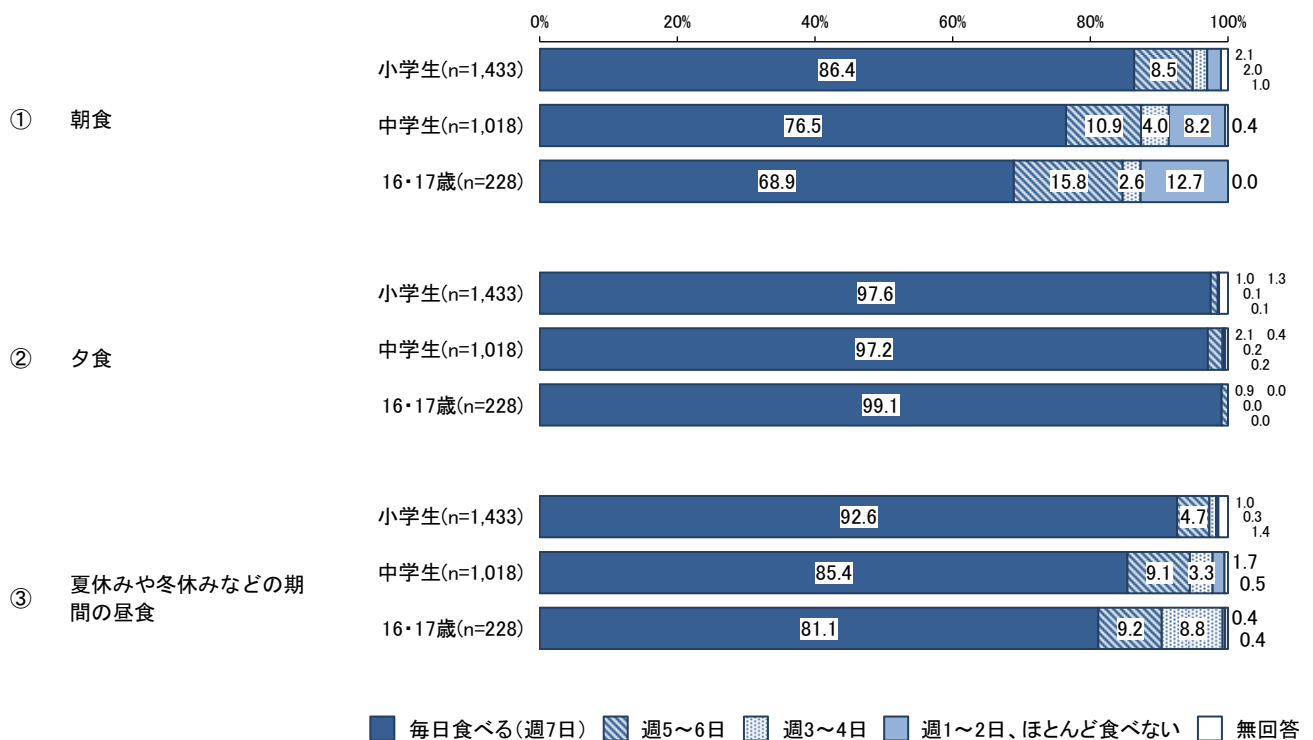
#### ② 夕食

「毎日食べる(週7日)」は、小学生は97.6%、中学生は97.2%、16・17歳は99.1%となっています。

#### ③ 夏休みや冬休みなどの期間の昼食

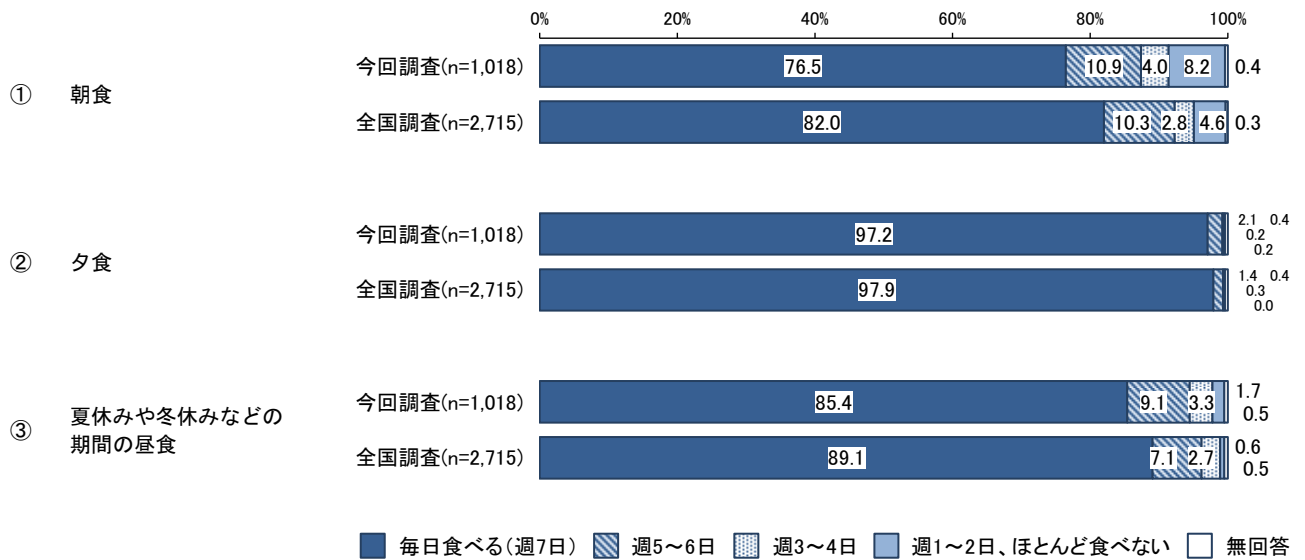
「毎日食べる(週7日)」は、小学生は92.6%、中学生は85.4%、16・17歳は81.1%となっており、年齢が上がるほど低くなっています。16・17歳では、「週3～4日」が8.8%と他の年齢と比べて高くなっています。

図 食事の頻度



全国調査と比較すると、「毎日食べる(週 7 日)」はいずれの食事も全国調査より低くなっており、①朝食は 5.5 ポイント、②夕食は 0.7 ポイント、③夏休みや冬休みなどの期間の昼食は 3.7 ポイント、今回調査が低くなっています。また、①朝食については、「週 1～2 日、ほとんど食べない」は今回調査が 3.6 ポイント高くなっています。

図 食事の頻度 - 全国調査との比較【中学生】



### Ⅲ 子ども調査の結果

#### ① 朝食

等価世帯収入水準別にみると、いずれの年齢も収入水準が低い世帯ほど、「毎日食べる(週7日)」は低くなっています。一方、中学生では、「週1~2日、ほとんど食べない」は収入水準が低い世帯ほど高くなっており、中央値の2分の1未満の世帯では16.0%、16・17歳では、「週1~2日、ほとんど食べない」は中央値の2分の1以上中央値未満の世帯で21.4%と高くなっています。

世帯の状況別にみると、「毎日食べる(週7日)」はひとり親世帯では小学生は7割台、中学生は6割台、16・17歳は4割台と、年齢が上がるにつれて低くなっています。また、16・17歳では、「週1~2日、ほとんど食べない」がひとり親世帯で約3割を占めています。

図 等価世帯収入水準別 食事の頻度 - ① 朝食

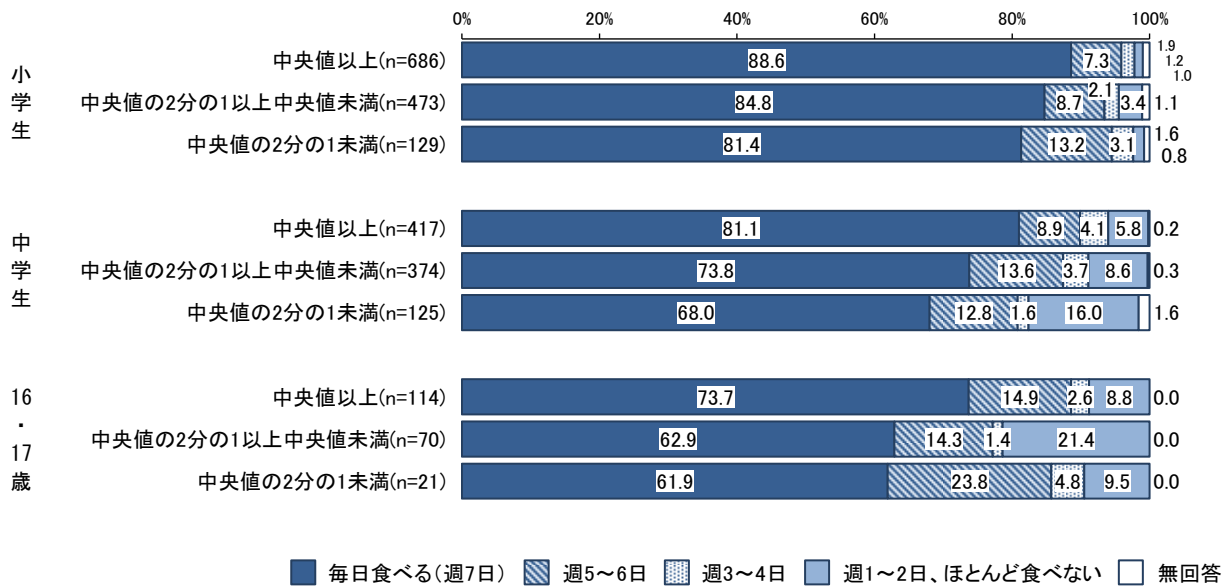
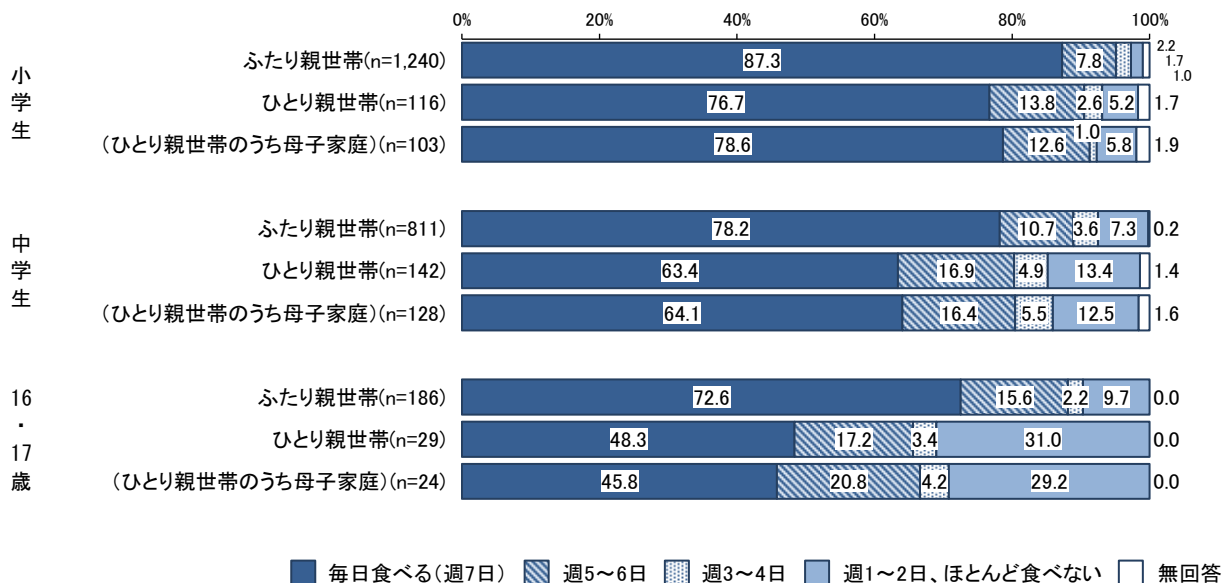


図 世帯の状況別 食事の頻度 - ① 朝食



② 夕食

等価世帯収入水準別にみると、いずれの年齢も中央値の2分の1未満の世帯では「毎日食べる(週7日)」が他の収入層と比べるとやや低くなっており、「週5~6日」が3~4%みられます。

世帯の状況別にみると、いずれの年齢もひとり親世帯は、「週5~6日」が4%前後みられます。

図 等価世帯収入水準別 食事の頻度 - ② 夕食

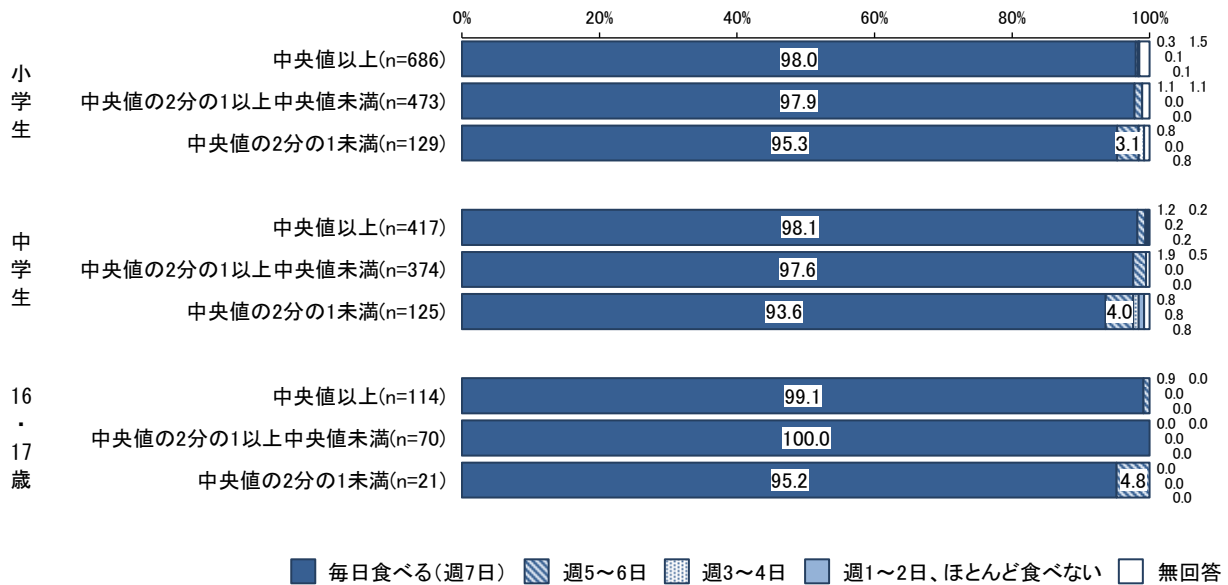
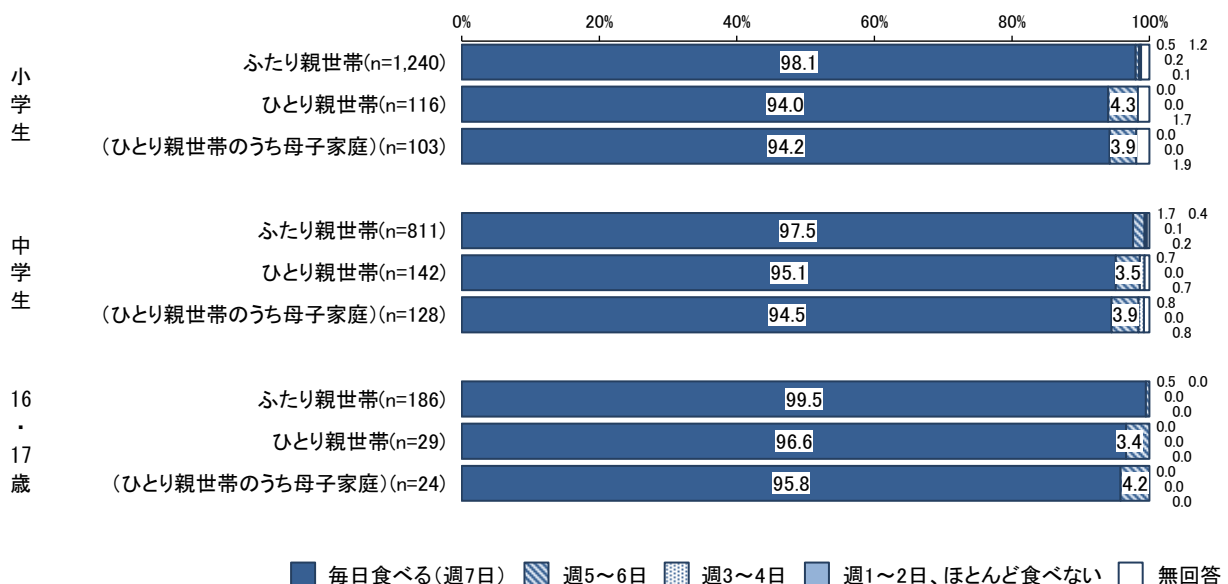


図 世帯の状況別 食事の頻度 - ② 夕食



### Ⅲ 子ども調査の結果

#### ③ 夏休みや冬休みなどの期間の昼食

等価世帯収入水準別にみると、小学生では「毎日食べる(週7日)」はいずれの収入層も9割を超えているのに対し、中学生と16・17歳では9割以下となっており、16・17歳では中央値の2分の1以上中央値未満の世帯で77.1%と低くなっています。

世帯の状況別にみると、16・17歳では、「毎日食べる(週7日)」はひとり親世帯では6割台と低くなっており、「週5～6日」が2割台、「週3～4日」が1割台を占めています。また、中学生もひとり親世帯では、「週5～6日」が1割を超えています。

図 等価世帯収入水準別 食事の頻度 - ③ 夏休みや冬休みなどの期間の昼食

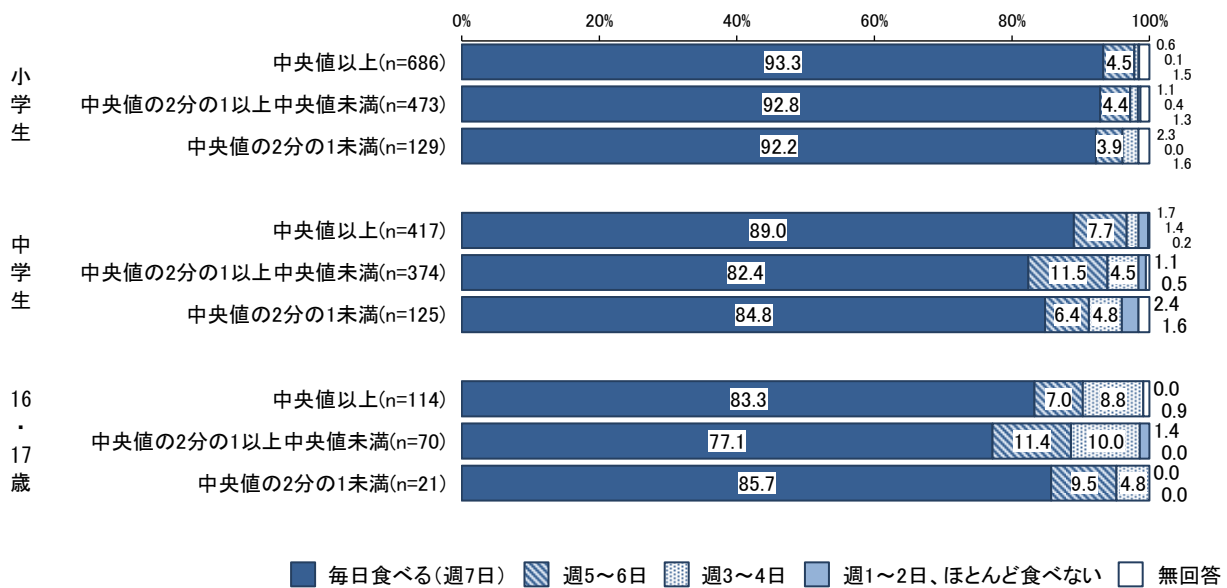
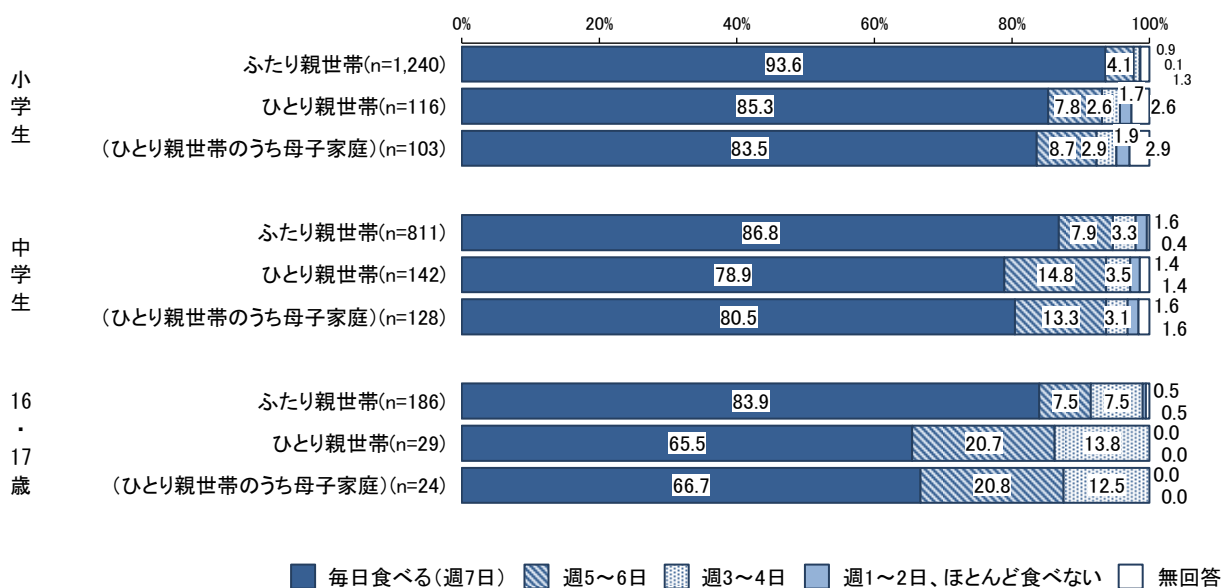


図 世帯の状況別 食事の頻度 - ③ 夏休みや冬休みなどの期間の昼食



(2)起床時刻の規則性

小中学生 問 11	あなたは、ふだん(月曜日～金曜日)、ほぼ同じ時間に起きていますか。(あてはまるもの1つに○)
16・17歳 問 12	

小学生は、『(どちらかといえば)そうである』(「そうである」と「どちらかといえばそうである」の合計)が 87.9%、『(どちらかといえば)そうではない』(「そうではない」と「どちらかといえばそうではない」の合計)が 11.6%となっています。

中学生は、『(どちらかといえば)そうである』が 89.3%、『(どちらかといえば)そうではない』が 10.6%となっています。

16・17歳は、『(どちらかといえば)そうである』が 91.7%、『(どちらかといえば)そうではない』が 8.3%となっています。

等価世帯収入水準別にみると、小学生と中学生では、収入水準が低い世帯ほど「そうである」が低くなっています。16・17歳では、中央値の2分の1未満の世帯で「そうである」が81.0%と高くなっています。

世帯の状況別にみると、小学生と中学生では、『(どちらかといえば)そうである』は、ふたり親世帯がひとり親世帯と比べてやや高くなっています。16・17歳では、『(どちらかといえば)そうである』は、ひとり親世帯の方がふたり親世帯よりやや高くなっています。

図 起床時刻の規則性

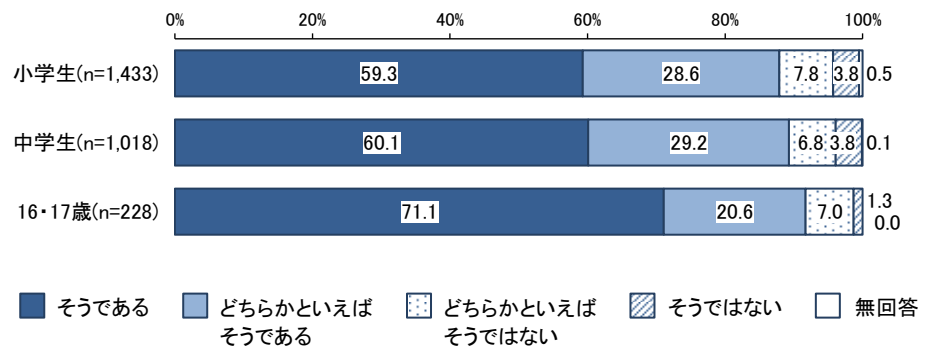
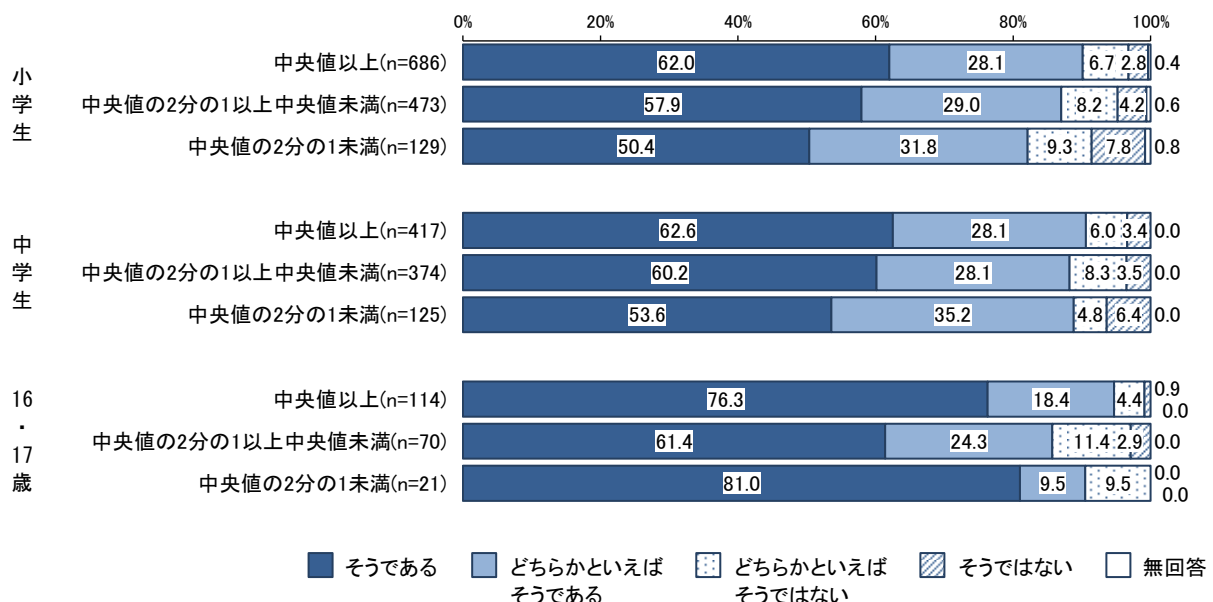
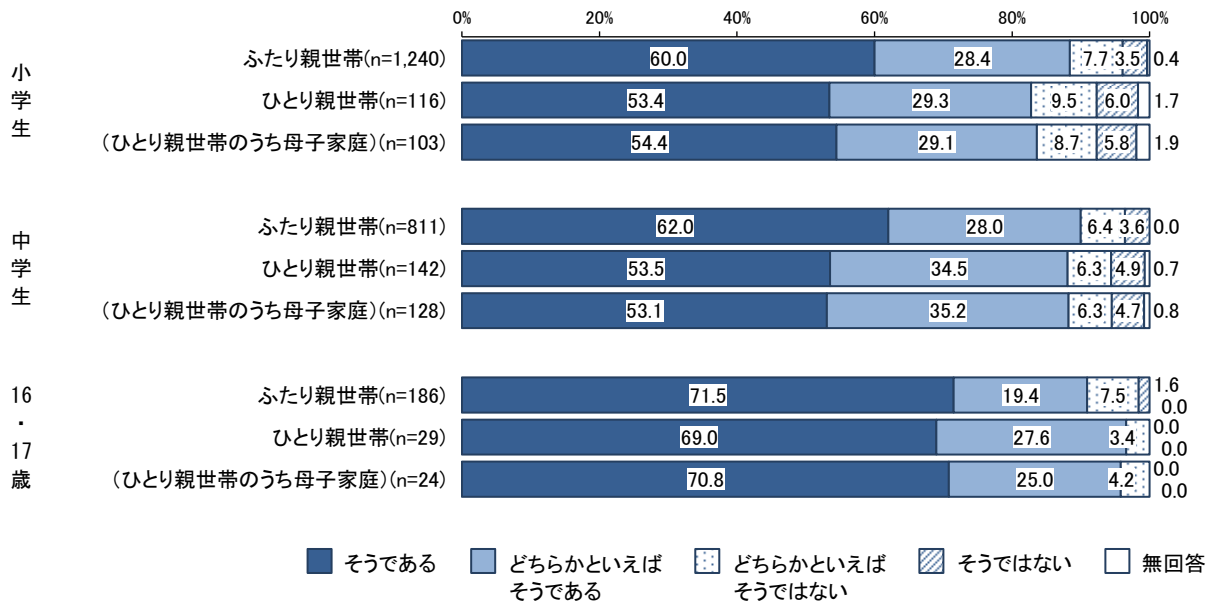


図 等価世帯収入水準別 起床時刻の規則性



Ⅲ 子ども調査の結果

図 世帯の状況別 起床時刻の規則性





(3) 就寝時間の規則性

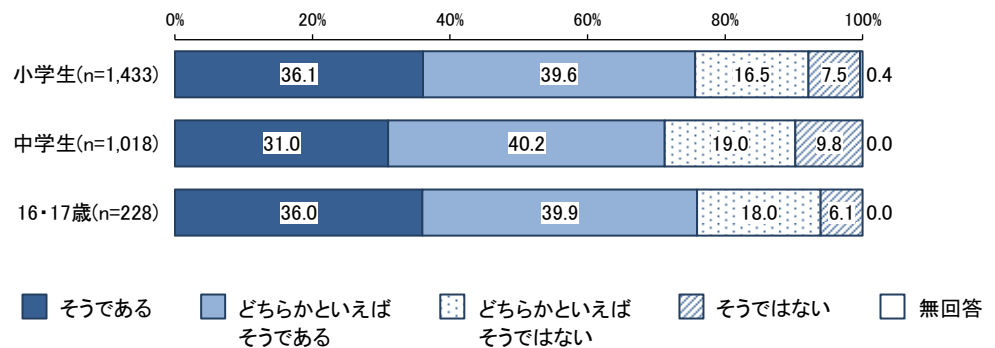
小中学生 問 12	あなたは、ふだん(月曜日～金曜日)、ほぼ同じ時間に寝ていますか。(あてはまるもの
16・17歳 問 13	1つに○)

小学生は、『(どちらかといえば)そうである』が 75.7%、『(どちらかといえば)そうではない』が 24.0%となっています。

中学生は、『(どちらかといえば)そうである』が 71.2%、『(どちらかといえば)そうではない』が 28.8%となっています。

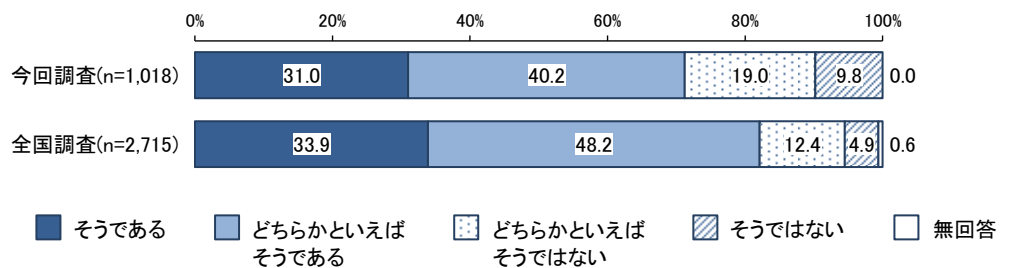
16・17 歳は、『(どちらかといえば)そうである』が 75.9%、『(どちらかといえば)そうではない』が 24.1%となっています。

図 就寝時間の規則性



全国調査と比較すると、『(どちらかといえば)そうである』は今回調査が 10.9 ポイント低くなっており、『(どちらかといえば)そうではない』は今回調査が 11.5 ポイント高くなっています。

図 就寝時間の規則性 - 全国調査との比較【中学生】



### Ⅲ 子ども調査の結果

等価世帯収入水準別にみると、小学生と中学生では、収入水準が低い世帯ほど『(どちらかといえば)そうである』が低くなっています。16・17歳では、中央値の2分の1未満の世帯で「そうである」が47.6%と高く、『(どちらかといえば)そうである』は80.9%と高くなっています。

世帯の状況別にみると、いずれの年齢も『(どちらかといえば)そうである』は、ふたり親世帯がひとり親世帯と比べて高くなっています。

図 等価世帯収入水準別 就寝時間の規則性

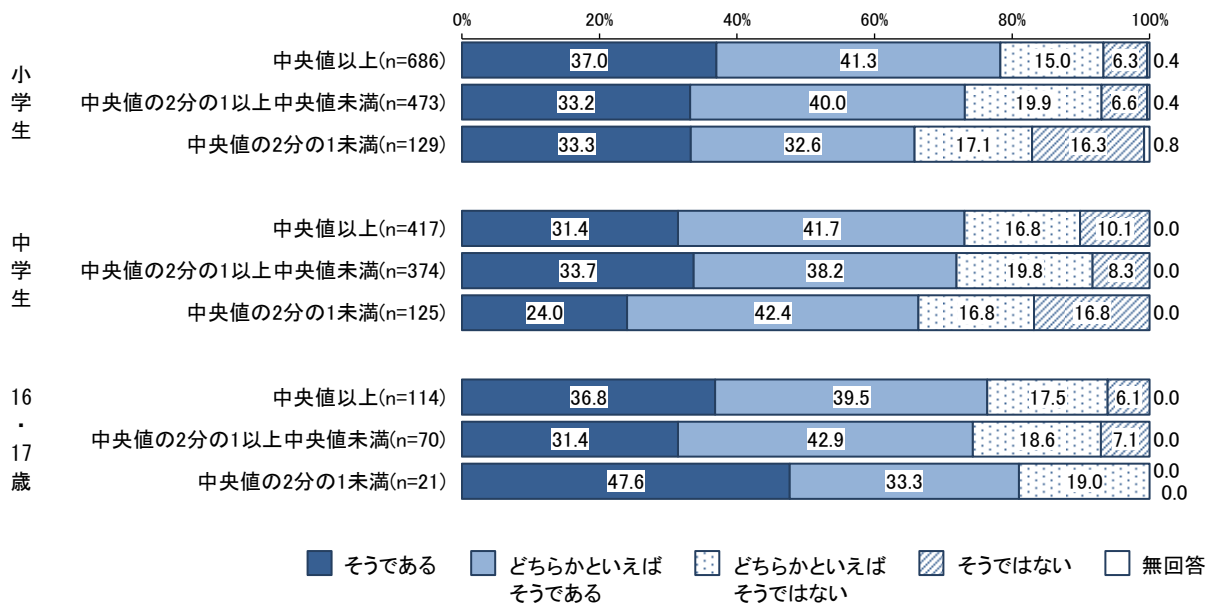
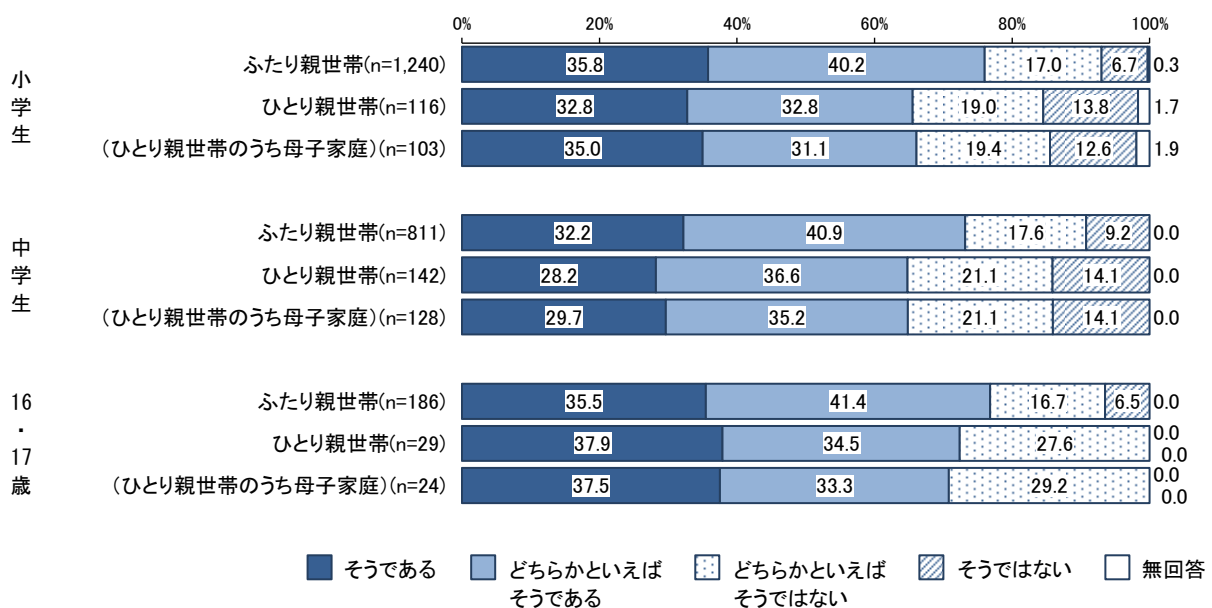


図 世帯の状況別 就寝時間の規則性



## 6. 困った時の相談状況

### (1) 困った時の相談相手

小中学生 問 13	あなたに困っていることや悩みごとがあるとき、あなたが相談できると思う人はだれですか。(1～9については、あてはまるものすべてに○)
16・17歳 問 14	

小学生は、「親」が 78.3%で最も高く、次いで「学校の友だち」が 62.1%、「学校の先生」が 30.2%、「きょうだい」が 25.3%、「祖父母など」が 20.5%となっています。

中学生は、「親」が 64.2%で最も高く、次いで「学校の友だち」が 61.8%、「学校の先生」が 23.7%、「きょうだい」が 18.8%となっています。

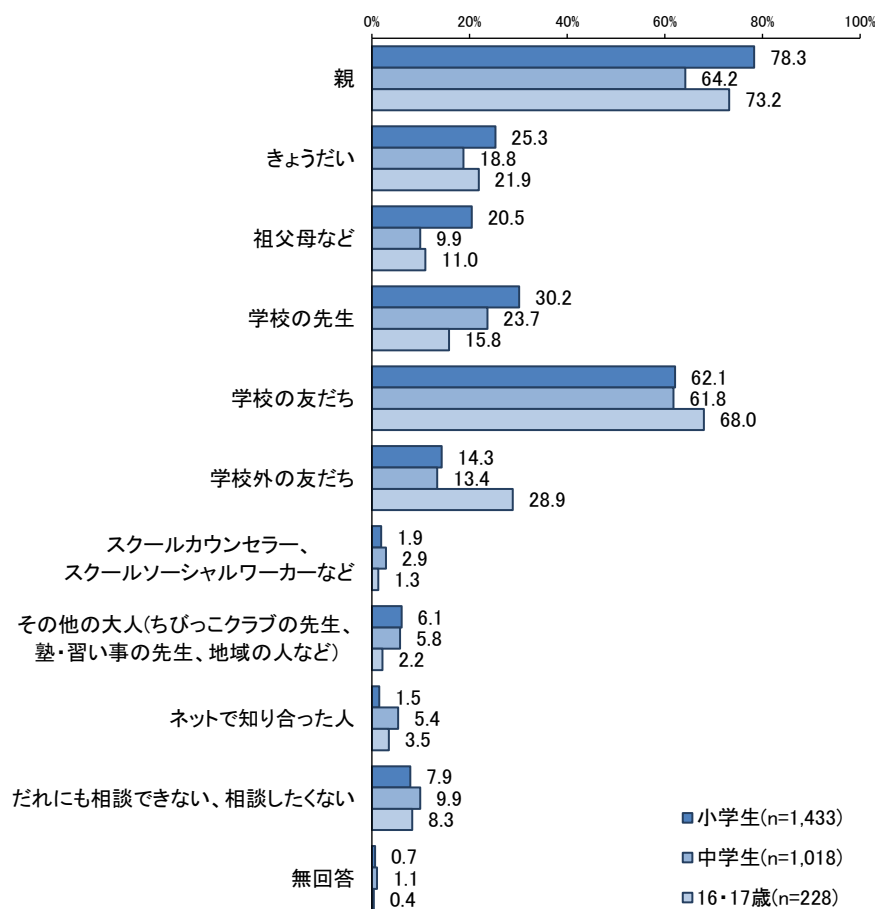
16・17 歳は、「親」が 73.2%で最も高く、次いで「学校の友だち」が 68.0%、「学校外の友だち」が 28.9%となっています。

いずれの年齢も、「親」の割合が最も高く、次いで「学校の友だち」の順番となっています。

等価世帯収入水準別にみると、小学生では、収入水準が高い世帯ほど「親」と「学校の友だち」は高くなっています。中学生では、中央値の 2 分の 1 以上中央値未満の世帯で「親」と「学校の友だち」がほぼ同率で高くなっており、16・17 歳の中央値以上の世帯も「親」と「学校の友だち」が同率で高くなっています。

世帯の状況別にみると、いずれの年齢の世帯も「親」が最も高くなっています。16・17 歳では、ふたり親世帯で「学校の友だち」と「学校外の友だち」が高く、ひとり親世帯で「きょうだい」が高くなっています。

図 困った時の相談相手



Ⅲ 子ども調査の結果

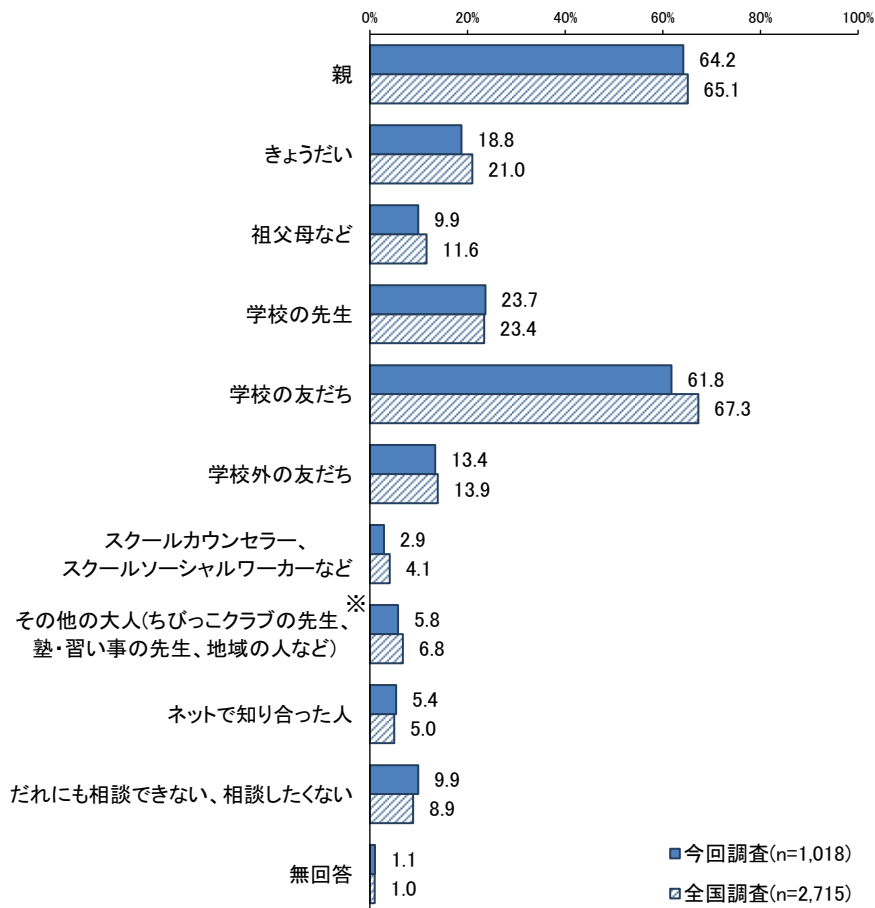
表 等価世帯収入水準、世帯の状況別 困った時の相談相手

			回答者数(n)	親	きょうだい	祖父母など	学校の先生	学校の友だち	学校外の友だち	スクールカウンセラー、 スクールソーシャルワーカー カーなど	その他の大人ちびっこク ラブの先生、塾・習い事の 先生、地域の人など
等価世帯収入水準別	小学生	中央値以上	686	80.0	25.4	19.8	29.3	64.3	16.8	1.2	7.6
		中央値の2分の1以上中央値未満	473	79.7	26.4	21.8	31.7	62.4	11.4	2.5	3.2
		中央値の2分の1未満	129	68.2	17.1	18.6	29.5	51.9	14.0	0.8	6.2
	中学生	中央値以上	417	65.7	17.3	10.1	24.0	63.1	14.4	3.6	6.2
		中央値の2分の1以上中央値未満	374	63.6	19.8	8.6	24.1	64.7	13.4	1.6	4.8
		中央値の2分の1未満	125	66.4	17.6	12.0	19.2	49.6	7.2	5.6	4.0
	16・17歳	中央値以上	114	73.7	21.9	9.6	10.5	73.7	28.9	0.9	0.9
		中央値の2分の1以上中央値未満	70	71.4	20.0	10.0	24.3	60.0	28.6	1.4	4.3
		中央値の2分の1未満	21	76.2	28.6	19.0	23.8	61.9	33.3	4.8	4.8
世帯の状況別	小学生	ふたり親世帯	1,240	79.8	25.7	20.3	30.6	62.6	14.0	1.9	6.0
		ひとり親世帯	116	71.6	15.5	24.1	29.3	56.9	21.6	0.9	6.9
		(ひとり親世帯のうち母子家庭)	103	69.9	14.6	19.4	25.2	55.3	22.3	1.0	6.8
	中学生	ふたり親世帯	811	64.7	19.1	9.0	24.0	62.5	12.9	3.0	5.3
		ひとり親世帯	142	65.5	15.5	13.4	19.7	59.9	14.1	2.8	7.0
		(ひとり親世帯のうち母子家庭)	128	68.0	14.8	13.3	20.3	58.6	13.3	3.1	6.3
	16・17歳	ふたり親世帯	186	73.7	19.4	10.8	16.7	70.4	30.1	1.6	2.7
		ひとり親世帯	29	75.9	37.9	10.3	13.8	55.2	24.1	-	-
		(ひとり親世帯のうち母子家庭)	24	75.0	33.3	4.2	8.3	50.0	16.7	-	-

			回答者数(n)	ネット で知り合っ た人	だれにも相談で きかない、相談した くない	無回答
等価世帯収入水準別	小学生	中央値以上	686	1.2	7.1	0.7
		中央値の2分の1以上中央値未満	473	1.7	7.2	0.6
		中央値の2分の1未満	129	2.3	14.0	0.8
	中学生	中央値以上	417	3.6	8.9	1.7
		中央値の2分の1以上中央値未満	374	7.8	10.4	0.8
		中央値の2分の1未満	125	4.0	12.0	0.8
	16・17歳	中央値以上	114	1.8	7.9	0.9
		中央値の2分の1以上中央値未満	70	5.7	10.0	-
		中央値の2分の1未満	21	4.8	9.5	-
世帯の状況別	小学生	ふたり親世帯	1,240	1.3	7.8	0.6
		ひとり親世帯	116	3.4	6.9	1.7
		(ひとり親世帯のうち母子家庭)	103	2.9	7.8	1.9
	中学生	ふたり親世帯	811	4.8	9.1	1.2
		ひとり親世帯	142	8.5	12.7	0.7
		(ひとり親世帯のうち母子家庭)	128	7.0	13.3	0.8
	16・17歳	ふたり親世帯	186	3.8	8.1	0.5
		ひとり親世帯	29	-	13.8	-
		(ひとり親世帯のうち母子家庭)	24	-	16.7	-

全国調査と比較すると、「学校の友だち」は今回調査が 5.5 ポイント低くなっています。それ以外の相談相手については、大きな差はありません。

図 困った時の相談相手 - 全国調査との比較【中学生】



※全国調査では「その他の大人(塾・習い事の先生、地域の人など)」

Ⅲ 子ども調査の結果

(2) 相談窓口の認知度

小中学生 問 14	あなたは、次のような相談窓口を知っていますか。(あてはまるものすべてに○)
16・17歳 問 15	

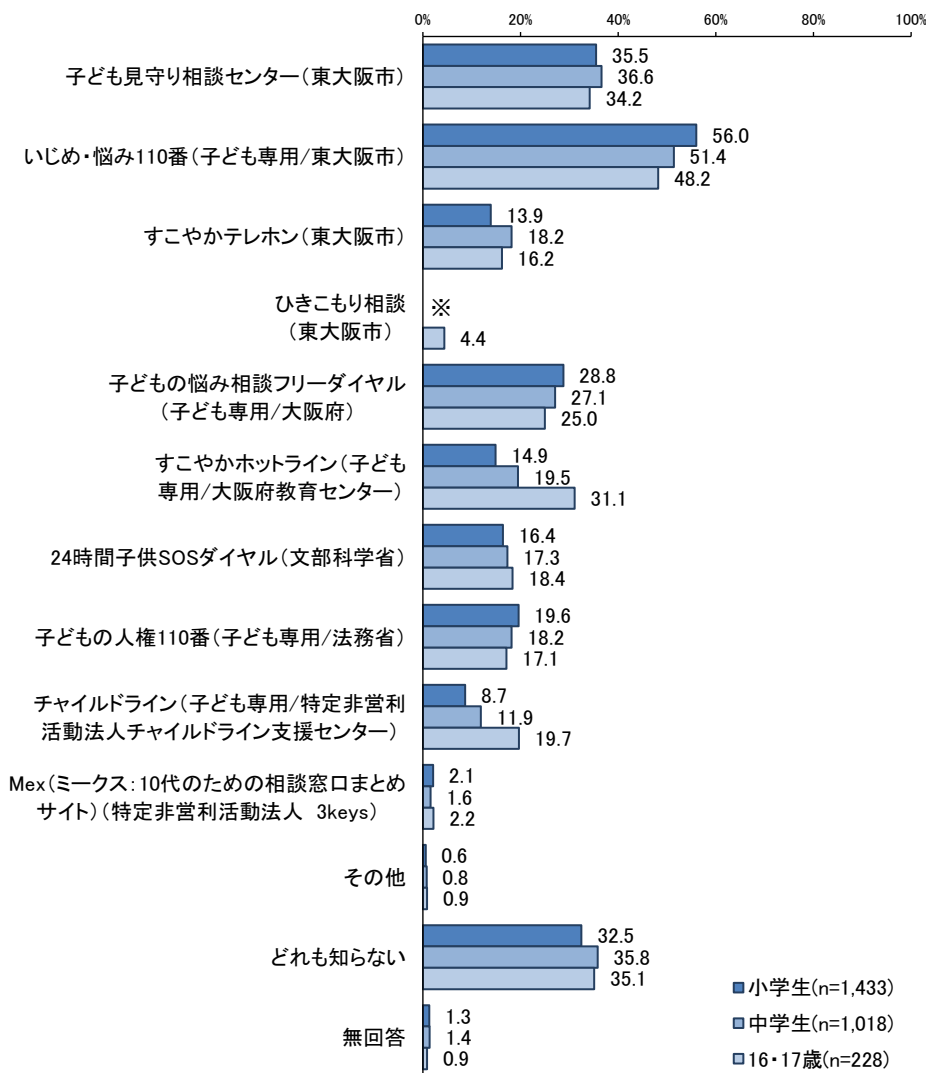
小学生は、「いじめ・悩み 110 番(子ども専用/東大阪市)」が 56.0%で最も高く、次いで「子ども見守り相談センター(東大阪市)」が 35.5%、「どれも知らない」が 32.5%、「子どもの悩み相談フリーダイヤル(子ども専用/大阪府)」が 28.8%となっています。

中学生は、「いじめ・悩み 110 番(子ども専用/東大阪市)」が 51.4%で最も高く、次いで「子ども見守り相談センター(東大阪市)」が 36.6%、「どれも知らない」が 35.8%となっています。

16・17 歳は、「いじめ・悩み 110 番(子ども専用/東大阪市)」が 48.2%で最も高く、次いで「どれも知らない」が 35.1%、「子ども見守り相談センター(東大阪市)」が 34.2%、「すこやかホットライン(子ども専用/大阪府教育センター)」が 31.1%となっています。

いずれの年齢も、「いじめ・悩み 110 番(子ども専用/東大阪市)」の割合が最も高く、次いで、小学生と中学生は「子ども見守り相談センター(東大阪市)」、16・17 歳は「どれも知らない」の順番となっています。

図 相談窓口の認知度



※「ひきこもり相談(東大阪市)」は 16・17 歳調査のみの項目

等価世帯収入水準別にみると、16・17歳の中央値の2分の1以上中央値未満の世帯では「すこやかホットライン(子ども専用/大阪府教育センター)」が40.0%と高く、16・17歳の中央値の2分の1未満の世帯では「いじめ・悩み 110 番(子ども専用/東大阪市)」が38.1%と低くなっています。いずれの年齢も「どれも知らない」は収入層による大きな差はなく、3割前後を占めています。

世帯の状況別にみると、16・17歳の母子家庭では「どれも知らない」が50.0%と高くなっており、大半の相談窓口の認知度は他の世帯と比べて低くなっています。

Ⅲ 子ども調査の結果

表 等価世帯収入水準、世帯の状況別 相談窓口の認知度

		回答者数(n)	子ども見守り相談センター(東大阪府)	いじめ・悩み110番(子ども専用)(東大阪府)	すこやかテレホン(東大阪府)	ひきこもり相談(東大阪府)	子どもの悩み相談フリーダイヤル(子ども専用)(大阪府)	すこやかホットライン(子ども専用)(大阪府教育センター)	24時間子供SOSダイヤル(文部科学省)	子どもの人権110番(子ども専用)(法務省)	
等価世帯収入水準別	小学生	中央値以上	686	36.3	60.2	16.3	30.0	16.2	18.4	21.6	
		中央値の2分の1以上中央値未満	473	33.8	53.9	10.4	27.7	12.7	14.0	17.5	
		中央値の2分の1未満	129	33.3	51.9	10.1	28.7	14.7	14.0	18.6	
	中学生	中央値以上	417	34.3	50.4	16.5	26.4	17.5	16.5	18.5	
		中央値の2分の1以上中央値未満	374	38.8	52.1	21.4	26.2	20.9	17.9	15.8	
		中央値の2分の1未満	125	37.6	53.6	16.0	31.2	21.6	18.4	24.0	
	16・17歳	中央値以上	114	34.2	44.7	11.4	2.6	22.8	26.3	14.0	11.4
		中央値の2分の1以上中央値未満	70	34.3	57.1	20.0	5.7	28.6	40.0	28.6	24.3
		中央値の2分の1未満	21	23.8	38.1	23.8	4.8	14.3	23.8	14.3	14.3
世帯の状況別	小学生	ふたり親世帯	1,240	36.3	58.0	14.0	29.1	15.2	16.8	19.8	
		ひとり親世帯	116	26.7	46.6	13.8	27.6	12.1	12.1	19.8	
		(ひとり親世帯のうち母子家庭)	103	26.2	46.6	15.5	29.1	13.6	12.6	19.4	
	中学生	ふたり親世帯	811	35.9	51.0	18.4	25.6	19.1	17.3	17.4	
		ひとり親世帯	142	40.1	56.3	17.6	33.8	20.4	20.4	23.2	
		(ひとり親世帯のうち母子家庭)	128	40.6	56.3	18.8	34.4	20.3	21.1	23.4	
	16・17歳	ふたり親世帯	186	33.3	48.4	15.6	3.8	25.3	32.3	17.7	15.6
		ひとり親世帯	29	34.5	44.8	17.2	3.4	20.7	24.1	27.6	24.1
		(ひとり親世帯のうち母子家庭)	24	20.8	33.3	12.5	-	12.5	25.0	20.8	12.5

		回答者数(n)	チャイルドライン(子ども専用)(特定非営利活動法人チャイルドライン支援センター)	Mex(ミークス)10代のための相談窓口(まともサイト)(特定非営利活動法人3keys)	その他	どれも知らない	無回答	
等価世帯収入水準別	小学生	中央値以上	686	10.1	2.9	0.4	29.0	1.3
		中央値の2分の1以上中央値未満	473	6.3	1.3	0.4	35.7	1.3
		中央値の2分の1未満	129	11.6	1.6	1.6	31.8	0.8
	中学生	中央値以上	417	13.2	1.4	0.2	35.5	2.2
		中央値の2分の1以上中央値未満	374	10.2	1.3	0.5	35.6	1.1
		中央値の2分の1未満	125	13.6	1.6	1.6	39.2	-
	16・17歳	中央値以上	114	21.1	-	-	39.5	-
		中央値の2分の1以上中央値未満	70	24.3	4.3	-	31.4	-
		中央値の2分の1未満	21	9.5	4.8	9.5	38.1	-
世帯の状況別	小学生	ふたり親世帯	1,240	8.6	2.2	0.6	31.1	1.0
		ひとり親世帯	116	9.5	0.9	0.9	39.7	4.3
		(ひとり親世帯のうち母子家庭)	103	10.7	1.0	1.0	39.8	4.9
	中学生	ふたり親世帯	811	12.2	1.6	0.6	35.3	1.4
		ひとり親世帯	142	11.3	0.7	0.7	38.0	2.1
		(ひとり親世帯のうち母子家庭)	128	11.7	0.8	0.8	38.3	2.3
	16・17歳	ふたり親世帯	186	21.5	2.2	0.5	35.5	0.5
		ひとり親世帯	29	13.8	-	3.4	41.4	-
		(ひとり親世帯のうち母子家庭)	24	4.2	-	4.2	50.0	-



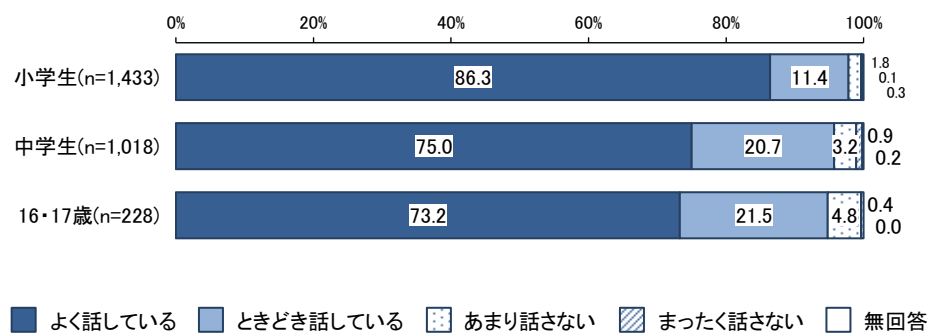
## 7. 保護者との関わり方

### (1) 保護者との会話の程度

小中学生 問 15	あなたは、いっしょにくらしている大人の人とどのくらい話しますか。(あてはまるもの1つに○)
16・17歳 問 16	

小学生は、「よく話している」が 86.3%、「ときどき話している」が 11.4%となっています。  
 中学生は、「よく話している」が 75.0%、「ときどき話している」が 20.7%となっています。  
 16・17 歳は、「よく話している」が 73.2%、「ときどき話している」が 21.5%となっています。  
 年齢が高くなるほど、話さない割合が高くなっています。

図 保護者との会話の程度



### Ⅲ 子ども調査の結果

等価世帯収入水準別にみると、小学生と中学生では、収入水準が高い世帯ほど「よく話している」が高くなっていますが、16・17歳では、「よく話している」は中央値の2分の1未満の方が高くなっています。一方、16・17歳の中央値の2分の1以上中央値未満の世帯では「あまり話さない」が8.6%と他の収入層と比べて高くなっています。

世帯の状況別にみると、小学生と中学生は、ふたり親世帯の方がひとり親世帯よりも「よく話している」が高くなっていますが、16・17歳では、ひとり親世帯の方が「よく話している」の割合が高くなっています。

図 等価世帯収入水準別 保護者との会話の程度

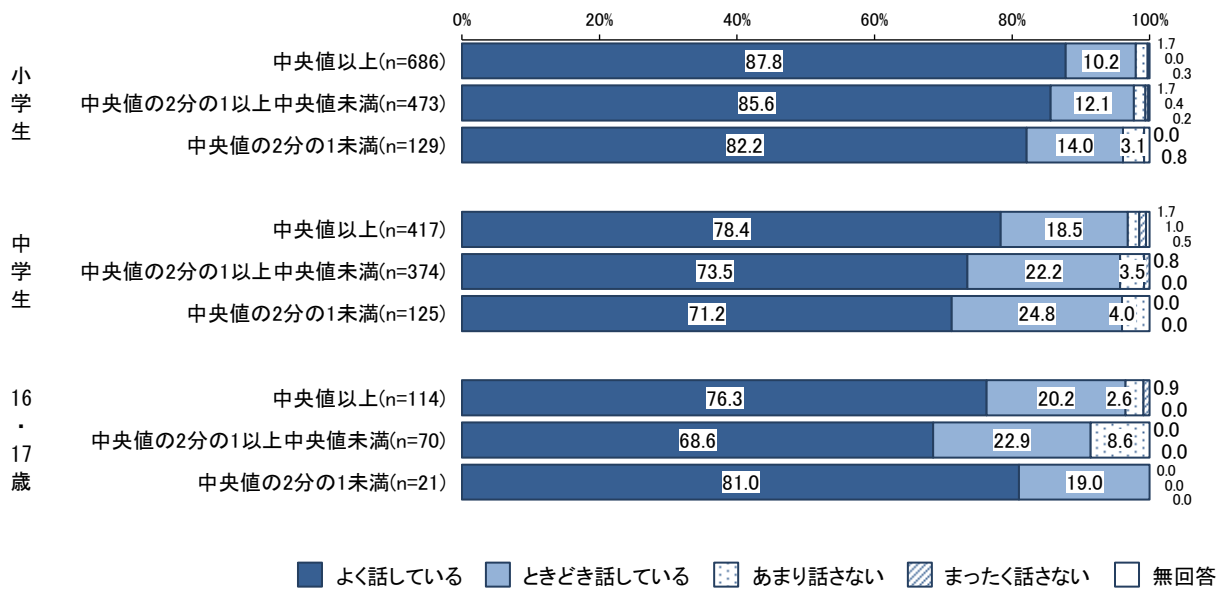
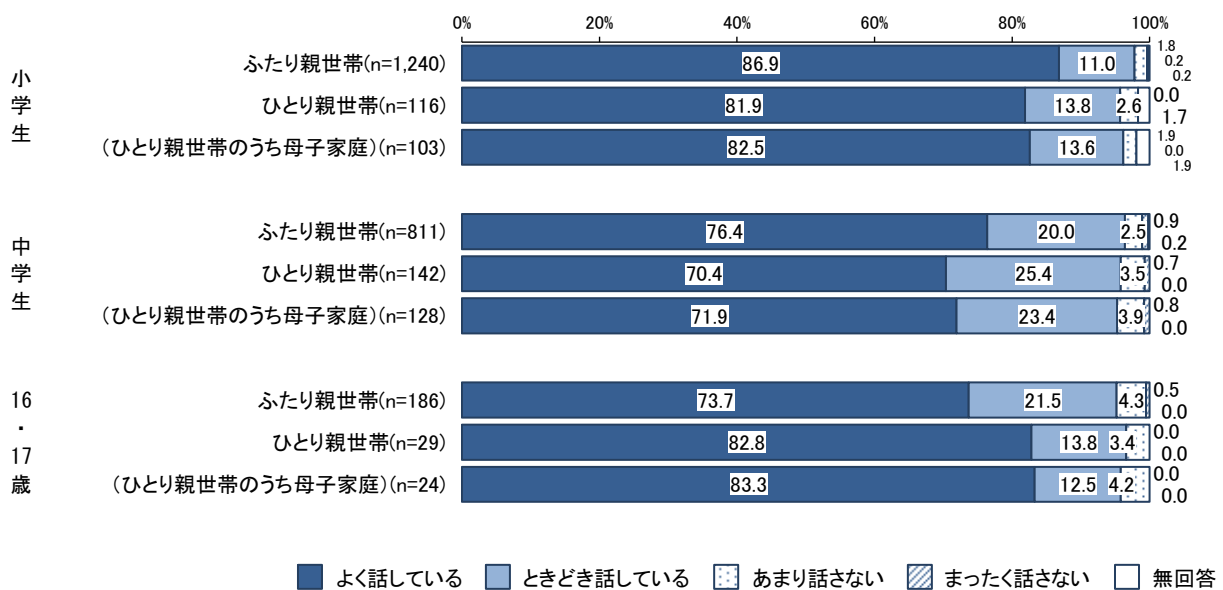


図 世帯の状況別 保護者との会話の程度



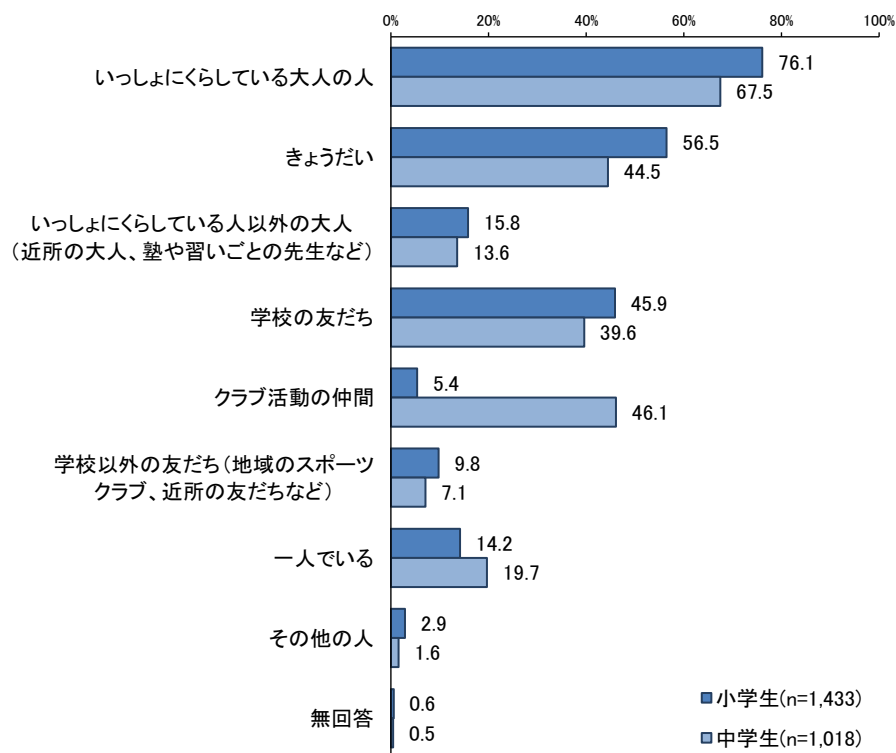
(2)放課後一緒に過ごす人

小中学生 問 16	あなたは、ふだん（月曜日～金曜日）の放課後、だれと過ごしますか。（あてはまるものすべてに○）
-----------	--

小学生は、「いっしょにくらしている大人の人」が 76.1%で最も高く、次いで「きょうだい」が 56.5%、「学校の友だち」が 45.9%となっています。

中学生は、「いっしょにくらしている大人の人」が 67.5%で最も高く、次いで「クラブ活動の仲間」が 46.1%、「きょうだい」が 44.5%、「学校の友だち」が 39.6%となっています。

図 放課後一緒に過ごす人



### Ⅲ 子ども調査の結果

等価世帯収入水準別にみると、中学生では、収入水準が高い世帯ほど「クラブ活動の仲間」が高く、中央値以上の世帯で51.3%と高くなっています。

世帯の状況別にみると、小学生、中学生ともふたり親世帯で「きょうだい」がひとり親世帯と比べて高くなっています。小学生では、ひとり親世帯で「学校の友だち」が5割以上と高くなっています。

福祉事務所管内別にみると、小学生では、東福祉事務所で「きょうだい」が62.3%と高くなっています。

表 等価世帯収入水準、世帯の状況、福祉事務所管内別 放課後一緒に過ごす人

		回答者数(n)	いっしょにくらしている大人の人	きょうだい	いっしょにくらしている人以外の大人(近所の大人、塾や習いごとの先生など)	学校の友だち	クラブ活動の仲間	学校以外の友だち(地域のスポーツクラブ、近所の友だちなど)	一人である	その他の人	無回答	
等価世帯収入水準別	小学生	中央値以上	686	77.3	59.6	18.8	42.7	5.5	11.5	15.0	2.2	0.6
		中央値の2分の1以上中央値未満	473	77.6	55.2	13.1	49.9	5.7	8.0	12.5	3.4	0.4
		中央値の2分の1未満	129	69.0	50.4	12.4	50.4	3.1	9.3	17.1	4.7	1.6
	中学生	中央値以上	417	66.7	43.4	18.9	42.4	51.3	8.4	17.7	1.0	-
		中央値の2分の1以上中央値未満	374	67.4	45.7	9.9	36.1	42.5	5.3	20.1	2.7	1.3
		中央値の2分の1未満	125	67.2	43.2	10.4	38.4	35.2	8.0	22.4	0.8	-
世帯の状況別	小学生	ふたり親世帯	1,240	77.6	59.1	16.4	45.6	5.4	9.7	13.5	2.6	0.4
		ひとり親世帯	116	66.4	37.9	14.7	52.6	4.3	13.8	25.0	6.9	2.6
		(ひとり親世帯のうち母子家庭)	103	67.0	38.8	13.6	53.4	4.9	15.5	25.2	5.8	2.9
	中学生	ふたり親世帯	811	68.2	46.4	14.5	40.0	47.2	7.6	18.0	1.8	0.6
		ひとり親世帯	142	62.7	36.6	9.9	38.0	41.5	4.9	25.4	0.7	-
		(ひとり親世帯のうち母子家庭)	128	64.1	36.7	10.2	36.7	40.6	5.5	26.6	0.8	-
福祉事務所管内別	小学生	東福祉事務所	390	77.7	62.3	15.9	44.4	6.9	13.1	13.1	3.3	0.5
		中福祉事務所	431	78.4	58.2	16.2	48.0	4.9	8.8	14.8	2.3	0.9
		西福祉事務所	538	74.5	52.8	16.4	45.9	4.5	8.7	15.2	3.2	0.4
	中学生	東福祉事務所	228	66.7	46.1	11.4	36.8	45.6	8.8	21.5	3.5	0.4
		中福祉事務所	352	69.0	45.5	14.5	40.1	47.4	5.7	17.9	0.6	0.6
		西福祉事務所	378	65.9	43.7	14.6	41.3	46.0	7.7	18.8	1.6	0.5

## 8. 心理的な状態

### (1)主観的幸福(生活満足度)

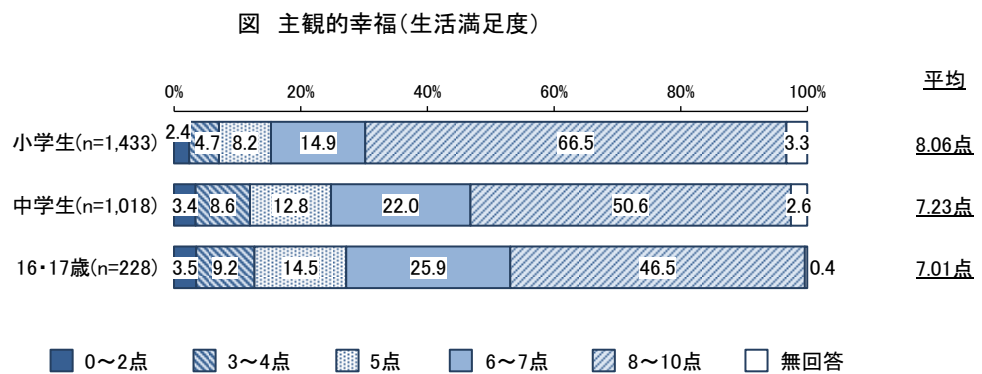
小中学生 問 17 16・17歳 問 17	全体として、あなたはいまの生活に、どのくらい満足していますか。「0」（まったく満足していない）から「10」（十分に満足している）の数字で教えてください。（あてはまるもの1つに○）
--------------------------	---

小学生は、「8～10点」が66.5%、「6～7点」が14.9%、「5点」が8.2%となっており、平均8.06点となっています。

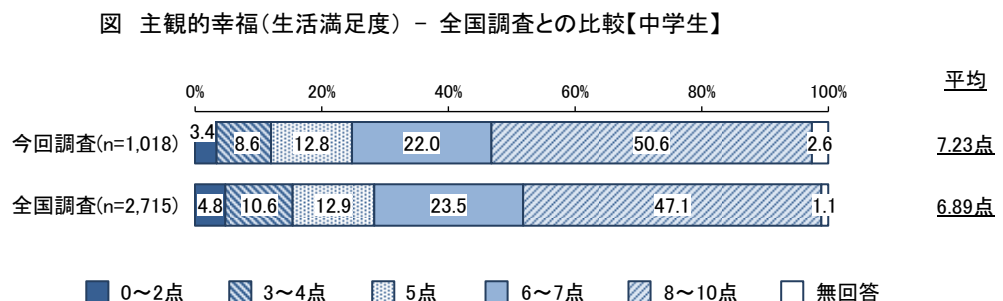
中学生は、「8～10点」が50.6%、「6～7点」が22.0%、「5点」が12.8%となっており、平均7.23点となっています。

16・17歳は、「8～10点」が46.5%、「6～7点」が25.9%、「5点」が14.5%となっており、平均7.01点となっています。

年齢が上がるにつれて、主観的幸福(生活満足度)は低くなっています。



全国調査と比較すると、「8～10点」は今回調査が3.5ポイント高くなっています。平均では今回調査が0.34点上回っています。



### Ⅲ 子ども調査の結果

等価世帯収入水準別にみると、小学生と中学生では、収入水準が高い世帯ほど「8～10点」が高くなっており、中央値以上の世帯で小学生が69.4%、中学生が55.4%となっています。16・17歳では、「8～10点」は中央値の2分の1未満の世帯で57.1%と高くなっていますが、6点以上は中央値以上の世帯が79.0%、中央値の2分の1以上中央値未満の世帯が65.7%、中央値の2分の1未満の世帯が61.9%となっています。平均は、小学生の中央値の2分の1以上中央値未満の世帯が8.22点で最も高く、16・17歳の中央値の2分の1以上中央値未満の世帯が6.39点で最も低くなっています。

世帯の状況別にみると、小学生と16・17歳では、ひとり親世帯よりもふたり親世帯の方が顕著に点数が高いですが、中学生ではほとんど違いがみられません。

図 等価世帯収入水準別 主観的幸福(生活満足度)

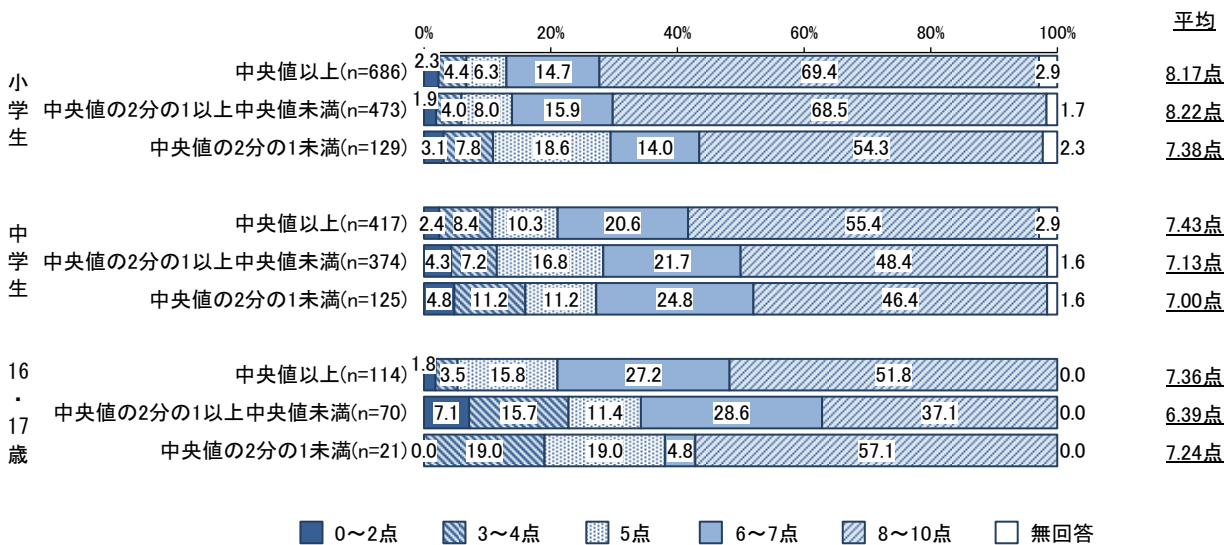
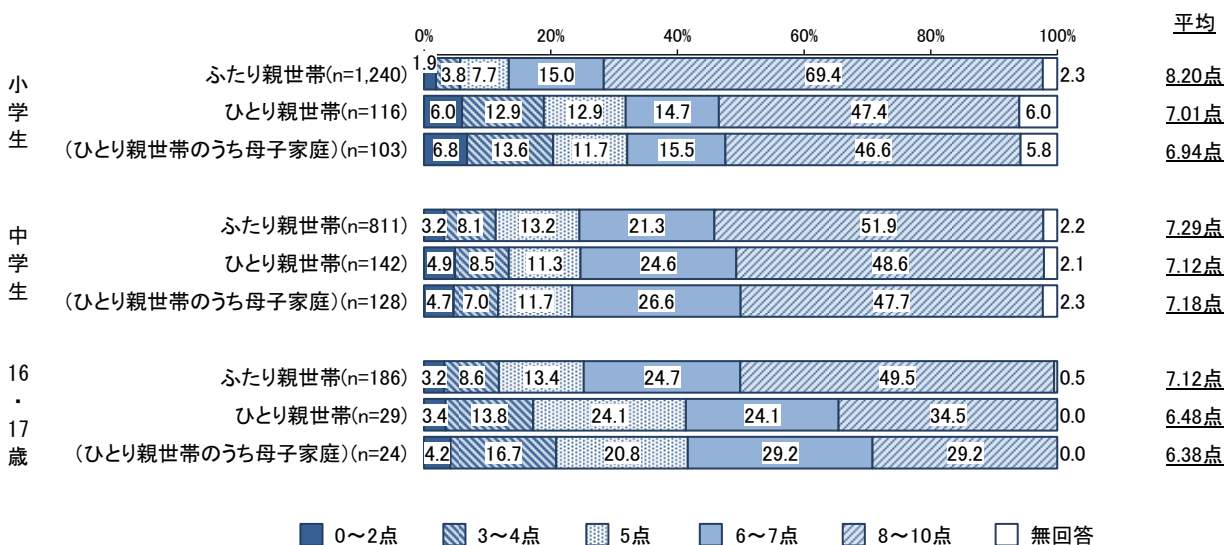


図 世帯の状況別 主観的幸福(生活満足度)



(2)心理的な状態

小中学生 問 18 16・17歳 問 18	以下のそれぞれの質問について、「1 あてはまらない」「2 まああてはまる」「3 あてはまる」のどれかから回答してください。答えに自信がなくても、全部の質問に答えてください。あなたのここ半年くらいのことを考えて答えてください。(①～⑮それぞれについて、あてはまるもの1つに○)
--------------------------	---

今回の調査では、子どもの心理的な状態を把握するために、SDQ(強さと困難さアンケート)の調査項目 25 項目のうち、情緒(不安や抑うつなど)の問題、仲間関係の問題、向社会性についての 15 項目を設定しています。

情緒の問題

SDQ の「情緒の問題」は 5 つの設問項目について「あてはまらない」=0 点、「まああてはまる」=1 点、「あてはまる」=2 点として点数化(合計 0～10 点)したもので、点数が高いほど問題性が高いと考えられます。

各項目をみると、「②私は、よく頭やお腹がいたくなったり、気持ちが悪くなったりする。」は、いずれの年齢も「あてはまらない」が 5 割台、『あてはまる』(「まああてはまる」と「あてはまる」の合計)が 4 割台となっています。「⑤私は、心配ごとが多く、いつも不安だ。」は、小学生は「あてはまらない」が 6 割台、中学生と 16・17 歳は『あてはまる』が 5 割台となっています。「⑧私は、落ち込んでしずんでいたたり、涙ぐんだりすることがよくある。」は、小学生と中学生は「はまらない」が 5 割台、16・17 歳は『あてはまる』が 5 割台となっています。「⑩私は、新しい場面に直面すると不安になり、自信をなくしやすい。」は、いずれの年齢も『あてはまる』が 6 割以上となっており、小学生が 64.3%、中学生が 74.2%、16・17 歳が 74.6%となっています。「⑮私は、こわがりで、すぐにおびえたりする。」は、中学生と 16・17 歳は「はてはまらない」が 5 割台、小学生は『あてはまる』が 5 割台となっています。

図 心理的な状態 - 「情緒の問題」に関する項目

		回答者数(n)	あてはまらない	まああてはまる	あてはまる	無回答
② 私は、よく頭やお腹がいたくなったり、気持ちが悪くなったりする。	小学生	1,433	56.0	30.4	12.5	1.1
	中学生	1,018	50.7	27.8	20.3	1.2
	16・17 歳	228	53.9	27.6	17.1	1.3
⑤ 私は、心配ごとが多く、いつも不安だ。	小学生	1,433	61.3	27.4	10.2	1.1
	中学生	1,018	45.8	34.6	18.4	1.3
	16・17 歳	228	45.2	34.2	19.3	1.3
⑧ 私は、落ち込んでしずんでいたたり、涙ぐんだりすることがよくある。	小学生	1,433	54.5	30.5	14.0	1.0
	中学生	1,018	55.1	27.5	16.3	1.1
	16・17 歳	228	47.8	32.5	18.4	1.3
⑩ 私は、新しい場面に直面すると不安になり、自信をなくしやすい。	小学生	1,433	34.8	39.5	24.8	1.0
	中学生	1,018	24.7	39.2	35.0	1.2
	16・17 歳	228	24.1	38.2	36.4	1.3
⑮ 私は、こわがりで、すぐにおびえたりする。	小学生	1,433	47.7	33.0	18.3	1.0
	中学生	1,018	51.2	31.8	16.2	0.8
	16・17 歳	228	53.1	27.6	17.5	1.8

### Ⅲ 子ども調査の結果

スコアの分布をみると、小学生は、「2点」が17.4%、「3点」が15.4%の順番で高くなっています。中学生は、「2点」が14.0%、「1点」が13.4%の順番で高くなっています。16・17歳は、「3点」が14.0%、「4点」が12.7%の順番で高くなっています。

スコアの平均値は、年齢が上がるほど高くなっています。

等価世帯収入水準別にみると、小学生と中学生は、収入水準が低い世帯ほどスコアの平均値が高くなっています。16・17歳は、中央値の2分の1以上中央値未満の世帯で最も高く4.71点となっています。

世帯の状況別にみると、小学生と中学生はふたり親世帯で最も低く、16・17歳はひとり親世帯で最も低くなっています。

図 心理的な状態 - 「情緒の問題」に関するスコアの分布

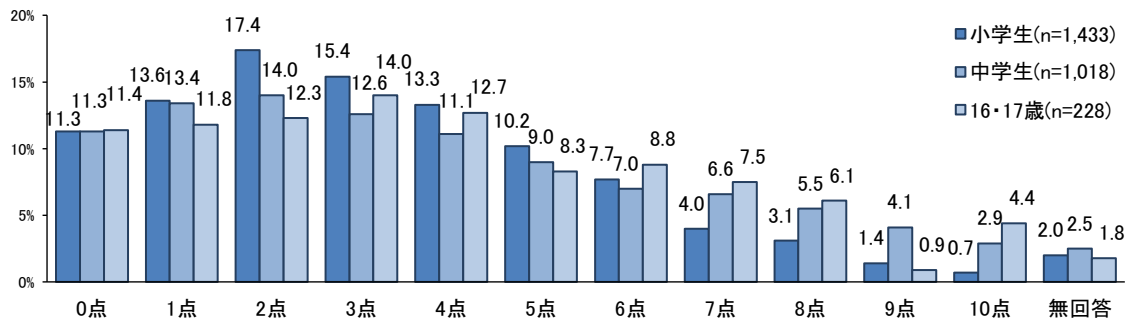


図 心理的な状態 - 「情緒の問題」に関するスコアの平均値

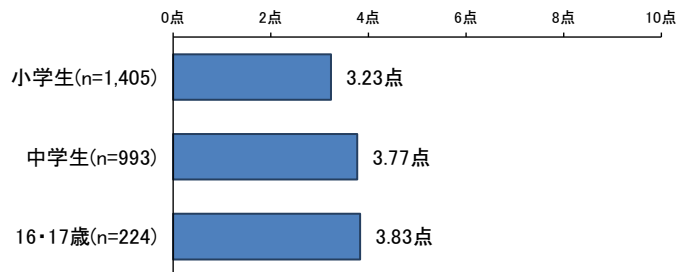


図 等価世帯収入水準別 心理的な状態 - 「情緒の問題」に関するスコアの平均値

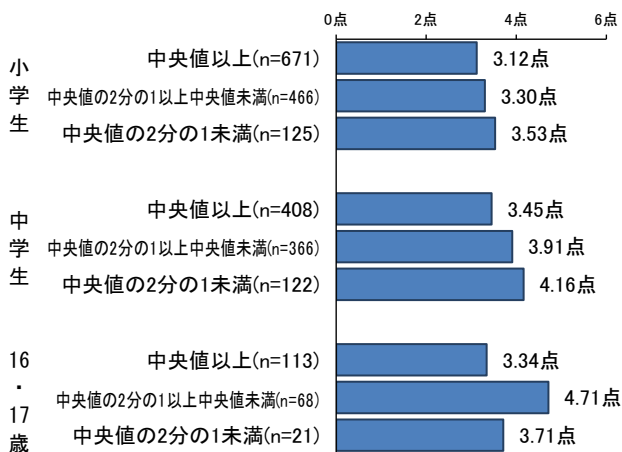
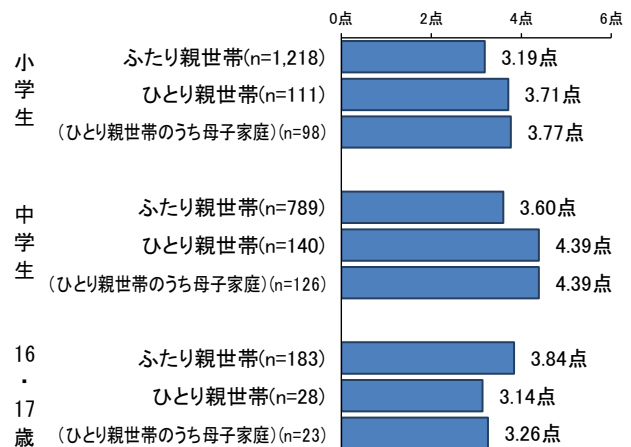


図 世帯の状況別 心理的な状態 - 「情緒の問題」に関するスコアの平均値





仲間関係の問題

SDQ の「仲間関係の問題」は 5 つの設問項目について「あてはまらない」=0 点、「まああてはまる」=1 点、「あてはまる」=2 点として点数化(合計 0~10 点、⑦、⑨は逆転項目)したもので、点数が高いほど問題性が高いと考えられます。

各項目をみると、「④私は、たいてい一人である。だいたいいつも一人で遊ぶか、人と付き合うことを避ける。」は、「あてはまらない」がいずれの年齢も 6 割以上、『あてはまる』は 16・17 歳で 36.9%と他の年齢に比べて高くなっています。「⑦私は、仲の良い友だちが少なくとも一人はいる。」は、いずれの年齢も『あてはまる』が 9 割以上となっています。「⑨私は、同じくらいの年齢の子どもからは、だいたいは好かれている。」は、いずれの年齢も『あてはまる』が 7 割以上となっており、16・17 歳は 84.7%と最も高くなっています。「⑫私は、他の子どもから、いじめられたり、からかわれたりする。」は、いずれの年齢も「あてはまらない」が 8 割以上、『あてはまる』は小学生で 17.6%と最も高くなっています。「⑭私は、他の子どもたちより、大人というほうがうまくいく。」は、いずれの年齢も「あてはまらない」が 5 割台、『あてはまる』は 4 割台となっています。

図 心理的な状態 - 「仲間関係の問題」に関する項目

		回答者数(n)	あてはまらない	まああてはまる	あてはまる	無回答
④ 私は、たいてい一人である。だいたいいつも一人で遊ぶか、人と付き合うことを避ける。	小学生	1,433	77.9	16.1	4.7	1.3
	中学生	1,018	69.1	22.0	8.0	1.0
	16・17 歳	228	61.8	25.9	11.0	1.3
⑦ 私は、仲の良い友だちが少なくとも一人はいる。	小学生	1,433	4.9	5.2	89.0	0.8
	中学生	1,018	4.4	8.8	86.1	0.7
	16・17 歳	228	5.3	13.2	80.3	1.3
⑨ 私は、同じくらいの年齢の子どもからは、だいたいは好かれている。	小学生	1,433	18.0	58.4	22.5	1.1
	中学生	1,018	21.5	61.1	16.0	1.4
	16・17 歳	228	14.0	65.4	19.3	1.3
⑫ 私は、他の子どもから、いじめられたり、からかわれたりする。	小学生	1,433	81.4	12.9	4.7	1.0
	中学生	1,018	83.1	11.9	3.9	1.1
	16・17 歳	228	87.3	7.9	3.5	1.3
⑭ 私は、他の子どもたちより、大人というほうがうまくいく。	小学生	1,433	54.8	33.0	11.0	1.2
	中学生	1,018	56.7	32.3	9.9	1.1
	16・17 歳	228	55.7	31.6	10.5	2.2

### Ⅲ 子ども調査の結果

スコアの分布をみると、小学生は、「1点」が27.8%、「2点」が27.4%の順番で高くなっています。中学生は、「1点」が29.6%、「2点」が23.5%の順番で高くなっています。16・17歳は、「1点」が30.3%、「2点」が18.9%の順番で高くなっています。

スコアの平均値は、小学生が2.14点、中学生と16・17歳がともに2.35点となっています。

等価世帯収入水準別にみると、小学生と中学生は、収入水準が低い世帯ほど高くなっています。16・17歳は、中央値の2分の1以上中央値未満の世帯で最も高く2.59点となっています。

世帯の状況別にみると、いずれの年齢も母子家庭で最も高くなっています。

図 心理的な状態 - 「仲間関係の問題」に関するスコアの分布

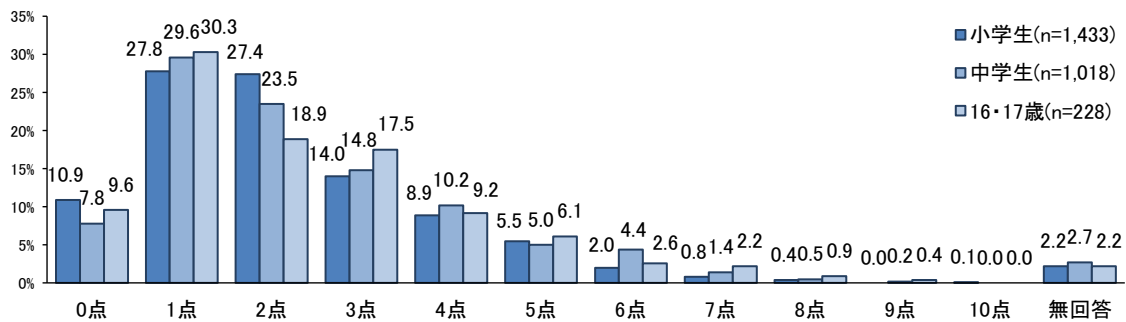


図 心理的な状態 - 「仲間関係の問題」に関するスコアの平均値

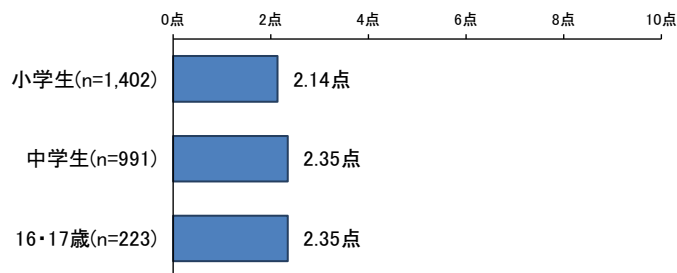


図 等価世帯収入水準別 心理的な状態 - 「仲間関係の問題」に関するスコアの平均値

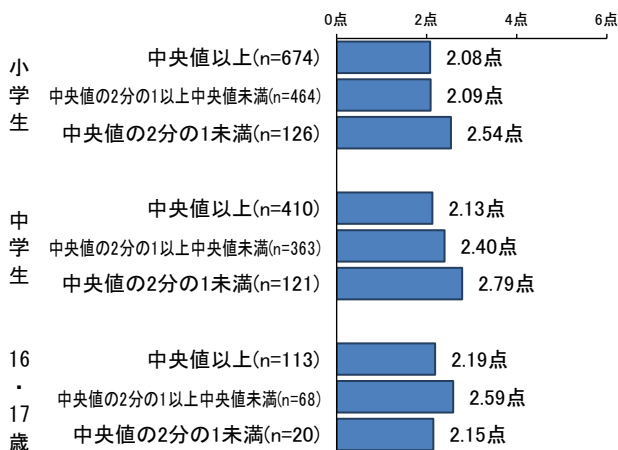
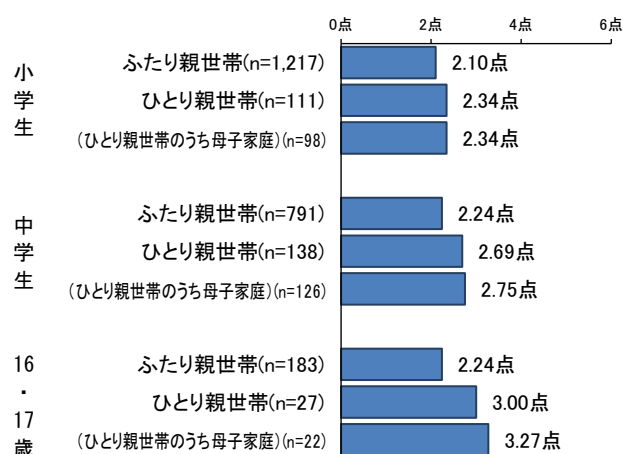


図 世帯の状況別 心理的な状態 - 「仲間関係の問題」に関するスコアの平均値



向社会性

SDQ の「向社会性」は 5 つの設問項目について「あてはまらない」=0 点、「まああてはまる」=1 点、「あてはまる」=2 点として点数化(合計 0~10 点)したもので、点数が高いほど社会性が高いと考えられます。

各項目をみると、「①私は、他人に対して親切にするようにしている。私は、他人の気持ちをよく考える。」は、『あてはまる』がいずれの年齢も 9 割以上と高くなっています。「③私は、他の子どもたちと、よく分け合う(食べ物・ゲーム・ペンなど)。」は、いずれの年齢も『あてはまる』が 6 割以上、「あてはまらない」は小学生で 36.3%と高くなっています。「⑥私は、だれかが心を痛めていたり、落ち込んでいたり、嫌な思いをしているときなど、すすんで助ける。」は、いずれの年齢も『あてはまる』が 8 割以上と高くなっています。「⑩私は、年下の子どもたちに対してやさしくしている。」は、いずれの年齢も『あてはまる』が 9 割以上と高くなっています。「⑬私は、自分からすすんでよくお手伝いをする(親・先生・子どもたちなど)。」は、いずれの年齢も『あてはまる』が 7 割前後、「あてはまらない」は年齢が上がるほど高く、16・17 歳で 3 割台となっています。

図 心理的な状態 - 「向社会性」に関する項目

		回答者数(n)	あてはまらない	まああてはまる	あてはまる	無回答
① 私は、他人に対して親切にするようにしている。私は、他人の気持ちをよく考える。	小学生	1,433	7.2	53.7	37.9	1.3
	中学生	1,018	6.4	49.9	42.7	1.0
	16・17 歳	228	4.8	44.3	49.1	1.8
③ 私は、他の子どもたちと、よく分け合う(食べ物・ゲーム・ペンなど)。	小学生	1,433	36.3	40.7	21.6	1.5
	中学生	1,018	28.8	47.2	22.8	1.2
	16・17 歳	228	35.1	40.4	22.8	1.8
⑥ 私は、だれかが心を痛めていたり、落ち込んでいたり、嫌な思いをしているときなど、すすんで助ける。	小学生	1,433	11.9	54.4	32.5	1.1
	中学生	1,018	16.1	58.9	23.8	1.2
	16・17 歳	228	12.7	54.8	31.1	1.3
⑩ 私は、年下の子どもたちに対してやさしくしている。	小学生	1,433	8.0	38.2	52.7	1.1
	中学生	1,018	8.3	40.6	49.8	1.3
	16・17 歳	228	5.3	43.4	49.6	1.8
⑬ 私は、自分からすすんでよくお手伝いをする(親・先生・子どもたちなど)。	小学生	1,433	23.7	55.8	19.5	1.0
	中学生	1,018	29.4	51.5	17.8	1.4
	16・17 歳	228	31.1	49.1	18.4	1.3

### Ⅲ 子ども調査の結果

スコアの分布をみると、小学生は、「5点」と「6点」がともに17.5%、「7点」が17.1%の順番で高くなっています。中学生は、「5点」が18.7%、「6点」が16.2%の順番で高くなっています。16・17歳は、「6点」が16.2%、「5点」が15.8%の順番で高くなっています。

スコアの平均値は、小学生が5.78点、中学生が5.68点、16・17歳が5.82点となっています。

等価世帯収入水準別にみると、小学生と16・17歳は、中央値の2分の1未満の世帯が最も高く、中学生は、中央値の2分の1以上中央値未満の世帯が最も高くなっています。

世帯の状況別にみると、いずれの年齢もふたり親世帯で最も高くなっています。

図 心理的な状態 - 「向社会性」に関するスコアの分布

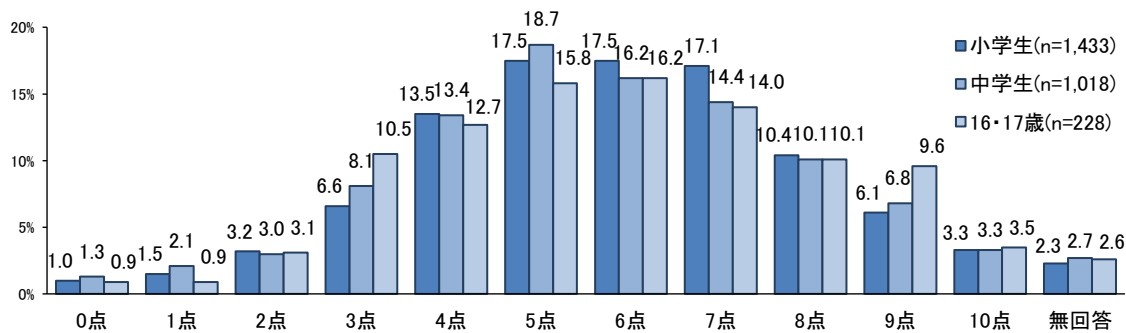


図 心理的な状態 - 「向社会性」に関するスコアの平均値

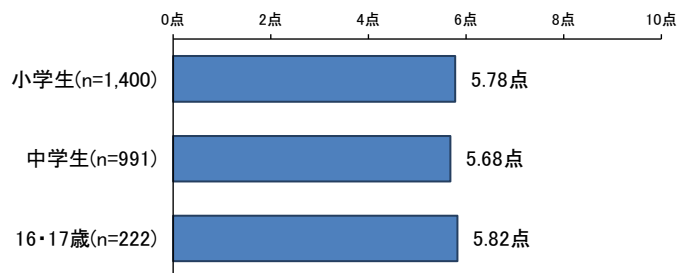


図 等価世帯収入水準別 心理的な状態 - 「向社会性」に関するスコアの平均値

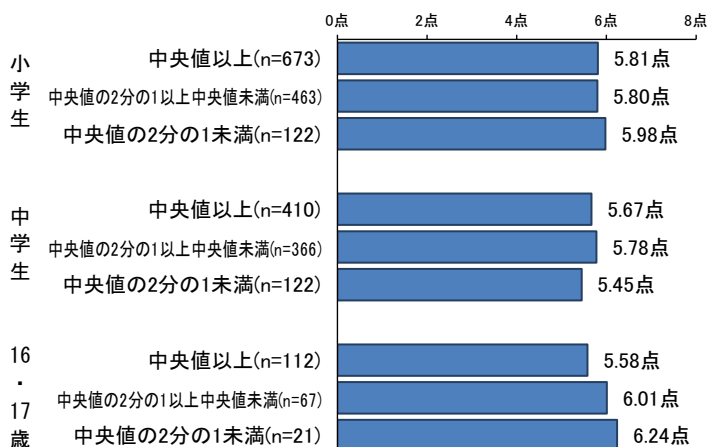
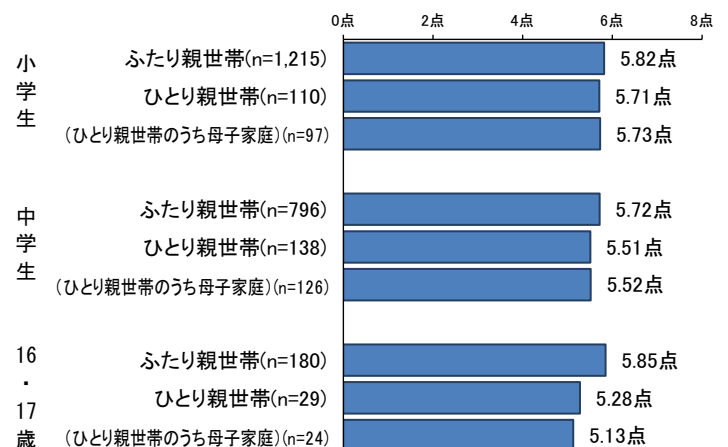
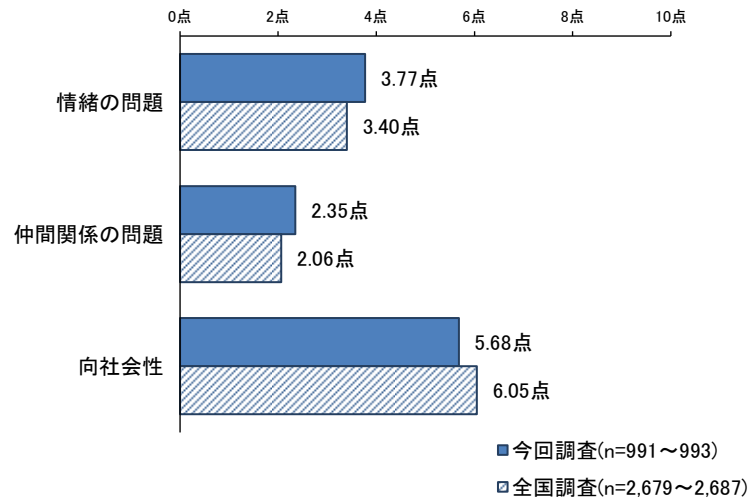


図 世帯の状況別 心理的な状態 - 「向社会性」に関するスコアの平均値



全国調査と比較すると、向社会性は今回調査が 0.37 点低く、情緒の問題と仲間関係の問題は、今回調査がそれぞれ 0.37 点、0.29 点高くなっています。

図 心理的な状態 - 全国調査との比較【中学生】



(3) 自身や将来の目標の有無等

小中学生 問 19	あなたがふだん考えていることについて次の①～⑥について教えてください。(①～⑥それぞれについて、あてはまるもの1つに○)
16・17歳 問 19	

① 自分に自信がある

小学生は、『どちらかというそう思う』(「そう思う」と「どちらかというそう思う」の合計)が 62.6%となっています。中学生と 16・17 歳は、『どちらかというそう思わない』(「そう思わない」と「どちらかというそう思わない」の合計)が 5 割台となっています。

② 自分の考えをはっきり相手につたえることができる

いずれの年齢も『どちらかというそう思う』が 5 割を超えており、年齢が低くなるほど高くなっています。

③ 大人は信用できる

小学生は、『どちらかというそう思う』が 79.7%となっています。中学生と 16・17 歳は、『どちらかというそう思わない』が 4 割弱となっています。

④ 自分の将来の夢や目標を持っている

小学生は、『どちらかというそう思う』が 75.3%となっています。中学生は、『どちらかというそう思わない』が 39.6%となっています。

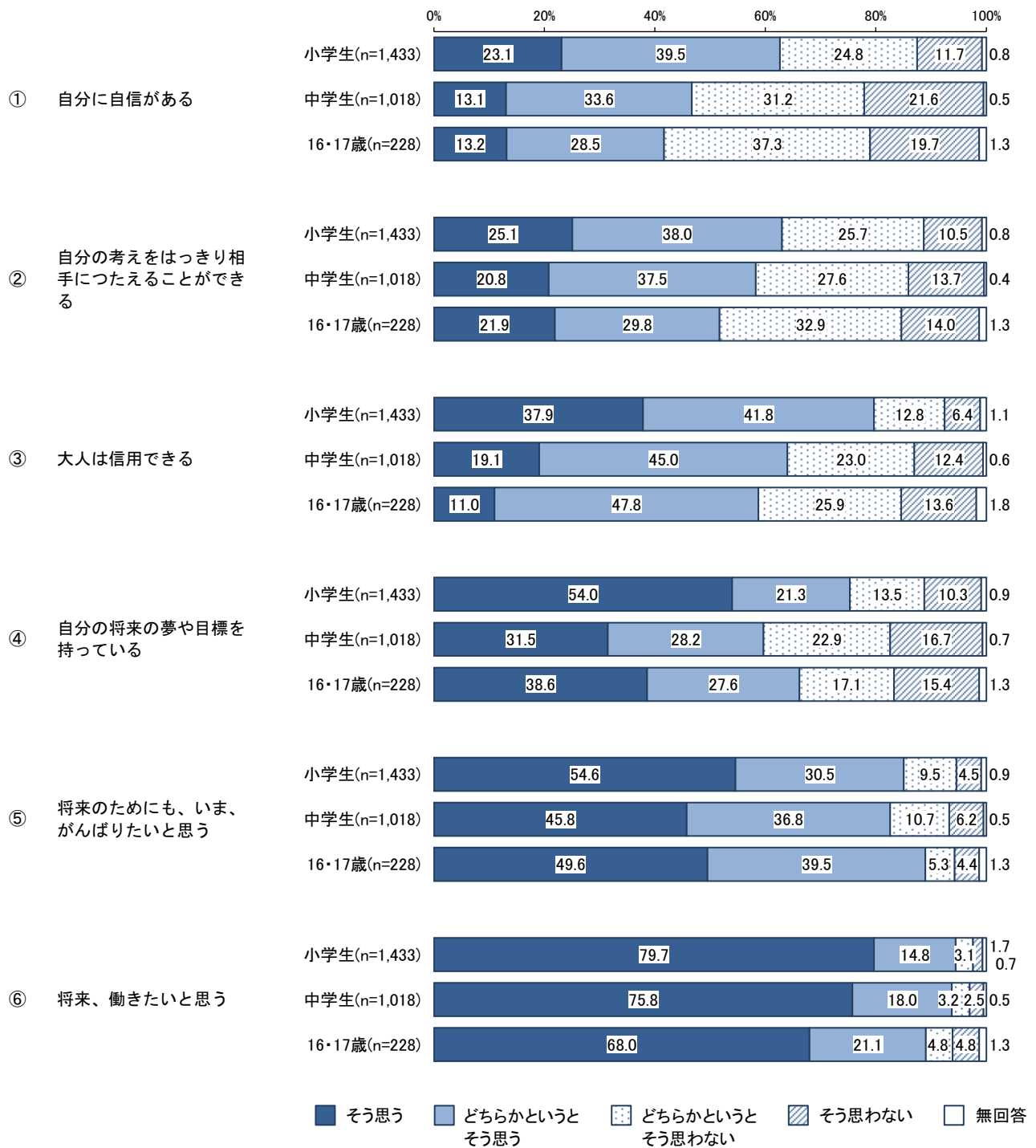
⑤ 将来のためにも、いま、がんばりたいと思う

いずれの年齢も『どちらかというそう思う』の割合が 8 割以上と高くなっています。

⑥ 将来、働きたいと思う

年齢が低くなるほど『どちらかというそう思う』の割合が高くなっており、小学生で 94.5%となっています。

図 自身や将来の目標の有無等



### Ⅲ 子ども調査の結果

#### ① 自分に自信がある

等価世帯収入水準別にみると、いずれの年齢も『(どちらかという)そう思う』は中央値以上の世帯で最も高くなっており、小学生で 66.6%となっています。一方、16・17 歳の中央値の 2 分の1以上中央値未満の世帯では、『(どちらかという)そう思わない』が 67.2%と高くなっています。

世帯の状況別にみると、いずれの年齢も、『(どちらかという)そう思う』はふたり親世帯で最も高く、『(どちらかという)そう思わない』は母子家庭で最も高くなっていきます。

図 等価世帯収入水準別 自身や将来の目標の有無等 - ① 自分に自信がある

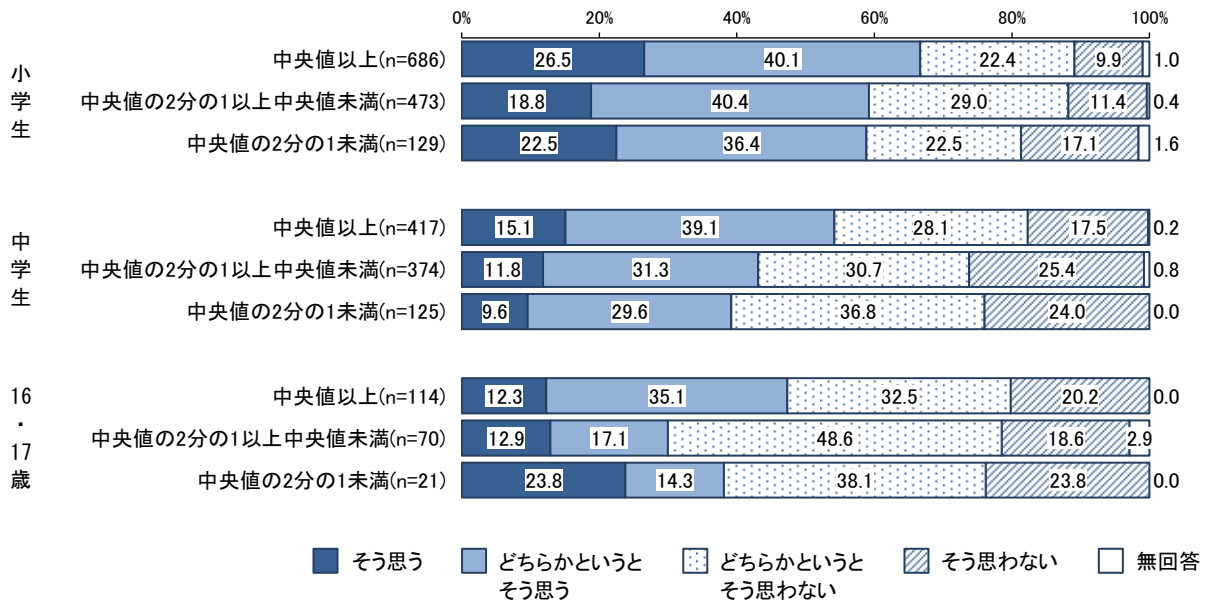
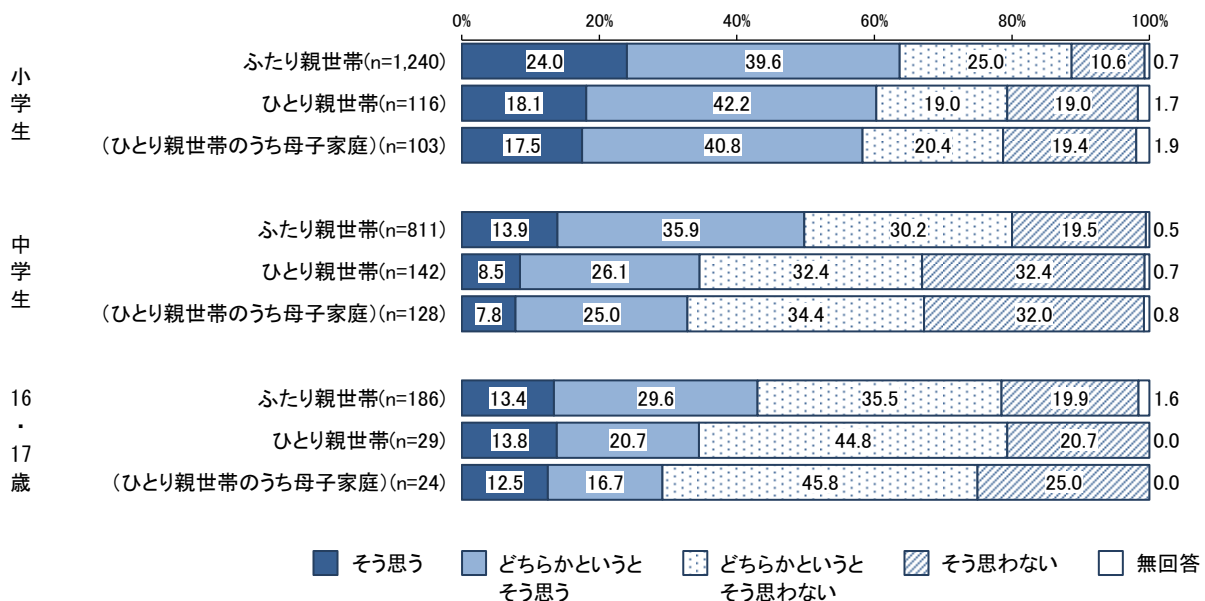


図 世帯の状況別 自身や将来の目標の有無等 - ① 自分に自信がある





② 自分の考えをはっきり相手につたえることができる

等価世帯収入水準別にみると、小学生は、収入水準が高い世帯ほど『どちらかというところ思う』が高くなっており、中央値以上の世帯で 69.1%となっています。中学生は、中央値の 2 分の1以上中央値未満の世帯で『どちらかというところ思う』が 44.3%、『どちらかというところ思わない』が 44.9%とほぼ同率となっています。16・17 歳は、中央値の 2 分の 1 未満の世帯で『どちらかというところ思わない』が 57.1%と高くなっています。

世帯の状況別にみると、いずれの年齢も、『どちらかというところ思う』はふたり親世帯がひとり親世帯よりも高くなっています。16・17 歳ではひとり親世帯は『どちらかというところ思わない』が 5 割を超えています。

図 等価世帯収入水準別 自身や将来の目標の有無等 - ② 自分の考えをはっきり相手につたえることができる

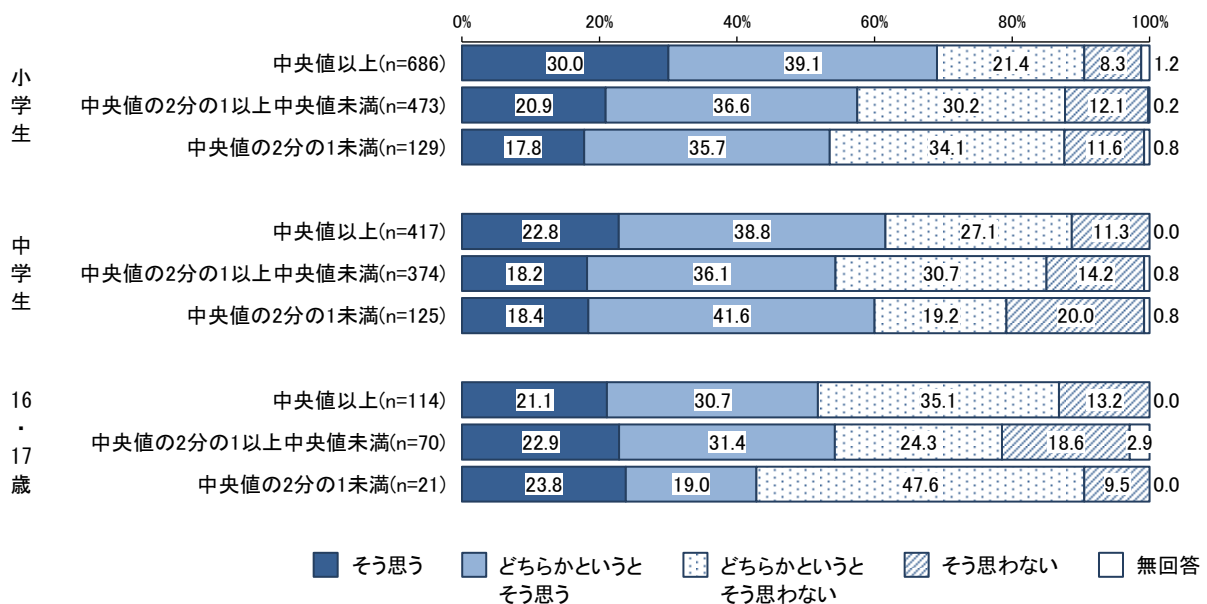
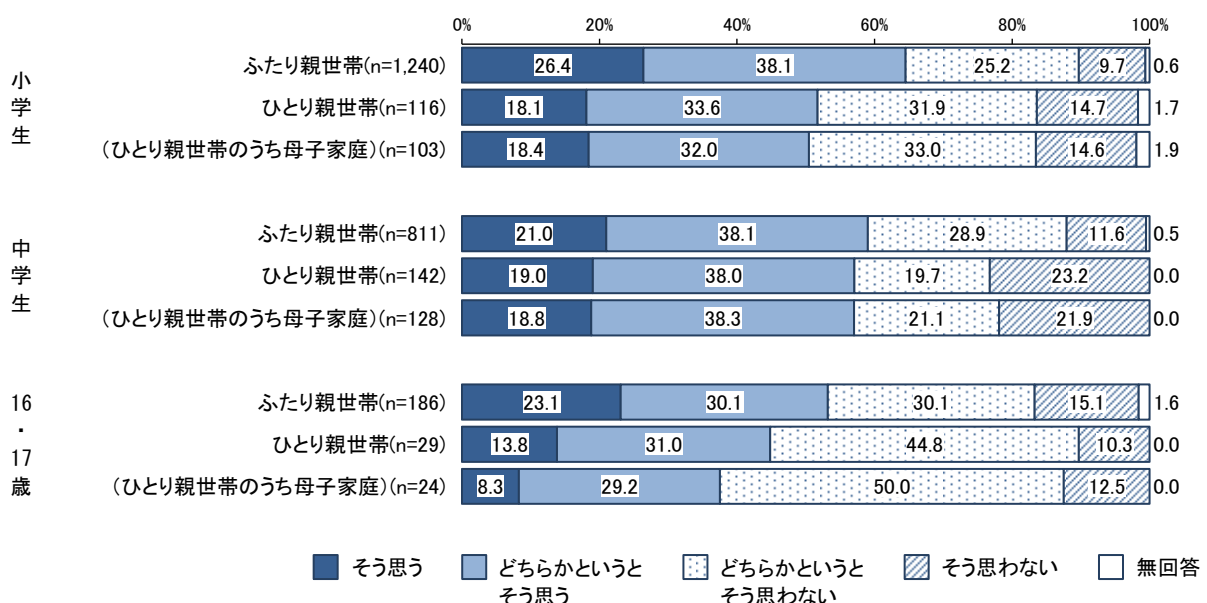


図 世帯の状況別 自身や将来の目標の有無等 - ② 自分の考えをはっきり相手につたえることができる



### Ⅲ 子ども調査の結果

#### ③ 大人は信用できる

等価世帯収入水準別にみると、小学生と中学生は、いずれの収入層も『どちらかというところ思う』はほぼ同率となっています。16・17歳は、『どちらかというところ思う』は中央値の2分の1以上中央値未満の世帯で他の収入層と比べて低くなっています。

世帯の状況別にみると、いずれの年齢も、『どちらかというところ思う』はふたり親世帯がひとり親世帯よりも高くなっています。16・17歳のひとり親世帯では『どちらかというところ思わない』が5割を超えています。

図 等価世帯収入水準別 自身や将来の目標の有無等 - ③ 大人は信用できる

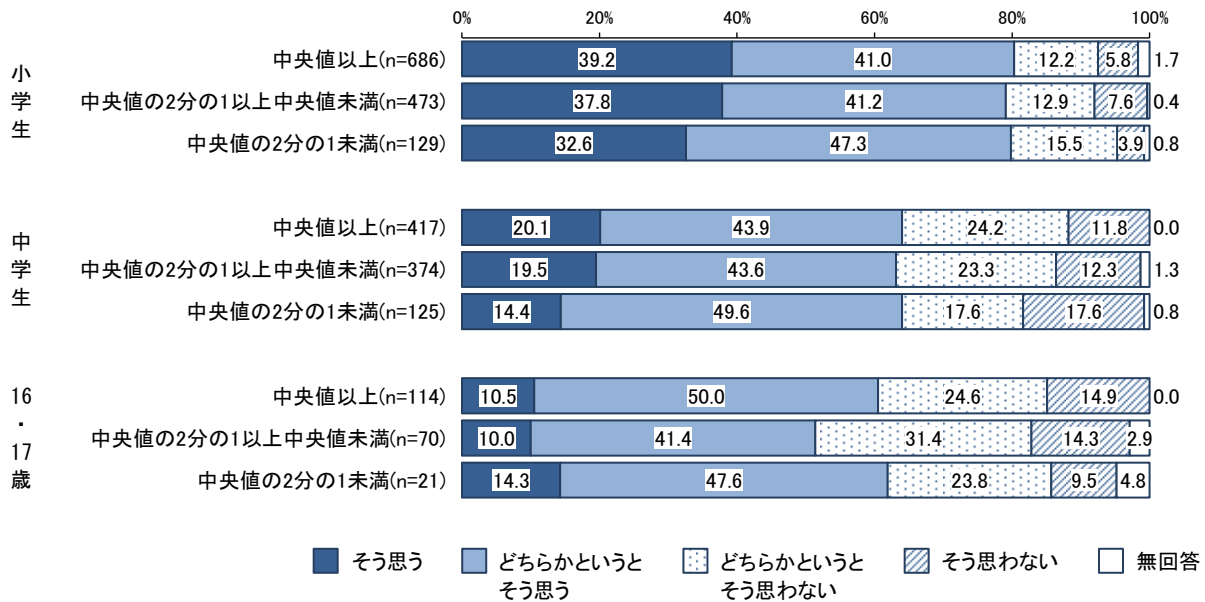
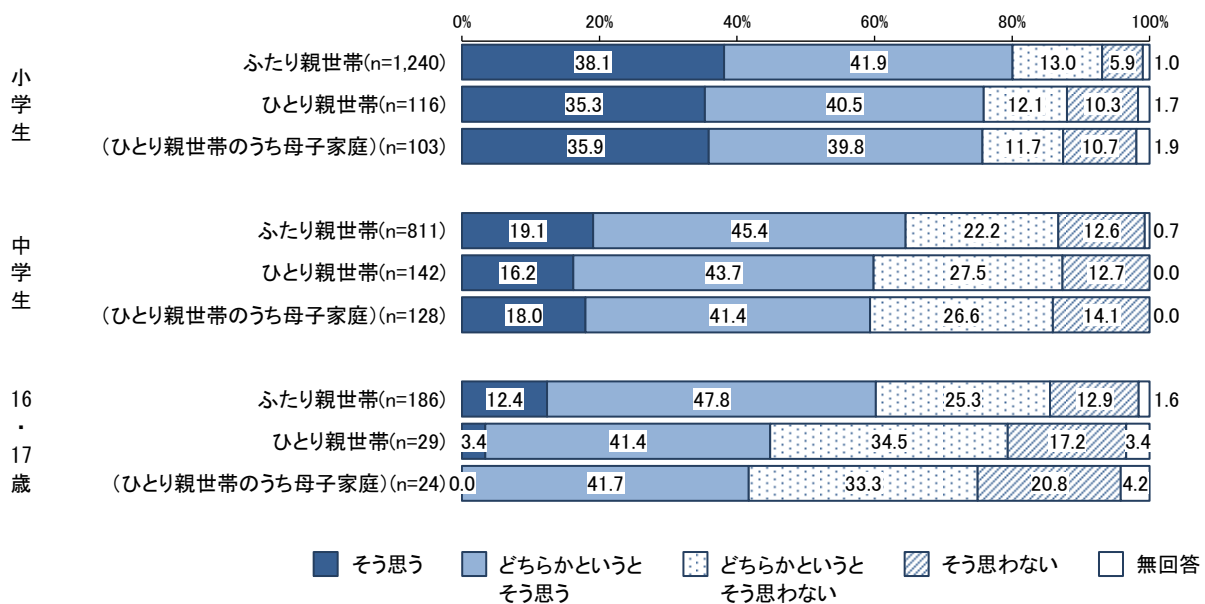


図 世帯の状況別 自身や将来の目標の有無等 - ③ 大人は信用できる



④ 自分の将来の夢や目標を持っている

等価世帯収入水準別にみると、小学生と16・17歳は、中央値の2分の1未満の世帯で『(どちらかという)そう思う』が高くなっており、小学生が80.6%、16・17歳が76.1%となっています。また、16・17歳は、収入水準が低い世帯ほど「そう思う」が高くなっており、中央値の2分の1未満の世帯で57.1%となっています。中学生は、収入層による大きな差はみられず、『(どちらかという)そう思う』が約6割、『(どちらかという)そう思わない』が約4割となっています。

世帯の状況別にみると、小学生と16・17歳は、ひとり親世帯はふたり親世帯と比べて『(どちらかという)そう思う』がやや高くなっています。中学生は、世帯による大きな差はみられず、『(どちらかという)そう思う』が約6割、『(どちらかという)そう思わない』が約4割となっています。

図 等価世帯収入水準別 自身や将来の目標の有無等 - ④ 自分の将来の夢や目標を持っている

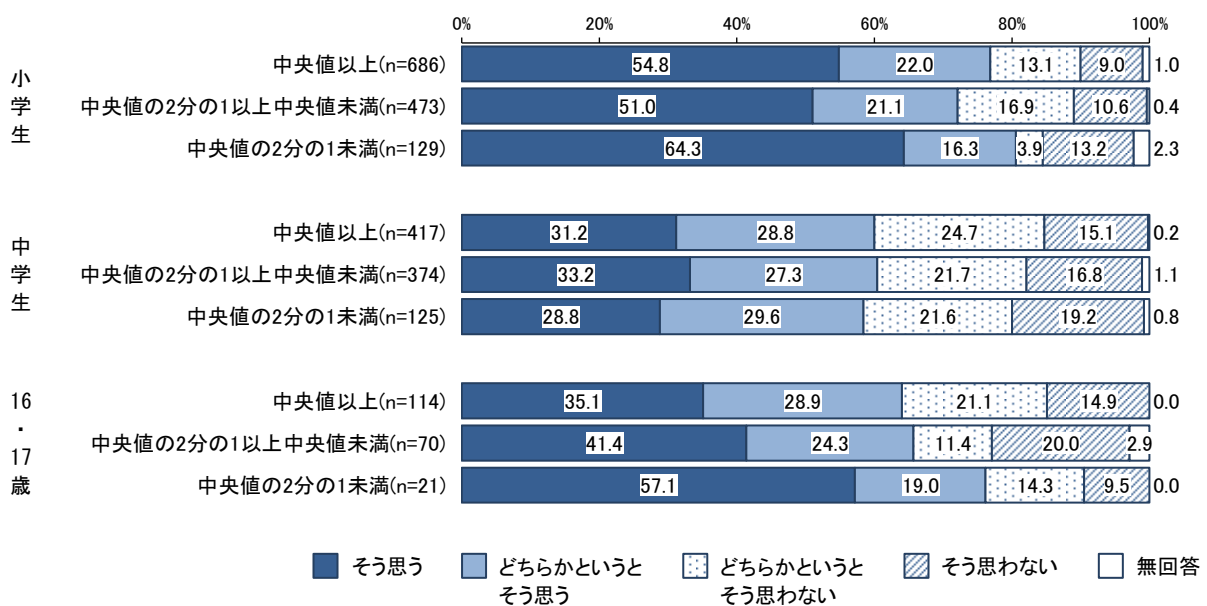
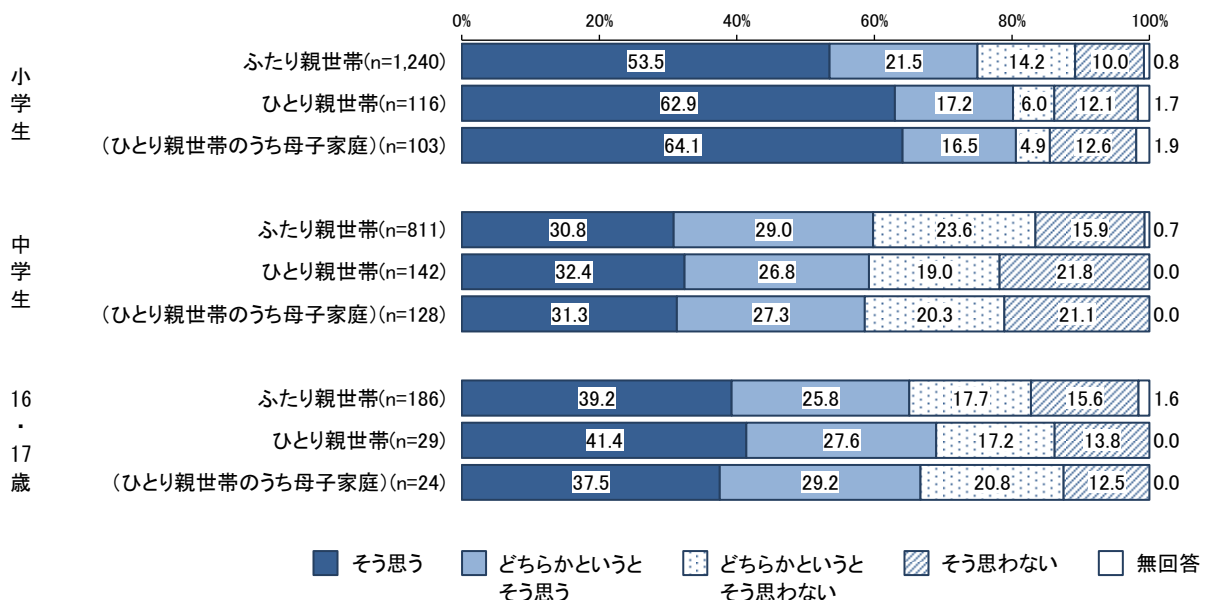


図 世帯の状況別 自身や将来の目標の有無等 - ④ 自分の将来の夢や目標を持っている



### Ⅲ 子ども調査の結果

#### ⑤ 将来のためにも、いま、がんばりたいと思う

等価世帯収入水準別にみると、いずれの年齢も、『どちらかというと思う』と『どちらかというと思わない』の割合は大きな差はみられませんが、16・17歳の中央値の2分の1未満の世帯で「思う」が66.7%と他の収入層と比べて高くなっています。

世帯の状況別にみると、小学生は、世帯による大きな差はみられません。中学生は、ふたり親世帯で『どちらかというと思う』がやや高く、ひとり親世帯では『どちらかというと思わない』が2割程度と高くなっています。

図 等価世帯収入水準別 自身や将来の目標の有無等 - ⑤ 将来のためにも、いま、がんばりたいと思う

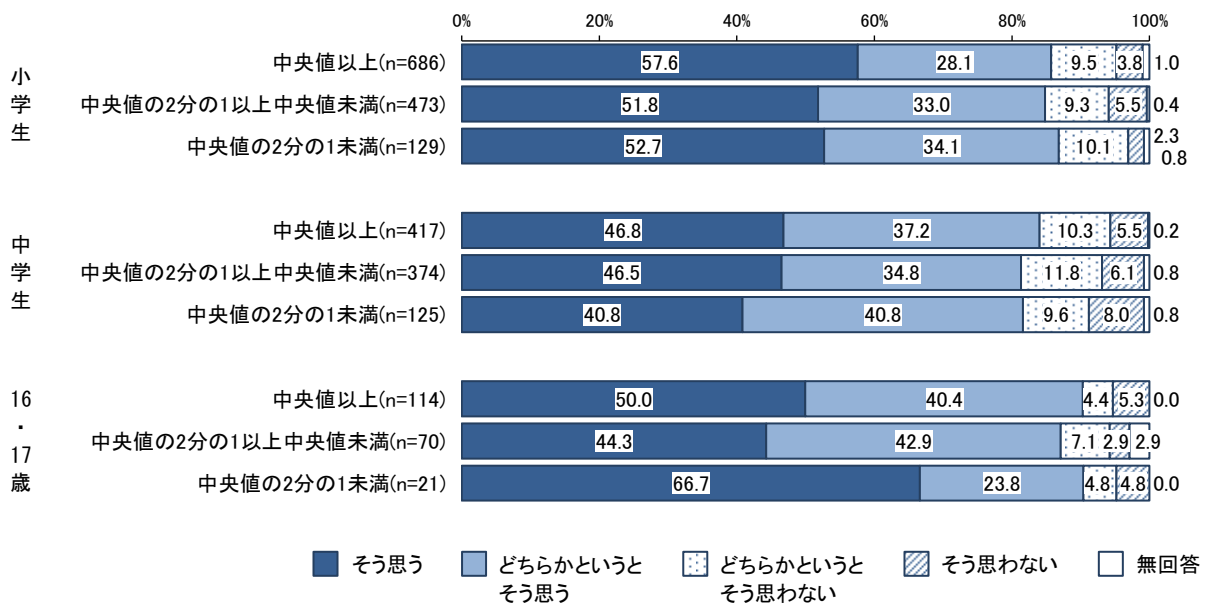
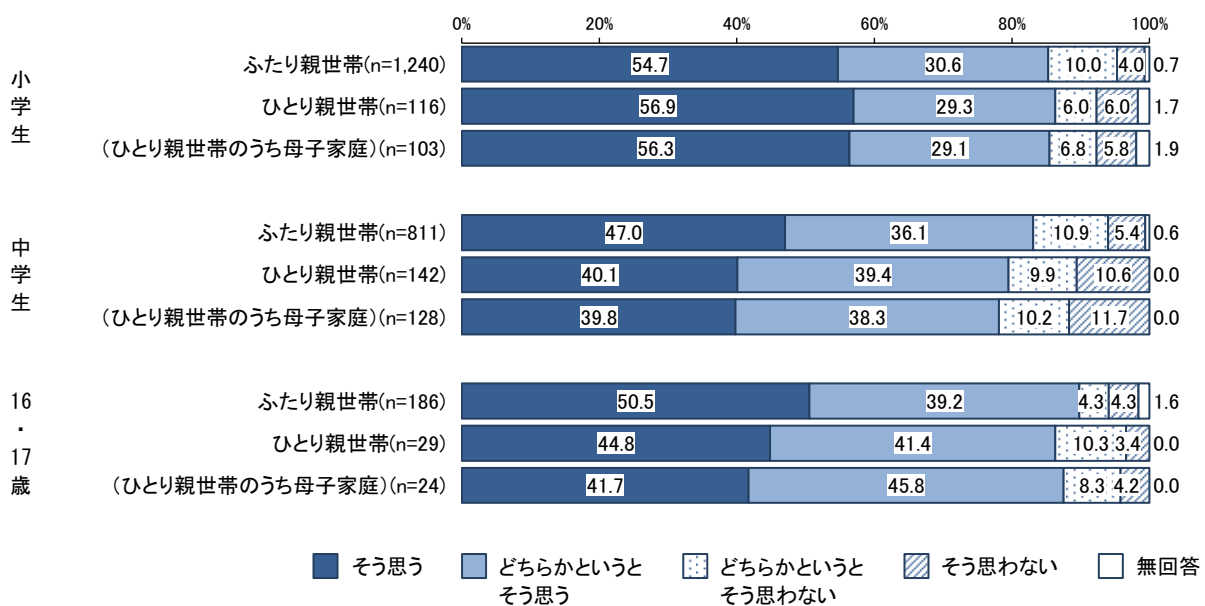


図 世帯の状況別 自身や将来の目標の有無等 - ⑤ 将来のためにも、いま、がんばりたいと思う



⑥ 将来(すでに働いている人は今後も)、働きたいと思う

等価世帯収入水準別にみると、小学生と中学生は、収入水準が高い世帯ほど『どちらかというと思う』が高くなっています。16・17歳は、中央値の2分の1未満の世帯で『どちらかというと思う』が100%となっています。一方、中央値の2分の1以上中央値未満の世帯では、『どちらかというと思う』は81.4%で、『どちらかというと思う』が15.7%と他の収入層と比べて高くなっています。

世帯の状況別にみると、小学生と中学生は、ふたり親世帯で『どちらかというと思う』がひとり親世帯と比べて高く9割以上となっています。16・17歳は、母子家庭で『どちらかというと思う』が他の世帯と比べて高く9割以上となっています。

図 等価世帯収入水準別 自身や将来の目標の有無等 - ⑥ 将来(すでに働いている人は今後も)、働きたいと思う

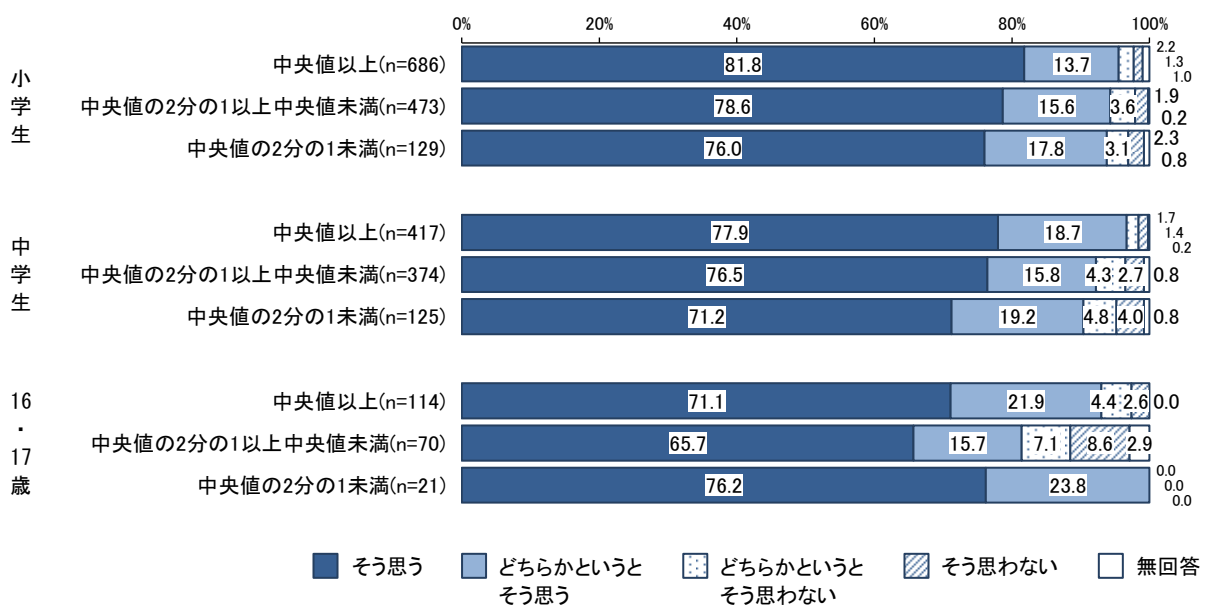
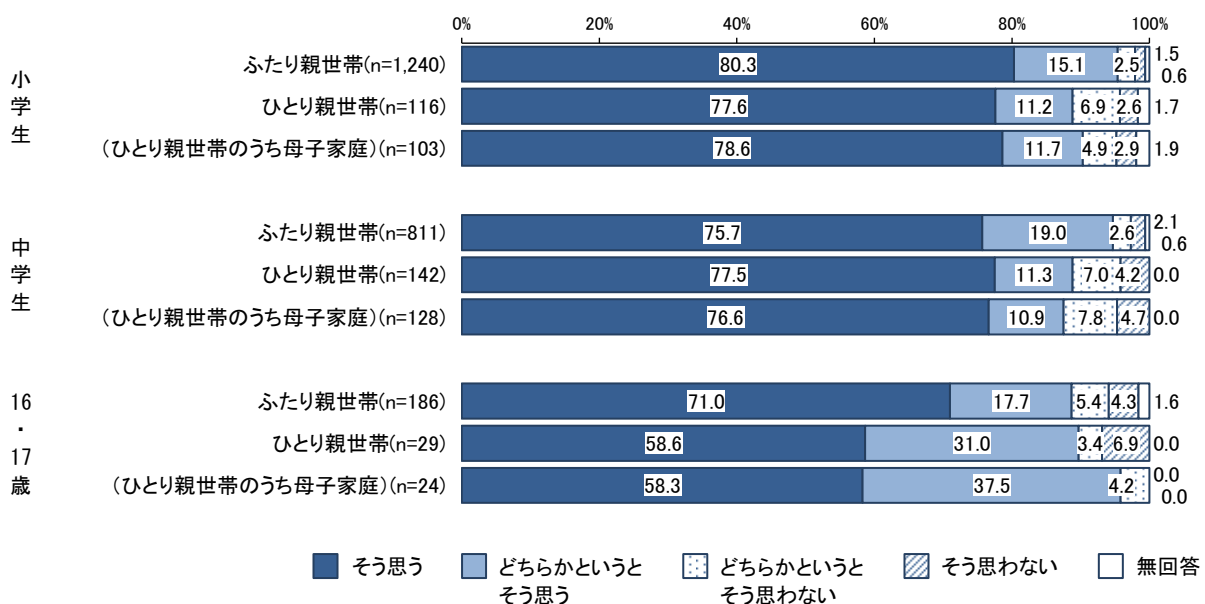


図 世帯の状況別 自身や将来の目標の有無等 - ⑥ 将来(すでに働いている人は今後も)、働きたいと思う



## 9. 子どもの居場所の利用状況

### (1) 居場所の利用状況

小中学生 問 20 16・17歳 問 20	あなたは、次の①～⑤のような場所を利用したことがありますか。また、利用したことがない場合、今後利用したいと思いますか。(①～⑤それぞれについて、あてはまるもの1つに○)
--------------------------	--

#### ① 学童保育所(ちびっこクラブ)など

小学生は、「利用したことがある」が 37.1%で最も高く、次いで「(利用したことはない) 今後も利用したいと思わない」が 32.9%、「(利用したことはない) 今後利用したいかどうか分からない」が 24.7%となっています。

中学生は、「利用したことがある」が 11.0%で最も高く、次いで「(利用したことはない) 今後利用したいかどうか分からない」が 10.0%、「(利用したことはない) 今後も利用したいと思わない」が 9.9%となっています。

#### ② 学習を伴う子どもの居場所

小学生は、「(利用したことはない) 今後も利用したいと思わない」が 38.7%で最も高く、次いで「(利用したことはない) 今後利用したいかどうか分からない」が 37.2%、「利用したことがある」が 10.5%、「(利用したことはない) 利用できるなら、利用したいと思う」が 10.0%となっています。

中学生は、「(利用したことはない) 今後利用したいかどうか分からない」が 10.8%で最も高く、次いで「(利用したことはない) 今後も利用したいと思わない」が 9.5%となっています。

#### ③ ②以外の勉強を無料でみてる場所

小学生は、「(利用したことはない) 今後利用したいかどうか分からない」が 37.1%で最も高く、次いで「(利用したことはない) 今後も利用したいと思わない」が 32.0%、「(利用したことはない) 利用できるなら、利用したいと思う」が 24.2%となっています。

中学生は、「(利用したことはない) 今後利用したいかどうか分からない」が 37.3%で最も高く、次いで「(利用したことはない) 今後も利用したいと思わない」が 31.1%、「(利用したことはない) 利用できるなら、利用したいと思う」が 22.9%となっています。

16・17 歳は、「(利用したことはない) 利用できるなら、利用したいと思う」が 37.3%で最も高く、次いで「(利用したことはない) 今後利用したいかどうか分からない」が 31.1%、「(利用したことはない) 今後も利用したいと思わない」が 22.4%となっています。

小学生、中学生は「(利用したことはない) 今後利用したいかどうか分からない」、16・17 歳は「(利用したことはない) 利用できるなら、利用したいと思う」が最も高くなっています。

#### ④ 子ども食堂

小学生は、「(利用したことはない) 今後利用したいかどうか分からない」が 35.4%で最も高く、次いで「(利用したことはない) 今後も利用したいと思わない」が 27.9%、「(利用したことはない) 利用できるなら、利用したいと思う」が 26.2%となっています。

中学生は、「(利用したことはない) 今後利用したいかどうか分からない」が 39.1%で最も高く、次いで「(利用したことはない) 今後も利用したいと思わない」が 29.1%、「(利用したことはない) 利用できるなら、利用したいと思う」が 20.8%となっています。

16・17 歳は、「(利用したことはない) 今後利用したいかどうか分からない」が 36.4%で最も高く、次いで「(利用したことはない) 利用できるなら、利用したいと思う」が 31.1%、「(利用したことはない) 今後も利用したいと思わない」が 28.9%となっています。

いずれの年齢も「(利用したことはない) 今後利用したいかどうか分からない」の割合が最も高く、次いで、小

学生、中学生は「(利用したことはない)今後も利用したいと思わない」、16・17 歳は「(利用したことはない)利用できるなら、利用したいと思う」の順番となっています。

**⑤ 何でも相談できる場所**

小学生は、「(利用したことはない)今後利用したいかどうか分からない」が 43.7%で最も高く、次いで「(利用したことはない)今後も利用したいと思わない」が 33.5%、「(利用したことはない)利用できるなら、利用したいと思う」が 17.7%となっています。

中学生は、「(利用したことはない)今後利用したいかどうか分からない」が 44.9%で最も高く、次いで「(利用したことはない)今後も利用したいと思わない」が 35.5%、「(利用したことはない)利用できるなら、利用したいと思う」が 13.9%となっています。

16・17 歳は、「(利用したことはない)今後利用したいかどうか分からない」が 40.4%で最も高く、次いで「(利用したことはない)今後も利用したいと思わない」が 37.7%、「(利用したことはない)利用できるなら、利用したいと思う」が 18.4%となっています。

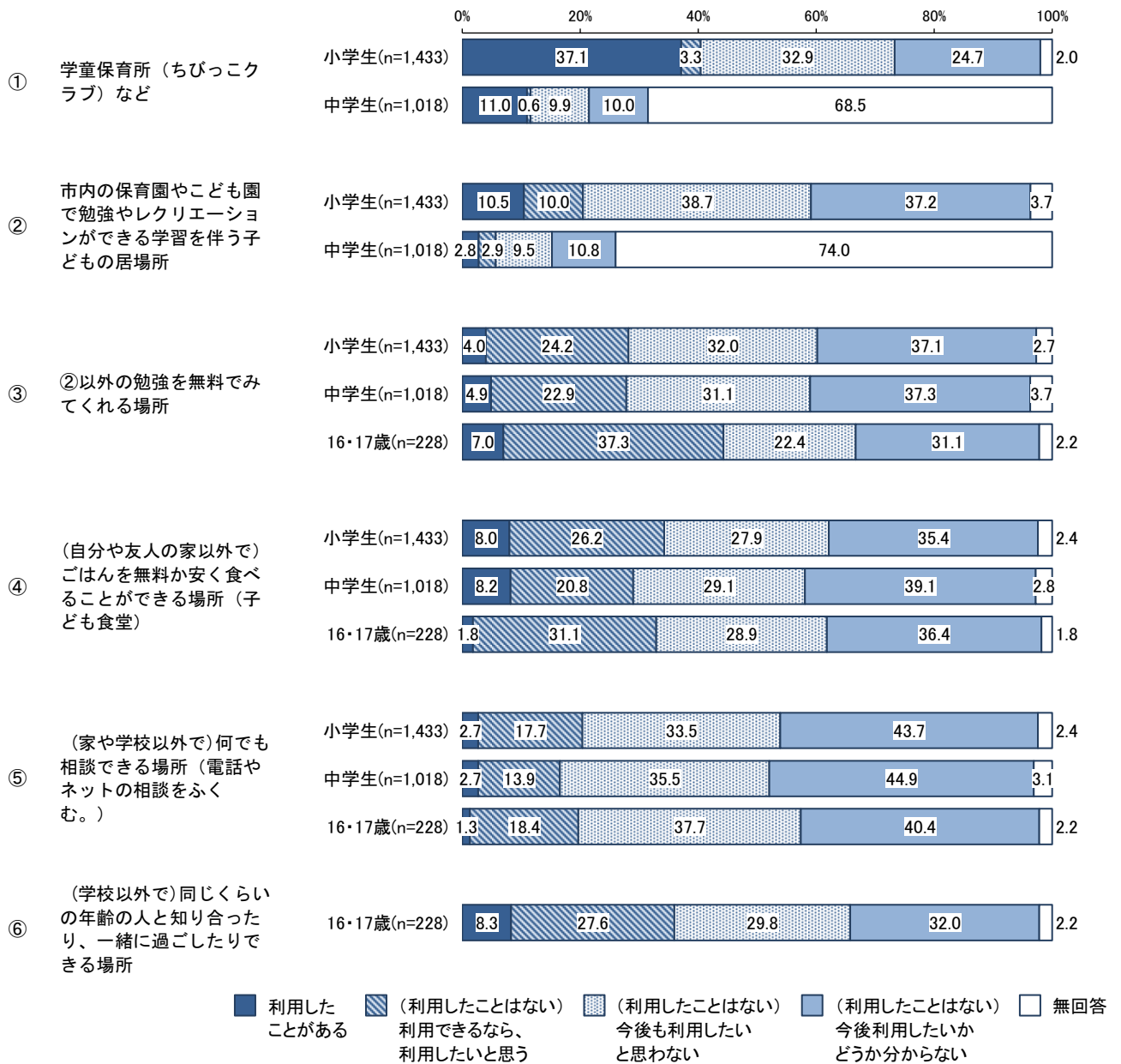
いずれの年齢も「(利用したことはない)今後利用したいかどうか分からない」の割合が最も高く、次いで「(利用したことはない)今後も利用したいと思わない」の順番となっています。

**⑥ (学校以外)同じくらいの年齢の人と知り合ったり、一緒に過ごしたりできる場所**

「(利用したことはない)今後利用したいかどうか分からない」が 32.0%で最も高く、次いで「(利用したことはない)今後も利用したいと思わない」が 29.8%、「(利用したことはない)利用できるなら利用したいと思う」が 27.6%となっています。

Ⅲ 子ども調査の結果

図 居場所の利用状況





③ ②以外の勉強を無料でみてくれる場所

全国調査と比較すると、「(利用したことはない)今後利用したいかどうか分からない」は今回調査が 10.5 ポイント、「(利用したことはない)今後も利用したいと思わない」は今回調査が 2.3 ポイント高くなっており、「(利用したことはない)利用できるなら、利用したいと思う」は今回調査が 14.8 ポイント低くなっています。

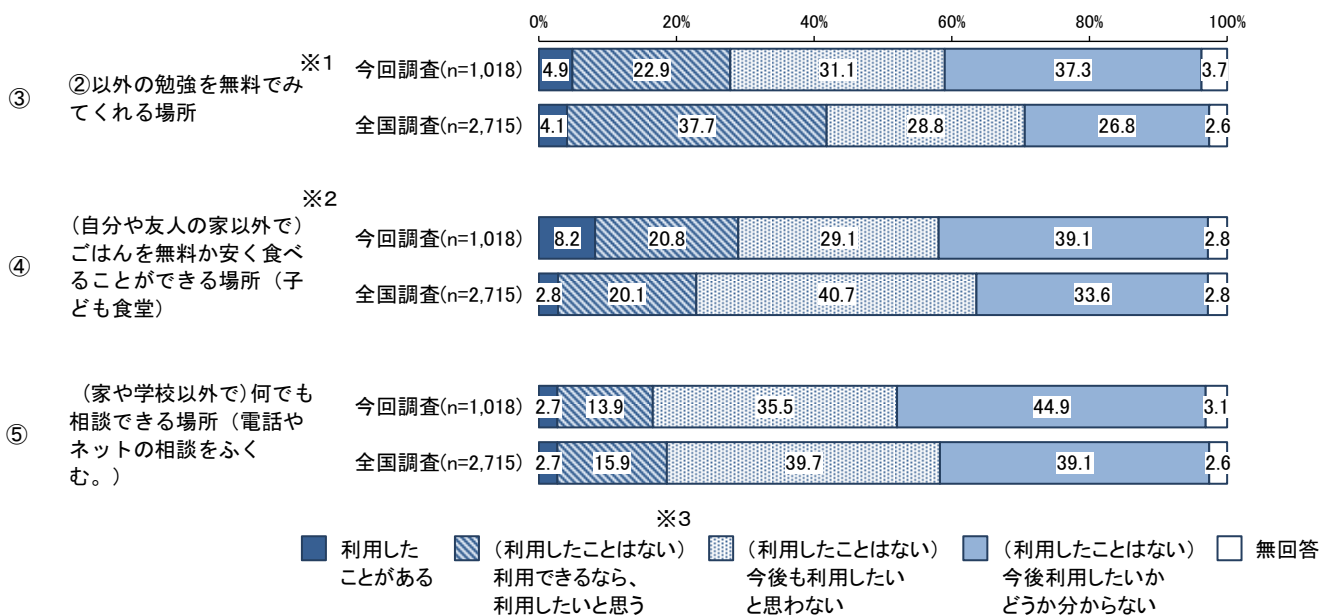
④ 子ども食堂

全国調査と比較すると、「利用したことがある」は今回調査が 5.4 ポイント、「(利用したことはない)利用できるなら、利用したいと思う」は今回調査が 0.7 ポイント、「(利用したことはない)今後利用したいかどうか分からない」は今回調査が 5.5 ポイント高くなっており、「(利用したことはない)今後も利用したいと思わない」は今回調査が 11.6 ポイント低くなっています。

⑤ 何でも相談できる場所

全国調査と比較すると、「(利用したことはない)今後利用したいかどうか分からない」は今回調査が 5.8 ポイント高くなっており、「(利用したことはない)利用できるなら、利用したいと思う」は今回調査が 2.0 ポイント、「(利用したことはない)今後も利用したいと思わない」は今回調査が 4.2 ポイント低くなっています。

図 居場所の利用状況 - 全国調査との比較【中学生】



Ⅲ 子ども調査の結果

① 学童保育所(ちびっこクラブ)など

等価世帯収入水準別にみると、小学生は、中央値の2分の1以上中央値未満の世帯では「利用したことがある」が30.4%と低くなっており、「(利用したことはない)今後も利用したいと思わない」が40.6%と高くなっています。中学生は、中央値以上の世帯で「利用したことがある」が12.5%で他の収入層と比べてやや高く、中央値の2分の1未満の世帯で「(利用したことはない)今後も利用したいと思わない」が12.0%で他の収入層と比べてやや高くなっています。

世帯の状況別にみると、小学生は、ひとり親世帯で「利用したことがある」が5割台と高く、ふたり親世帯で「(利用したことはない)今後も利用したいと思わない」が34.4%と高くなっています。中学生は、ふたり親世帯で「(利用したことはない)今後も利用したいと思わない」と「(利用したことはない)今後利用したいかどうか分からない」がいずれも約1割と、ひとり親世帯と比べてやや高くなっています。

福祉事務所管内別にみると、「(利用したことはない)今後も利用したいと思わない」は東福祉事務所、「(利用したことはない)今後利用したいかどうか分からない」は西福祉事務所が、他の福祉事務所と比べてやや高くなっています。

図 等価世帯収入水準別 居場所の利用状況 - ① 学童保育所(ちびっこクラブ)など

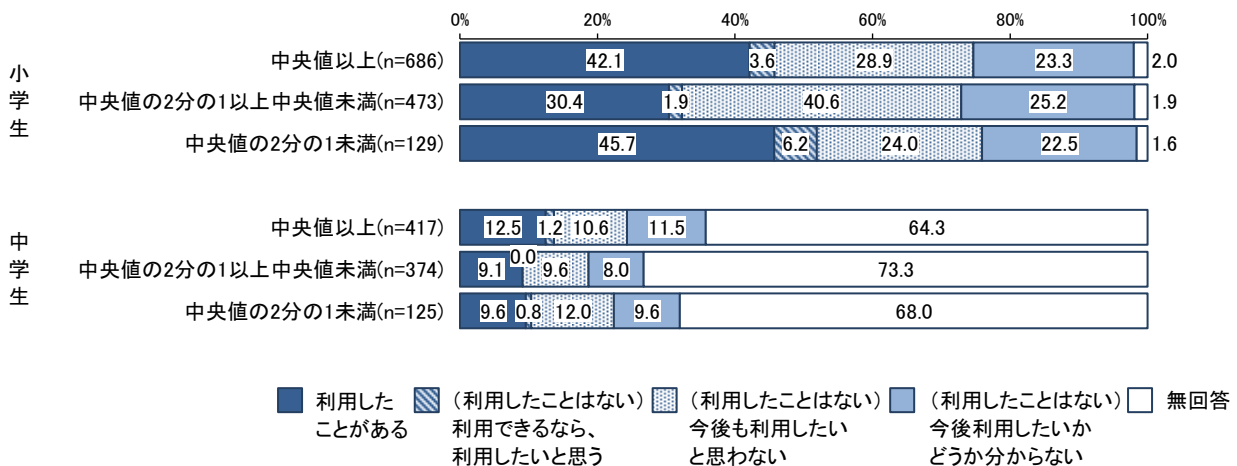


図 世帯の状況別 居場所の利用状況 - ① 学童保育所(ちびっこクラブ)など

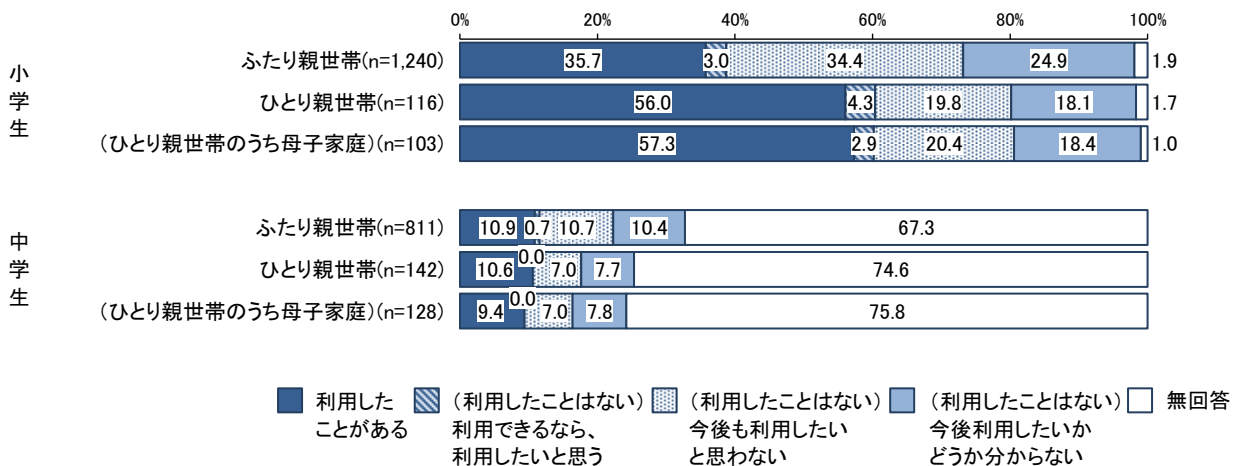
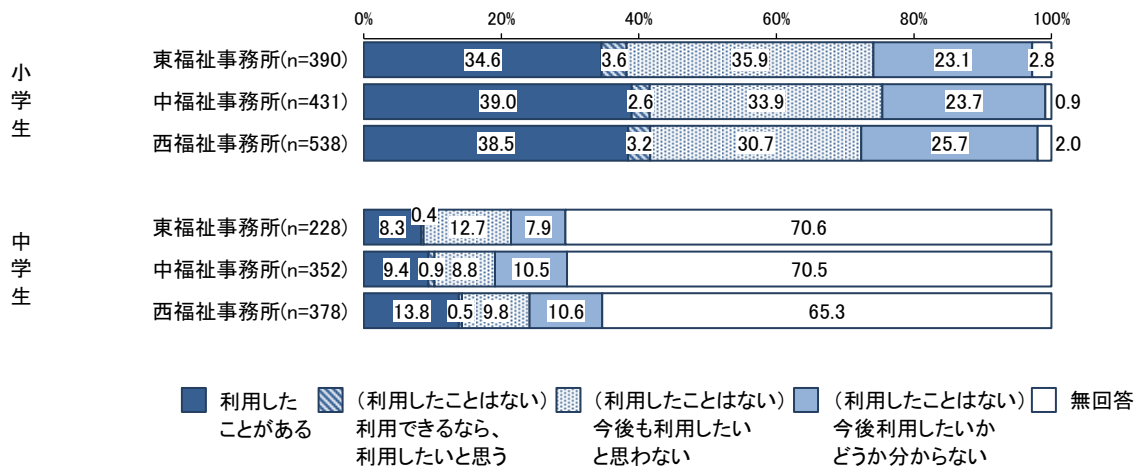


図 福祉事務所管内別 居場所の利用状況 - ① 学童保育所(ちびっこクラブ)など



② 学習を伴う子どもの居場所

等価世帯収入水準別にみると、小学生は、中央値の2分の1以上中央値未満の世帯では「利用したことがある」が他の収入層と比べてやや低く、「(利用したことはない) 今後も利用したいと思わない」が42.5%と高くなっています。中学生は、中央値以上の世帯で「(利用したことはない) 今後も利用したいと思わない」が13.7%で他の収入層と比べてやや高くなっています。

世帯の状況別にみると、小学生は、ふたり親世帯で「(利用したことはない) 今後も利用したいと思わない」が39.8%とひとり親世帯と比べて高くなっています。中学生は、ふたり親世帯で「(利用したことはない) 今後も利用したいと思わない」と「(利用したことはない) 今後利用したいかどうか分からない」がひとり親世帯と比べてやや高くなっています。

福祉事務所管内別にみると、小学生は「(利用したことはない) 今後も利用したいと思わない」は東福祉事務所と中福祉事務所、「(利用したことはない) 今後利用したいかどうか分からない」は中福祉事務所と西福祉事務所でやや高く、それぞれ4割前後となっています。中学生は、「(利用したことはない) 今後利用したいかどうか分からない」は中福祉事務所と西福祉事務所でやや高く、1割強となっています。

Ⅲ 子ども調査の結果

図 等価世帯収入水準別 居場所の利用状況 - ② 学習を伴う子どもの居場所

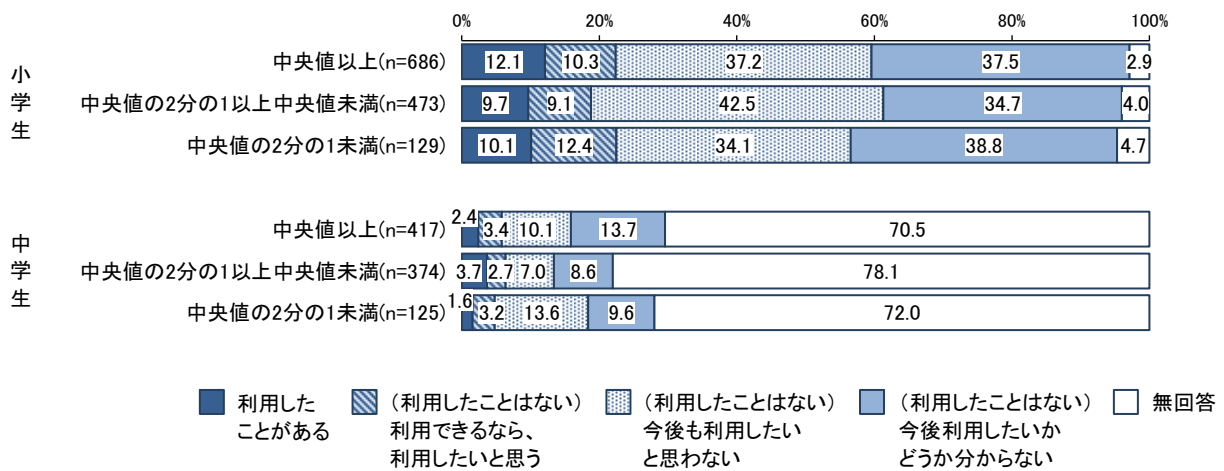


図 世帯の状況別 居場所の利用状況 - ② 学習を伴う子どもの居場所

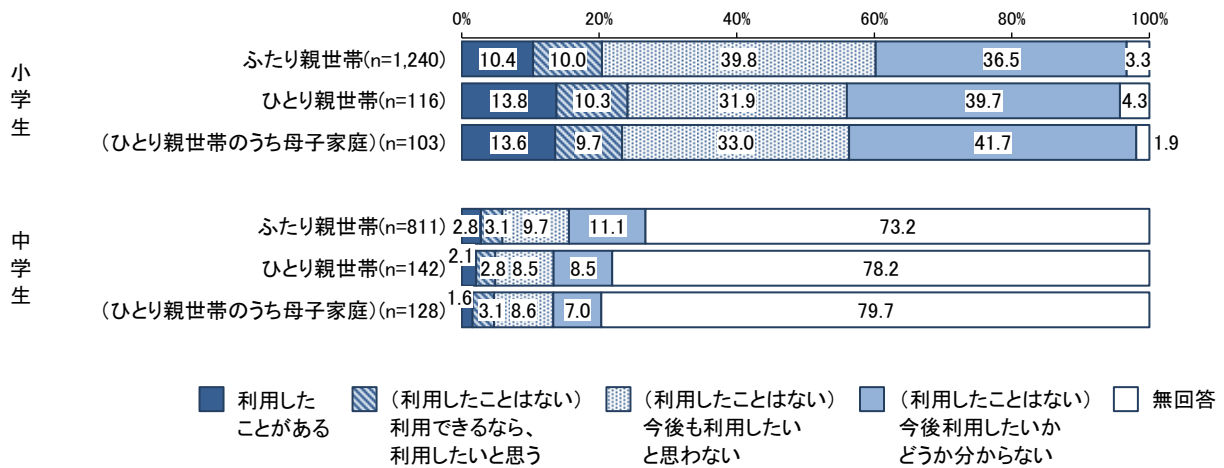
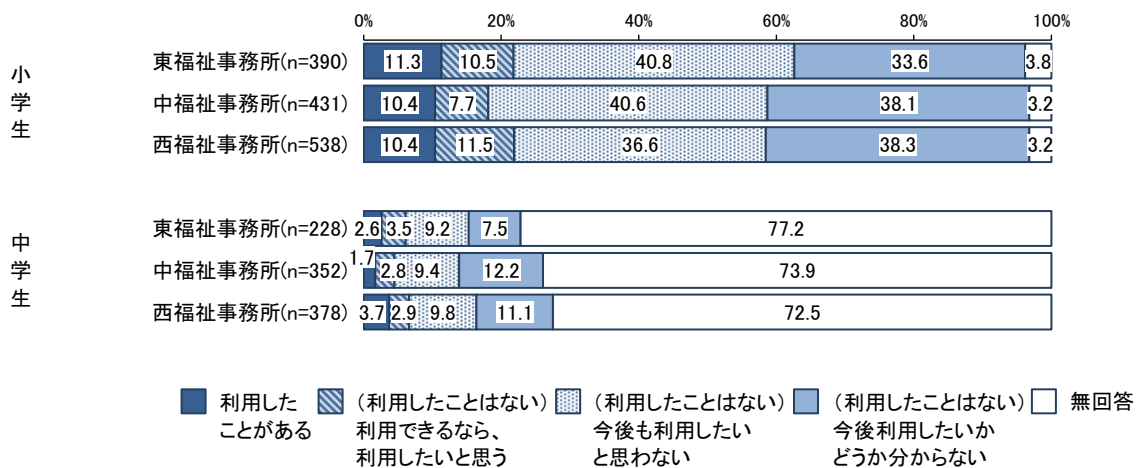


図 福祉事務所管内別 居場所の利用状況 - ② 学習を伴う子どもの居場所



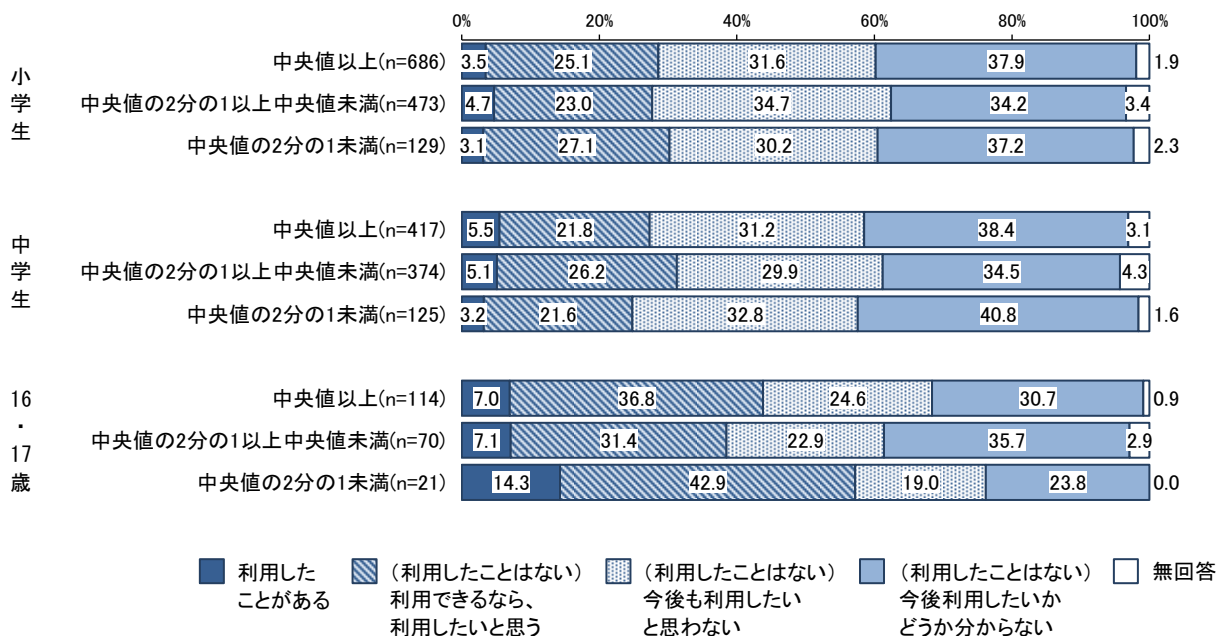
③ ②以外の勉強を無料でみてくれる場所

等価世帯収入水準別にみると、16・17歳の中央値の2分の1未満の世帯では、「利用したことがある」が14.3%と高くなっており、「(利用したことはない)利用できるなら、利用したいと思う」が42.9%と高くなっています。

世帯の状況別にみると、小学生と中学生は、利用状況に大きな差はみられません。16・17歳は、ひとり親世帯で「利用したことがある」が10.3%とやや高くなっており、ひとり親世帯で「(利用したことはない)利用できるなら、利用したいと思う」が4割前後と高くなっています。

福祉事務所管内別にみると、小学生は、西福祉事務所で「(利用したことはない)利用できるなら、利用したいと思う」が28.1%と高くなっています。中学生は、東福祉事務所で「(利用したことはない)今後も利用したいと思わない」が38.6%と高くなっています。16・17歳は、西福祉事務所で「(利用したことはない)利用できるなら、利用したいと思う」が28.6%と低くなっており、「(利用したことはない)今後利用したいかどうか分からない」が39.3%と高くなっています。

図 等価世帯収入水準別 居場所の利用状況 - ③ ②以外の勉強を無料でみてくれる場所



Ⅲ 子ども調査の結果

図 世帯の状況別 居場所の利用状況 - ③ ②以外の勉強を無料でみてくれる場所

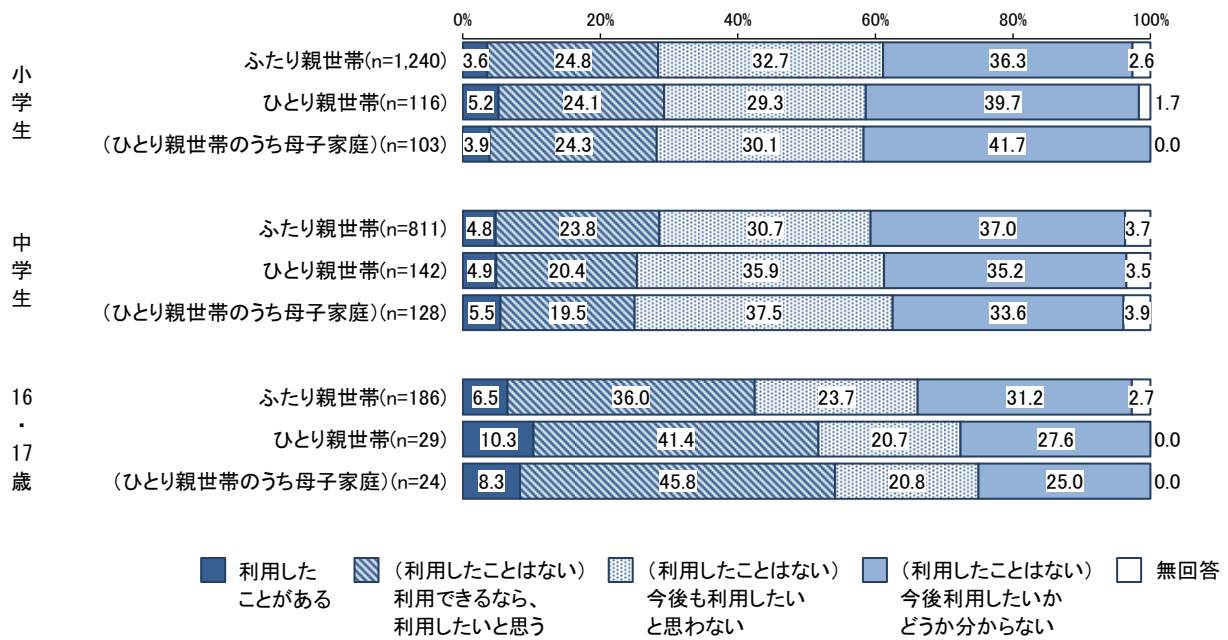
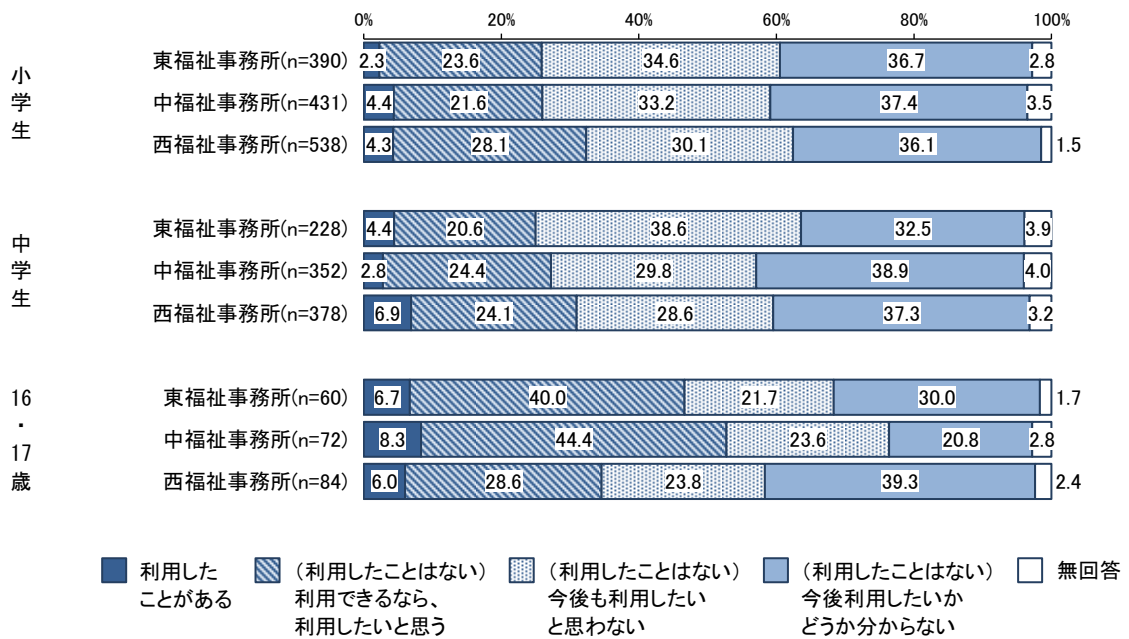


図 世帯の状況別 居場所の利用状況 - ③ ②以外の勉強を無料でみてくれる場所





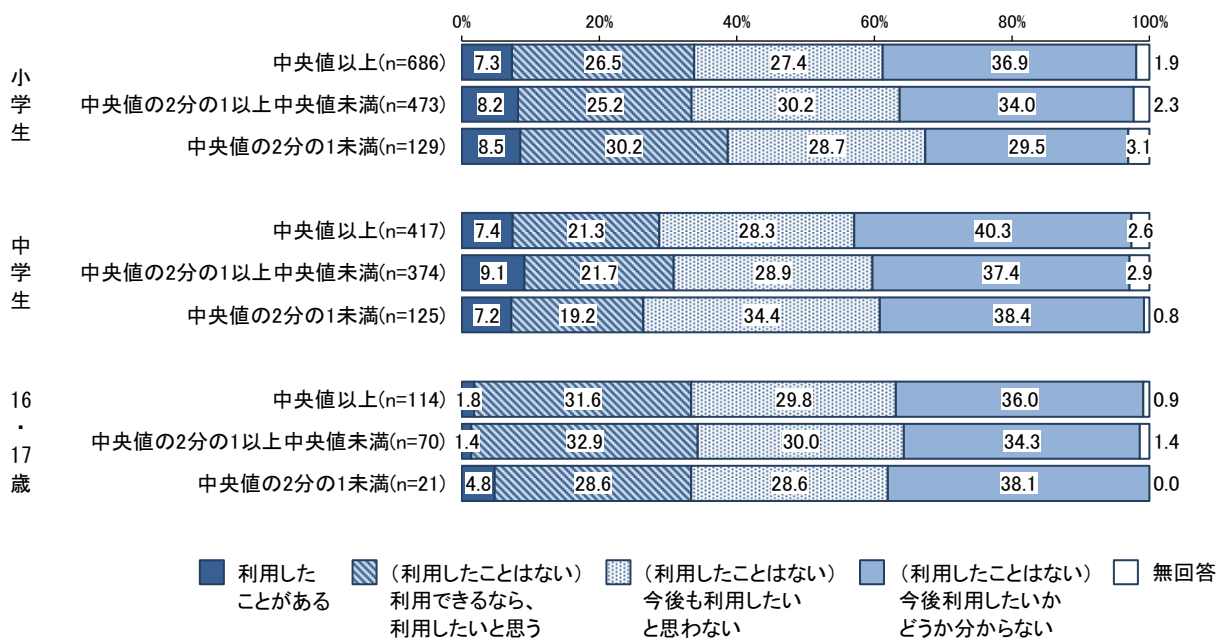
④ 子ども食堂

等価世帯収入水準別にみると、小学生は、中央値の2分の1未満の世帯で「(利用したことはない)利用できるなら、利用したいと思う」が30.2%と高く、収入水準が高い世帯ほど「(利用したことはない)今後利用したいかどうか分からない」は高くなっています。中学生は、中央値の2分の1未満の世帯で「(利用したことはない)今後利用したいと思わない」が34.4%と高くなっています。16・17歳は、収入層による大きな差はみられません。

世帯の状況別にみると、小学生は、ひとり親世帯で「(利用したことはない)利用できるなら、利用したいと思う」が高くなっています。中学生は、ひとり親世帯で「(利用したことはない)今後利用したいと思わない」が高くなっています。16・17歳は、ひとり親世帯で「(利用したことはない)利用できるなら、利用したいと思う」、母子家庭で「(利用したことはない)今後利用したいかどうか分からない」が高くなっています。

福祉事務所管内別にみると、小学生と中学生は、中福祉事務所で「利用したことがある」がやや高く1割以上となっています。また、中福祉事務所ではいずれの年齢も「(利用したことはない)利用できるなら、利用したいと思う」が他の福祉事務所と比べて高く、16・17歳では37.5%となっています。一方、東福祉事務所ではいずれの年齢も「(利用したことはない)今後利用したいと思わない」が他の福祉事務所と比べて高くなっています。

図 等価世帯収入水準別 居場所の利用状況 - ④ 子ども食堂



Ⅲ 子ども調査の結果

図 世帯の状況別 居場所の利用状況 - ④ 子ども食堂

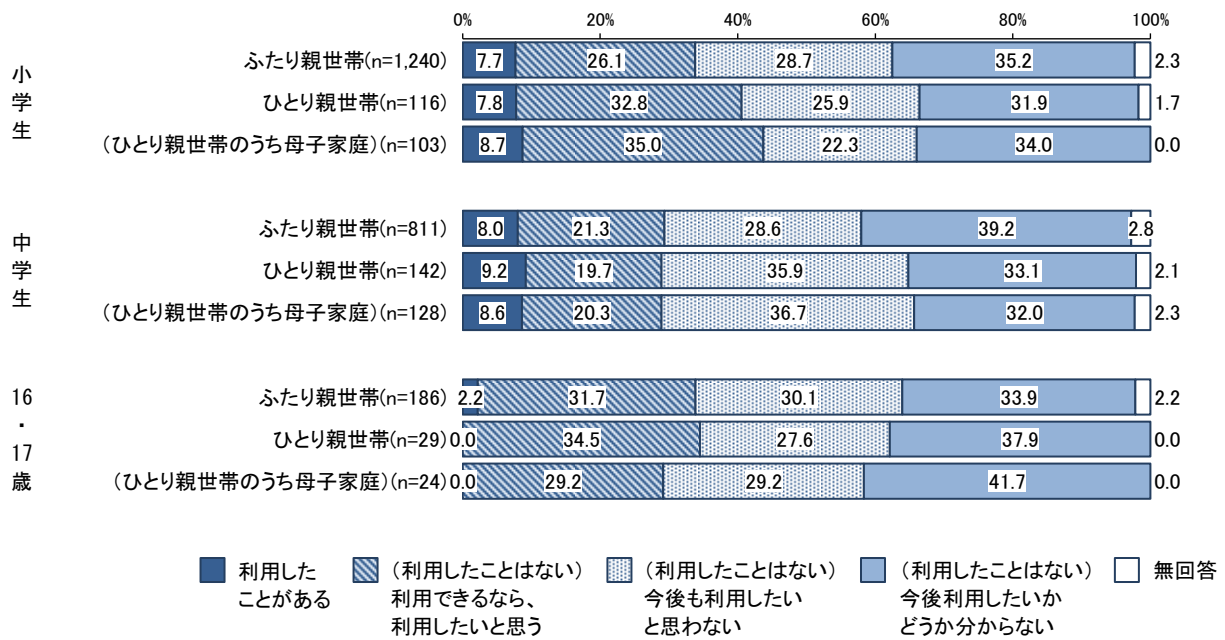
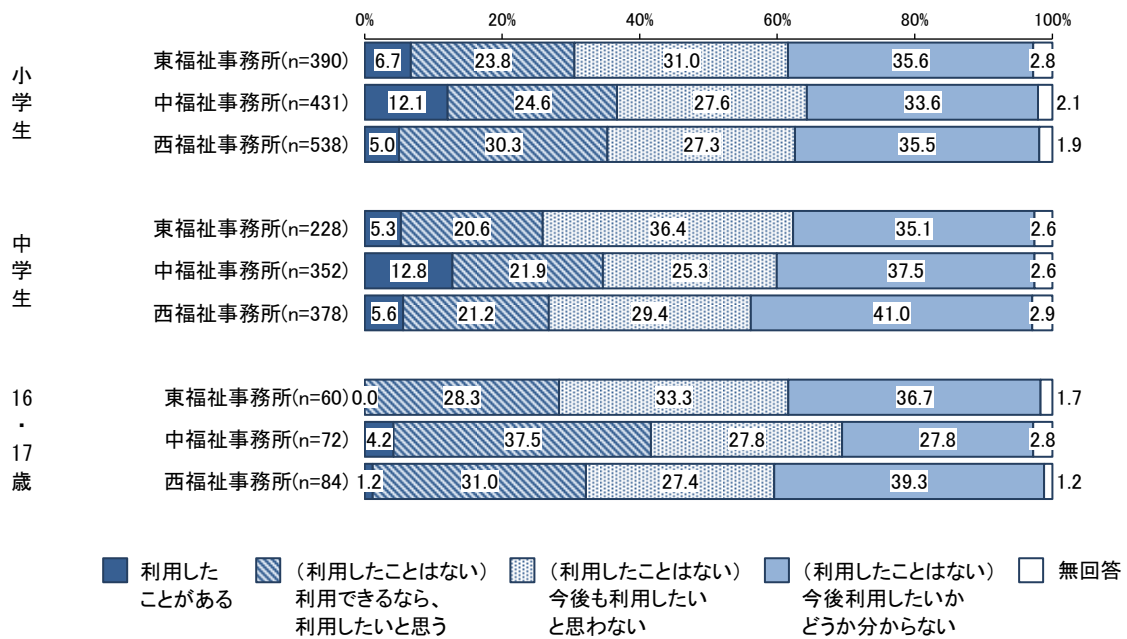


図 福祉事務所管内別 居場所の利用状況 - ④ 子ども食堂





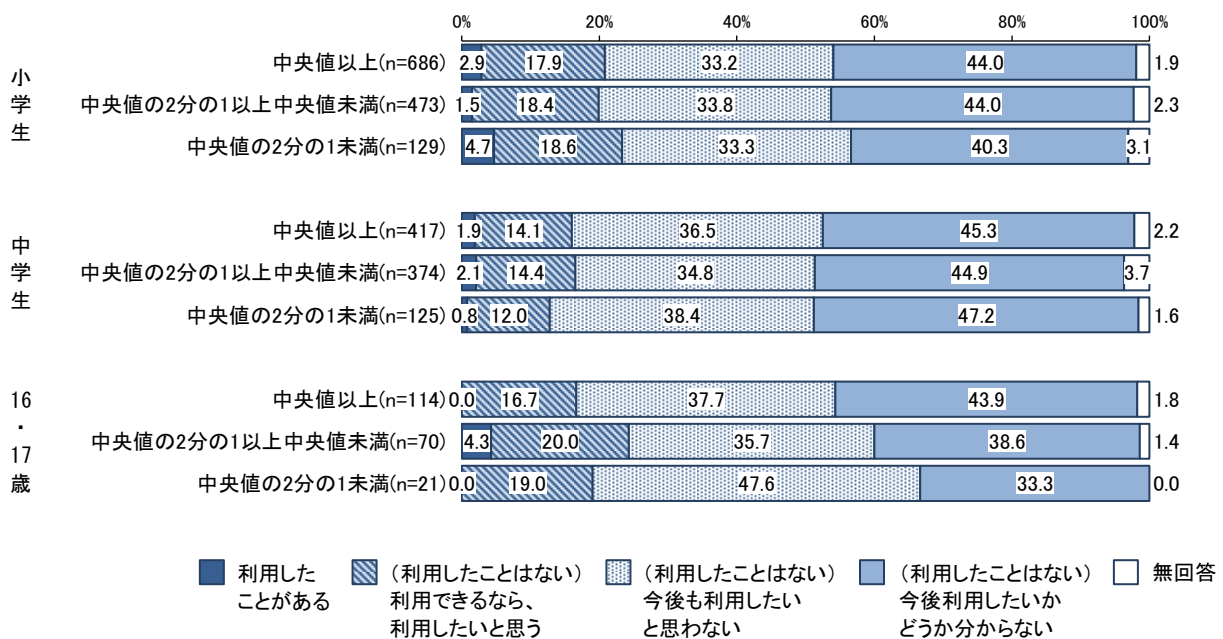
⑤ 何でも相談できる場所

等価世帯収入水準別にみると、小学生と中学生は収入層による大きな差はみられません。16・17歳は、中央値の2分の1未満の世帯で「(利用したことはない)今後も利用したいと思わない」が47.6%と高くなっており、収入水準が高い世帯ほど「(利用したことはない)今後利用したいかどうか分からない」が高くなっています。

世帯の状況別にみると、小学生は、ひとり親世帯で「(利用したことはない)利用できるなら、利用したいと思う」が高く、ふたり親世帯で「(利用したことはない)今後利用したいかどうか分からない」が高くなっています。中学生は、世帯による大きな差はみられません。16・17歳は、ひとり親世帯で「(利用したことはない)利用できるなら、利用したいと思う」が高くなっています。

福祉事務所管内別にみると、小学生は、東福祉事務所で「(利用したことはない)今後も利用したいと思わない」がやや高くなっています。中学生は、中福祉事務所と西福祉事務所で「(利用したことはない)今後利用したいかどうか分からない」が高くなっています。16・17歳は、中福祉事務所で「(利用したことはない)利用できるなら、利用したいと思う」と「(利用したことはない)今後も利用したいと思わない」が他の福祉事務所と比べて高くなっています。

図 等価世帯収入水準別 居場所の利用状況 - ⑤ 何でも相談できる場所



Ⅲ 子ども調査の結果

図 世帯の状況別 居場所の利用状況 - ⑤ 何でも相談できる場所

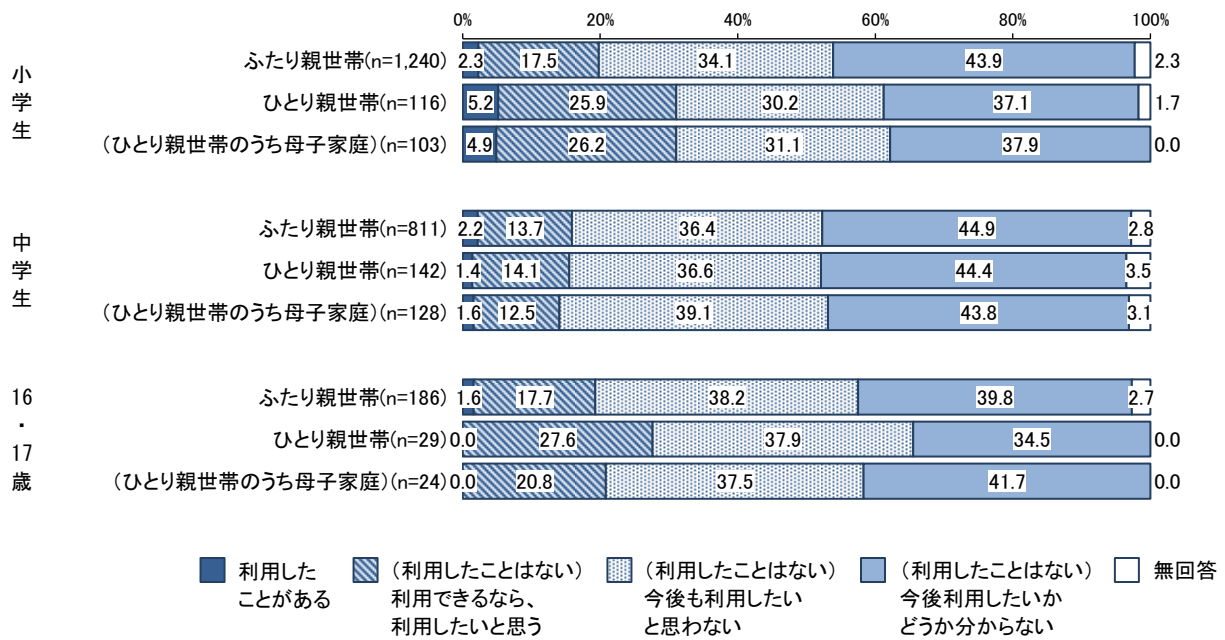
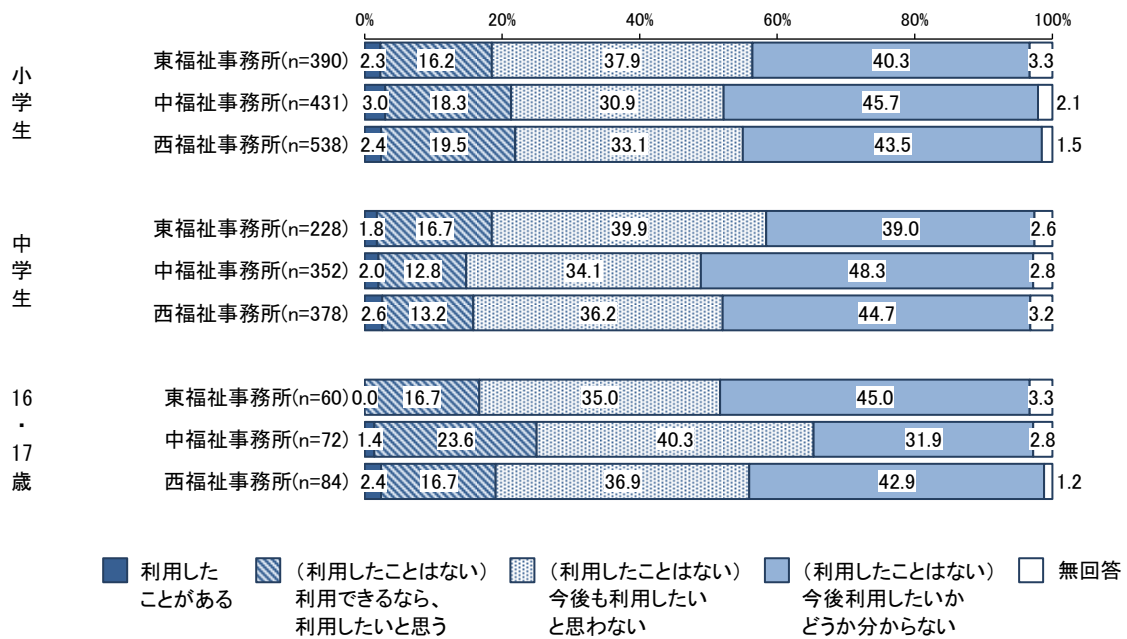


図 福祉事務所管内別 居場所の利用状況 - ⑤ 何でも相談できる場所



⑥ (学校以外で)同じくらいの年齢の人と知り合ったり、一緒に過ごしたりできる場所

等価世帯収入水準別にみると、中央値の2分の1以上中央値未満の世帯で「利用したことがある」が12.9%と高くなっており、収入水準が低い世帯ほど「(利用したことはない)利用できるなら、利用したいと思う」が高くなっています。

世帯の状況別にみると、ひとり親世帯で「(利用したことはない)利用できるなら、利用したいと思う」がふたり親世帯と比べて高くなっている一方で、母子家庭では「(利用したことはない)今後も利用したいと思わない」が37.5%と高くなっています。

福祉事務所管内別にみると、中福祉事務所で「利用したことがある」が13.9%、「(利用したことはない)利用できるなら、利用したいと思う」が29.2%と他の福祉事務所と比べて高くなっています。東福祉事務所では「(利用したことはない)今後利用したいかどうか分からない」が40.0%と他の福祉事務所と比べて高くなっています。

図 等価世帯収入水準別 居場所の利用状況 -

⑥ (学校以外で)同じくらいの年齢の人と知り合ったり、一緒に過ごしたりできる場所

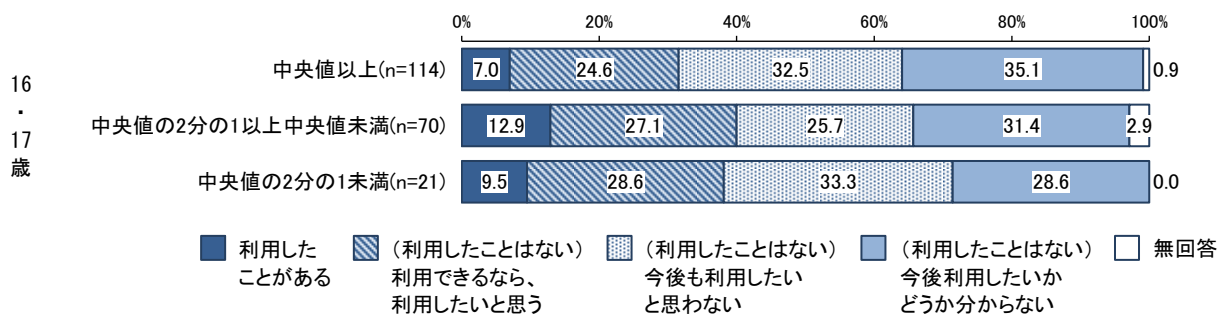


図 世帯の状況別 居場所の利用状況 -

⑥ (学校以外で)同じくらいの年齢の人と知り合ったり、一緒に過ごしたりできる場所

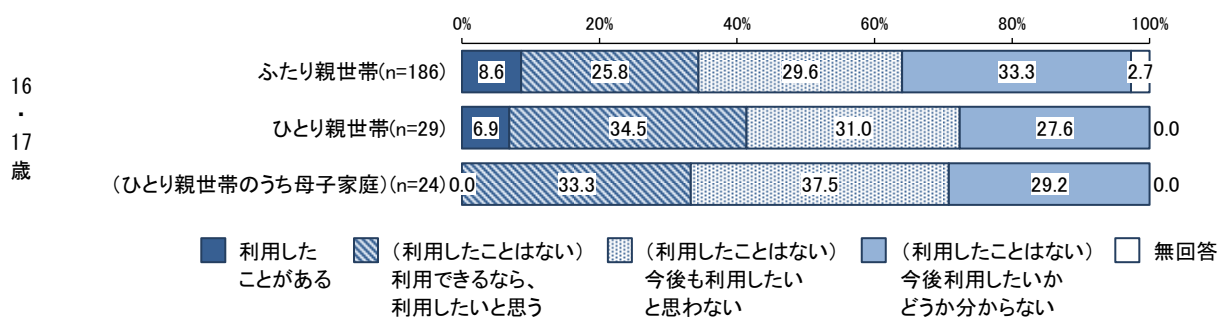
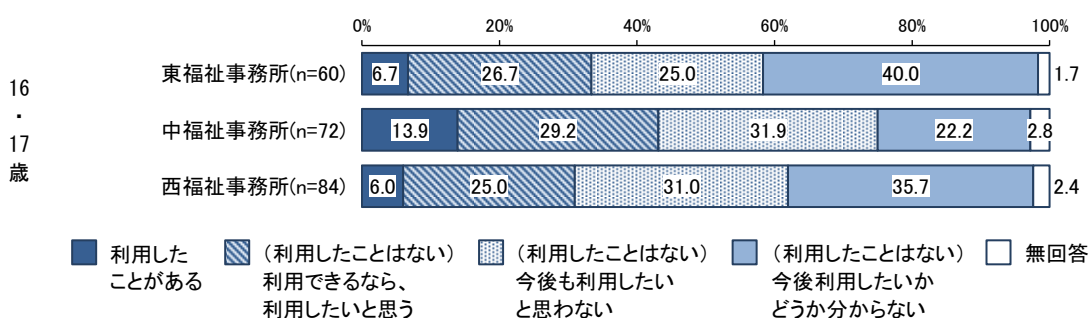


図 福祉事務所管内別 居場所の利用状況 -

⑥ (学校以外で)同じくらいの年齢の人と知り合ったり、一緒に過ごしたりできる場所



### Ⅲ 子ども調査の結果

#### (2)居場所の効果

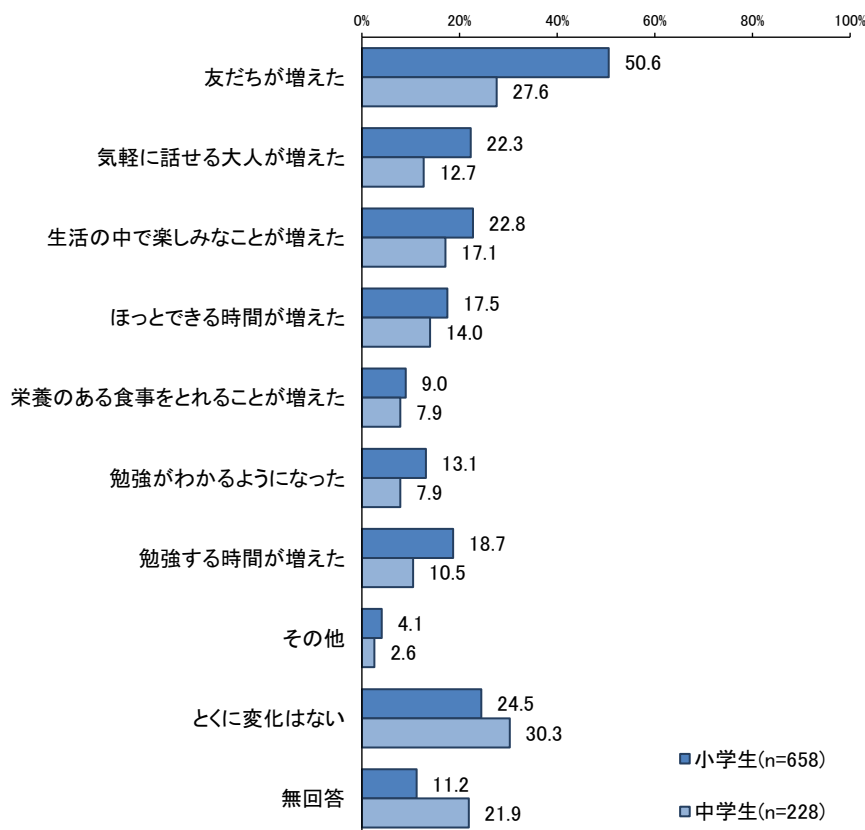
小中学生 問 21	問 20 で、1 つでも「1 利用したことがある」と答えた方にお聞きします。そこを利用したことで、以下のような変化がありましたか。(1～8については、あてはまるものすべてに○)
-----------	--

小学生は、「友だちが増えた」が 50.6%で最も高く、次いで「とくに変化はない」が 24.5%、「生活の中で楽しみなことが増えた」が 22.8%、「気軽に話せる大人が増えた」が 22.3%、「勉強する時間が増えた」が 18.7%、「ほっとできる時間が増えた」が 17.5%、「勉強がわかるようになった」が 13.1%となっています。

中学生は、「とくに変化はない」が 30.3%で最も高く、次いで「友だちが増えた」が 27.6%、「生活の中で楽しみなことが増えた」が 17.1%、「ほっとできる時間が増えた」が 14.0%、「気軽に話せる大人が増えた」が 12.7%、「勉強する時間が増えた」が 10.5%となっています。

いずれの効果も、小学生が中学生より高くなっており、とくに「友だちが増えた」は、小学生が 23.0 ポイント高くなっています。

図 居場所の効果



等価世帯収入水準別にみると、小学生は収入にかかわらず「友だちが増えた」が最も高くなっています。中央値の2分の1未満の世帯では「勉強する時間が増えた」、「ほっとできる時間が増えた」、「勉強がわかるようになった」、「栄養のある食事をとれることが増えた」で他の収入層と比べて高くなっています。中学生は、中央値以上と中央値の2分の1未満の世帯では、「とくに変化はない」がそれぞれ29.0%、26.1%と最も高くなっています。

世帯の状況別にみると、小学生は、いずれの世帯も「友だちが増えた」が最も高くなっています。中学生は、ひとり親世帯では、「とくに変化はない」が約4割と最も高くなっています。

表 等価世帯収入水準、世帯の状況別 居場所の効果

			回答者数(n)	友だちが増えた	た 気軽に話せる大人が増え	生活の中で楽しみなこ が増えた	た ほっとできる時間が増え	栄養のある食事をとれ ることが増えた	た 勉強がわかるようになっ	勉強する時間が増えた	その他	とくに変化はない	無回答
等価世帯収入水準別	小学生	中央値以上	339	54.9	23.9	25.4	19.2	7.4	12.1	18.6	2.9	21.5	12.4
		中央値の2分の1以上中央値未満	194	42.3	19.1	21.6	13.9	9.8	11.9	16.5	6.2	29.9	10.3
		中央値の2分の1未満	72	50.0	20.8	19.4	20.8	13.9	19.4	23.6	5.6	20.8	9.7
	中学生	中央値以上	93	26.9	10.8	14.0	14.0	7.5	8.6	10.8	2.2	29.0	23.7
		中央値の2分の1以上中央値未満	81	35.8	17.3	19.8	17.3	9.9	6.2	8.6	2.5	28.4	14.8
		中央値の2分の1未満	23	17.4	8.7	17.4	4.3	4.3	4.3	13.0	8.7	26.1	34.8
世帯の状況別	小学生	ふたり親世帯	550	50.0	22.5	23.3	16.9	8.0	12.2	19.1	3.8	26.0	10.5
		ひとり親世帯	76	55.3	17.1	21.1	22.4	15.8	18.4	18.4	6.6	15.8	13.2
		(ひとり親世帯のうち母子家庭)	68	54.4	16.2	23.5	23.5	17.6	17.6	20.6	7.4	16.2	13.2
	中学生	ふたり親世帯	179	29.1	12.8	16.8	15.6	8.9	7.3	10.6	3.4	26.3	22.9
		ひとり親世帯	29	34.5	10.3	20.7	10.3	3.4	10.3	10.3	-	41.4	13.8
		(ひとり親世帯のうち母子家庭)	25	32.0	8.0	20.0	8.0	4.0	8.0	12.0	-	40.0	16.0

### Ⅲ 子ども調査の結果

#### (3)居場所を利用したくない理由

小中学生 問 22 16・17歳 問 21	問 20 の「③勉強を無料でみてくれる場所」「④子ども食堂」のうち1つでも「3 今後も利用したいと思わない」と答えた方にお聞きします。利用したいと思わない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)
--------------------------	---

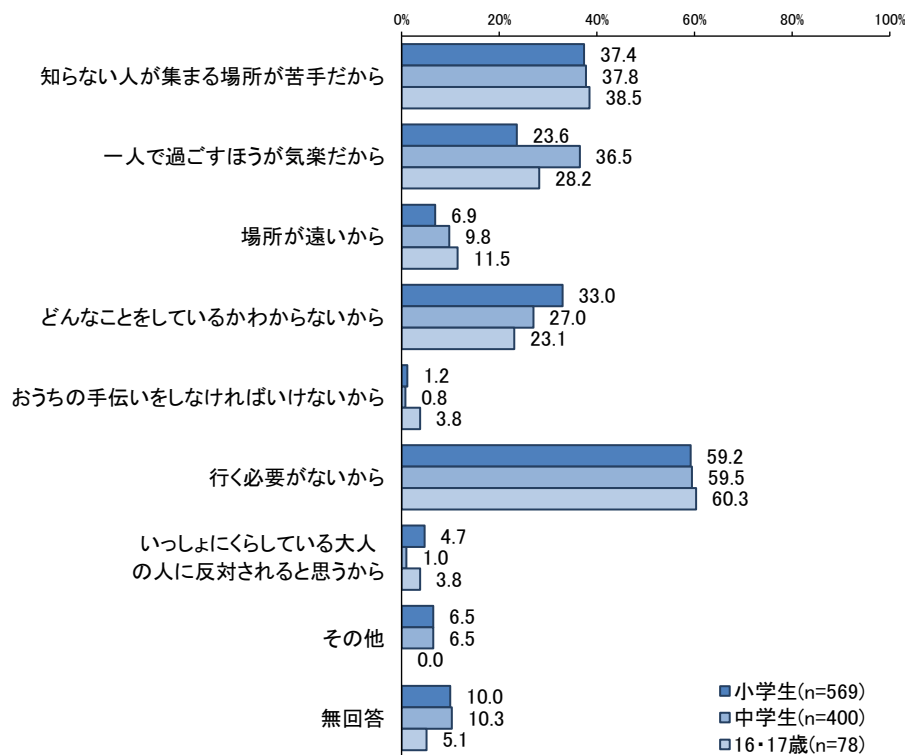
小学生は、「行く必要がないから」が 59.2%で最も高く、次いで「知らない人が集まる場所が苦手だから」が 37.4%、「どんなことをしているかわからないから」が 33.0%となっています。

中学生は、「行く必要がないから」が 59.5%で最も高く、次いで「知らない人が集まる場所が苦手だから」が 37.8%、「一人で過ごすほうが気楽だから」が 36.5%となっています。

16・17 歳は、「行く必要がないから」が 60.3%で最も高く、次いで「知らない人が集まる場所が苦手だから」が 38.5%、「一人で過ごすほうが気楽だから」が 28.2%となっています。

いずれの年齢も、「行く必要がないから」の割合が最も高く、次いで「知らない人が集まる場所が苦手だから」の順番となっています。

図 居場所を利用したくない理由



等価世帯収入水準別にみると、いずれの年齢も収入にかかわらず「行く必要がないから」が最も高くなっており、小学生は収入水準が高い世帯ほど、16・17歳は収入水準が低い世帯ほど、割合が高くなっています。それ以外の理由は、小学生と中学生は収入水準が低い世帯ほど高くなっています。

世帯の状況別にみると、小学生は、ひとり親世帯では「知らない人が集まる場所が苦手だから」が最も高くなっており、ふたり親世帯では「行く必要がないから」が最も高くなっています。中学生は、ひとり親世帯では「行く必要がないから」と「知らない人が集まる場所が苦手だから」がほぼ同率で最も高くなっています。16・17歳は、いずれの世帯も「行く必要がないから」が最も高くなっており、ひとり親世帯が77.8%と高くなっています。

表 等価世帯収入水準、世帯の状況別 居場所を利用したくない理由

		回答者数(n)	知らない人が集まる場所が苦手だから	一人で過ごすほうが気楽だから	場所が遠いから	どんなことをしているかわからないから	おうちの手伝いをしなければいけないから	行く必要がないから	いっしょにくらしている大人の人に反対されると思うから	その他	無回答	
等価世帯収入水準別	小学生	中央値以上	264	32.2	18.6	5.3	27.3	0.8	62.1	4.5	7.6	11.7
		中央値の2分の1以上中央値未満	200	41.0	28.5	8.0	38.0	1.5	56.0	5.0	5.0	7.5
		中央値の2分の1未満	55	50.9	34.5	9.1	40.0	1.8	50.9	5.5	5.5	9.1
	中学生	中央値以上	167	31.7	36.5	8.4	25.7	-	60.5	-	5.4	12.6
		中央値の2分の1以上中央値未満	137	42.3	36.5	9.5	29.9	0.7	60.6	1.5	7.3	8.0
		中央値の2分の1未満	56	48.2	39.3	16.1	30.4	1.8	58.9	1.8	5.4	12.5
	16・17歳	中央値以上	39	41.0	23.1	5.1	17.9	2.6	46.2	5.1	-	10.3
		中央値の2分の1以上中央値未満	27	40.7	37.0	22.2	29.6	3.7	66.7	3.7	-	-
		中央値の2分の1未満	7	42.9	28.6	-	14.3	14.3	85.7	-	-	-
世帯の状況別	小学生	ふたり親世帯	500	35.6	22.4	6.0	31.0	1.0	60.2	4.6	6.6	10.4
		ひとり親世帯	45	55.6	35.6	13.3	51.1	2.2	44.4	4.4	4.4	4.4
		(ひとり親世帯のうち母子家庭)	38	60.5	42.1	15.8	50.0	2.6	44.7	5.3	5.3	2.6
	中学生	ふたり親世帯	316	34.8	35.8	9.2	25.9	0.6	62.7	0.6	6.0	10.8
		ひとり親世帯	64	51.6	43.8	12.5	34.4	-	50.0	1.6	9.4	7.8
		(ひとり親世帯のうち母子家庭)	59	50.8	40.7	11.9	33.9	-	50.8	1.7	8.5	8.5
	16・17歳	ふたり親世帯	67	38.8	26.9	10.4	25.4	4.5	56.7	4.5	-	6.0
		ひとり親世帯	9	44.4	44.4	22.2	11.1	-	77.8	-	-	-
		(ひとり親世帯のうち母子家庭)	8	50.0	50.0	25.0	12.5	-	75.0	-	-	-